岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 222

延寿寺跡
倉ヶ市遺跡
下土田遺跡

一般県道総社足守線公共特定交通
安全施設等整備事業に伴う発掘調査

2009

岡山県教育委員会

１　調査地遠景（南上空から）

２　延寿寺跡遺構全景（上が北）

巻頭図版２

倉ヶ市遺跡溝２　出土遺物

序

本報告書は、一般県道総社足守線公共特定交通安全施設等整備事業に伴って実施した、岡山市上土田に所在する延寿寺跡と倉ヶ市遺跡、同市下土田に所在する下土田遺跡の発掘調査報告書です。

この事業が計画されている足守地域は、多くの遺跡が知られる古くから開けていた地域の一つで、古代には「足守庄」が開かれていました。また、計画路線内に『足守荘絵図』に描かれる「延寿寺」が比定されていることから、岡山県教育委員会では、路線内の遺跡の保存について担当部局と協議を重ねてまいりましたが、やむなく記録保存のための発掘調査を平成19年度に実施することになりました。

調査の結果、延寿寺跡からは絵図に描かれる「延寿寺」に後続して建てられたと考えられる大形の建物をはじめとする中世の建物群や溝群などの遺構が検出され、古代後半から中世にかけて使われた土器などの生活用品が大量に出土し、中世にも引き続き集落の営まれていたことが明らかになりました。また、下層からは縄文時代から弥生時代にかけての旧河道が検出され、土器や石器などの遺物が出土しました。倉ヶ市遺跡からも中世を中心とした建物や溝などの遺構が検出され、大量の土器を中心とする遺物が出土し集落の存在が明らかとなりました。また、検出された溝群の多くは、方向を同じくしており、『足守荘絵図』に描かれた条里遺構との関連を考える上で貴重な資料になるものと思われます。

この報告書が学術研究に寄与できるばかりでなく、文化財の保護・保存のために活用され、また地域の研究のための資料として広く役立つならば幸いと存じます。発掘調査ならびに報告書の作成にあたりましては、岡山県備前県民局建設部をはじめとし、関係各位ならびに地元の方々から多大な御支援と御協力を賜りました。記して厚く御礼申し上げます。

平成21年３月

岡山県古代吉備文化財センター
所　長　藤　川　洋　二

例　　言

1　本書は、一般県道総社足守線公共特定交通安全施設等整備事業に伴い、岡山県教育委員会が岡山県備前県民局建設部の依頼を受け、岡山県古代吉備文化財センターが実施した、延寿寺跡・倉ヶ市遺跡・下土田遺跡の発掘調査報告書である。

2　延寿寺跡は、岡山市上土田123-4番地ほかに、倉ヶ市遺跡は同市上土田125-1番地ほかに、下土田遺跡は同市下土田487-1番地ほかに所在している。

3　発掘調査は、平成18年度の試掘調査を基に、平成19年10月１日から20年３月31日まで実施し、岡山県古代吉備文化財センター職員が担当した。調査面積は、延寿寺跡が2,670㎡、倉ヶ市遺跡が2,133㎡、下土田遺跡が2,809㎡である。

4　本報告書の作成は、平成20年４月１日から21年３月31日まで岡山県古代吉備文化財センターで、内藤善史が行った。

5　特殊な遺物および自然科学分野における鑑定、同定、分析などについては、下記の諸氏に依頼し、有益な御教示を得るとともに一部成果については報告文をいただいた。記して御礼申し上げます。

人骨の鑑定	大塚　愛二（岡山大学）
土器・土製品の胎土分析	白石　　純（岡山理科大学）
獣骨の鑑定	富岡　直人（岡山理科大学）
石製品の石材鑑定	鈴木　茂之（岡山大学）
緑釉陶器鑑定	高橋　照彦（大阪大学）

6　本書に掲載した「備中国足守荘絵図」は、京都市神護寺及び京都国立博物館の許可を得て掲載したものである。

7　本書の執筆は、調査担当者が分担してあたり、文末に文責をそれぞれ記した。また、全体編集は内藤が行った。

8　遺物の写真撮影については、江尻泰幸氏の協力と援助を得た。

9　出土遺物・図面・写真等は、岡山県古代吉備文化財センター（岡山市西花尻1325-3）に保管している。

凡　　例

1　本報告書に用いた高度値は海抜高である。

2　調査に用いた遺跡のグリッドは、国土座標（世界測地系）に準拠し、各遺構図における方位も平面直角第Ⅴ座標系による。

3　本報告書収載の遺構および遺物の縮尺は、次のとおり統一しているが、例外については挿図に縮尺率を図示または明記している。

遺構

建物　1/60　　柱穴列　1/60　　土壙　1/30　　柱穴　1/30

溝断面図　1/30

遺物

土器　1/4　　陶磁器　1/4　　瓦　1/4　　土製品1/3　　石器　1/2・1/3

金属器　1/3

4　本報告書の挿図番号、表番号、図版番号は、章をとおしての連続番号であるが、遺構番号、遺物番号は遺跡ごとの連番である。

5　遺構配置図などにおける遺構名は、次のとおり省略している。

建物：「建」　　柱穴列：「列」　　土壙墓：「墓」　　土壙：「土」　　土器溜まり：「溜」

柱穴：番号のみ

6　遺物番号には、材質を示すため、土器・瓦以外のものについては略号を番号の前に付した。

石器：S　　土製品：C　　金属器：M

7　図版のうち遺物写真に付した番号は、挿図の遺物番号と一致する。

8　土器実測図のうち、中軸線の左右に白抜きのあるものは、小片のため径の復元が不確実なものである。

9　土層断面図などに使用した土色は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）による。

10　本報告書第２図は、国土地理院発行の1/25,000地形図「総社東部」を複製・加筆したものである。

11　本報告書に用いた時代、時期区分は統一していない。一般的な政治史区分に準拠し、それを補うために文化史区分や世紀などを併用している。

目　　次

序
例　　言
凡　　例
目　　次
第１章　地理的・歴史的環境 …… 1
第２章　調査の経緯と経過 …… 5
　第１節　発掘調査に至る経緯 …… 5
　第２節　発掘調査および報告書作成の経過 …… 6
　　調査および報告書作成の体制 …… 7
　　日誌抄 …… 8
第３章　延寿寺跡 …… 9
　第１節　発掘調査の概要 …… 9
　第２節　古墳時代以前の遺構・遺物 …… 9
　　１　土壙 …… 11
　　２　溝 …… 11
　　３　河道 …… 11
　　４　柱穴 …… 18
　　５　遺構に伴わない遺物 …… 18
　第３節　古代以降の遺構・遺物 …… 19
　　１　建物 …… 19
　　２　柱穴列 …… 27
　　３　土壙墓 …… 28
　　４　土壙 …… 28
　　５　溝 …… 32
　　６　たわみ …… 40
　　７　柱穴 …… 40
　　８　下がり …… 42
　　９　遺構に伴わない遺物 …… 42
　第４節　小結 …… 45
第４章　倉ヶ市遺跡 …… 47
　第１節　発掘調査の概要 …… 47
　第２節　中世の遺構・遺物 …… 48
　　１　建物 …… 49
　　２　柱穴列 …… 52

3　井戸 ……56
4　土壙 ……56
5　溝 ……65
6　土器溜まり ……78
7　柱穴 ……80
8　遺構に伴わない遺物 ……81
第３節　近世の遺構・遺物 ……84
1　溝 ……86
2　池状遺構 ……86
3　遺構に伴わない遺物 ……87
第４節　小結 ……87
第５章　下土田遺跡 ……89
第１節　発掘調査の概要 ……89
第２節　遺構・遺物 ……90
1　土壙 ……90
2　溝 ……91
3　その他の遺溝 ……91
4　遺構に伴わない遺物 ……92
第３節　小結 ……96
第６章　まとめ ……97
付載１　延寿寺跡出土人骨について …… 101
付載２　延寿寺跡・倉ヶ市遺跡出土遺物の胎土分析 …… 105
遺構一覧表
遺物観察表
新旧遺構対応表
図版
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図（1/1,500,000）……１
第２図　周辺遺跡分布図（1/25,000）……２
第３図　調査対象路線図（1/3,000）……５
第４図　土層断面図（1/60）……９
第５図　古墳時代以前の遺構配置図
（1/400）……10
第６図　土壙１・２（1/30）、
土壙２出土遺物（1/4）……11
第７図　溝１・２（1/30）、
溝２出土遺物（1/4）……11
第８図　河道１（1/60）……12
第９図　河道１出土遺物①（1/4）……13
第10図　河道１出土遺物②（1/4・1/2）……13
第11図　河道１出土遺物③（1/4・1/3）……14
第12図　河道１出土遺物④
（1/4・1/3・1/2）……15
第13図　河道１出土遺物⑤（1/4・1/2）……15
第14図　河道１出土遺物⑥（1/4・1/3）……16
第15図　河道１出土遺物⑦（1/2）……17
第16図　河道１底部主要遺物出土位置図
（1/200）……17
第17図　河道１たわみ出土遺物（1/4・1/2）…18
第18図　河道１土器溜まり出土遺物（1/4）…18
第19図　柱穴出土遺物（1/4・1/2）……18
第20図　遺構に伴わない遺物（1/4・1/2）……19
第21図　古代以降の遺構配置図（1/400）……20
第22図　建物１（1/60）・出土遺物（1/4）……21
第23図　建物２（1/60）・出土遺物（1/4）……22
第24図　建物３（1/60）・出土遺物（1/4）……23
第25図　建物４（1/60）・出土遺物（1/4）……24
第26図　建物５（1/60）・出土遺物（1/4）……25
第27図　建物６（1/60）・出土遺物（1/4）……26
第28図　柱穴列１～３・溝３（1/60）……27
第29図　柱穴列１～３・
溝３出土遺物（1/4・1/2）……28
第30図　土壙墓１（1/30）……28
第31図　土壙３（1/30）・出土遺物①（1/4）…29
第34図　土壙３出土遺物②（1/4）……30
第33図　土壙４・５（1/30）……31
第34図　土壙６（1/30）・出土遺物（1/4）……31
第35図　土壙７（1/30）……31
第36図　土壙８（1/30）……32
第37図　土壙９（1/30）・出土遺物（1/4）……32
第38図　土壙10（1/30）……32
第39図　溝４（1/30）・出土遺物（1/4・1/3）　33
第40図　溝５（1/30）……33
第41図　溝６（1/30）……33
第42図　溝６出土遺物（1/4）……34
第43図　溝６～９（1/30）・
溝８出土遺物（1/4）……34
第44図　溝10（1/30）・
出土遺物（1/4・1/3）……35
第45図　溝11（1/30）・出土遺物（1/4）……35
第46図　溝12（1/30）・出土遺物（1/4・1/2）…36
第47図　溝13（1/30）・出土遺物（1/4）……37
第48図　溝14・15（1/30）・出土遺物（1/4）…37
第49図　溝16（1/30）・出土遺物（1/4）……37
第50図　溝17（1/30）・出土遺物（1/4）……38
第51図　溝18（1/30）・出土遺物（1/4）……38
第52図　溝19（1/30）……38
第53図　溝20～22（1/30）……38
第54図　溝23（1/30）……38
第55図　溝23出土遺物（1/4・1/2）……39
第56図　たわみ１出土遺物（1/4）……40
第57図　たわみ２出土遺物（1/4）……40
第58図　柱穴４（1/30）・出土遺物（1/4）……40
第59図　柱穴５（1/30）……40
第60図　柱穴出土遺物（1/4）……41
第61図　下がり１（1/60）・
出土遺物①（1/3）……42

第62図　下がり１出土遺物②（1/3）……43
第63図　遺構に伴わない遺物①（1/4・1/3）…44
第64図　遺構に伴わない遺物②（1/4）……45
第65図　１区北側断面図（1/60）……47
第66図　２区北側断面図（1/60）……47
第67図　西断面図（1/60）……47
第68図　中世の遺構配置図（1/400）……48
第69図　建物１（1/80）……49
第70図　建物１出土遺物（1/4・1/3）……50
第71図　建物２（1/60）……51
第72図　建物３（1/60）……52
第73図　柱穴列１・２（1/60）……52
第74図　柱穴列２　Ｐ２（1/30）・
出土遺物（1/4）……53
第75図　柱穴列３（1/60）……54
第76図　柱穴列４（1/60）……54
第77図　柱穴列５（1/30）・柱穴列５
Ｐ２出土遺物（1/4）……54
第78図　柱穴列６・７（1/60）……55
第79図　柱穴列８（1/60）・柱穴列８
Ｐ３出土遺物（1/4）……55
第80図　柱穴列９（1/60）……56
第81図　井戸１（1/30）……56
第82図　土壙１（1/30）……57
第83図　土壙２・３（1/30）
・出土遺物（1/4）……57
第84図　土壙４（1/30）・出土遺物①（1/4）…57
第85図　土壙４出土遺物②（1/4）……58
第86図　土壙５（1/30）・出土遺物（1/4）……59
第87図　土壙６（1/30）・出土遺物（1/4）……59
第88図　土壙７（1/30）・出土遺物（1/4）……60
第89図　土壙８（1/30）・出土遺物（1/4）……60
第90図　土壙９（1/30）・出土遺物（1/4）……60
第91図　土壙10（1/30）……61
第92図　土壙11（1/30）・出土遺物（1/3）……61
第93図　土壙12（1/30）・出土遺物（1/4）……61
第94図　土壙13・14（1/30）……62
第95図　土壙15・16（1/30）・
土壙16出土遺物（1/4）……62
第96図　土壙17・18（1/30）……63
第97図　土壙19（1/30）……63
第98図　土壙20・21（1/30）
・土壙20出土遺物（1/4）……64
第99図　土壙22～24（1/30）……64
第100図　溝１（1/30）・出土遺物①（1/4）……65
第101図　溝１主要部断面（1/30）・
遺物出土図（1/60）
・出土遺物②（1/4）……66
第102図　溝２（1/30）・
出土遺物①（1/4・1/3）……67
第103図　溝２出土遺物②（1/4）……68
第104図　溝２出土遺物③（1/4）……69
第105図　溝２出土遺物④（1/4）……69
第106図　溝２出土遺物⑤（1/4）……70
第107図　溝２出土遺物⑥（1/4）……71
第108図　溝３・４（1/30）・
溝４出土遺物（1/4）……71
第109図　溝５（1/30）……72
第110図　溝６・７（1/30）・
出土遺物（1/4）……72
第111図　溝８（1/30）・出土遺物（1/4）……73
第112図　溝９（1/30）……73
第113図　溝10・11（1/30）・
溝10出土遺物（1/4）……73
第114図　溝10・12・13（1/30）……74
第115図　溝12（1/30）・
出土遺物（1/4・1/2）……74
第116図　溝14（1/30）・出土遺物（1/4）……75
第117図　溝15・16（1/30）・
溝15出土遺物（1/4）……75
第118図　溝17（1/30）……75
第119図　溝18（1/30）・出土遺物（1/4）……76
第120図　溝18～20（1/30）・
溝19出土遺物（1/4）……76
第121図　溝19～21（1/30）・
溝20・21出土遺物（1/4）……77

第122図　溝22（1/30）……77
第123図　溝23～25（1/30）
・溝23出土遺物（1/4）……78
第124図　土器溜まり１出土遺物①（1/4）……78
第125図　土器溜まり１出土遺物②（1/4）……79
第126図　柱穴出土遺物①（1/4・1/3）……80
第127図　柱穴出土遺物②（1/4）……81
第128図　柱穴出土遺物③（1/4・1/2）……81
第129図　遺構に伴わない遺物①（1/4）……82
第130図　遺構に伴わない遺物②（1/4）……83
第131図　遺構に伴わない遺物③
（1/3・1/2）……83
第132図　遺構に伴わない遺物④（1/3）……84
第133図　近世の遺構配置図（1/400）……85
第134図　溝26（1/30）・
出土遺物（1/4・1/2）……86
第135図　溝27（1/30）……86
第136図　池状遺構出土遺物（1/4）……87
第137図　遺構に伴わない遺物（1/4・1/2）…87
第138図　遺構配置図（1/400）……89
第139図　土層断面図（1/60）……90
第140図　土壙１（1/30）・出土遺物（1/4）……90
第141図　土壙２（1/30）……90
第142図　溝１（1/30）・出土遺物（1/4）……91
第143図　たわみ１・Ｐ１出土遺物（1/4）……91
第144図　下がり１出土遺物（1/4）……92
第145図　遺構に伴わない遺物①（1/4）……93
第146図　遺構に伴わない遺物②（1/4）……94
第147図　遺構に伴わない遺物③（1/4）……95
第148図　遺構に伴わない遺物④
（1/4・1/3）……95
第149図　現地形と絵図の重なり（1/50,000）…98
第150図　古代～中世主要遺構配置図
（1/3,000）……99

図　版　目　次

巻頭図版１－１　調査地遠景（南上空から）
２　延寿寺跡遺構全景（上が北）
巻頭図版２　倉ヶ市遺跡溝２　出土遺物
図版１－１　延寿寺跡・倉ヶ市遺跡調査前
（東から）
２　下土田・倉ヶ市遺跡調査前（西から）
３　調査対象区全景（東上空から）
図版２－１　河道１（南から）
２　河道１　北断面（南東から）
３　河道１遺物出土状況（西から）
４　河道１石棒出土状況（西から）
図版３－１　建物１（南東から）
２　建物１　Ｐ７（西から）（左）
３　建物１　P10（西から）（右）
４　建物３（西から）
図版４－１　柱穴列１・溝３（南東から）
２　溝３断面（南東から）
３　土壙墓１（南東から）
４　土壙墓１人骨検出作業（西から）
図版５－１　土壙３（南東から）
２　土壙３瓦出土状況（東から）
３　土壙４（南東から）
４　土壙６（南から）
図版６－１　西部溝群（南東から）
２　溝12断面（南西から）
３　溝17・23断面（南東から）
４　溝11断面（南西から）
図版７－１　溝15・16（北東から）
２　下がり１（南東から）
３　柱穴４（南から）
４　柱穴５（南から）
図版８　河道１出土縄文・弥生土器
図版９　出土土師器①
図版10－１　出土土師器②

２　出土瓦
図版11　出土石器・石製品
図版12－１　１区　建物１（西から）
２　２区　柱穴列９（西から）
図版13－１　１区　柱穴列２　Ｐ２上（南東から）
２　１区　柱穴列２　Ｐ２中（南東から）
３　１区　柱穴列２　Ｐ２下（南東から）
図版14－１　１区　井戸１（南東から）
２　１区　土壙５（北西から）
３　１区　土壙12（北から）
４　２区　柱穴49（東から）
５　２区　柱穴50（南から）
図版15－１　１区　溝２（北東から）（左）
２　１区　溝１（南西から）（右）
３　１区　溝２断面（北東から）
４　１区　溝２　遺物出土状況
（北東から）
図版16－１　２区　溝６・７・10・11（北から）
２　２区　溝10・11断面（南東から）
図版17－１　１区　西半全景（西から）
２　２区　溝７・23～25（北西から）
図版18　出土遺物①
図版19　出土遺物②
図版20　出土遺物③
図版21　出土遺物④
図版22－１　土壙１・溝１（西から）
２　溝１断面（西から）
３　Ｐ１（南から）
４　下がり１遺物出土状況（西から）
図版23　出土遺物
図版24　京都市　神護寺所蔵「備中国足守荘絵図」

表　目　次

表１　文化財保護法に基づく提出書類一覧　…８
表２　編年対比表　…… 100

写　真　目　次

写真１　現地説明会　……６
写真２　人骨調査の現地指導　……６
写真３　羽口（C3）　……44
写真４　溝２作業風景（西から）……67
写真５　足守平野遠景（南上空から）……96
写真６　本村～下土田に架かる橋（南から）…96
写真７　常夜燈　……96

第１章　地理的・歴史的環境

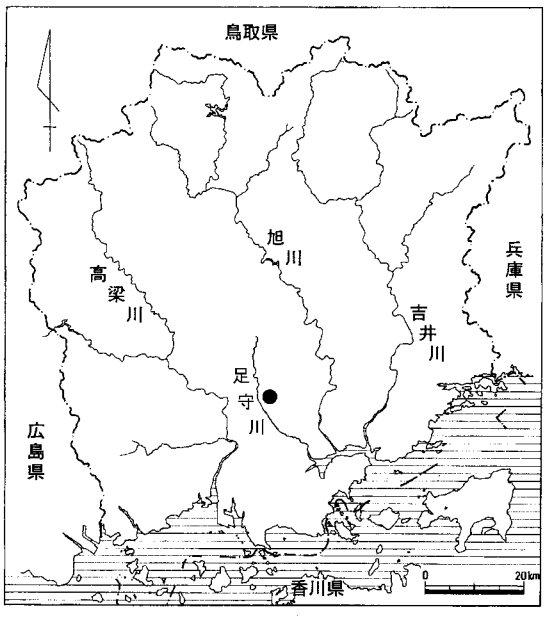
延寿寺跡・倉ヶ市遺跡は岡山市上土田に、下土田遺跡は岡山市下土田に所在する。岡山市の北西部に位置する足守地域内の遺跡で、総社市に隣接している。

岡山県には、いずれも中国山地に源を発し、南流して県中央部に東西に横たわる吉備高原の丘陵を貫き、県南部に肥沃な沖積平野を形成しながら瀬戸内海に注ぐ吉井川・旭川・高梁川の三大河川がある。また、三大河川の間には、県中央部に横たわる吉備高原に源を発する中小の河川がある。足守川（大井川）もまた、旭川と高梁川の間の吉備高原に源を発して南流し、現在では東側を南流している笹ヶ瀬川に合わさり瀬戸内海（児島湖）に注ぐ河川の一つであるが、かつては分流して東に流れる古高梁川に合流し、吉備津付近で「吉備の穴海」と呼ばれた内海に注いでいた。

足守地域は、この足守川が吉備高原南縁の山地から平野部に変換する扇状地を中心とした地域で、東と西は吉備高原が南に長く延びた山塊に挟まれているが、南部では、東流する古高梁川が形成した肥沃な沖積平野と繋がっている。

この地は、『和名抄』に見える賀夜郡足守（安之毛利）郷にあたり、この地を開発した賀陽氏の本貫地であったが、平安時代には京都神護寺の荘園となり「足守庄」と呼ばれた[(1)]。中世末には毛利氏の勢力下におかれ、次いで岡山城主宇喜多秀家の支配に属したが、江戸時代に入ると木下家により足守藩が誕生して城下町らしい景観をつくった。明治以降は、合併が繰り返され次第に大きな行政区画となっていったが、昭和46年に岡山市に合併されるまでは、足守は独立した行政区画を形成していた。

遺跡周辺部における人の営みのはじまりは、上足守西側山麓の余町遺跡で縄文時代後期の土器や石器の散布が知られることから、その頃までさかのぼることができる。また、その裾部平野に位置する足守庄関連遺跡では、岡山市教育委員会の発掘調査で縄文時代晩期や弥生時代前期の土壙が検出されている[(2)]。一方、南西部の総社平野に繋がる独立丘陵の長良山遺跡からは縄文時代早期の押型文土器の出土が知られ[(3)]、その西裾部の平野に展開する窪木遺跡・南溝手遺跡では、県立大学建設に伴う発掘調査で縄文時代後・晩期の遺構を確認するとともに縄文時代後期の籾痕土器が出土している[(4)・(5)]。



第１図　遺跡位置図（1/1,500,000）

下足守北西の足守深茂遺跡では弥生時代前期から中期の遺物が出土している。下土田遺跡の南西で岡山市から総社市にかけて所在する高松田中遺跡は、弥生時代前期から中期を中心とした集落遺跡である。このほか先の窪木遺跡・南溝手遺跡をはじめ、総社平野から連なる古高梁川が形成した沖積平野には弥生時代の集落跡などの遺跡が数多く確認されている。特に、足守川流域の砂川との合流点に位置す

第２図　周辺遺跡分布図（1/25,000）

る高塚遺跡は、岡山県教育委員会による山陽自動車道建設に伴う発掘調査で、弥生時代から近世に至る集落遺構の存在が明らかにされ、弥生時代の集落遺構では土壙に埋納された銅鐸や「貨泉」が出土した特異な遺跡である。また、古墳時代の集落からは韓式系土器が出土、方形の竪穴住居の角にカマドが設けられるなど、特徴的な遺構が検出されている(6)。

下足守の丘陵に位置する南坂遺跡は、岡山市教育委員会により発掘調査され、この地域における弥生時代中期～後期の拠点集落に位置付けられている(7)。同じく丘陵部に位置する上土田下足守遺跡では、土取りの工事中に太形蛤刃石斧やサヌカイト製の石槍が、上土田門前遺跡でも弥生土器が採集されている。また、扇状地上に位置する上土田鶴免遺跡で弥生時代末頃の遺構が確認され、古高梁川の沖積平野のみならず、足守地域においても次第に遺跡数の増加が明らかとなってくる。

一方、平野を見下ろす丘陵上では、下土田の生石神社裏山１号墳や浦尾５号墳など特殊器台を伴う弥生墳丘墓が築かれる。古高梁川が形成した沖積平野南側に広がる三須丘陵東端の庚申山東遺跡は、足守川中流域を見下ろす尾根上に位置し、特殊壺を含む弥生土器の散布が認められている。

古墳時代に入ると、上土田の弥勒院裏山の尾根上に上土田４・１号墳など全長20～30ｍの前方後方(円）墳が、下足守南坂の西に延びる尾根上には、全長50ｍの前方後方墳とされる南坂２号墳や径25ｍ程の円墳南坂９号墳が築かれる(8)。また、採土工事に伴い岡山市教育委員会により発掘調査された、径15ｍ以上の５世紀中頃の円墳である南坂１号墳や、竜王山から西に派生する尾根上で箱式石棺を主体部とする長辺７ｍ程の方墳である長坂１号墳などが築かれている。これらの古墳が所在する尾根上には10～20ｍ規模の円（方）墳が次々と築かれているが、極めて突出するような古墳が築かれることはないようである。なお、足守川を挟んだ西側の尾根上に所在している宮原古墳群なども足守川が形成した扇状地を見下ろす位置にあり、これらと同様に考えることができる。一方、比較的近接した地域に築かれているが、全長40ｍの帆立貝形の前方後円墳である随庵古墳は、血吸川の谷に面して立地している古墳で、製鉄との関連を深く窺わせ、足守地域の古墳とは性格の異なるものである。同様に随庵古墳背後の丘陵に位置し、古墳時代中期から後期にかけて築かれた尾崎古墳群、名越古墳群などの古墳も奥坂から阿曽にかけて顕著な製鉄遺跡に関わるものと考えられる。

古墳時代後期になると山腹や谷部を中心として横穴式石室をもつ古墳が非常に多く築かれている。下足守の湯舟谷古墳群・三井谷奥古墳群・石子山古墳群、横尾の横尾古墳群、大崎の大崎古墳群などが築かれ、これらは直接足守川を見下ろす丘陵上ではなく、奥まった谷部に面するものが大半である。

古墳時代の集落としては、上土田鶴免遺跡で古墳時代前期の遺構が確認されまた、下足守の三井谷遺跡で土師器や須恵器が採集され古墳時代後期の集落跡が想定されるものの足守地域での実態はまだ

1　延寿寺跡　2　倉ヶ市遺跡　3　下土田遺跡　4　足守深茂遺跡　5　余町遺跡　6　足守庄関連遺跡　7　南坂遺跡　8　三井谷遺跡　9　上土田鶴免遺跡　10　上土田門前遺跡　11　上土田下足守遺跡　12　高松田中遺跡　13　高塚遺跡　14　三手遺跡　15　三手（向原）遺跡　16　津寺遺跡　17　窪木遺跡　18　窪木薬師遺跡　19　長良山遺跡　20　イキ山遺跡　21　新池奥遺跡　22　生石神社裏山古墳群　23　浦尾古墳群　24 上土田古墳群　25　南坂古墳群　26　冠山古墳・冠山城跡　27　長坂古墳群　28　カケ古墳群　29　三井谷奥古墳群　30　大塚古墳群　31　龍泉寺西谷古墳群　32　すく毛山遺跡・すくも山城跡　33　大崎古墳群　34　向井古墳群　35　横尾古墳群　36　庚申山古墳群　37　長良山古墳群　38　本台山古墳群　39　宮原古墳群　40　随庵古墳　41　尾崎古墳群　42　名越古墳群　43　大崎廃寺　44　小山馬揃遺跡　45　宮路山城跡　46　鍛冶山城跡　47　備中高松城跡　48　足守陣屋町遺構

明らかではない。

古代における足守地域は、「備中国足守荘絵図」の裏書きから賀陽氏によりこの地の開発が行われていたことを窺わせるが、数次にわたる岡山市教育委員会による足守庄関連遺跡の発掘調査で条里に伴う溝等の遺構が確認され、条里の成立過程が明らかになりつつある(9)。また、絵図に記載される牓示「大井御庄境藤木山」は立石遺構の調査で可能性が高まるなどの成果が加わり、現在の景観を基に実証がすすめられている(10)。なお、大崎に所在する大崎廃寺は、水切り瓦が採集されており、これもまた、賀陽氏との関連が推察される古代寺院である。

中世の遺跡では、すく毛山遺跡が農地改良工事に伴い岡山市教育委員会により発掘調査され、古墳時代の箱式石棺墓とともに中世墓33基を検出している。土壙墓・土器棺墓・骨蔵器など14世紀前半から16世紀にかけてのこの地における埋葬の変遷が明らかにされた(11)。なお、中世末の足守地域は、宇喜多氏と西の毛利氏との接点にあたり、数多くの山城、陣跡が築かれることとなり、下足守の独立小丘陵である冠山城跡や三須丘陵東端の庚申山陣跡、大崎の八幡山陣跡では弥生時代の墳丘墓や古墳が壊されている可能性がある。大井の鍛冶山城跡は尾根上に築かれた連郭式山城、標高162.5ｍの丘陵上に位置する宮地山城跡もまた、連郭式山城である。水攻めで名高い高松の備中高松城跡では、史跡公園整備事業に伴う岡山市教育委員会の発掘調査で、城郭関連の遺構のほか弥生時代や古墳時代の集落跡が確認されている(12)。

近世の足守地域は足守藩に属し、幕末まで木下家の支配下にあり、鎌倉時代の集落跡などの上に陣屋町がつくられた足守地区を除く下足守から上土田の地域では、「備中国足守荘絵図」に描かれた景観がよく残されているようである(13)・(14)。　（内藤）

註

（1）「足守荘」『日本荘園史大辞典』吉川弘文館　2003
（2）『足守庄（足守幼）関連遺跡発掘調査報告』岡山市教育委員会　1994
（3）『総社市の歴史と文化財』総社市教育委員会　1990
（4）「窪木遺跡１」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』120　岡山県教育委員会　1997
（5）「南溝手遺跡１」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』100　岡山県教育委員会　1995
（6）「高塚遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』150　岡山県教育委員会　2000
（7）『長坂古墳群』岡山市教育委員会　1999
（8）『南坂８号墳』岡山市教育委員会　2006
（9）『足守庄荘園遺構緊急調査・延寿寺跡第２次発掘調査概報』岡山市教育委員会　1979
(10)『足守庄荘園遺構緊急調査 牓示比定遺構発掘調査概報』岡山市教育委員会　1980
(11)『すく毛山遺跡』岡山市教育委員会　1998
(12)『備中高松城三の丸跡発掘調査概報』岡山市教育委員会　2006
(13)『足守藩武家屋敷跡Ⅱ－足守小学校プール建設に伴う発掘調査－』岡山市教育委員会　2001
(14)『足守藩武家屋敷跡』岡山市教育委員会　1995

第２章　調査の経緯と経過

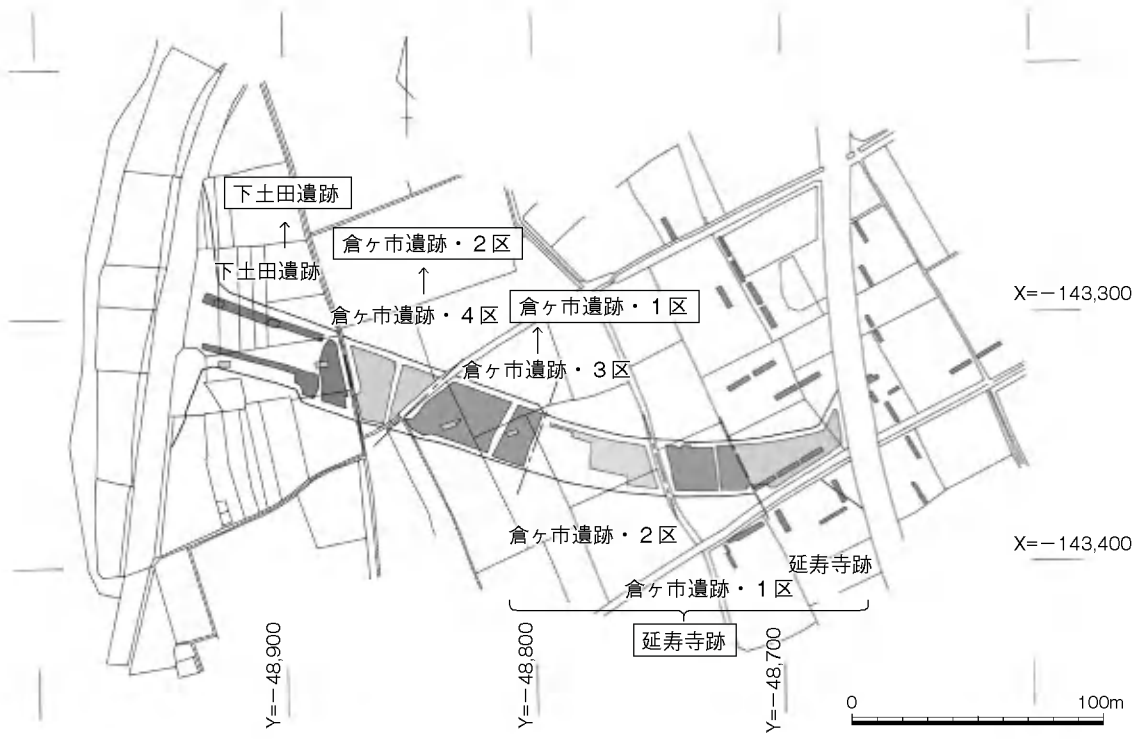
第１節　発掘調査に至る経緯

平成16年度、岡山県岡山地方振興局建設部（現岡山県備前県民局建設部）は、岡山市下土田～上土田地内で、一般県道総社足守線の改築を計画し、計画地に周知の埋蔵文化財包蔵地である延寿寺跡が所在したため、その取り扱いについて教育庁文化財課と協議を開始した。文化財課では、計画が延寿寺跡にかかるとともに、「備中国足守荘絵図」に描かれる荘園を横断していることから、事前に予定地内の試掘・確認調査が必要と判断し、延寿寺跡については昭和53年度に実施された岡山市教育委員会による確認調査の成果を利用することとして、路線西半の試掘調査を実施することとした。

平成18年５月に、用地買収済みの４か所を対象に試掘調査を実施した結果、いずれのトレンチにおいても中世遺物の包含層が確認され、この時期の柱穴、溝も検出された。地形は延寿寺跡付近から西へ徐々に下がり、足守川堤防近くで再び高くなる様子が確認された。

この成果から、西端の部分については南西方向に所在する下土田遺跡の範囲が拡大するものと判断し、これと延寿寺跡の間を新たに倉ヶ市遺跡とすることとした。

試掘調査の成果を受けて、文化財課は、平成18年６月に備前県民局建設部と再協議を行い、平成19年度下半期に足守川以東の計画地全域を発掘調査することとなった。このうち、平成18年度に先行して用地境に設置する水路部分については、幅も狭く、掘削が浅いため、文化財課職員の立ち会いの下に施工した。（光永）



第３図　調査対象路線図（1/3,000）

第２節　発掘調査および報告書作成の経過

発掘調査は、平成18年度実施の試掘調査の結果をもとに、調査対象地を周知の遺跡である「延寿寺跡」、新たに発見された「倉ヶ市遺跡」、また、対象地南側に所在している「下土田遺跡」縁辺部と考えられる３つの遺跡で行った。調査対象地が東西に長くなる倉ヶ市遺跡は、東から１区・２区・３区・４区と４調査区に分割して行った。なお、調査対象地には生活道・農道・用水路等が複雑に走り、また、隣接している耕作地内への進入路の確保も求められるなどしたため、うって返しの繰り返しで調査を実施した。

調査はまず、一部対象地内に残された稲の刈り入れが近づいた、平成19年10月から文化財センター職員６名が２班体制で、倉ヶ市遺跡と下土田遺跡に着手、引き続き延寿寺跡にも着手した。また、12月からは１名増員の７名２班体制で調査を行った。

倉ヶ市遺跡からは、中世の建物・土壙のほか、中世から近世に至る非常に多くの溝群や柱穴群が検出され、包含層中からも中世の土器を中心に、石器・金属器・土製品などの遺物が多く出土した。

延寿寺跡からは、中世の建物群のほか、平安時代後半の瓦が埋まった土壙を含む古代後半から中世の土壙や溝などの遺構が検出された。また、中世遺構面の下層からは旧河道が検出され、縄文・弥生土器が大量に出土するなどの成果を得た。

写真１　現地説明会

これら調査成果の一端が明らかとなった平成20年１月26日には、現地説明会を実施した。また、倉ヶ市遺跡１区の土壙墓からは、中世の埋葬人骨が比較的良好な遺存状態で出土したことから、岡山大学大学院大塚愛二教授の現地指導を受け、調査を進め、３月末に発掘調査を完了した。

報告書の作成は、平成20年４月１日から平成21年３月31日の期間で、調査員１名が担当し、文化財センターにおいて行った。

出土遺物は整理箱105箱で、土

写真２　人骨調査の現地指導

師器の椀・皿・鍋などの中世土器が大半を占めるが、旧河道などからは縄文・弥生土器や石器の他、古代から中世にかけての瓦・金属器などがある。

遺物の実測作業・浄書は、調査員の指示のもと整理補助員、整理作業員が行った。また、遺構の図面整理と下図の作成は調査員が行い、浄書は、整理作業員と調査員が行った。なお、遺構・遺物の説明は、発掘担当者が分担して執筆した。

なお、報告書の作成に際し、発掘調査の成果をもとに「延寿寺跡」と「倉ヶ市遺跡」の範囲を以下の理由により変更した。

「延寿寺跡」において検出された溝などの遺構のいくつかは、「倉ヶ市遺跡１区」においても検出され、「延寿寺跡」と「倉ヶ市１区」の間に境界を設定することはできない。一方、「倉ヶ市２区」の西側の下がりから「倉ヶ市３区」東端の間には遺構が認められなかった。ここを両者の境界とする方が妥当と考えられる。従って「倉ヶ市遺跡１・２区」は「延寿寺跡」に組み入れ「延寿寺跡」とし、「倉ヶ市遺跡３・４区」のみを「倉ヶ市遺跡」とし、倉ヶ市３区を１区に同４区を２区に改称した。

発掘調査ならびに報告書作成にあたっては、下記の諸氏から有益な御助言をいただいた。　（内藤）

上原真人（瓦）　植山　茂（瓦）　乗岡　実（近世陶磁器）　中野晴久（常滑焼）

橋本久和（黒色土器）

調査および報告書作成の体制

平成18年度

岡山県教育委員会

教育長　門野八洲雄

岡山県教育庁

教育次長　神田　益穂

文化財課

課長　高畑　知功
参事　田村　啓介
総括副参事（埋蔵文化財班長）　光永　真一
主任　小林　利晴
主任　金出地敬一

岡山県古代吉備文化財センター

所長　松本　和男
次長（総務課長）　安西　正則
参事　岡田　博
副参事　中島　謙次

＜総務課＞

総括副参事（総務班長）　若林　一憲
主任　小川　紀久

＜調査第一課＞

課長　中野　雅美
総括主幹（第一班長）　大橋　雅也
主任　柴田　英樹（試掘調査）
主事　和田　剛（試掘調査）

平成19年度

岡山県教育委員会

教育長　門野八洲雄

岡山県教育庁

教育次長　神田　益穂

文化財課

課長　藤井　守雄
参事　田村　啓介
総括副参事（埋蔵文化財班長）　光永　真一
主任　小嶋　善邦
主任　金出地敬一

岡山県古代吉備文化財センター

所長　高畑　知功
次長（総務課長）　小林　勝
参事　岡田　博
副参事　中島　謙次

＜総務課＞

総括副参事（総務班長）　若林　一憲
主任　福池　光修

＜調査第三課＞

課長　平井　泰男（発掘調査）
総括副参事（第一班長）　浅倉　秀昭（発掘調査）
総括副参事（第二班長）　内藤　善史（発掘調査）
主任　柴田　英樹（発掘調査）
主事　河合　忍（発掘調査）
主事　田中　政之（発掘調査/12月から）
主事　笹栗　拓（発掘調査）

平成20年度

岡山県教育委員会

教育長　門野八洲雄

岡山県教育庁

教育次長　岡野　健一
文化財課
課　長　三村　修
参　事（埋蔵文化財班担当）　木山　潤郎
参　事　田村　啓介
総括副参事（埋蔵文化財班長）　光永　真一
主　任　小嶋　善邦
主　任　平井　利尚
岡山県古代吉備文化財センター
所　長　藤川　洋二
次　長（総務課長）　小林　勝
参　事　岡田　博
＜総務課＞
総括副参事（総務班長）　若林　一憲
主　任　福池　光修
＜調査第二課＞
課　長　島崎　東
総括主幹（第一班長）　高田恭一郎
副 参 事　内藤　善史（報告担当）

日　誌　抄

平成19年
10月１日　調査準備開始
10月３日　資材搬入
10月４日　倉ヶ市遺跡、下土田遺跡調査開始
10月９日　延寿寺跡調査開始
11月21日　空中写真撮影
平成20年
１月26日　現地説明会開催
２月14日　空中写真撮影
２月27日　岡山大学大学院　大塚愛二教授による人骨調査現地指導
３月５日　下土田遺跡調査終了
３月21日　延寿寺跡、倉ヶ市遺跡調査終了
３月31日　発掘調査終了

表１　文化財保護法に基づく提出書類一覧

埋蔵文化財試掘・確認調査の報告

文書番号 日付	周知・ 未周知	種類及び名称	所在地	面積 (㎡)	原因	包蔵地 の有無	報告者	担当者	期間
岡吉調 第30号 H18.6.2	未周知	集落跡・水田 倉ヶ市遺跡・下土田遺跡	岡山市上土田 136ほか	43	道路	有	岡山県古代吉備文化財センター所長	柴田英樹・ 和田　剛	H18.5.15～ H18.5.29

埋蔵文化財発掘の通知（法第94条）

文書番号 日付	種類及び名称	所在地	面積 (㎡)	目的	通知者	期間	主な勧告事項
教文埋 第497号 H18.7.31	集落跡・社寺跡・ 生産遺跡 延寿寺跡	岡山市下土田～ 上土田地内	9,731.69	道路	岡山県備前県民局長 山本　剛	H18.9.1～ H23.3.31	発掘調査

埋蔵文化財発掘調査の報告（法第99条）

文書番号 日付	種類及び名称	所在地	面積 (㎡)	原因	報告者	担当者	期間
岡吉調 第2007号 H19.10.11	集落跡・社寺跡 延寿寺跡・倉ヶ市 遺跡・下土田遺跡	岡山市上土田 123－4ほか	7,750	道路	岡山県古代吉備文化財センター所長	平井泰男　浅倉秀昭 内藤善史　柴田英樹 河合　忍　笹栗　拓	H19.10.1～ H20.3.31

埋蔵文化財発見通知（法第100条第２項）

文書番号 日付	物件名	出土地	出土年月日	発見者	土地所有者	現保管場所
教文埋 第294号 H18.5.31	土器・石器 計整理箱１箱	岡山市上土田136ほか	H18.5.15～ H18.5.29	岡山県教育委員会 教育長　門野八洲雄	岡山市内山下2-4-6 岡山県知事 石井正弘	岡山県古代吉備文化財センター
教文埋 第1440号 H20.3.21	延寿寺跡：土器・石器・金属器・土製品ほか　計整理箱22箱 倉ヶ市遺跡：土器・石器・金属器・土製品・人骨ほか　計整理箱74箱 下土田遺跡：土器・石器・金属器ほか　計整理箱９箱	岡山市上土田123-4ほか 延寿寺跡 岡山市上土田125-1ほか 倉ヶ市遺跡 岡山市下土田487ほか 下土田遺跡	H19.10.3～ H20.3.21	岡山県教育委員会 教育長　門野八洲雄	岡山市内山下2-4-6 岡山県知事 石井正弘	岡山県古代吉備文化財センター

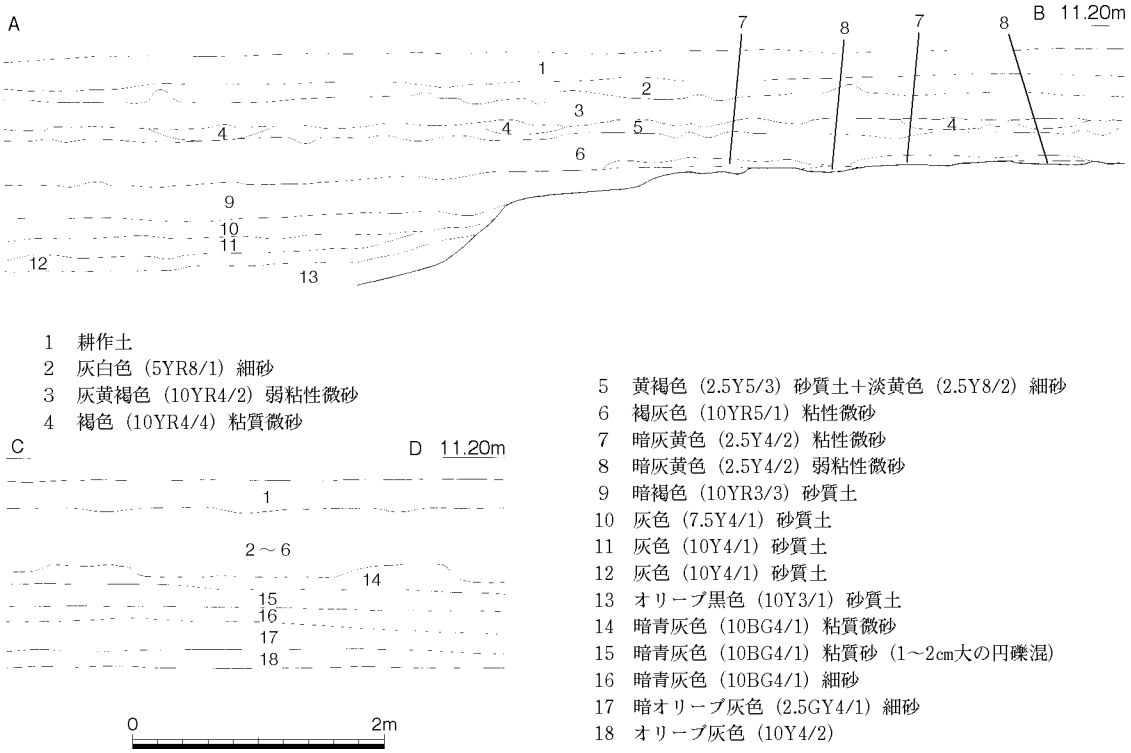
第３章　延寿寺跡

第１節　発掘調査の概要

延寿寺跡は、足守川東岸に位置する。周知の埋蔵文化財包蔵地としては、寺域推定地をもって範囲を示しているが、ここでは調査で確認された大きな地形の変化点を重視して、西限を拡大した。ただし本来は、倉ヶ市遺跡の中に含まれる寺院跡という位置付けの方が妥当である。

現在の地表面は標高11.2ｍで、中世以降の水田層を除去した標高10.1～10.45ｍで微高地が現れる。この西には低位部が存在し、後述する倉ヶ市遺跡を含め、砂層が堆積するような環境である。

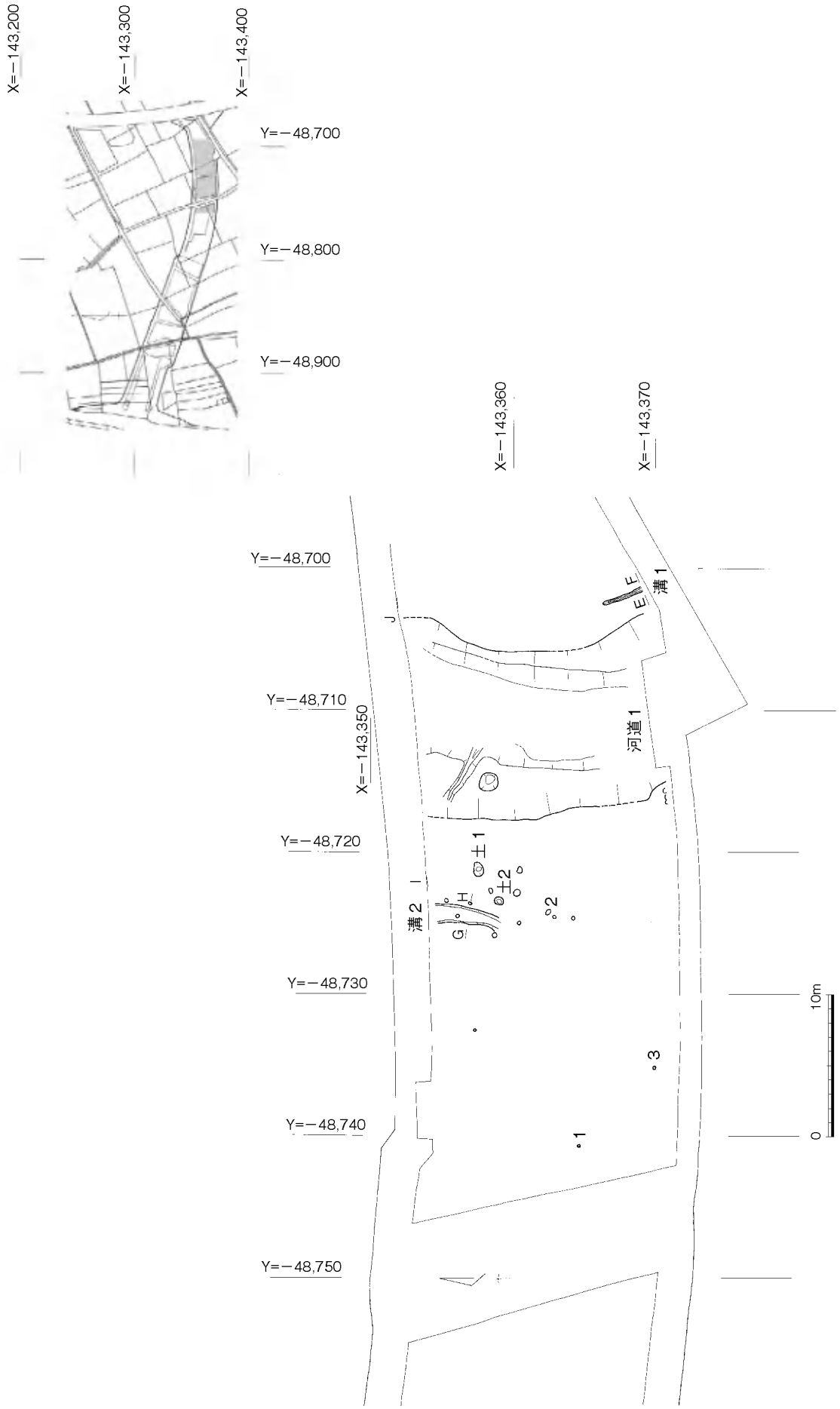
今回の調査では、縄文時代後期から弥生時代、平安時代後期から鎌倉時代にかけての遺構や遺物が検出された。弥生時代以前では、弥生前期の土器と供伴する石棒の出土、古代～中世では、「延壽寺」を検証する基礎資料の収集、条里遺構の検出など一定の成果を得ることができた。　（柴田）



第４図　土層断面図（1/60）

第２節　古墳時代以前の遺構・遺物

古墳時代以前では、土壙２基、溝２条、柱穴、河道を検出した。とりわけ、縄文～弥生時代前期の河道からは、土器や石器が多数出土しており注目される。しかし、当該期では、まだ微高地が安定していないためか、遺構や弥生前期以外の遺物はきわめて少ない。　（柴田）

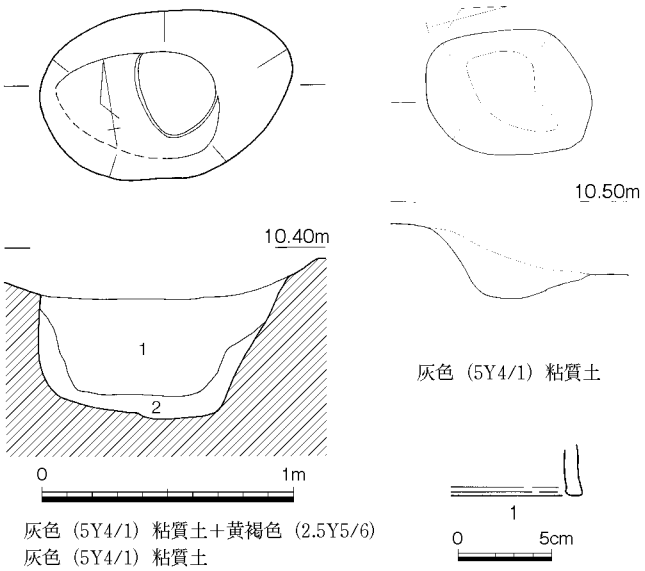


第５図　古墳時代以前の遺構配置図（1/400）

１　土壙

土壙１（第６図）

河道１の西岸３ｍに位置する土壙で、溝13に切られている。掘り方平面形は、東西方向に長い楕円形を呈し、長径100㎝、短径68㎝を測る。掘り方西辺の立ち上がりは垂直で、検出面からの深さは49㎝を測る。底面は平坦であるが、東部分がわずかに窪む。遺構の時期を示す遺物は認められないが、検出面や土層等から、弥生時代の可能性がある。　（柴田）



第６図　土壙１・２（1/30）、土壙２出土遺物（1/4）

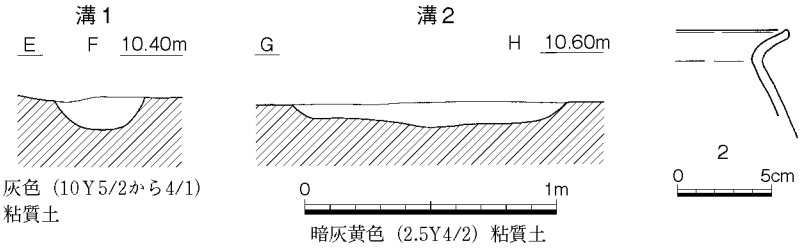
土壙２（第６図）

河道１の西岸６ｍに位置する土壙で、溝13に切られている。掘り方平面形は、南北方向に長い楕円形を呈し、長径65㎝、短径50㎝を測るが、北辺は削平を受けており、正確な規模は明らかでない。検出面からの深さは28㎝を測る。底面は南部分がわずかに窪むようである。出土遺物としては１があるが、摩耗した小片である。遺構の時期は、検出面や遺物から弥生時代と考えられる。　（柴田）

２　溝

溝１（第７図）

調査区中央の南で検出した溝である。南北方向にのび、幅は34㎝を測る。断面形は「U」字形を呈し、検出面からの深さは13㎝である。時期を特定できる出土遺物はないが、弥生時代前期と考えられる。　（柴田）



第７図　溝１・２（1/30）、溝２出土遺物（1/4）

溝２（第７図）

河道１の西岸７ｍに位置する溝で、溝13に切られている。南北方向にのびているが、南端は弧を描きながら、わずかに西へ振っている。また、検出面での幅は、北端で135㎝を測るが、南端にかけて狭くなりながら収束している。検出面からの深さはかなり浅く、10㎝程度である。底面は、ほぼ平坦である。埋土中からは、甕２が出土している。遺物等から、遺構の時期は、弥生時代末～古墳時代初頭の可能性がある。　（柴田）

３　河道

河道１（第８～18図、図版２・８・11）

調査区のほぼ中央で検出された、南北に流走する河道である。上面での幅は約10.5～13.6ｍを測る。流路は蛇行しているとみられ、低水路相当部分でみると、左岸（東岸）北端と右岸（西岸）南端の傾斜が比較的急傾斜になっており、それぞれ水衝部であったと考えられる。微高地上の標高は10.45ｍで、河道の底面については標高9.1ｍまで掘り下げたが、粘質土にくらべて砂層が優位となり、また湧

水が著しくなったため調査を終了した。

河道内の堆積層については、７層を境として上層・下層に大きく分けることができる。８・11・12・13層が下層、それより上が上層である。

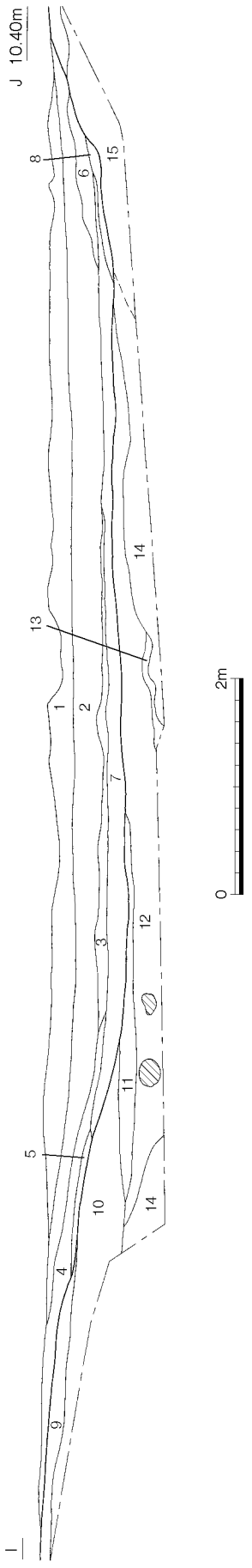
８層は左岸（東岸）方向からの薄い堆積層で、縄文時代後・晩期の土器片が出土している。11・12層は、樹木の枝葉などの植物遺存体を含む粘土層である。水流が緩やかで、滞水状態であったことが推測される。この層からの遺物は確認できなかったが、縄文時代後～晩期の可能性がある。この下には、13層から続く砂層や薄い粘土層があり、通水量の増減が推測される。確認できなかったが、底面は標高９ｍ以下となる。

右岸（西岸）では、11・12・14層上に10層が堆積している。この点と、左岸（東岸）の遺物等を考慮すると、左岸（東側）の微高地は、縄文時代後～晩期までに形成されているが、この時点では右岸（西側）の微高地はまだ形成されていない可能性が高い。

上層が、弥生時代前期以降の河道の堆積土である。７層の底面は標高9.4ｍで、この時期の河道の深さは、１ｍ以上となる。この層では、遺物が比較的まとまって出土し、植物遺存体もみられる。また両岸斜面の堆積層からは、縄文時代晩期や弥生時代前期の遺物が出土している。このことから、右岸（西側）の微高地については、縄文時代後期から晩期にかけて形成されたことが推測される。

１・２層では、まとまった遺物は出土していないが、弥生時代中期後葉の土器片が認められることから、この時期に堆積した層の可能性がある。

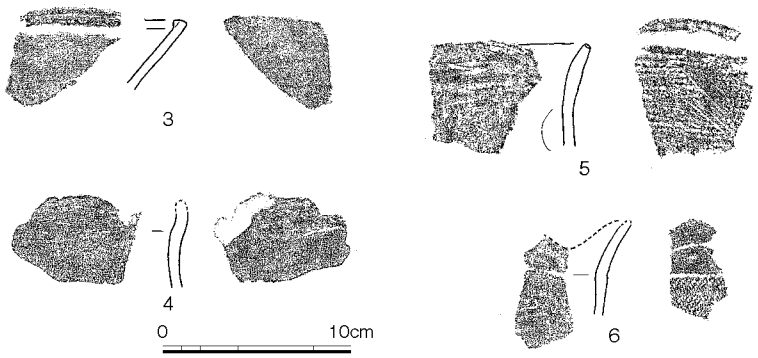
なお、埋没が進行した河道上は、中世段階でも微高地より低い土地であり、ここに建物等の遺構が認められないのは、それが原因と考えられる。



第８図　河道１（1/60）

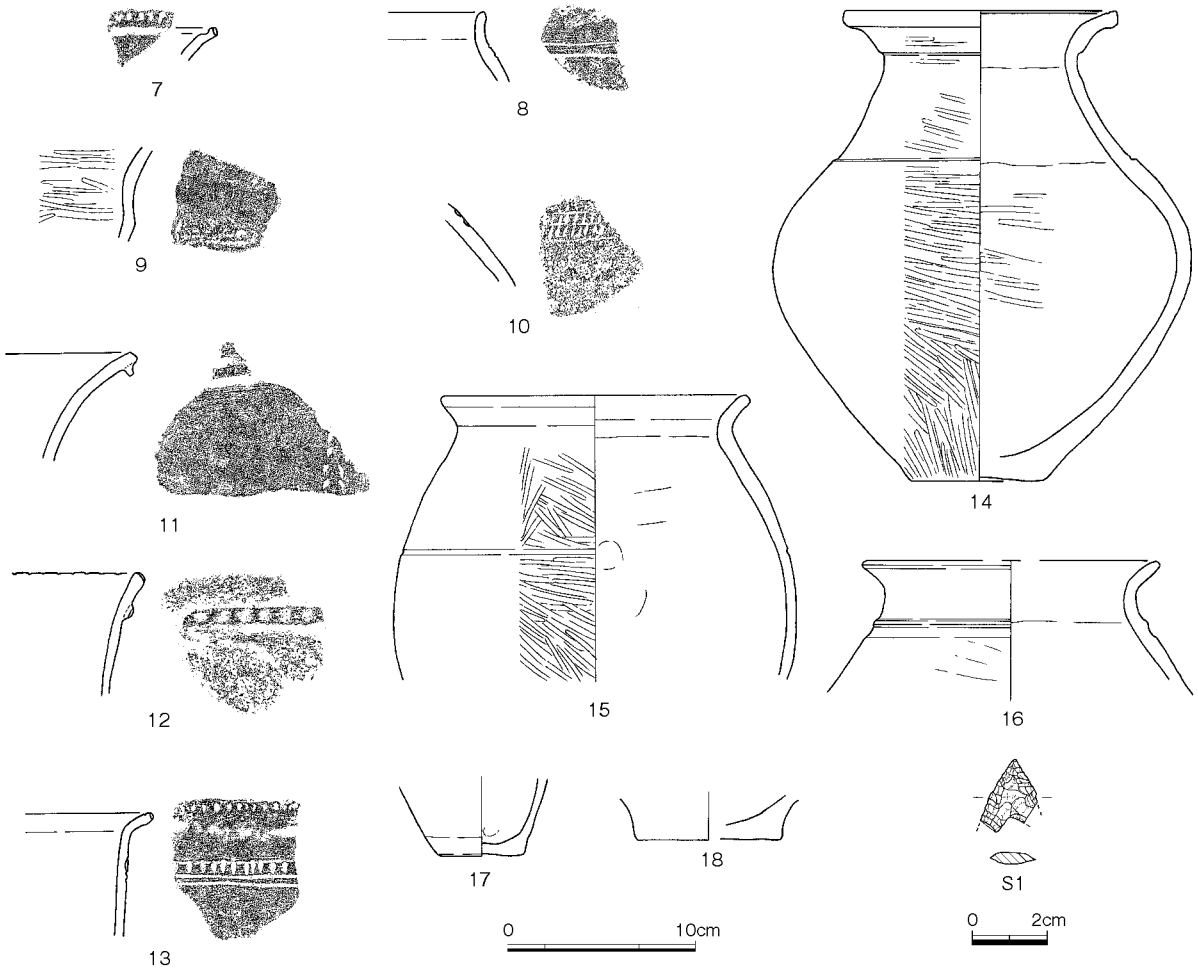
３～６（第９図）は、左岸（東岸）の８層から出土している。深鉢５は外面に条痕が認められ、６は縄文が認められる。時期は、縄文時代後～晩期である。

13～16（第10図）、19～35・Ｓ２（第11図）は、河道底部の７層から出土している。この層では、左岸（東岸）で倒木が出土した。さらにこの延長線上の右岸（西岸）には、溝状のたわみがあり、この倒木の腐朽に伴うものと判断される。おそらく、倒木が河道を堰き止めたことにより、13～15・17・19～21・28・S2は、この上流部でまとまった状態で出土しているものと考えられる（第16図）。



第９図　河道１出土遺物①（1/4）

壺では、口縁部と頸部、頸部と体部との境に段を有する14・19や、木葉文を施す24・25があるが、壺20や甕13・15の器形や文様等では前者よりも新しい様相がみられる。蓋には２種類あり、31と35が出土している。これらの時期は、弥生時代前期前葉～中葉である。Ｓ２は、塩基性片岩製の有頭石棒である。長さは132.5mm、最大幅は42mmを測る。断面は扁平で、下端は欠損している。県内の弥生時



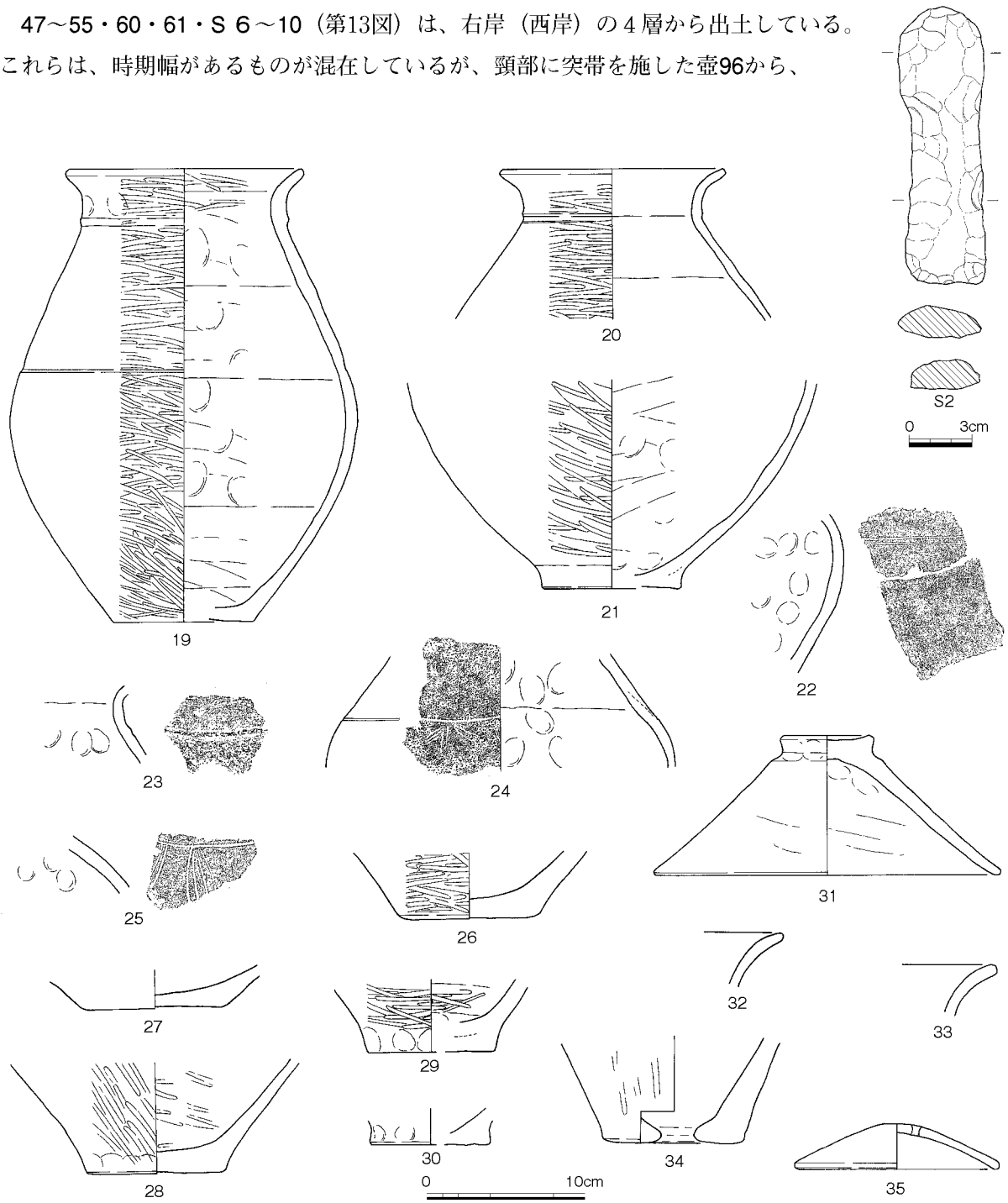
第10図　河道１出土遺物②（1/4・1/2）

代の石棒は、岡山市津島岡大遺跡（前期・河道）(1)、赤磐市用木山遺跡（中期・住居流入土）(2)、津山市大田十二社遺跡（後期・配石遺構）(3)、瀬戸内市門田貝塚（前期・貝塚）(4) で出土している。

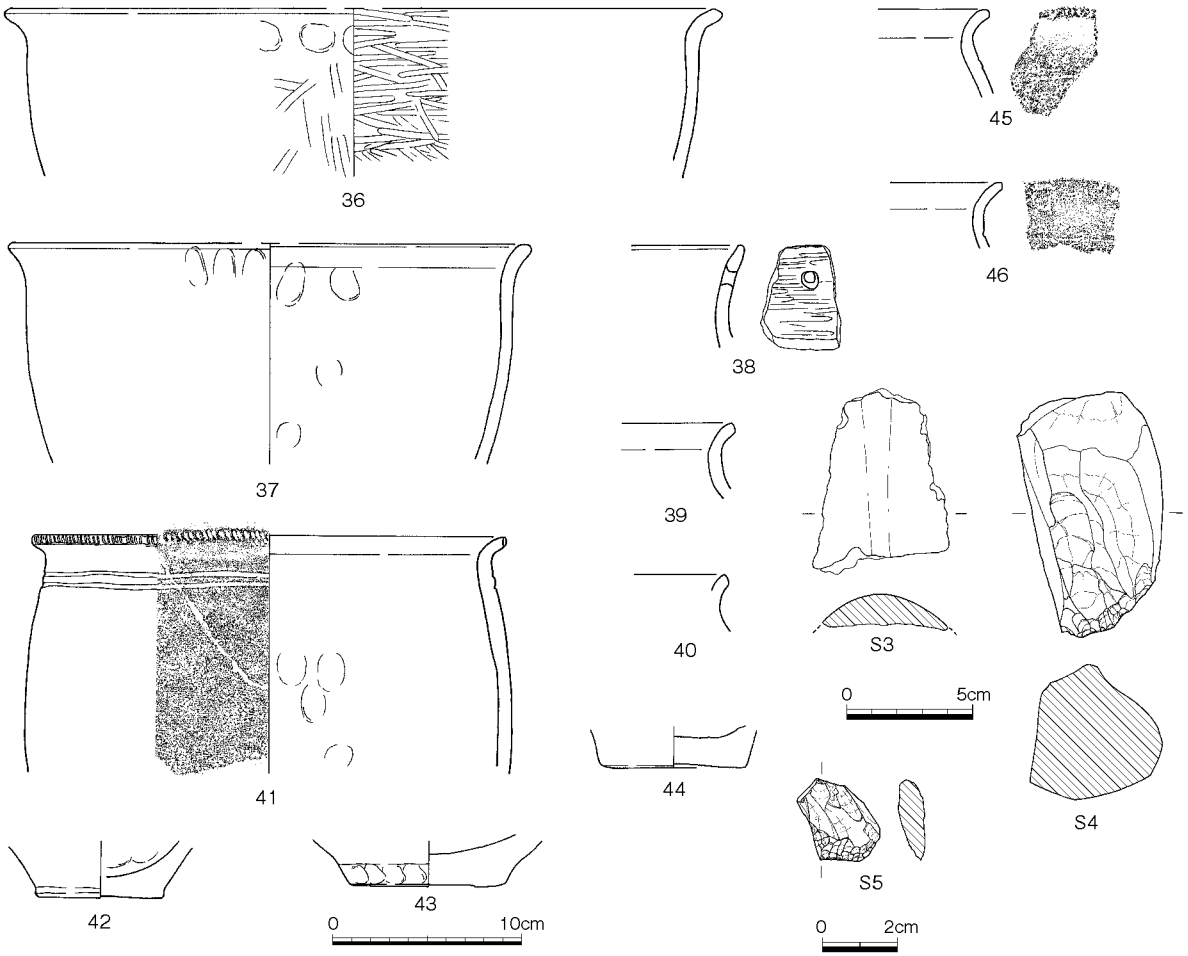
７～12・16・18（第10図）は左岸（東岸）の６層から出土している。肩口の薄い層で、縄文時代晩期の７・９・11・12と弥生時代前期の土器が混じって出土している。７層の遺物や層序関係から判断すると、両者の共伴事例とは考えられない。

36～46・Ｓ４・５（第12図）、56・59（第13図）、84・89（第14図）、93（第18図）は、右岸（西岸）の５層から出土している。特に37・38・41・84・89・93は、右岸（西岸）でまとまって出土している（第16図）。これらの時期は、弥生時代前期中葉である。

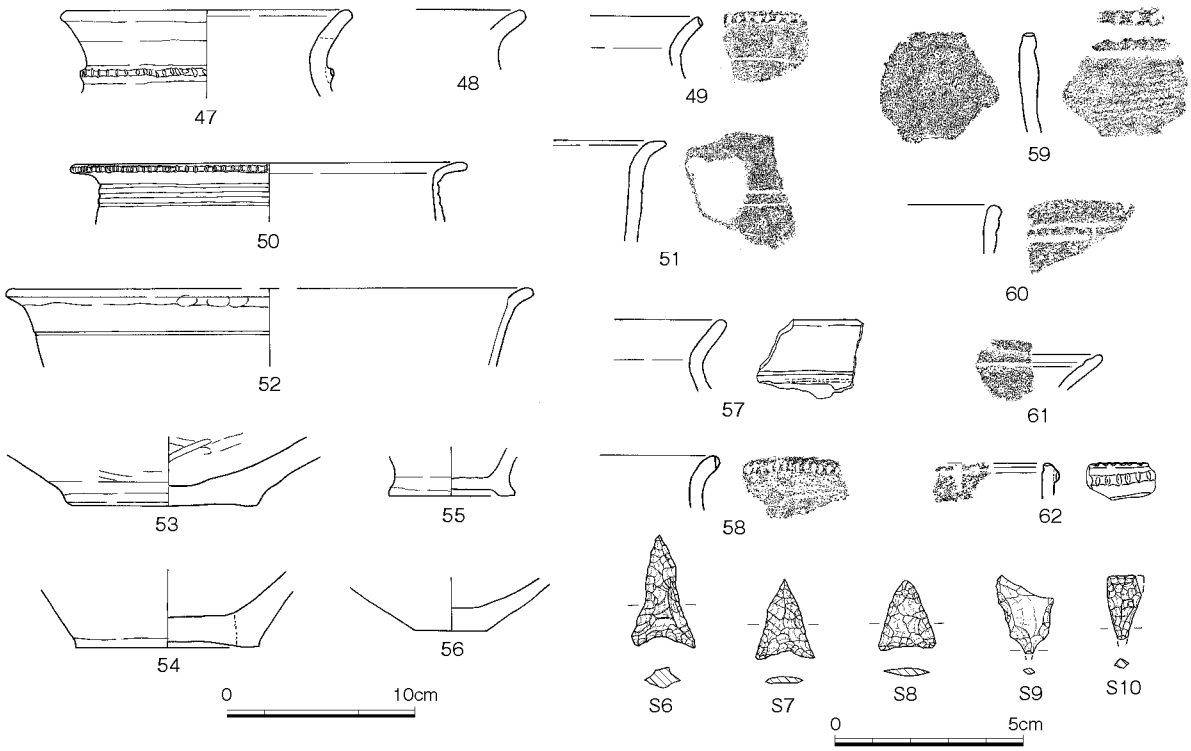
47～55・60・61・Ｓ６～10（第13図）は、右岸（西岸）の４層から出土している。これらは、時期幅があるものが混在しているが、頸部に突帯を施した壺96から、



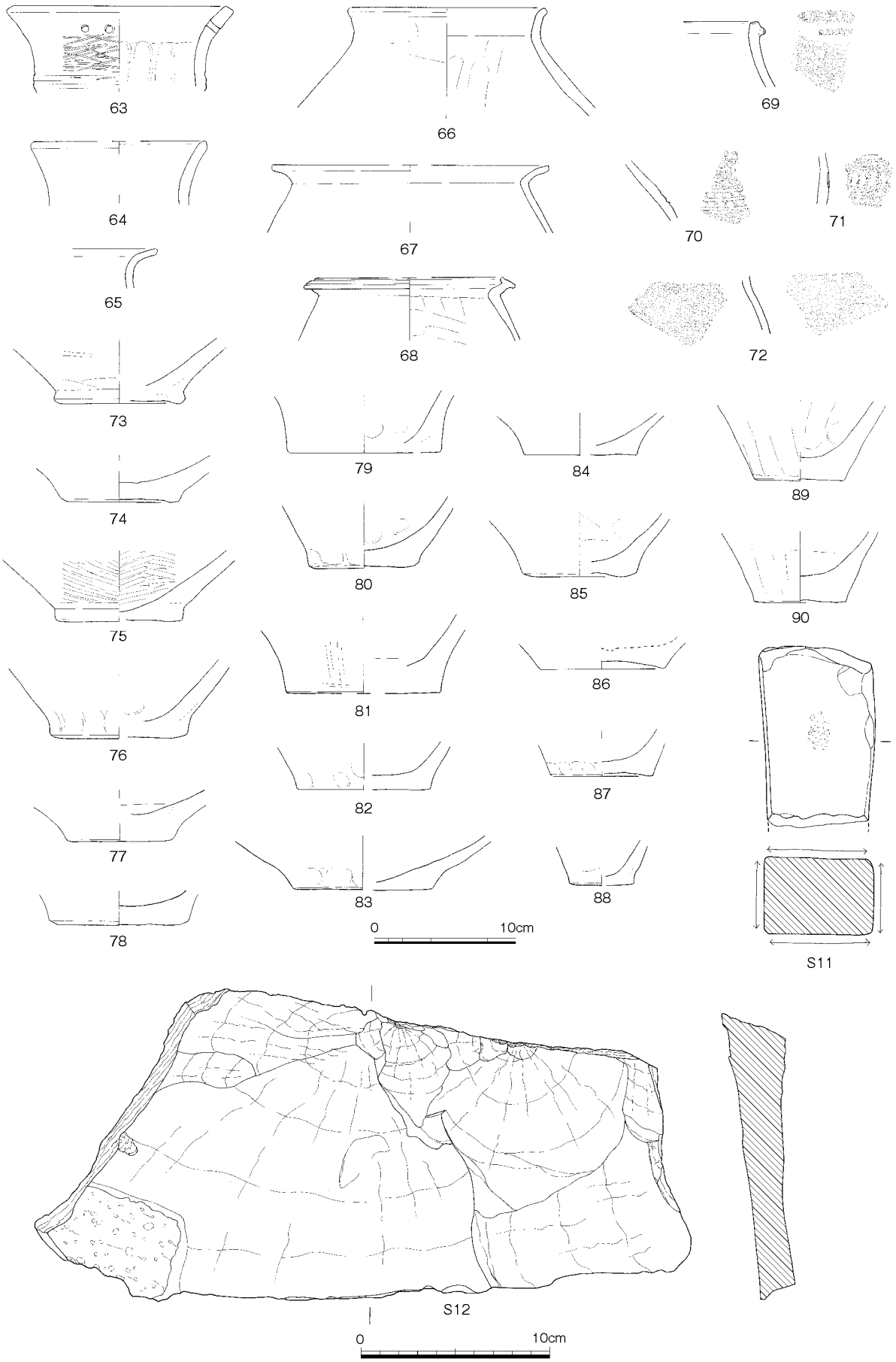
第11図　河道１出土遺物③（1/4・1/3）



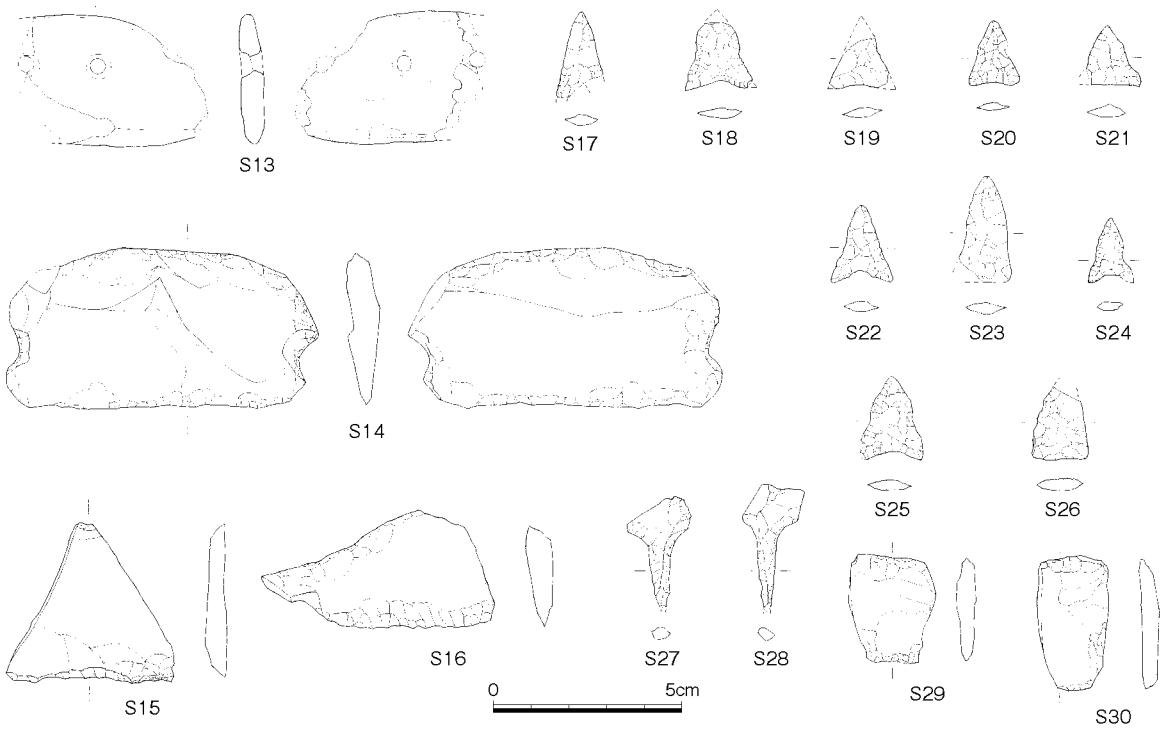
第12図　河道１出土遺物④（1/4・1/3・1/2）



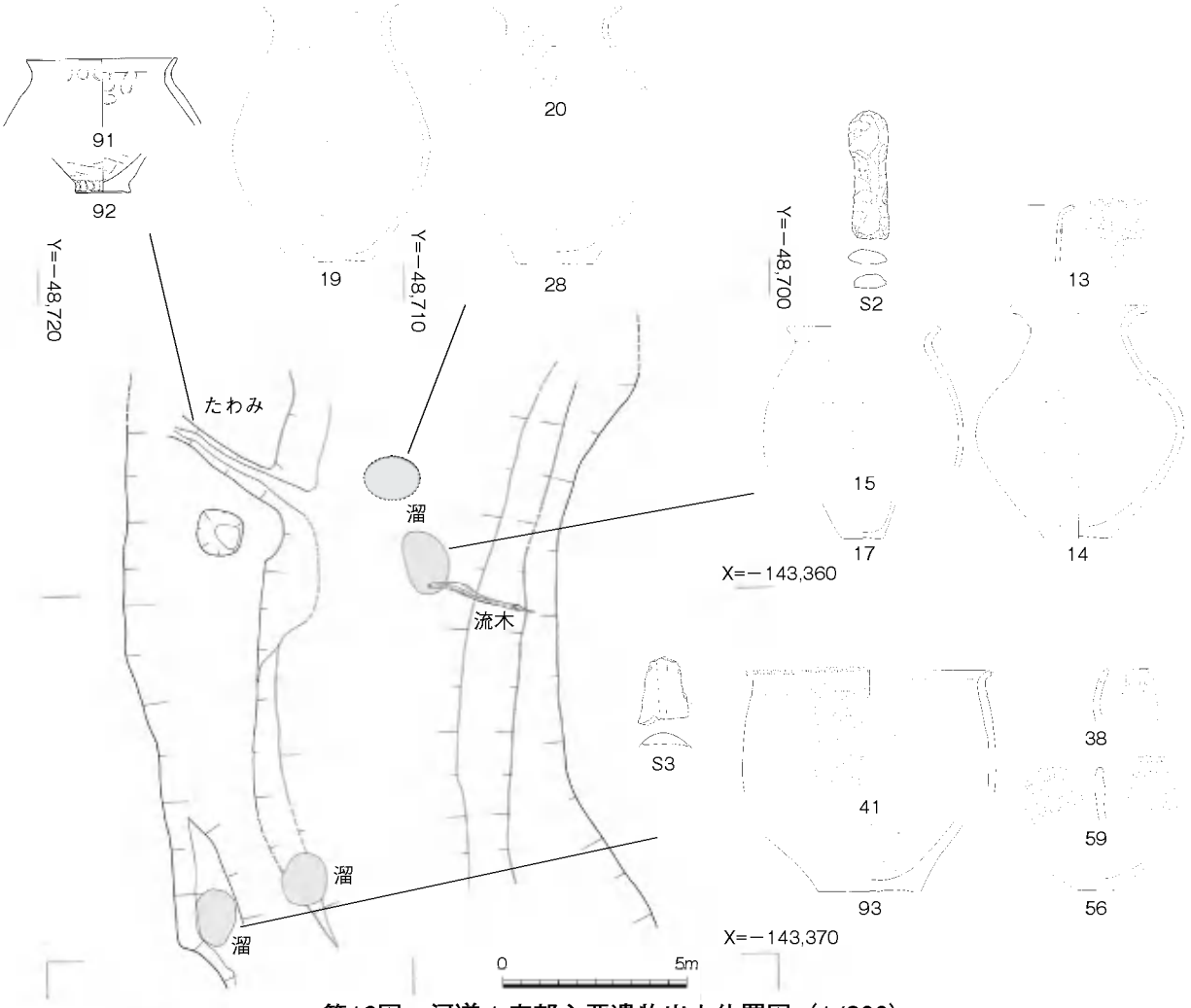
第13図　河道１出土遺物⑤（1/4・1/2）



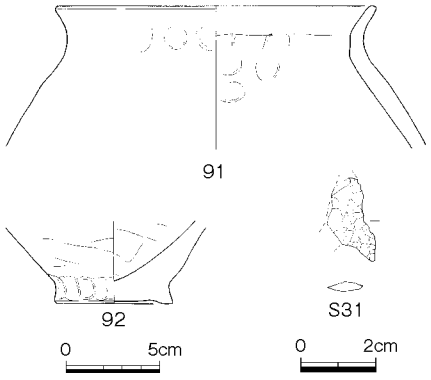
第14図　河道１出土遺物⑥（1/4・1/3）



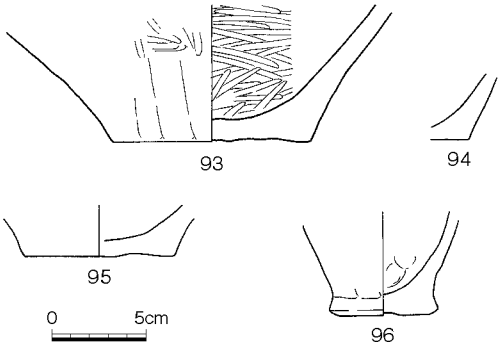
第15図　河道１出土遺物⑦（1/2）



第16図　河道１底部主要遺物出土位置図（1/200）



第17図　河道１たわみ
出土遺物（1/4・1/2）



第18図　河道１土器溜まり
出土遺物（1/4）

この層は弥生時代前期後葉と考えられる。石鏃Ｓ６～Ｓ８、石錐Ｓ９・Ｓ10（第13図）の石材は、いずれもサヌカイトである。

63・65・67・69・70・73・75・77・78・80・82・86・87（第14図）は、３層から出土している。

57・58・62（第13図）、68・79・88（第14図）は、１～２層から出土している。この層は、甕68から、弥生時代中期後葉の堆積層と考えられる。

右岸（西岸）で溝状のたわみが検出された。これは、左岸（東岸）で出土した倒木の延長線上にあたり、この倒木の痕跡と考えられる。ここから、壺91・92、石鏃S31 が出土した（第17図）。

以上の他にも、石器が出土しており、図示した。S12は大形の板状サヌカイトで、左岸（東岸）の肩口の６層もしくは７層から出土した。石器素材と考えられる。石鏃では、凹基式のものが多いが、S21・S23・S26のような平基式もある。S13は粘板岩製の磨製石包丁、S14はサヌカイト製の打製石包丁である。S16は石匙、S27・S28は石錐、S15・S29・S30は楔形石器である。（柴田）

註

（1）「津島岡大遺跡17」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』第22冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター　2006

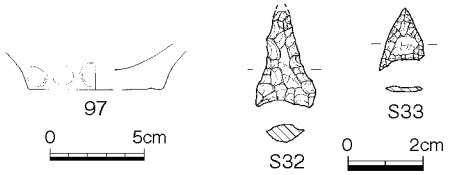
（2）「用木山遺跡」『岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報』４　山陽町教育委員会　1977

（3）「大田十二社遺跡」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告』第10集　津山市教育委員会　1981

（4）『邑久町史』考古編　瀬戸内市　2006

４　柱穴（第19図、図版11）

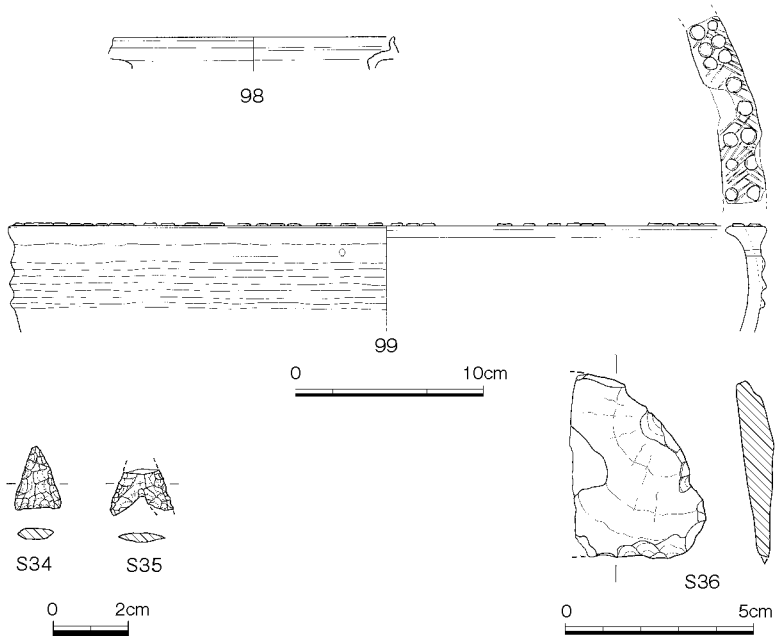
出土遺物が認められたのは、西側微高地の柱穴３本である。底部片97は径22㎝の柱穴１、S32は長径54㎝の柱穴２、S33は径28㎝の柱穴３から出土した。（柴田）



第19図　柱穴出土遺物（1/4・1/2）

５　遺構に伴わない遺物（第20図、図版11）

この時期と考えられる遺構は非常に少なく、微高地があまり安定していなかったと思われる。出土遺物も少ないが、甕98や高杯99、石鏃S34・S35、石包丁S36を図示した。



第20図　遺構に伴わない遺物（1/4・1/2）

第３節　古代以降の遺構・遺物

弥生時代前期以降、河道によって２つに分かれていた微高地は、河道内に土砂の堆積が進行することで、古代までにひと続きの微高地となったようである。この上に、古代～中世の遺構が展開する。ただし、河道のあった部分はまだ比較的低い土地であり、遺構はここを挟んで東西に分布する。

検出された主な遺構は、建物６棟、柱穴列３列、土壙墓１基、土壙８基、溝21条などがある。また、遺物では、硯と瓦の出土が注目される。これらの多くは、平安時代後期～鎌倉時代に属する。

当地域は、『備中国足守荘絵図』に描かれた「延壽寺」の地に比定されているが、調査で確認された遺構や遺物による検証が大きな課題と言える。（柴田）

１　建物

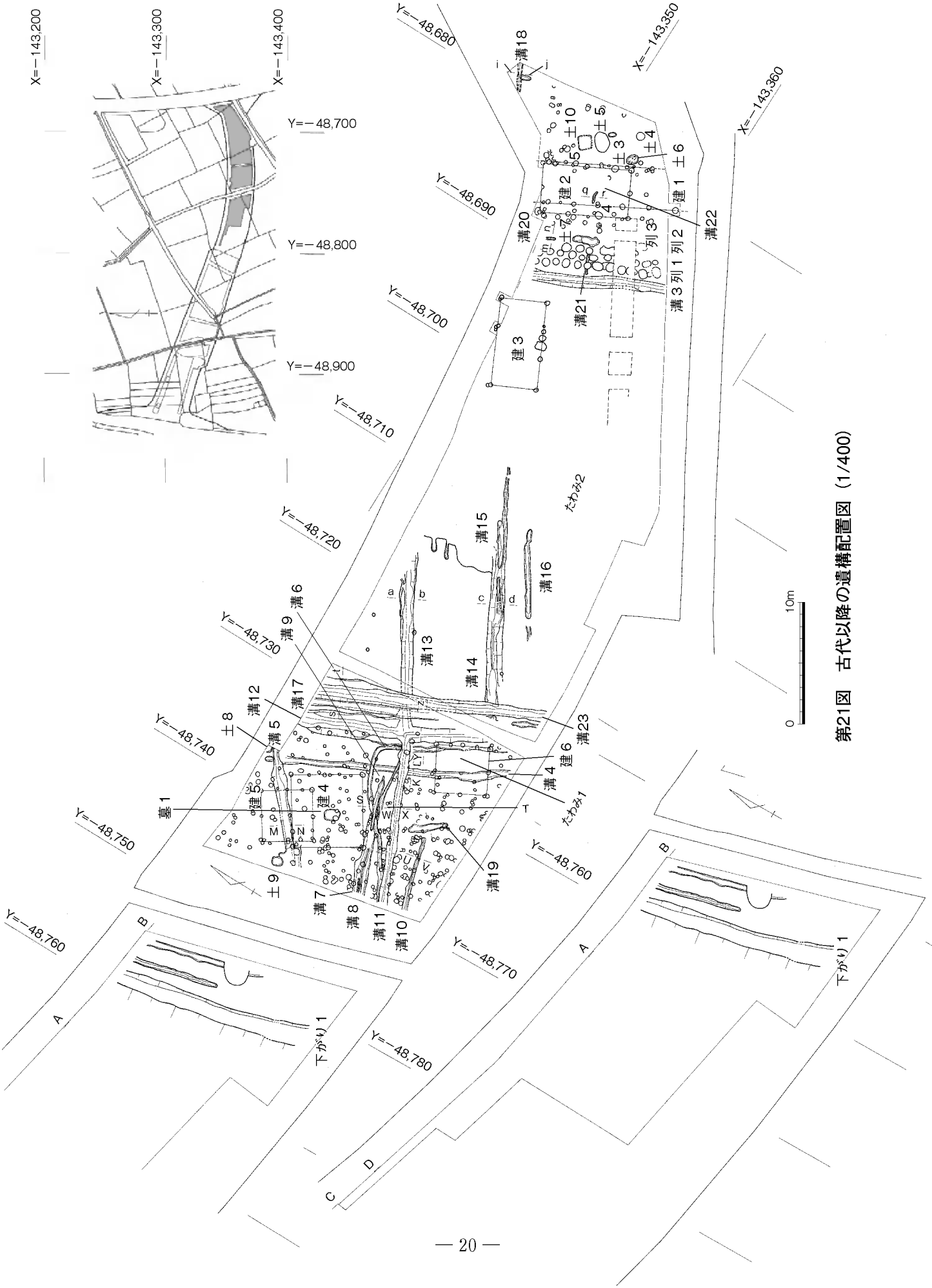
建物１（第22図、図版３－1～3）

調査区の東端で検出された建物である。規模は、確認できた５×１間であるのか、桁行がそれ以上となるかは明らかではない。ここでは細長い建物として報告するが、それ以外の構造物である可能性もある。Ｐ２は、建物２のＰ２を切っていることが確認されている。

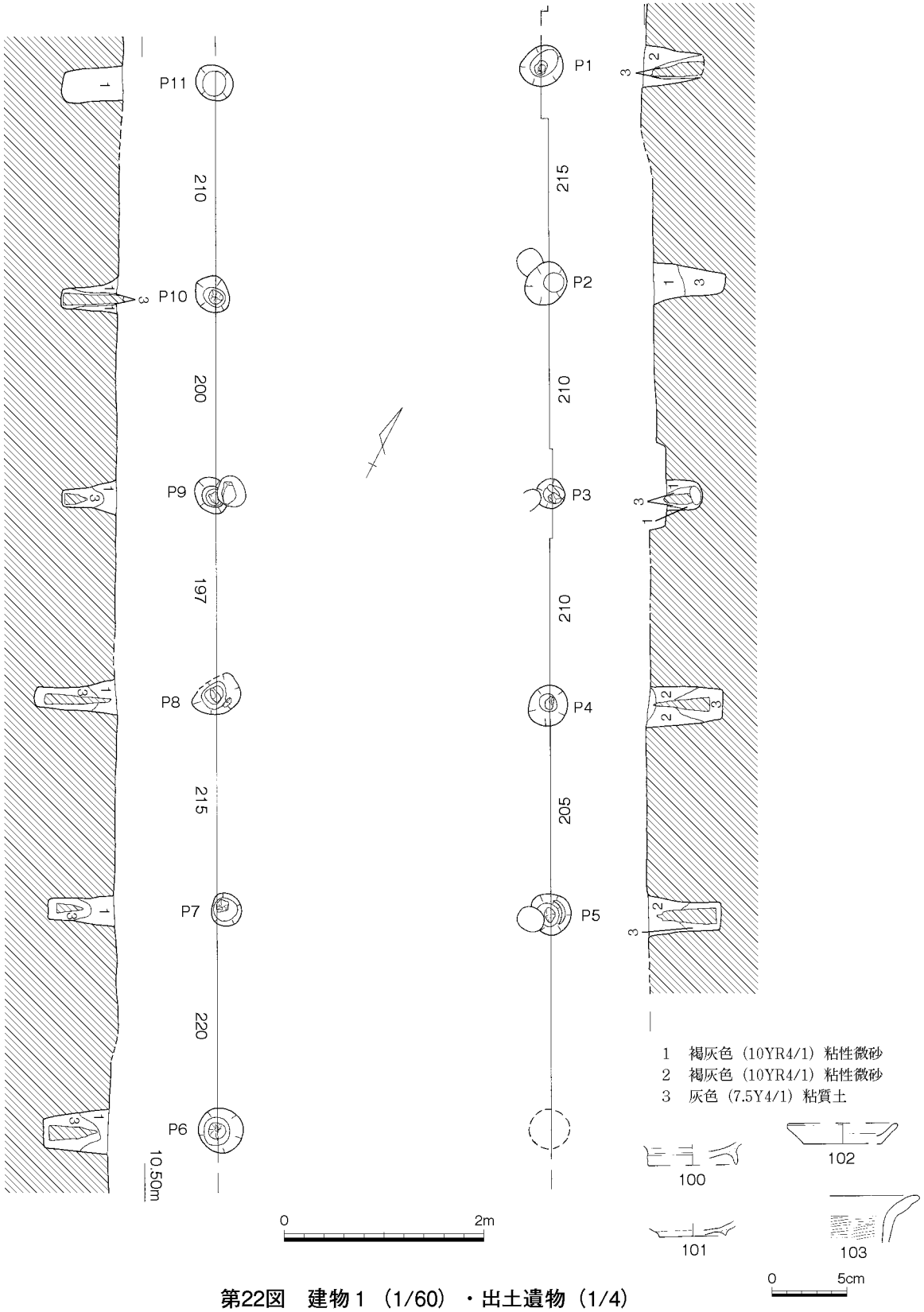
棟方向はＮ－28°－Ｗで、溝３や柱穴列とほぼ平行する。桁行の柱間は197～220㎝、梁間は326～330㎝を測る。柱穴掘り方の平面形は、径30～45㎝程度の円形で、検出面からの深さは、50～80㎝を測る。多くの柱穴で柱根が残存していた。柱根の径は16～20㎝、下端は平らに加工している。柱穴内埋土からは、土師器の高台付椀100・101や小皿102、鍋103が出土している。遺構の時期は、鎌倉時代末期以降と考えられる。（柴田）

建物２（第23図）

調査区の東端で、建物１と重複して検出された建物である。Ｐ２が、建物１のＰ２に切られている



第21図　古代以降の遺構配置図（1/400）



第22図　建物１（1/60）・出土遺物（1/4）

ことが確認されている。規模は３×２間で、桁行725㎝、梁間395㎝を測る。

棟方向はN－28°－Wで、溝３や柱穴列とほぼ平行する。桁行の柱間は234～250㎝、梁の柱間は195～204㎝を測る。柱穴掘り方の平面形は、径30㎝前後の円形で、検出面からの深さは、20～70㎝とば

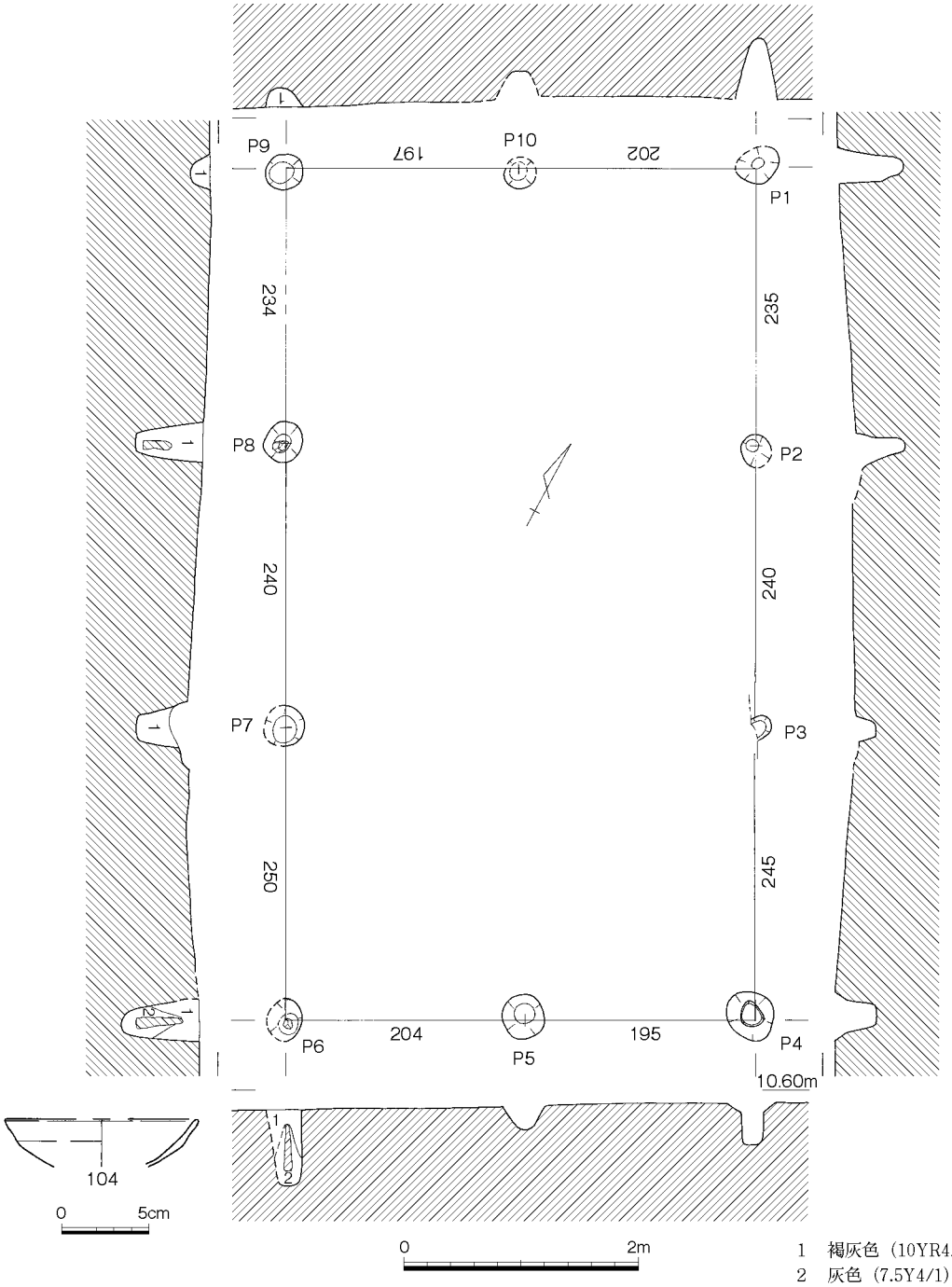
らつきがある。２つの柱穴で柱根が残存していた。柱根の残存径は10㎝、下端は平らに加工している。なお、後述する柱穴４はＰ７の柱を抜き取った後に花崗岩を据えた状態で、同一遺構と考えられる。

柱穴内埋土からは、土師器の高台付椀104や皿269が出土している。遺構の時期は、鎌倉時代と考えられる。（柴田）

建物３（第24図、図版３－４）

調査区の東側で検出された建物で、溝３の西に位置する。規模は３×１間で、桁行715㎝、梁間366～368㎝を測る。

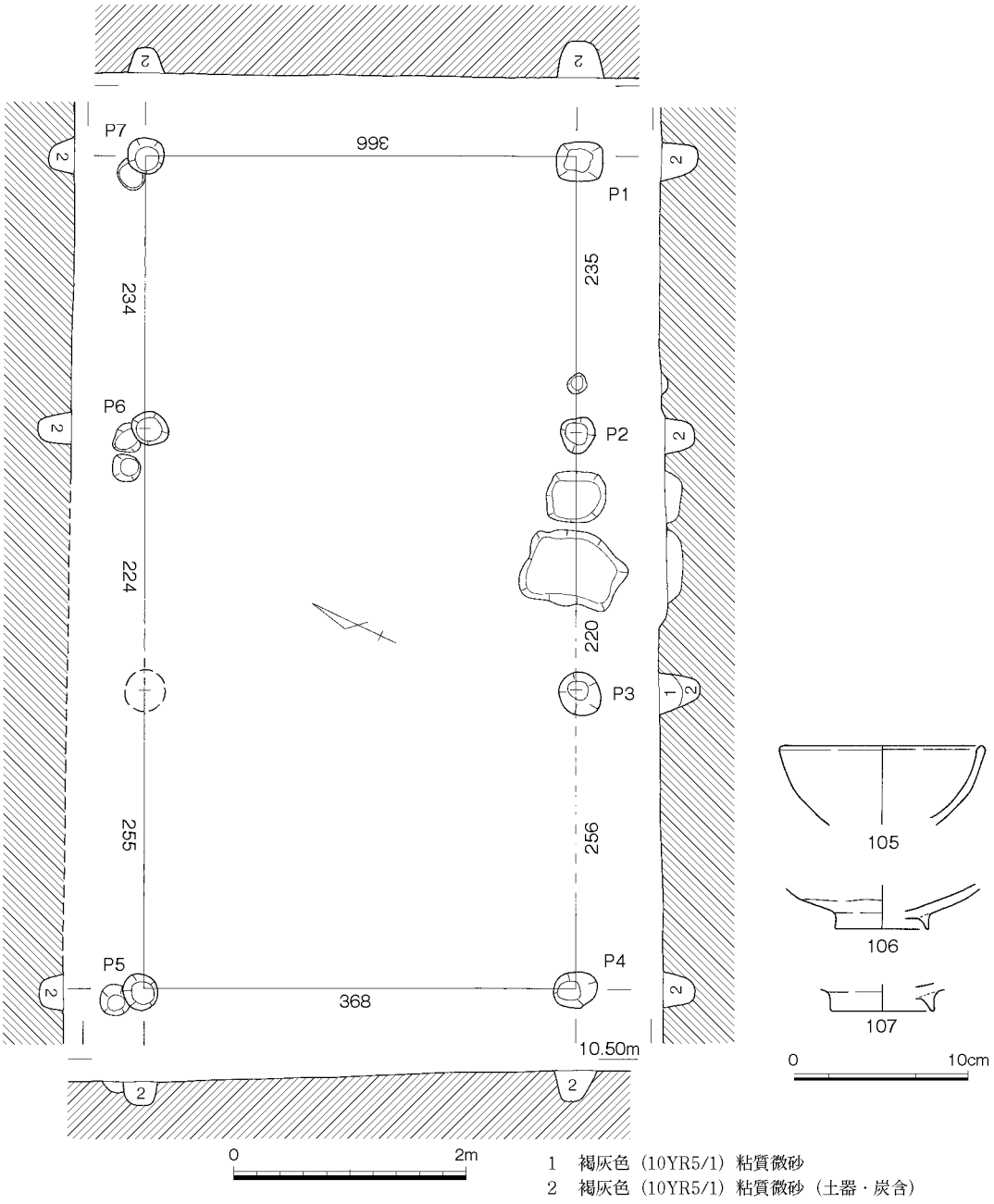
棟方向はN－65°－Eで、建物１・２や溝３、柱穴列と直交する。桁行の柱間は220～256㎝を測る。



第23図　建物２（1/60）・出土遺物（1/4）

柱穴掘り方の平面形は、径30㎝程度の円形で、検出面からの深さは、20～30㎝を測る。Ｐ２・３の間で検出された浅い土壙は、建物に関連する可能性が考えられる。

柱穴内埋土からは、土師器の椀105、高台付椀106・107が出土している。遺構の時期は、鎌倉時代と考えられる。（柴田）



第24図　建物３（1/60）・出土遺物（1/4）

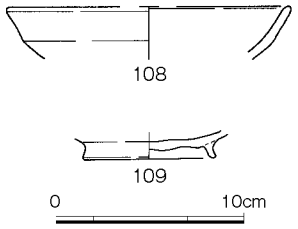
建物４（第25図、図版９）

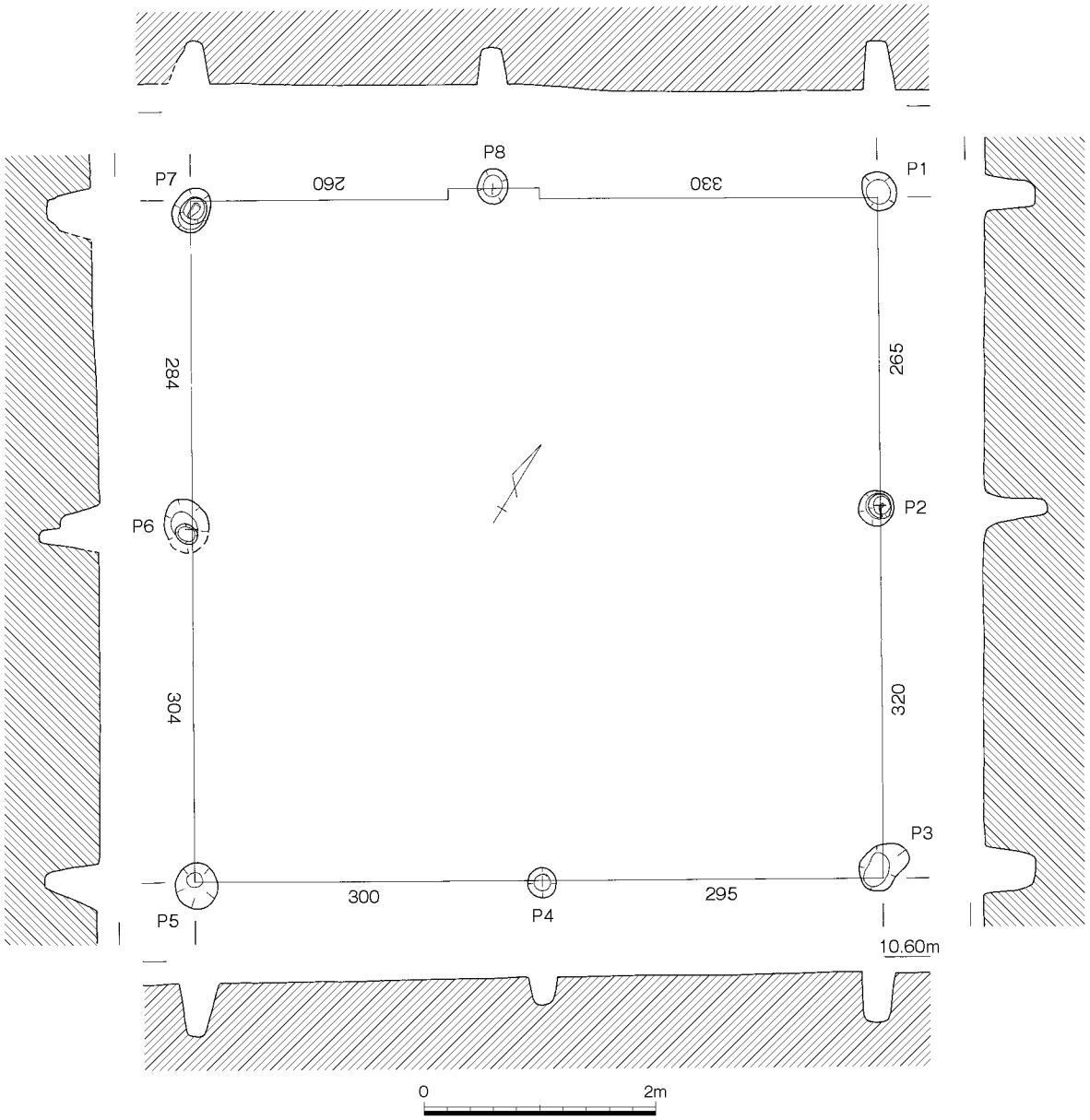
調査区の西部北側において検出された建物で、同方向に建てられた建物５と一部重複している。桁行・梁間とも5.9ｍ程の正方形に近い２×２間の側柱建物で、棟方向はＮ－32°－Ｗである。

柱間は桁行・梁間ともまちまちで260～330㎝と長短がある。柱穴は30～40㎝程の円形の平面で、深

さ50㎝前後を測るが、梁間中央の柱穴はやや浅い。一部に柱痕や材が遺存し、直径15㎝程の柱が想定される。

108はＰ５から、109はＰ３から出土したいわゆる早島式土器の椀であるがいずれも細片である。遺構の時期は鎌倉時代と考えられるが、建物５との前後関係は不明である。　（内藤）





第25図　建物４（1/60）・出土遺物（1/4）

建物５（第26図）

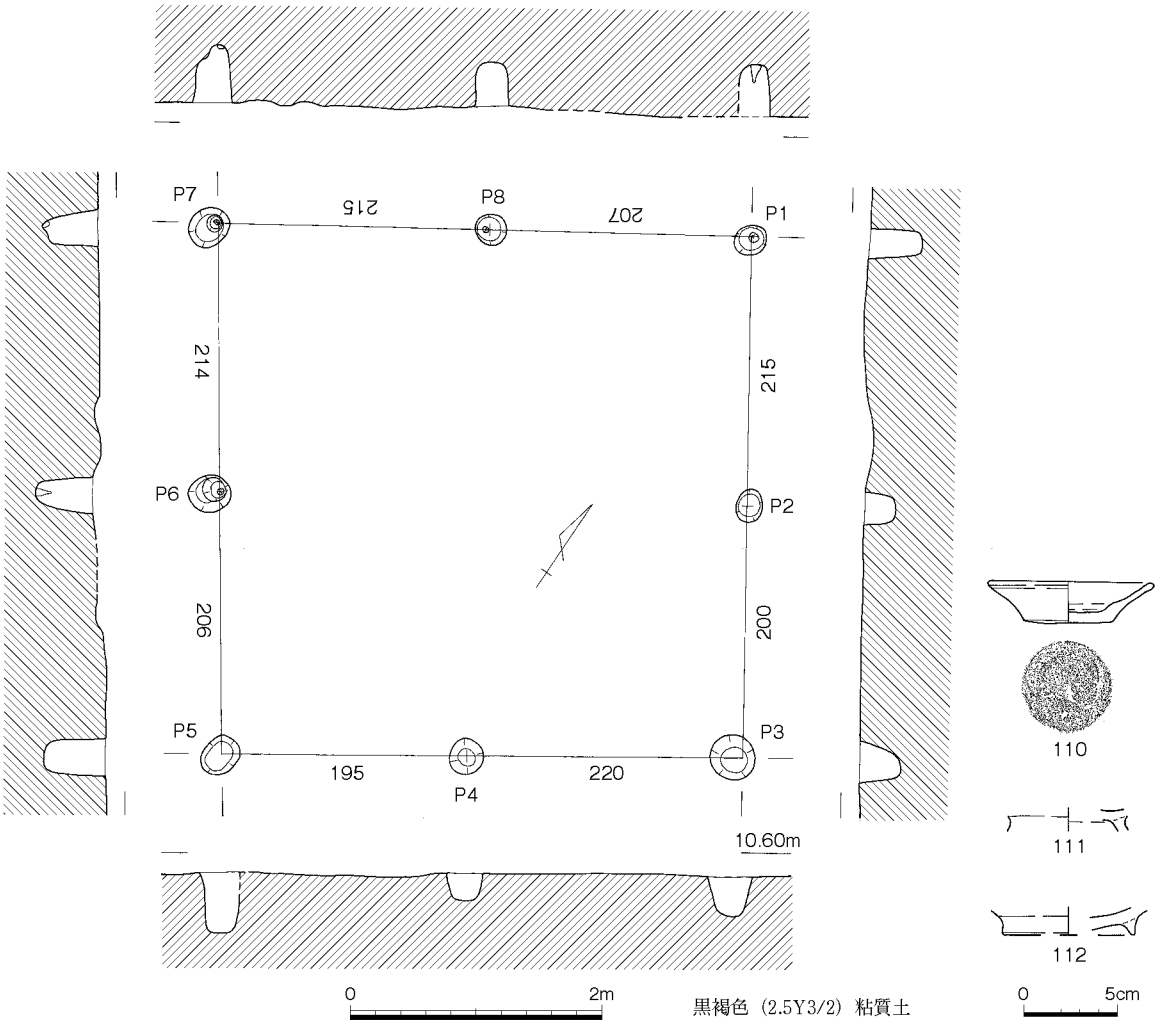
調査区の西部北側、建物４の北部において一部重複して建てられた建物である。桁行・梁間とも410～420㎝程の正方形に近い２×２間の側柱建物で、棟方向はN－34°－Wである。

柱間は桁行・梁間とも195～220㎝でややばらつきがある。柱穴は25～30㎝程の円形の平面形で、深

さは最も浅いＰ４で23㎝、深いＰ５では48㎝を測る。北側から西側の柱穴には柱材の一部が遺存しており、直径10数㎝の柱が想定される。

110はＰ５から出土した土師器の杯、111も同じくＰ５から出土した土師器椀の高台部片である。また、112はＰ３から出土したいわゆる早島式土器の椀の高台部片である。

遺構の時期は鎌倉時代と考えられる。　（内藤）



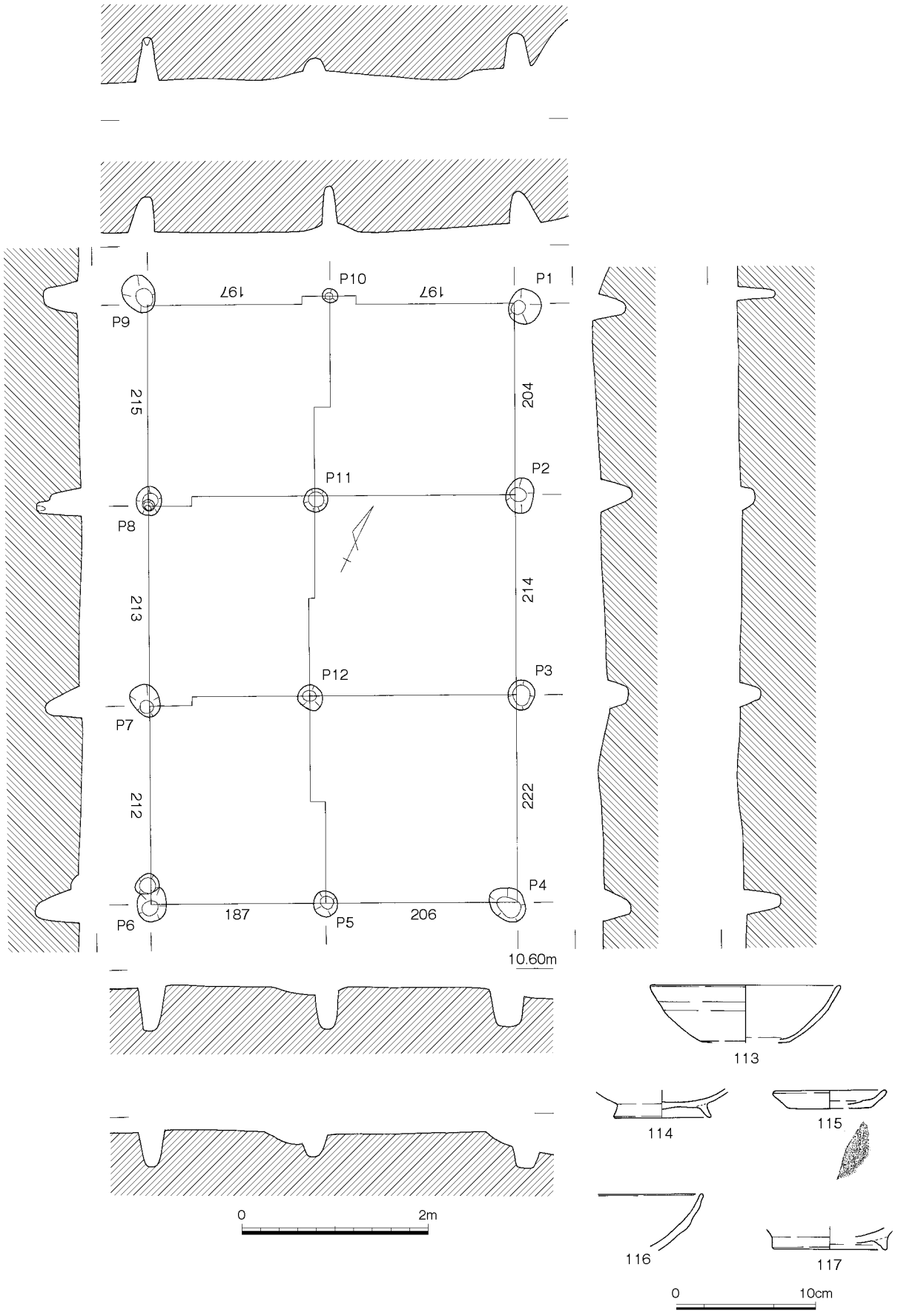
第26図　建物５（1/60）・出土遺物（1/4）

建物６（第27図）

調査区西部の南側で、溝11と12の肩部と切り合って検出された建物である。桁行640㎝・梁間390㎝を測る３×２間の規模の総柱建物で、棟方向は、N－26°－Wである。柱間は、桁行が204～222㎝、梁間が187～206㎝で桁行側がやや長い。柱穴は直径30～35㎝前後の円形の平面形で、深さ40～50㎝を測る。Ｐ８で柱根が遺存していたことなどから、直径10㎝前後の柱が使用されていたと想定される。

113はＰ５から出土した土師器の杯、114はＰ１から出土した黒色土器椀の高台部片、115はＰ３から出土した土師器の小皿である。また、116はＰ９から117はＰ２から出土した土師器の椀であるがいずれも細片である。

時期は、鎌倉時代頃である。　（内藤）



第27図　建物６（1/60）・出土遺物（1/4）

２　柱穴列

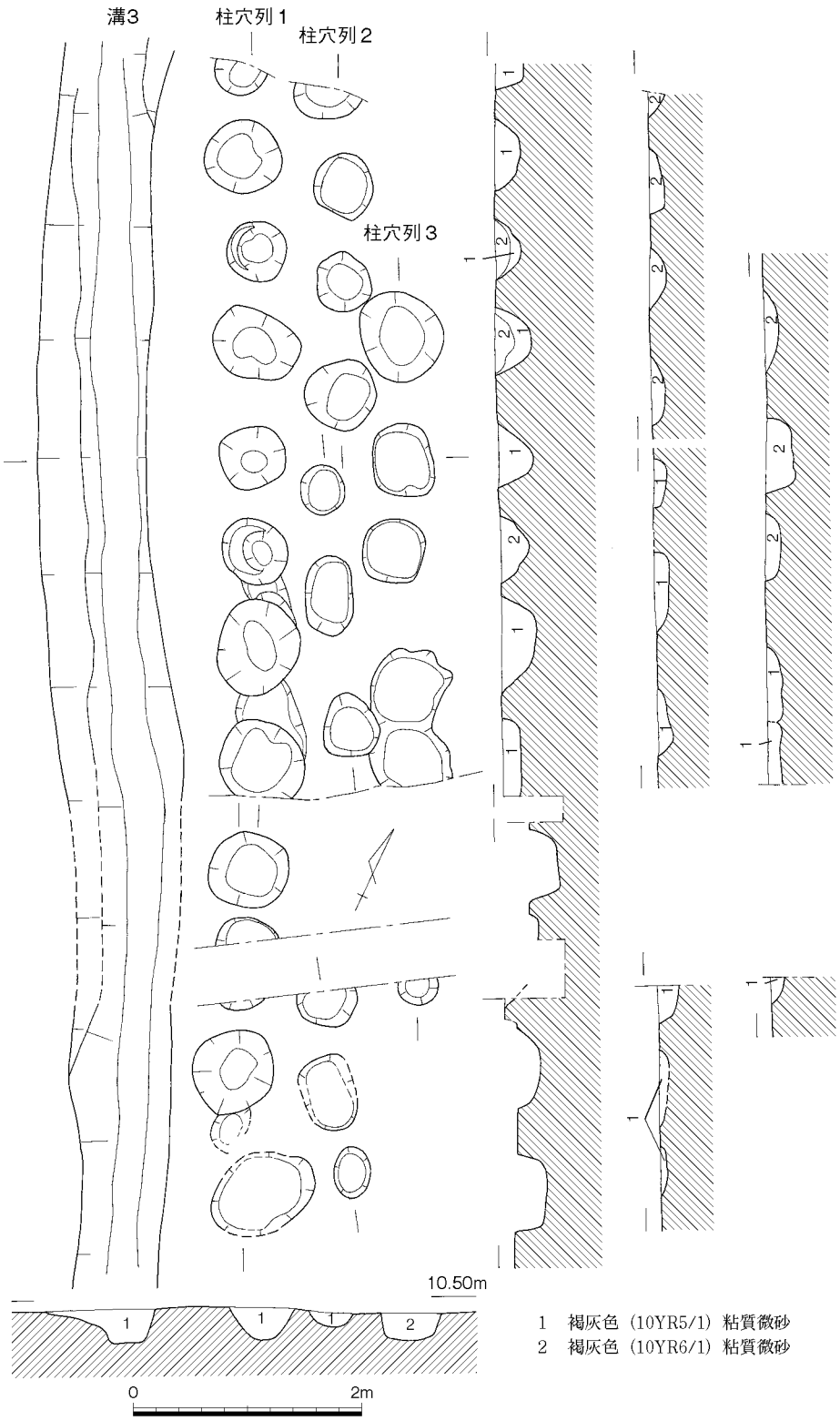
柱穴列１～３（第28・29図、図版４－1）

調査区の東側で検出された柱穴列である。柱痕跡が確認できなかったが、ここでは柱穴列として報告する。径40～70cm程度の円形の柱穴が、南北方向に連なる構造で、溝３に沿っている。柱穴列はそれぞれ近接しているが、これらが一体の構造となるのか、また時期差があるのかについては明らかにできなかった。

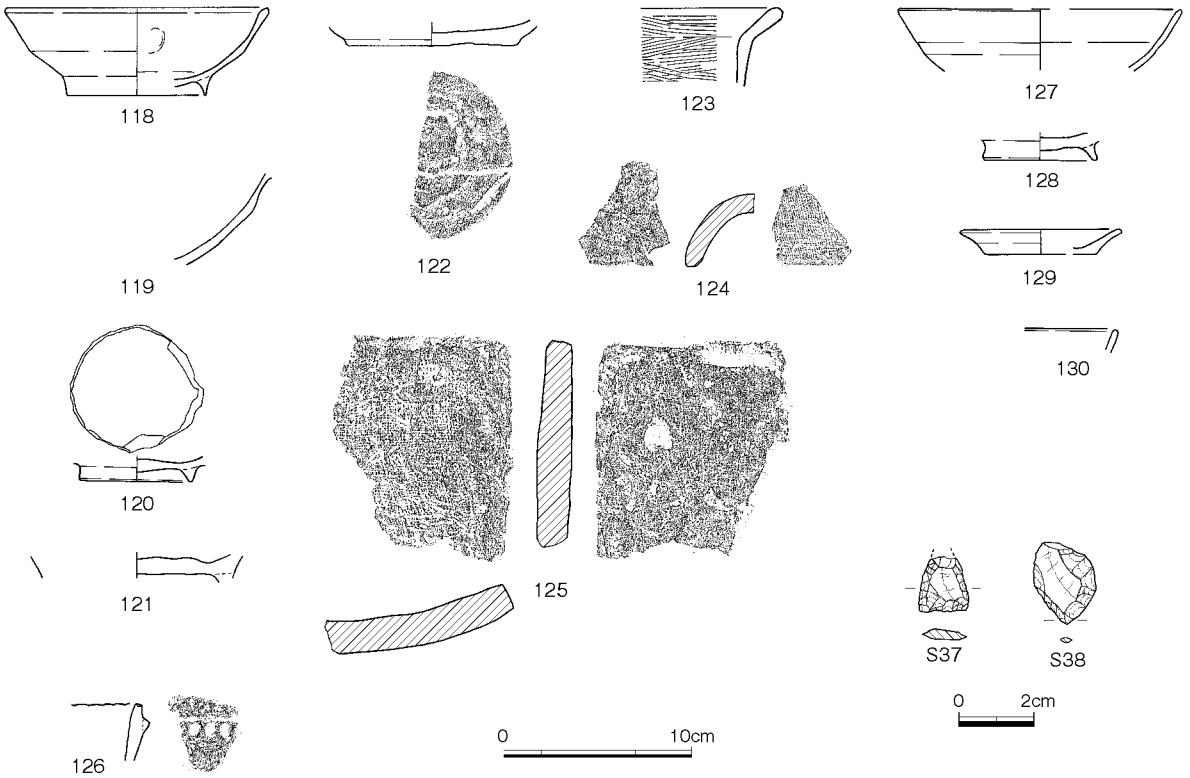
各列の柱穴の間隔は、掘り方芯心間で80～100cmを測り、およそ半間を基準としている可能性が高い。柱穴の深さは、柱穴列１が20～30cm、柱穴列２・３では10～20cmである。この差については、構築時における地表面の高さの違いによるものと推測している。

最も残りの良い柱穴列１の方向は、およそN－25°－Wである。

柱穴列１の埋土からは、土師器の高台付椀**128・130**と小皿**129**、柱穴列３の埋土からは、土師器の高台付椀**127**が出土している。これらの遺物から、遺構の時期は、鎌倉時代と考えられる。（柴田）

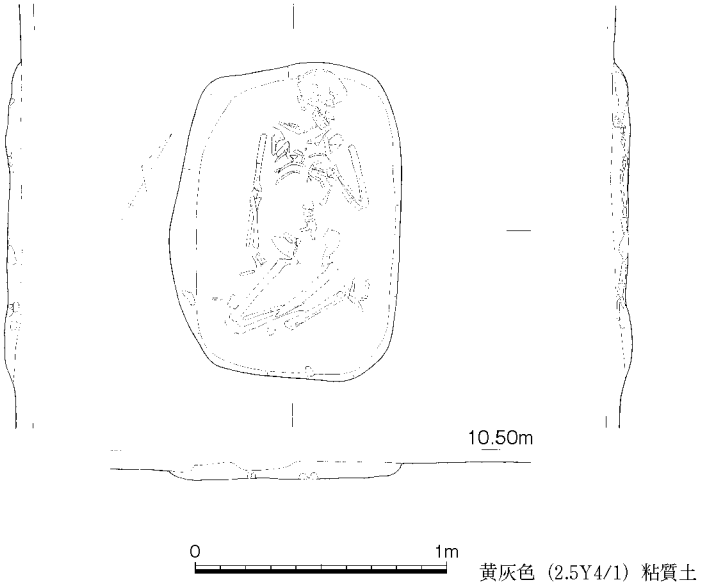


第28図　柱穴列１～３・溝３（1/60）



第29図　柱穴列１～３・溝３出土遺物（1/4・1/2）

３　土壙墓



第30図　土壙墓１（1/30）

土壙墓１（第30図、図版４－３・4）

調査区の西部中央付近、建物４の中央部において検出された土壙墓である。規模は125×90㎝程の長方形の掘り方であるが、上面が著しく削平され、検出面から７㎝程が遺存していたのみで深さは不明である。

埋葬遺体は頭位を北西に置き、顔面は東に向けている。胴部はほぼ上向きで、脚部は折り曲げて西側に倒されている。遺骨も上面が削平されているが、鑑定により、10代後半の女性であることが明らかとなった。

副葬品等は認められず、時期は明らかでないが、建物が廃棄された後の中世後半期の埋葬と考えられる。（内藤）

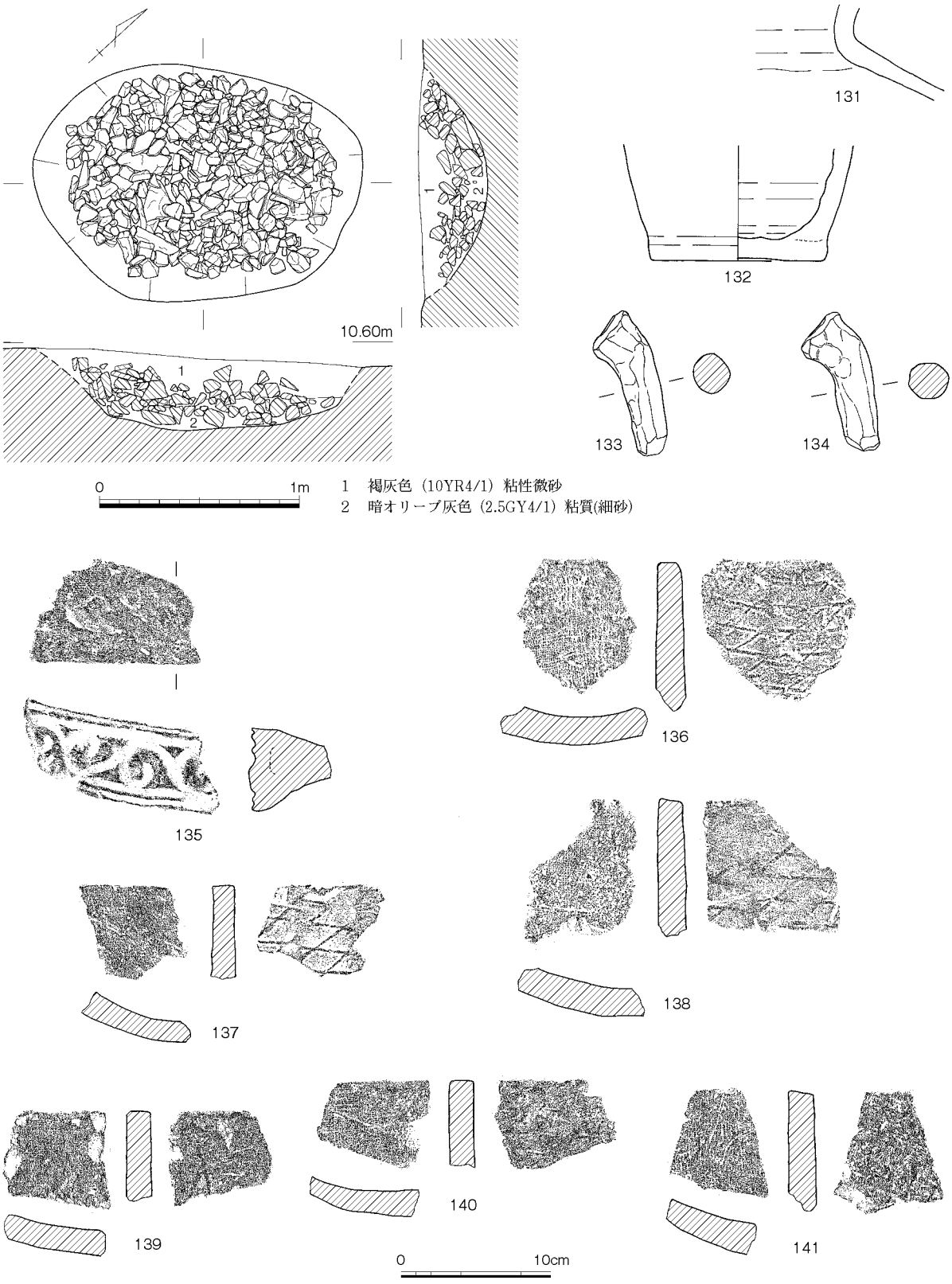
４　土壙

土壙３（第31図、図版５－１・２、10－２）

調査区の東端、建物１・２の東に位置する土壙である。掘り方平面形は楕円形で、長径163㎝、短

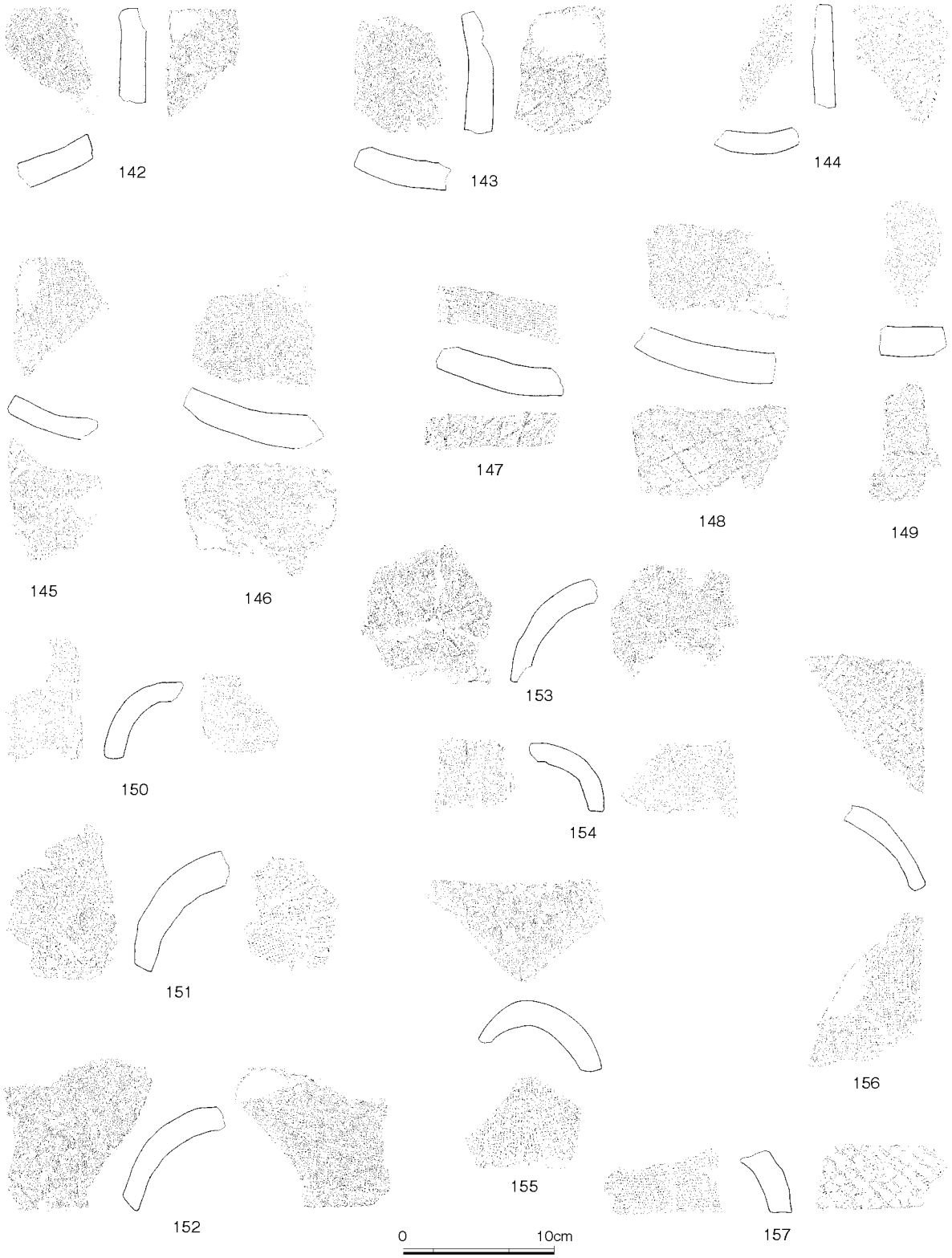
径117㎝を測る。断面形は皿状を呈し、検出面からの深さは40㎝を測る。土壙内には、多数の角礫や円礫が入っており、これらの中に土器片や瓦片が混じっている。

出土遺物は、須恵器の甕131・壺132、土師器鍋133・134、軒平瓦135、平瓦136～149、丸瓦150～



第31図　土壙３（1/30）・出土遺物①（1/4）

157を図示した。軒平瓦135の瓦当文は、退化した唐草文を陰刻したものである。凹面には布目が認められる。平瓦は凹面に布目、凸面に格子タタキが認められる。丸瓦の凹面は、すべてに布目が認められる。凸面については、153・155～157のように格子タタキが認められるものもある。156は玉縁式丸瓦である。瓦は平安後期のものが多いが、遺構の時期は鎌倉時代と考えられる。　（柴田）



第32図　土壙３出土遺物②（1/4）

土壙４（第33、図版５－３）

調査区の東端、土壙３の南に位置する土壙である。掘り方平面形は径66㎝の円形で、検出面からの深さは19㎝を測る。断面形は皿状を呈し、土壙内には角礫が認められる。土壙５とともに、礎石の基礎部分の可能性も考えられる。時期を特定できる遺物は認められなかったが、遺構の時期は、古代末～中世と考えられる。　（柴田）

土壙５（第33図）

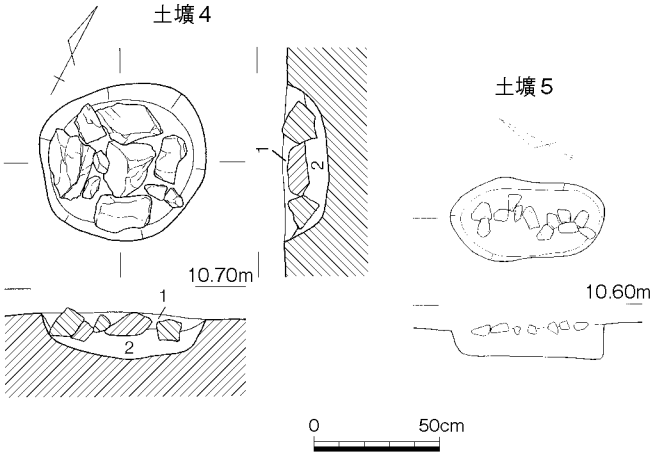
調査区の東端、土壙３の南に隣接する土壙である。掘り方平面形は楕円形で、長径61㎝、短径30㎝を測る。検出面からの深さは10㎝を測り、底面は平坦である。土壙内には小さな円礫が認められる。土壙４とともに、礎石の基礎部分の可能性も考えられる。時期を特定できる遺物は認められなかったが、遺構の時期は、古代末～中世と考えられる。　（柴田）

土壙６（第34図、図版５－４）

調査区の東端、土壙３の南に位置する土壙である。掘り方平面形は楕円形で、底面は平坦である。長径100㎝、短径73㎝を測る。１層出土の土師器椀158から、遺構の時期は、南北朝期と考えられる。　（柴田）

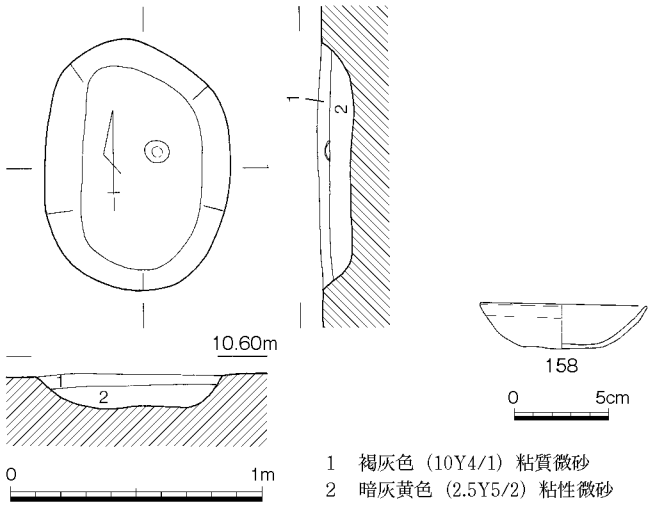
土壙７（第35図）

調査区の東側、柱穴列３の東に近接する土壙である。掘り方平面形は不整形で長さ218㎝、幅62㎝を測る。検出面からの深さは８㎝で、底面には凹凸が認められる。時期を特定できる遺物は認められなかったが、遺構の時期は古代末～中世と考えられる。　（柴田）



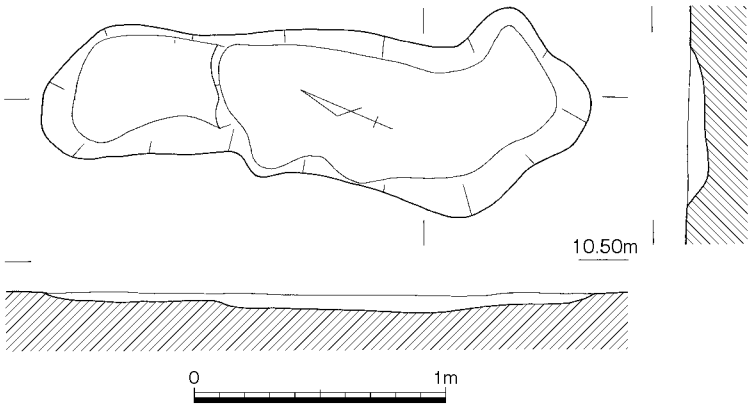
1　褐灰色（10Y4/1）粘質微砂　　灰黄褐色（10YR5/2）粘質土
2　灰色（5Y5/1）粘質土（マンガン・砂含）

第33図　土壙４・５（1/30）



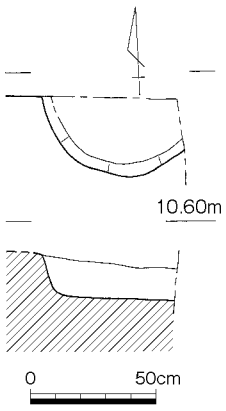
1　褐灰色（10Y4/1）粘質微砂
2　暗灰黄色（2.5Y5/2）粘性微砂

第34図　土壙６（1/30）・出土遺物（1/4）



褐灰色（10Y4/1）粘性微砂

第35図　土壙７（1/30）



第36図　土壙８（1/30）

土壙８（第36図）

西部北端で検出された遺構で、北側の一部は検出できなかった。平面は直径70cm程のほぼ円形で、壁面が垂直近くに落ち深さ20cm程を測る土壙で、底面は平坦である。埋土は、１層で、遺物は少なく細片である。遺構の性格等は不明である。時期は鎌倉時代頃と考えられる。　（内藤）

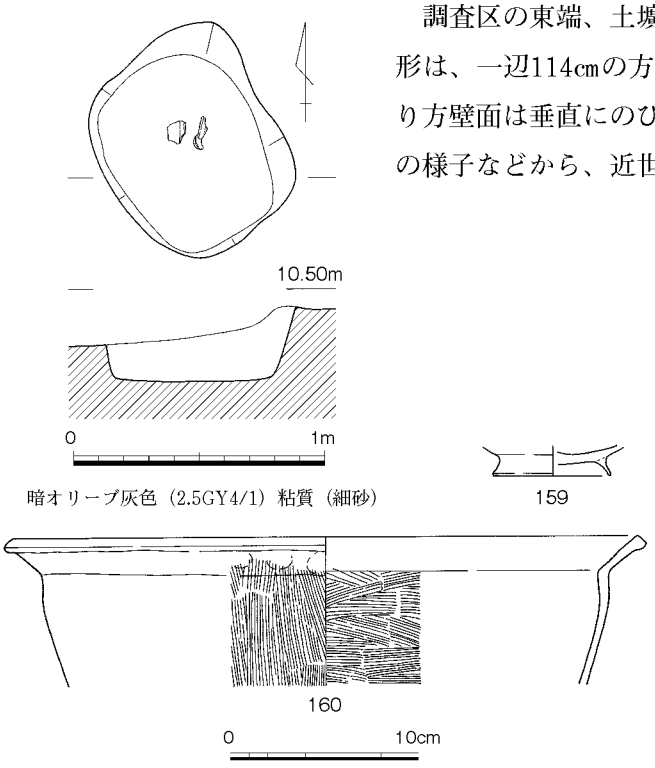
土壙９（第37図）

西部北側、建物５の西側で検出された土壙で、平面は80×60cm程のやや歪んだ長方形である。壁面は垂直近くに落ち深さ30cm程を測る。底面は平坦で埋土は１層。159の土師器の椀や160の土鍋などの土器片が出土している。遺構の性格等は不明なものである。

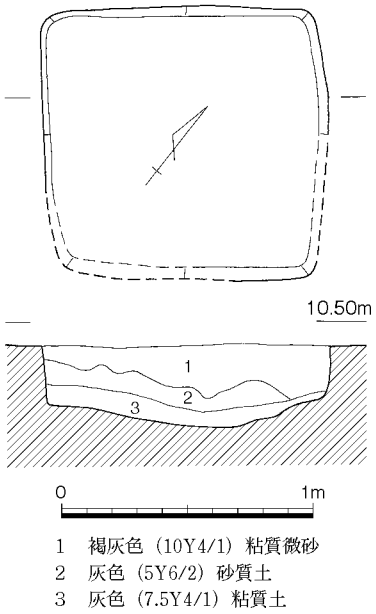
時期は、鎌倉時代と考えられる。　（内藤）

土壙10（第38図）

調査区の東端、土壙３の北に近接する土壙である。掘り方平面形は、一辺114cmの方形で、検出面からの深さは32cmを測る。掘り方壁面は垂直にのびる。出土遺物は認められなかったが、埋土の様子などから、近世以降のものと考えられる。　（柴田）



第37図　土壙９（1/30）・出土遺物（1/4）



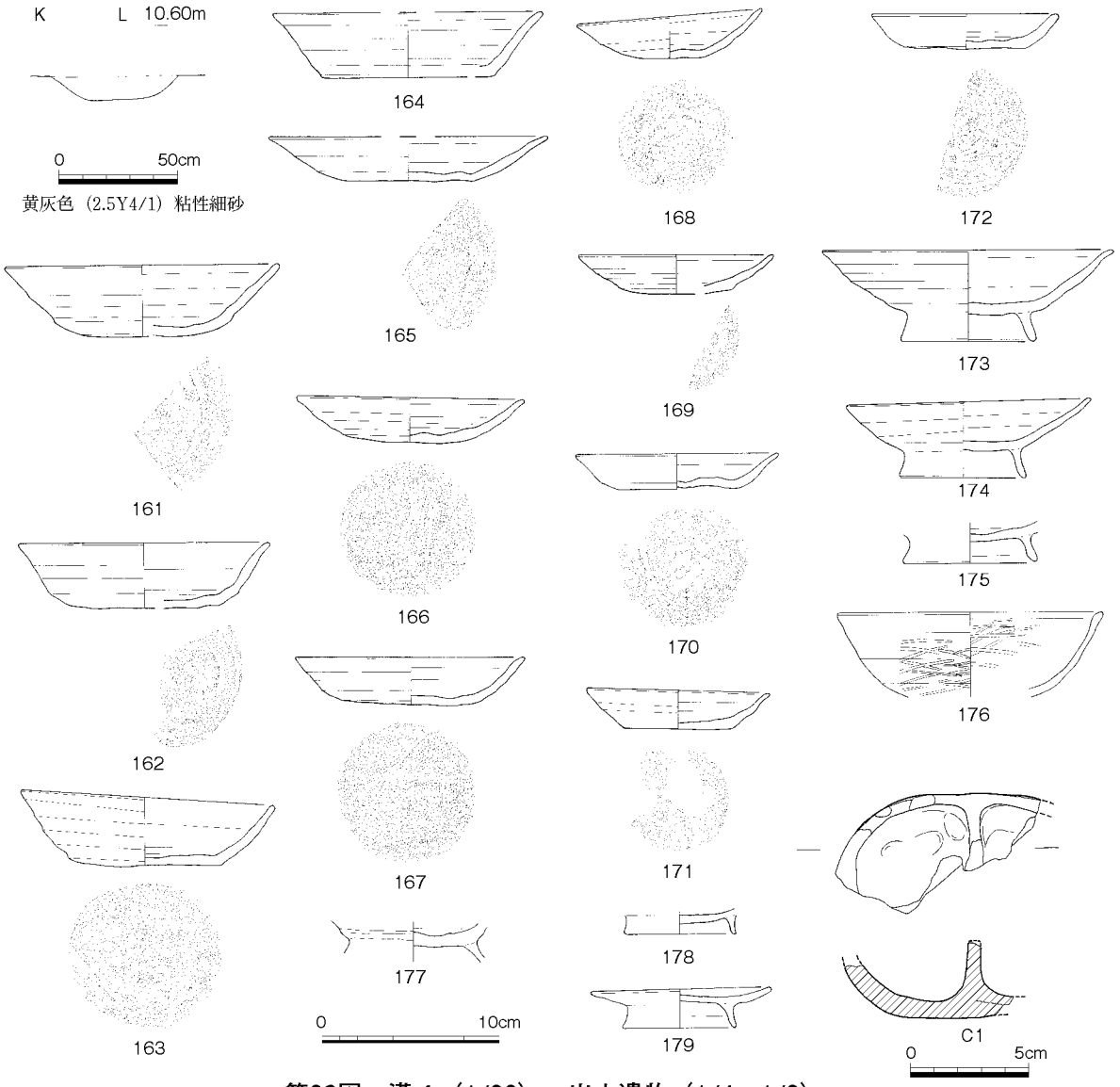
第38図　土壙10（1/30）

５　溝

溝３（第28・29図、図版４－1・２、10－２）

調査区の東側で検出された、南北方向にのびる溝である。掘り方は西側が二段になっており、幅は、上段で約100cm、下段で約60cmを測る。溝中心部の断面形は箱形を呈し、検出面からの深さは30cmを測る。柱穴列との関連や時期差などは明らかでない。

堆積土からは、土師器高台付椀118～121、皿122、鍋123、丸瓦124、平瓦125、種子などが出土している。これらから、遺構の時期は鎌倉時代と考えられる。　（柴田）

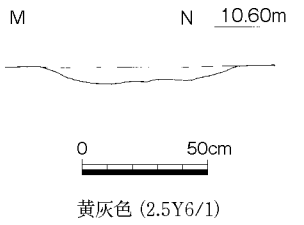


第39図　溝４（1/30）・出土遺物（1/4・1/3）

溝４（第39図、図版６－１、10－１）

西部において検出された、北北西から南南東に条里の地割り方向に沿って直線的に流走している溝である。検出面では幅60～70cm・深さ10cm程を測るのみであるが、上面はかなり削平されているものと考えられる。埋土は黄灰色粘性細砂が１層であるが、埋土中からはほぼ完形のものを含み、土師器の杯を中心に多くの土器（161～179）が出土しているほか、須恵質の二面硯Ｃ１も出土している。176は器面が暗文風にヘラミガキされている黒色土器の椀である。

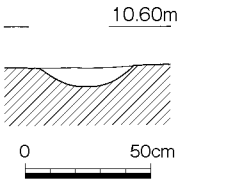
時期は出土遺物などから11世紀頃と考えられる。　（内藤）



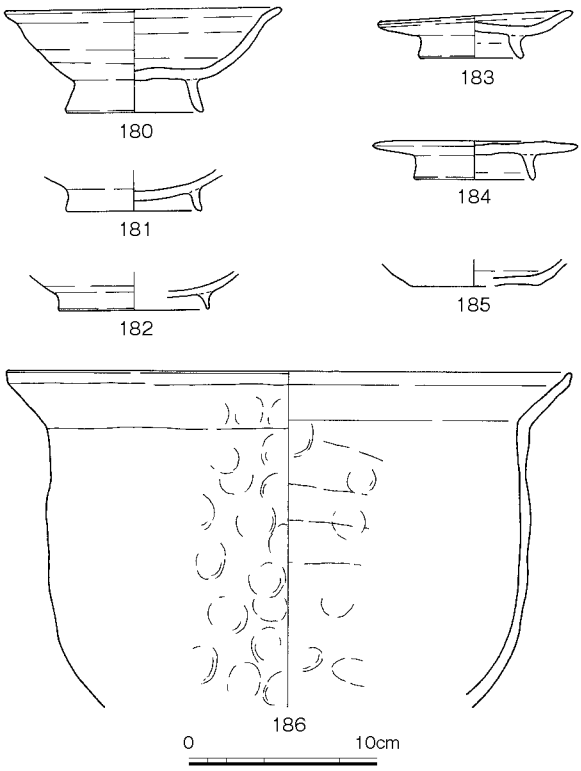
第40図　溝５（1/30）

溝５（第40図）

西部北側で検出された、東北東から西南西に流走する溝である。概ね条里の東西方向ではあるが、少し南に振って流走している。断面は皿状を呈するが底面は少し凹凸が認められる。幅70cm・深さ６cm程を測り、



第41図　溝６（1/30）



第42図　溝６出土遺物（1/4）

黄灰色土で埋まっている。遺物は細片で図示できるものはない。時期は、検出状況などから古代末から中世前半頃と考えられる。（内藤）

溝６（第41・42図、図版６－１、10－１）

調査区西部の溝11と溝12の交点の北西でほぼ直角に屈曲して東西方向と南北方向に流れる溝である。上面が削平されているものか、検出された皿状の断面の規模は、幅40cm、深さ10cm程にすぎない。条里の地割りに沿った方向の溝ではあるが、少し歪みをもって流走し、底の高さも一定ではない。屋敷地等を囲む溝の可能性も考えられる。

暗オリーブ褐色微砂の埋土中からは、180～182の高台付杯や高台付皿183・184、鍋186等の土師器をはじめ比較的多くの土器片が出土している。溝４および溝７・８は切っているが、他の溝や建物６の柱穴には切られており、平安時代後期の遺構と考えられる。（内藤）

溝７・８（第43図）

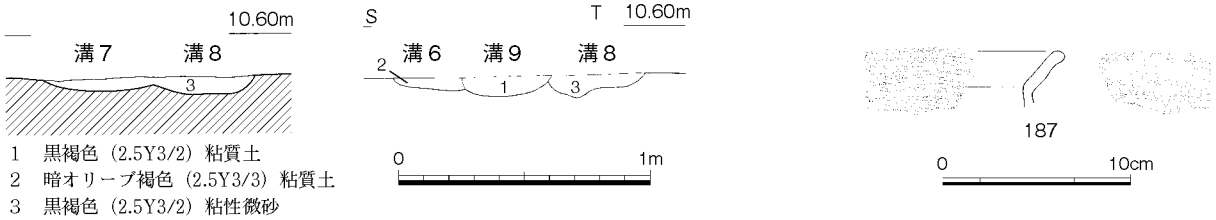
調査区西部中央で検出された、東から西に向かい並んで流れている溝で、溝７が北側を流れている。断面は皿状を呈し、規模は、溝７が幅40cm、深さ６cm、溝８が幅40cm、深さ12cm程を測り、溝８が一段低い。埋土はとに黒褐色微砂で、切り合い関係は明らかでない。

溝８の埋土中から土師器鍋の口縁部片187が出土している。時期は、検出状況などからもいずれも平安時代後期と考えられる。（内藤）

溝９（第43図）

調査区西部中央、溝８の上面で検出された東西方向に流走する溝であるが、上面が削平されているものか、10ｍ程が検出できたのみである。断面は皿状を呈し、幅38cm、深さ12cm程を測る。

時期は鎌倉時代と考えられるが、溝６～８を切って検出されている。（内藤）



第43図　溝６～９（1/30）・溝８出土遺物（1/4）

溝10（第44図、図版９）

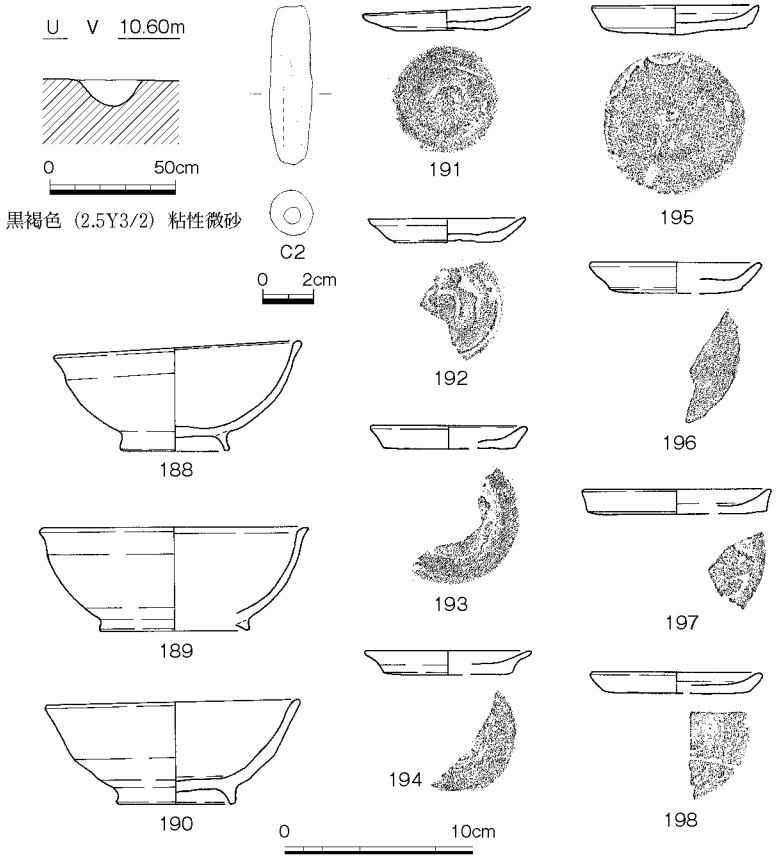
調査区西南部において検出された東から西に流走する溝である。西端近くの断面は鈍い「V」字形を呈し、幅28cm、深さ13cm程を測る。東部は上面が削平され次第に浅くなっている。

すぐ北側の溝11等とほぼ平行して流れている溝で、黒褐色微砂の埋土中からは口径12.5～14.0cmを測る高台付土師椀188～190や土師皿191～198等の土器の他、土錘Ｃ２が出土している。

時期は、出土遺物などから鎌倉時代と考えられる。　　（内藤）

溝11（第45図、図版６－４・９）

調査区西部において、交差する溝４を切って検出された東西方向の溝であるが、南北方向に流れる溝12にぶつかり、南へほぼ直角に折れ曲がり一緒に流走している。断面は「U」字形を呈する少し深い溝で、規模は幅55cm、深さ45cm程を測る。埋土は、上下２層あり、上層は暗灰黄色微砂、下層は黒褐色微砂である。埋土中から、口径15.0cmを測る高台付土師椀**199**のほか、高台付杯**200・201**、小皿**202・203**、鍋**204**等の土師器が出土している。また、これらの土器とともにウシの上顎の一部が出土している。



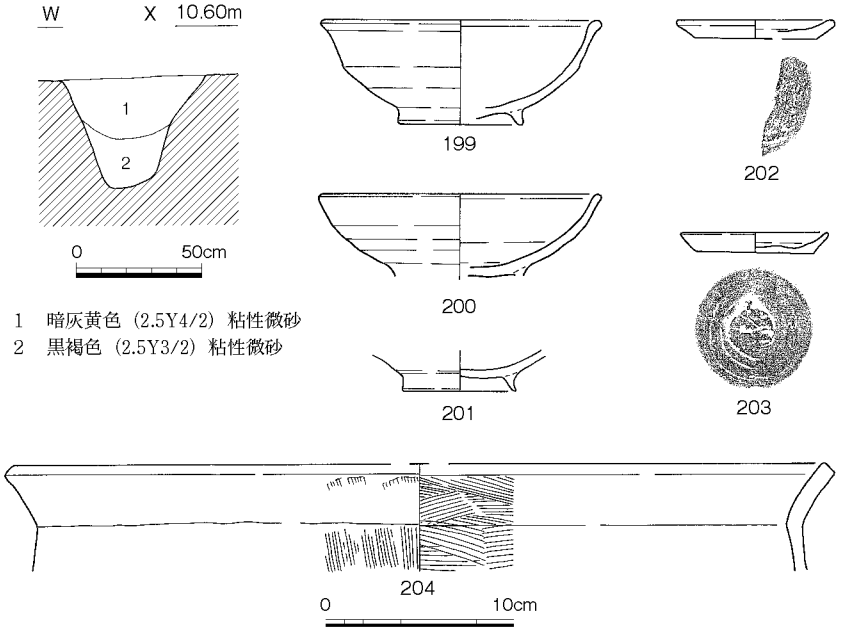
第44図　溝10（1/30）・出土遺物（1/4・1/3）

ほぼ、条里の地割りに沿った方向の溝であるが、底の高さは一定でなく、屋敷地を囲む溝の可能性も考えられる。

時期は、鎌倉時代と考えられる。　　（内藤）

溝12（第46図、図版６－１・２、９）

調査区西部において検出された南北方向の溝の中でも比較的規模の大きな溝である。流走方向は、東側の溝17・23とほぼ平行し、北北西から南南西である。東側肩部は、溝17により切られている。また、南半部で溝６を切っている。



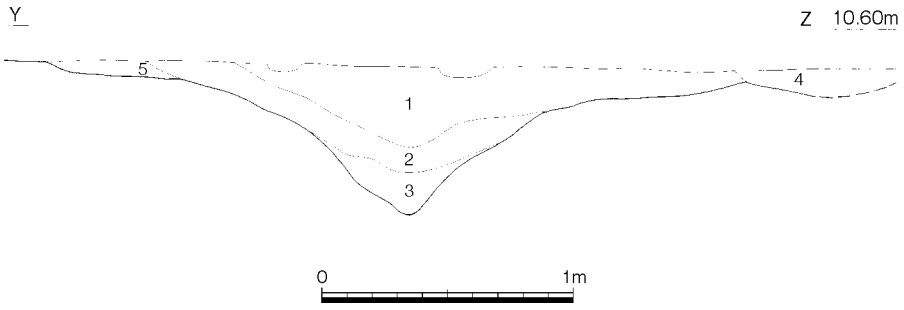
第45図　溝11（1/30）・出土遺物（1/4）

溝の断面は、下層では「V」字状を呈するが、肩口は段掘され、皿状である。規模は、幅280cm、深さ65cm程を測る。

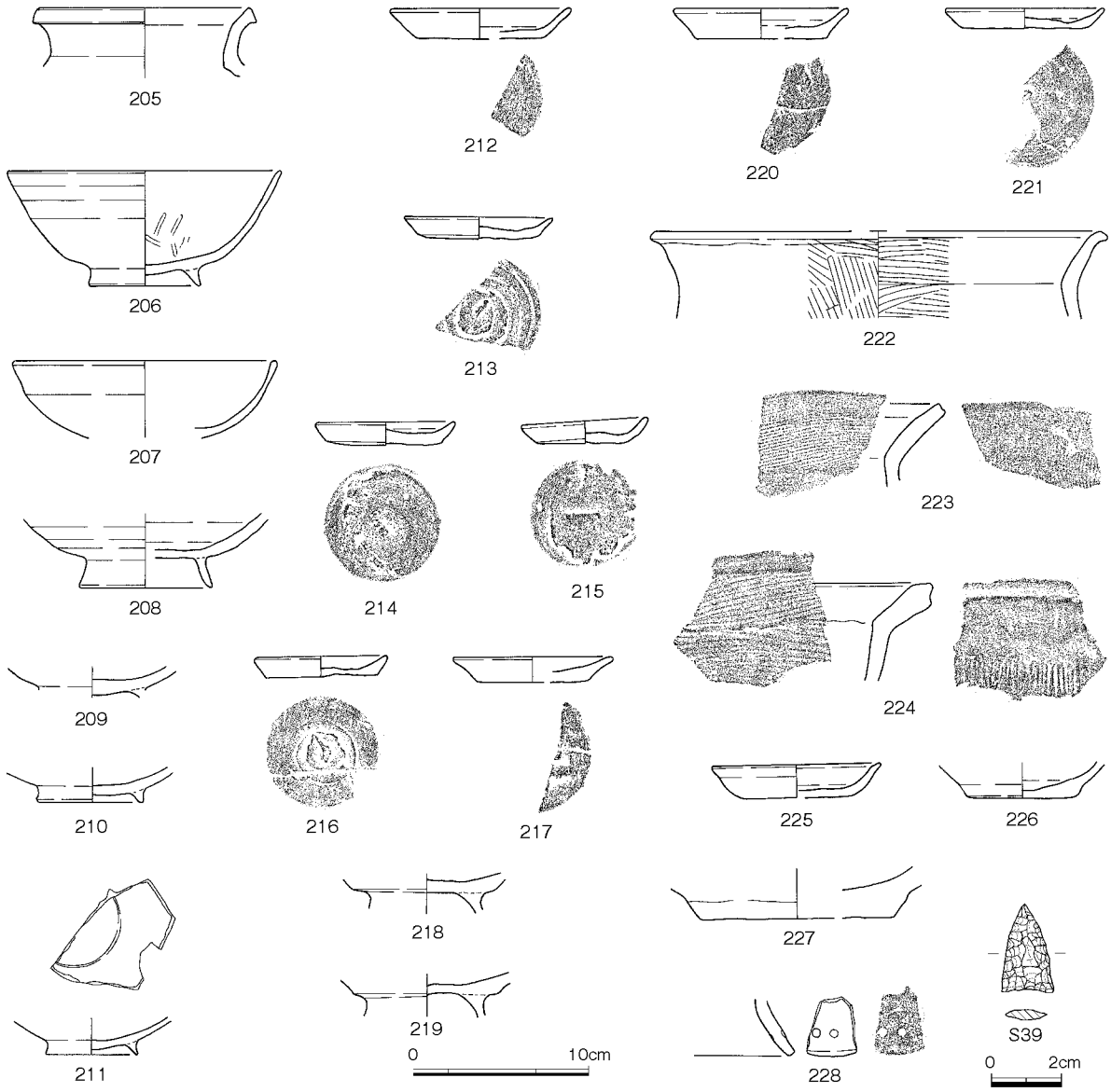
埋土は、下層に黄灰色粘質土が、中層に黒褐色粘質土が、上層に暗灰黄色微砂が堆積している。出

土遺物としては、口径15.5㎝を測る高台付土師椀206をはじめ、207・208・210・211の椀や皿212～217・220・221、高台付杯218・219、鍋223・224などの土師器のほか、黒色土器209や細片ながら須恵器205や弥生土器228もある。S39は弥生の石鏃である。遺構の時期は、鎌倉時代と考えられる。

（内藤）



1　暗灰黄色（2.5Y4/2）弱粘質微砂
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土
3　オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘性微砂
4　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）粘質土



第46図　溝12（1/30）・出土遺物（1/4・1/2）

溝13（第47図、図版９）

中央部の北側で検出された東北東－西南西の地割り方向に沿って流走する溝で、規模は幅120cm・深さ19cm程を測る。埋土は、上層に褐灰色粘性微砂が下層に灰黄褐色粘性微砂が堆積している。埋土中から**229**の黒色土器や、**230**～**232**の土師器の椀・杯・皿などが出土している。時期は、出土遺物などから鎌倉時代と考えられる。（内藤）

溝14（第48図）

中央部において、溝13の南東側をほぼ平行して流走する溝である。幅120cm・深さ12cm前後を測る規模で、埋土は、溝13とほぼ同様の褐灰色と灰黄褐色の粘質土が２層である。埋土中から**233**～**236**の土師器の杯や皿など土器の細片が出土している。**234**はいわゆる早島式土器の椀である。時期は、出土遺物や検出状況などから鎌倉時代頃と考えられる。溝13と溝14は同様の溝で、地割りに沿った方向で平行しており、幅６ｍ程の道路の側溝と考えられる。（内藤）

溝15（第48図、図版７－1）

中央部で検出された東北東－西南西の地割り方向に沿って流走する溝で、同方向に流走する下層の溝14の埋土を切っている。上面は削平されたものか、切れ切れに10ｍ程が確認された。規模は幅40cm前後・深さ10cm程で、褐灰色粘質土で埋まっている。

時期を決定できる遺物はないが、検出状況などから中世後半頃と考えられる。（内藤）

溝16（第49図、図版７－1）

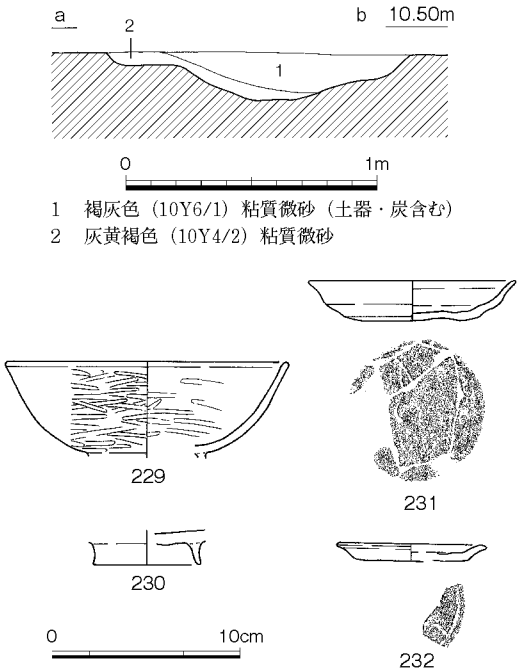
中央部において、溝15の南東側をほぼ平行して流走する溝である。溝15同様上面は削平されたものか、幅15cm・深さ５cm程の規模で、切れ切れに10ｍ程が確認されたのみで、埋土も同様の褐灰色粘質土である。

埋土中から**237**・**238**など土師器の細片が出土している。検出状況などから中世後半頃と考えられる。

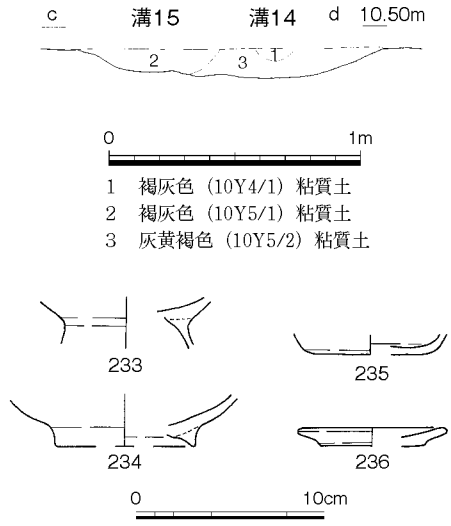
溝15と溝16は同様の溝が、幅180cm程の間隔で地割りに沿った方向で平行していることから、道路の側溝の可能性がある。（内藤）

溝17（第50図、図版９）

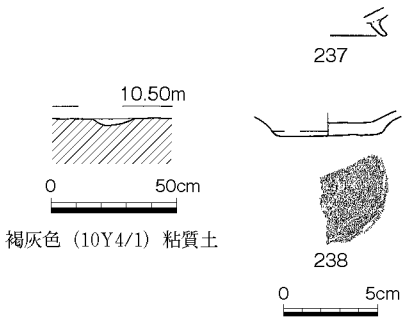
西部で検出された南北方向に流路をもつ溝で、ほぼ



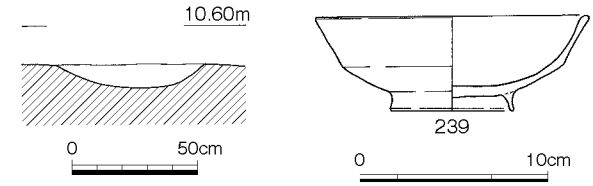
第47図　溝13（1/30）・出土遺物（1/4）



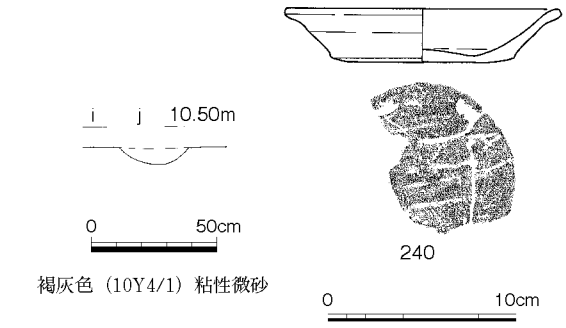
第48図　溝14・15（1/30）
・出土遺物（1/4）



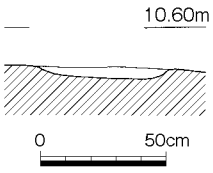
第49図　溝16（1/30）・出土遺物（1/4）



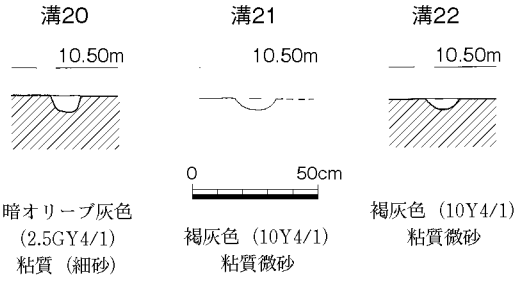
第50図　溝17（1/30）・出土遺物（1/4）



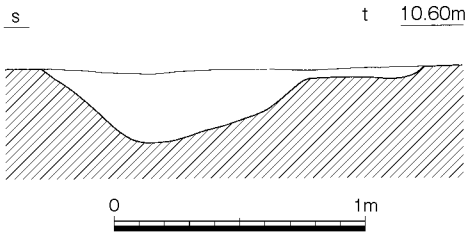
第51図　溝18（1/30）・出土遺物（1/4）



第52図　溝19（1/30）



第53図　溝20～22（1/30）



第54図　溝23（1/30）

平行して流走している溝12を切り、溝23に切られている。また、直行する溝13を切っている。上部が削平され、深さは10cm前後を測るのみであるが、幅は60～70cm以上である。遺存している断面は皿形で、オリーブ褐色粘性微砂で埋まっている。239は埋土中から出土した土師器の椀である。（内藤）

溝18（第51図、図版９）

調査区の北東端部においてT字状に検出された溝である。二つの遺構の切り合いとも考えられるが、遺構の一部が僅かに検出できたのみであるため詳細は不明である。

溝の断面は、皿状を呈し、幅30cm、深さ10cm程を測る。褐灰色微砂の埋土中から土師器の杯240が出土している。なお、東西溝の方向は、ほぼ条里の地割りに沿っており、検出面や底面の標高は若干異なるが溝14の一直線上に位置していることから同一遺構の可能性がある。

遺構の時期は、出土遺物などから鎌倉時代と考えられる。（内藤）

溝19（第52図）

調査区の西側南部、建物６の西側において検出された遺構で、幅51cm、深さ６cm程の浅い土壙状の溝が３ｍ程確認されたのみである。

出土遺物等はなく、遺構の性格も不明であるが、埋土や検出状況等から鎌倉時代頃の遺構と考えられる。（内藤）

溝20～22（第53図）

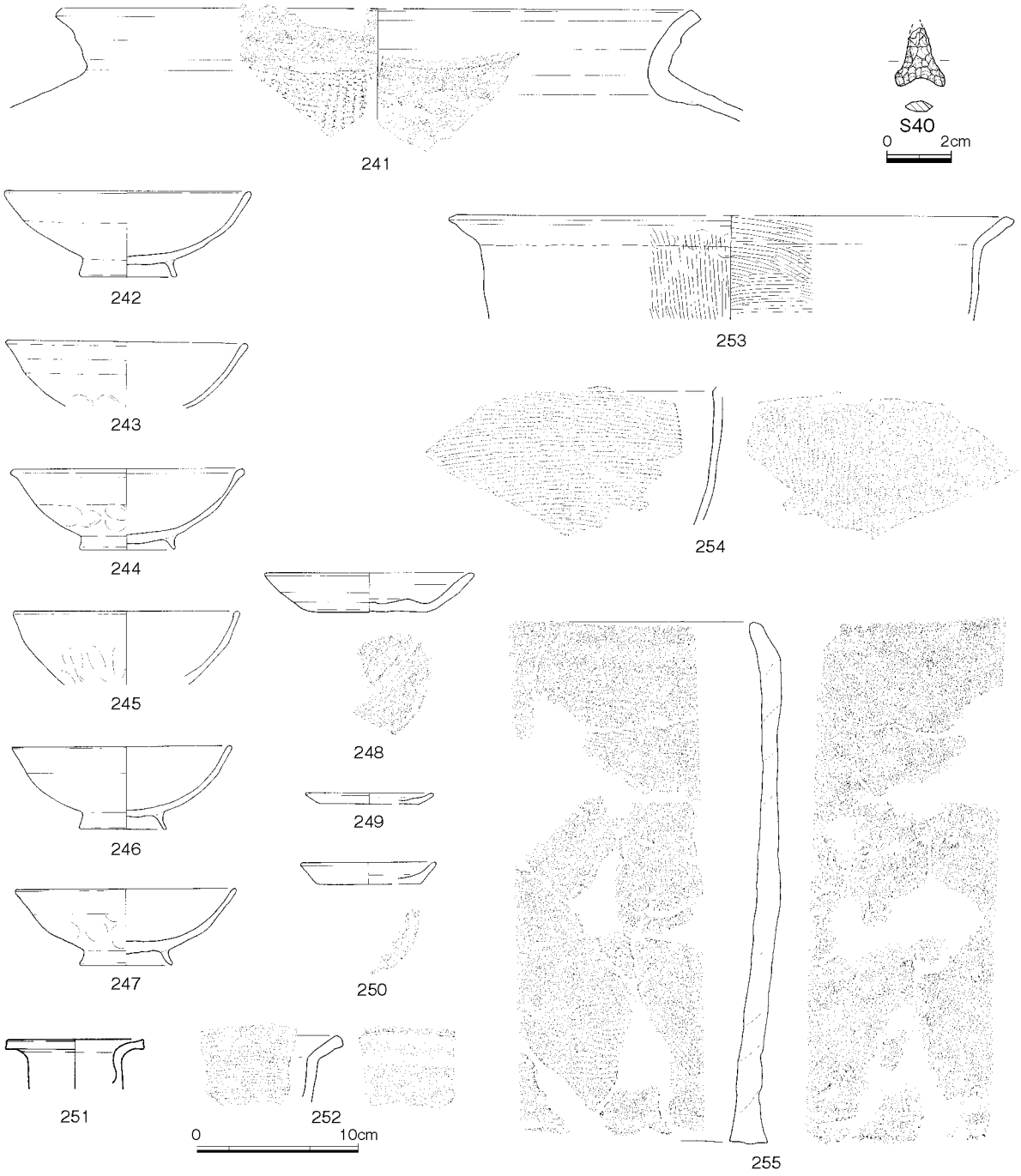
いずれも調査区の東側、柱穴列や建物１周辺で検出した土壙状の溝である。幅は溝20が10cm、溝21が15cm、溝22が13cmを測る。断面形は皿状を呈し、検出面からの深さは５～６cm程度である。時期を特定できる出土遺物はなかったが、古代末～中世と考えられる。（柴田）

溝23（第54・55図、図版６－３、９）

西部で南北方向に検出された溝群の中で最も東に位置している溝である。流走方向は、同方向の溝12・17とほぼ平行し、北北西から南南西

である。規模は、上部が削平していると考えられるものの、幅150㎝以上・深さ28㎝以上を測る。断面は、西側がやや低い逆台形で、東側肩部にはテラス状の段が認められる。埋土は暗灰黄色粘性微砂が１層で、底部付近を中心に土器片など多くの遺物が出土している。

241は須恵器甕の口縁部片、242～247は中世土師器の椀である。特に246はほぼ完形で出土している。248～250は土師器の杯もしくは小皿、251は器台、252～254は土鍋の破片である。255は竈の背面側のみの破片であるが、上から下まで高さが復元できたものである。S40は、埋土中に混入していたサヌカイト製の石鏃で風化がすすんでいる。時期は、室町時代と考えられる。　（内藤）



第55図　溝23出土遺物（1/4・1/2）

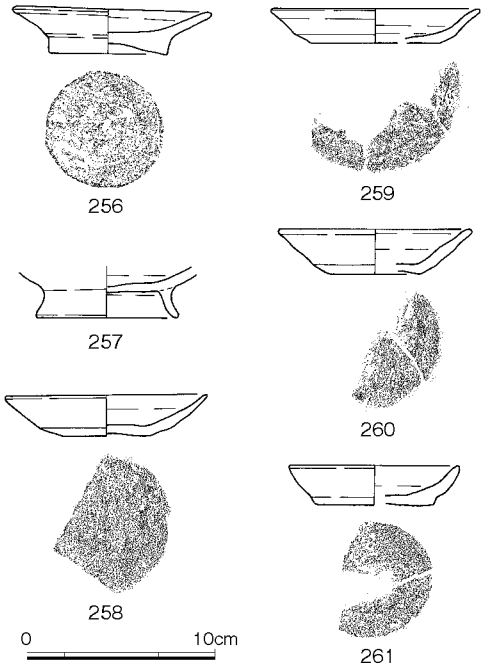
６　たわみ

たわみ１（第56図、図版９）

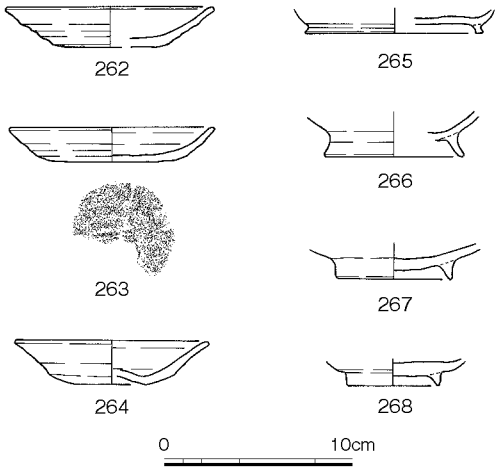
西南部の溝４と溝12の間で、溝12の肩部に切られている。明瞭な掘り方は認められないが、150×100㎝程の範囲にまとまって出土した。埋土は、黄灰色粘質土である。土師器の杯・椀・皿など鎌倉時代の土器である。　(内藤)

たわみ２（第57図、図版９）

中央部の旧河道上面に広く形成されている窪み状の遺構である。明瞭な掘り方などはなく、灰色粘質土の埋土中から262～268などの土器が出土している。265が須恵器の杯身である他は、いずれも土師器の杯・椀である。平安時代後半から鎌倉時代にかけての土器が混在している。　(内藤)



第56図　たわみ１出土遺物（1/4）



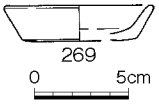
第57図　たわみ２出土遺物（1/4）

７　柱穴

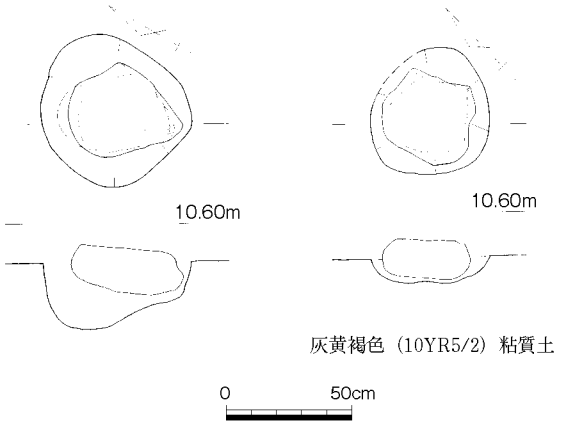
柱穴４（第58図、図版７－3）

調査区の東側、建物２のP ７上に位置する。この中の柱を抜き取った後に、40×30㎝の花崗岩を据え置いたものと考えられ、建物２のP ７と同一である。

石には、特に加工した痕跡は認められないが、厚さ18㎝で、上面のみ平坦である。石の下から土師器皿269が出土している。　(柴田)

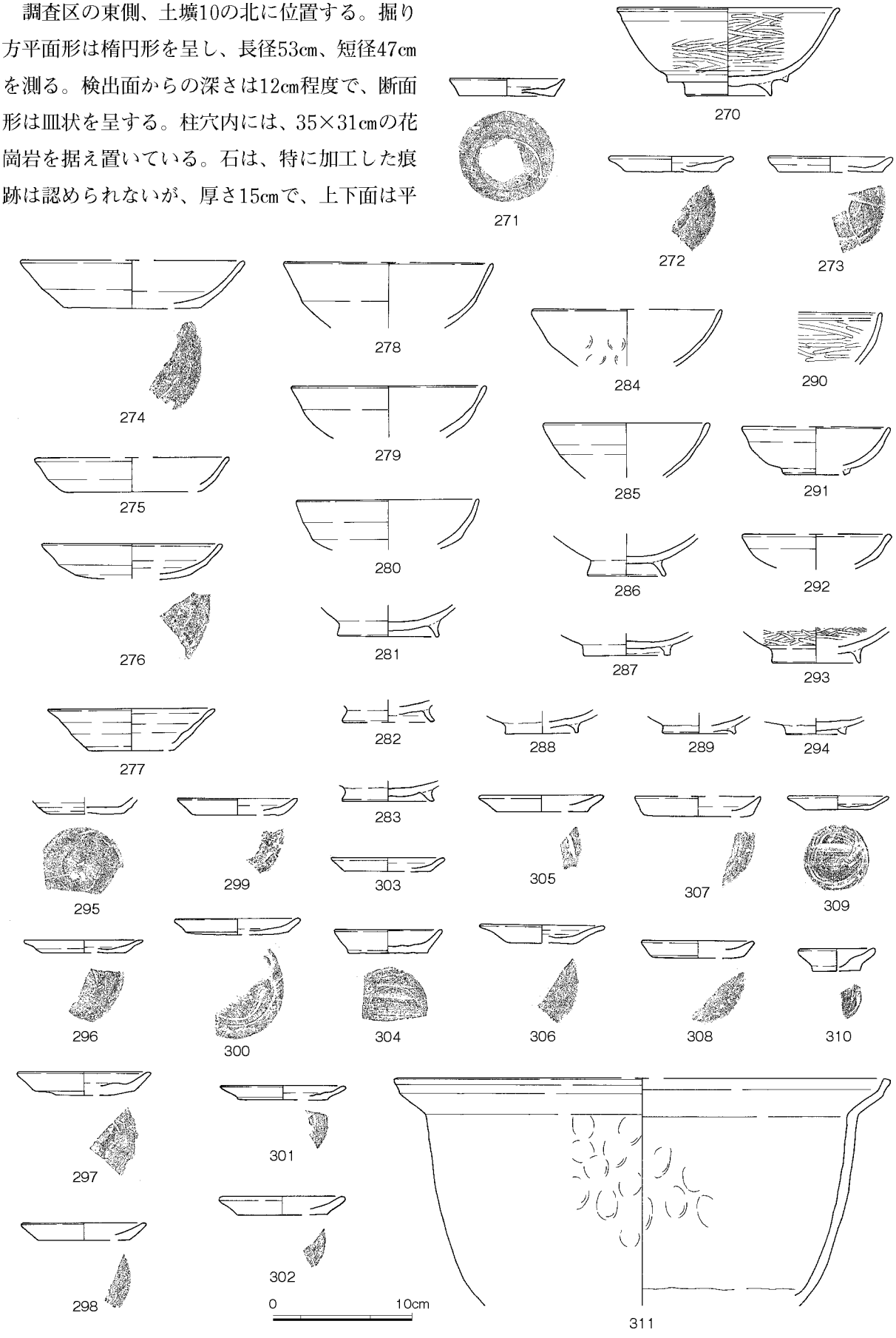


柱穴５（第59図、図版７－４）



第58図　柱穴４（1/30）・出土遺物（1/4）　第59図　柱穴５（1/30）

調査区の東側、土壙10の北に位置する。掘り方平面形は楕円形を呈し、長径53㎝、短径47㎝を測る。検出面からの深さは12㎝程度で、断面形は皿状を呈する。柱穴内には、35×31㎝の花崗岩を据え置いている。石は、特に加工した痕跡は認められないが、厚さ15㎝で、上下面は平



第60図　柱穴出土遺物（1/4）

坦である。時期の特定できる遺物は認められないが、遺構の時期は古代末～中世と考えられる。

（柴田）

その他の柱穴（第60図、図版９）

微高地の東西、溝３以東と溝12以西の多くの柱穴は、建物等の一部と考えられるが、具体的に明らかにできなかった。図示した遺物は、溝12以西で検出した柱穴からの出土である。

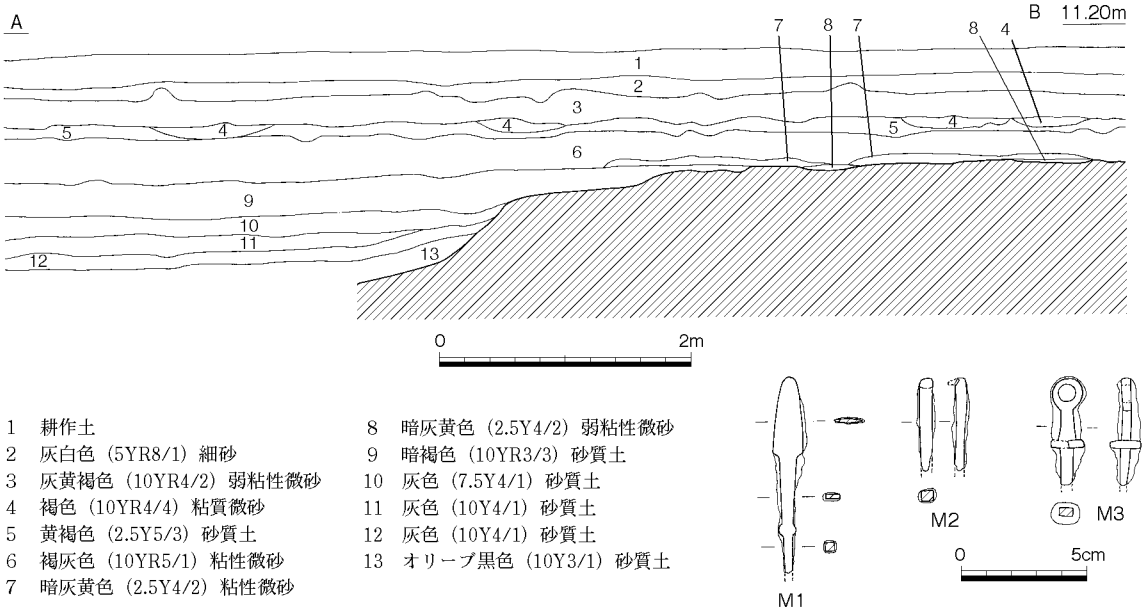
土師器の高台付椀の中には、特異な形態の270があり、小皿271～273と同じ柱穴から出土した。土師器では他に、皿274～276、杯277、小皿295～310、鍋311が出土した。黒色土器では、椀284・290がある。これらは、平安時代後期から鎌倉時代にかけての遺物である。（柴田）

８　下がり

下がり１（第61・62図、図版７－２、９）

微高地上の標高は約10.45ｍであるが、現在の用水路を挟んで西側では、既に10.1ｍと低くなっている。さらに西へおよそ４ｍの地点で、急激に低くなる。微高地の形成土は粘質土であるが、下がり１の堆積土９～13層は砂質土である。この地形は、現在の用水路に強く影響を認めることができる。

９層からは、須恵器312、土師器の高台付椀318・322・323・328、小皿333～336、鍋338、Ｍ１が出土し、この層は鎌倉時代の堆積層である。10～11層からは、須恵器340～343、土師器杯313・314、高台付皿316、高台付椀320・327、皿332、甕325・337・339、黒色土器椀315・317・319・324・326・329・331、緑釉陶器皿344、Ｍ２・３が出土し、この層は平安時代後期の堆積層である。（柴田）

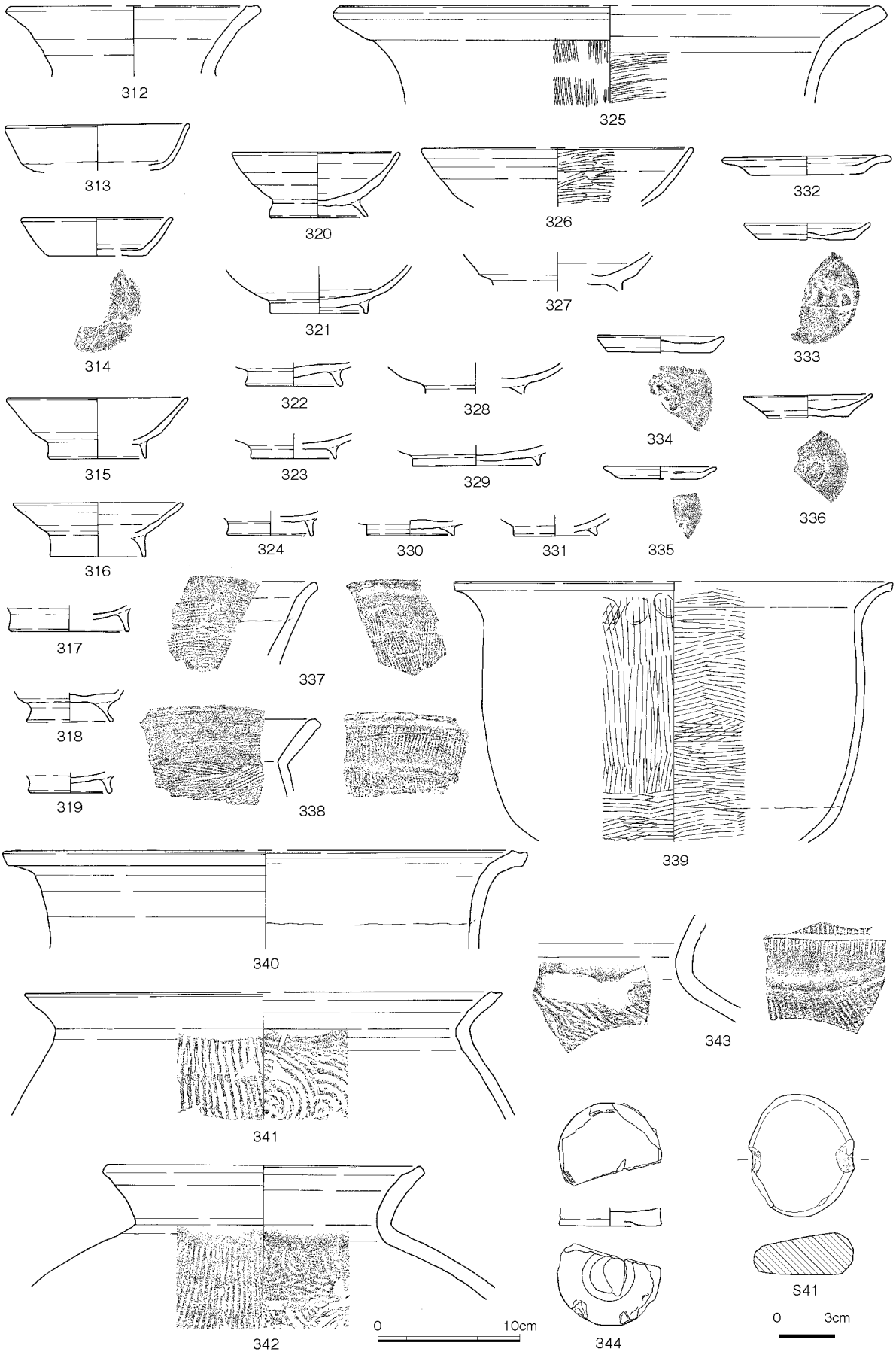


第61図　下がり１（1/60）・出土遺物①（1/3）

９　遺構に伴わない遺物（第63・64図、図版９、10－２）

古代から中世にかけての遺構は多く、そのためこの時期の遺物も多く出土している。

微高地の東側では、須恵器358、土師器高台付椀345・346・349～354、皿355・356、小皿357、器



第62図　下がり１出土遺物②（1/4・1/3）

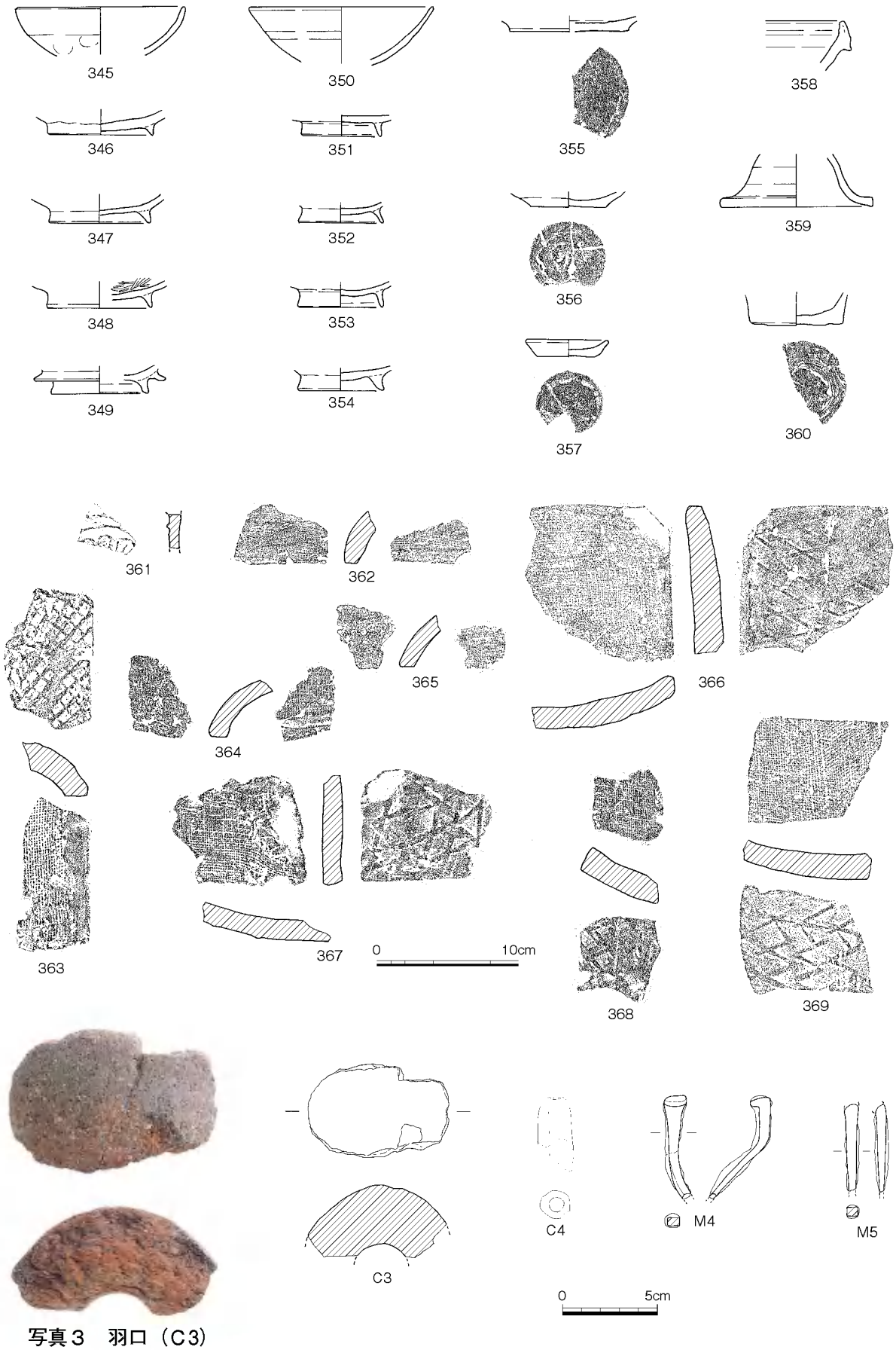
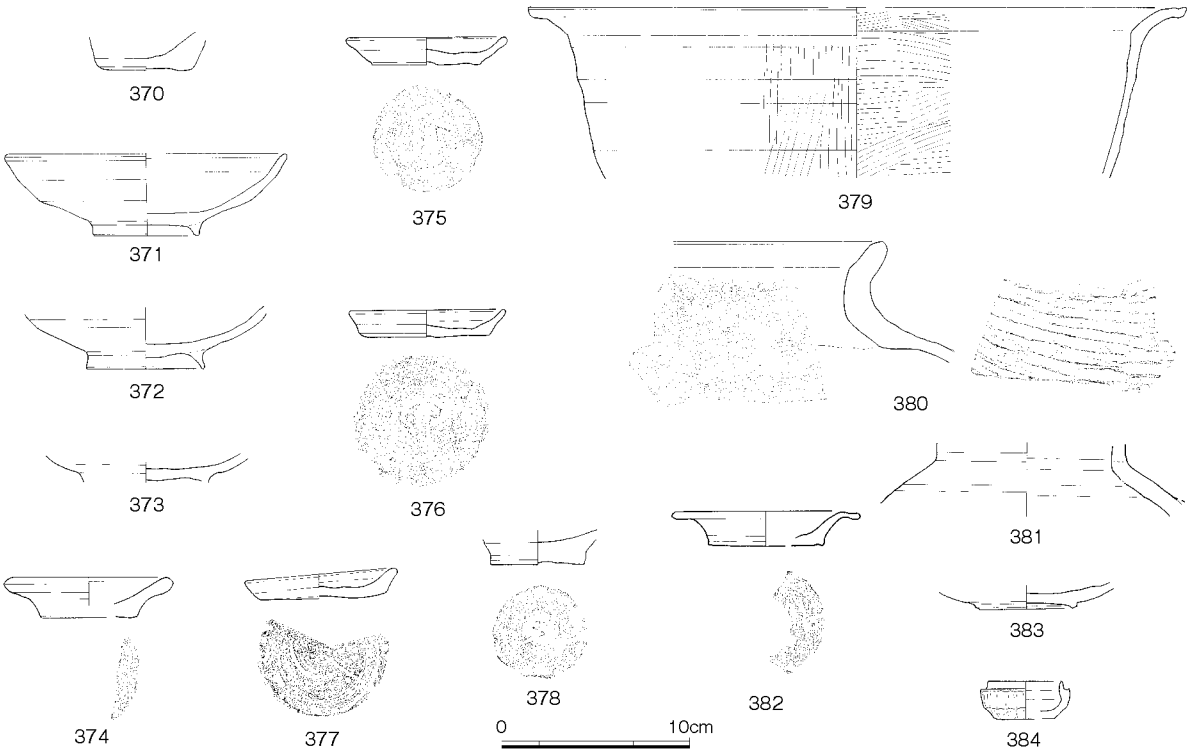


写真３　羽口（C3）

第63図　遺構に伴わない遺物①（1/4・1/3）

台359・360、黒色土器椀347・348、丸瓦362～365、平瓦366～369が出土している。

微高地の西側では、須恵器380、土師器高台付杯371～373、小皿374～378、器台382、甕379、青磁381、白磁383・384、軒丸瓦361、羽口Ｃ３、土錘Ｃ４が出土している。　（柴田）



第64図　遺構に伴わない遺物②（1/4）

第４節　小結

延寿寺跡は、倉ヶ市遺跡の一部であり、中心部でもある。今回の調査では、おもに縄文時代から鎌倉時代の遺構・遺物を確認できた。

縄文時代～弥生時代に関しては、河道１の検出が注目される。これにより、縄文後期から弥生前期にかけての微高地の形成過程がわずかながら明らかになった。そして、河岸斜面や底面からは、複数の地点で、弥生時代前期の土器等がまとまって出土した。この中でも、前期の土器とともに出土した石棒Ｓ２が特筆される。報告文で述べたように、弥生時代の遺構・遺物に伴う石棒としては、本例が岡山県内５例目で、門田貝塚例に類似する。

河道１は、古代までにほとんど埋没し、この東西に存在した微高地は、ひとつの微高地と化している。この微高地上で、主に平安時代後期から鎌倉時代の遺構が検出されたが、南北朝期を境として後の遺構は確認できなかった。室町時代には一帯が耕地化しているようである。しかし、この微高地の西側には、砂が卓越する低位部がひろがり、中世段階でも水田にはあまり適さない土地であったことが推測された。

平安時代後期の遺構では、建物５、溝４・６・10・11・13・14、下がり１を検出した。下がり１や包含層の遺物から判断すると、微高地西側の柱穴などはこの時期のものが存在する可能性が高い。特

に、溝４の二面硯Ｃ１や下がり１の緑釉陶器344などを重視すると、９世紀後半～11世紀代のなかで、寺院や荘園に関わる集落や施設等があった可能性もうかがえる。ここには、12世紀後葉にも遺構が存在するが、それまでの様子は明らかでない。なお、溝４が溝12・17・23などの前身と仮定すれば、現存条里が10世紀末～11世紀初頭までさかのぼることになり、重要な資料である。

この他の遺物としては少量であるが、軒丸瓦361や軒平瓦135、その他の丸瓦、平瓦が注目される。同文の軒丸瓦は、岡山市教育委員会の調査でも出土しており(1)、平安京の三条西殿や大極殿、尊勝寺、法勝寺などからも出土している。軒平瓦の瓦当文は陰刻の唐草文で、類例の確認ができないが、顎形態や備前市坊が谷窯跡出土例(2)などから、平安時代末期と考えられる。凸面に斜格子タタキを残す丸・平瓦は平安時代末期～鎌倉時代のものである。これらの瓦を重視すれば、平安時代後期に寺院の存在を認めることが可能であるが、他に寺院の性格を示す遺物は認められない。

鎌倉時代の遺構は、微高地上で東西に分かれて分布する。東側では、区画施設の可能性がある溝３と柱穴列１～３が注目される。柱穴列は、掘り方芯心間でおよそ半間間隔をもって柱穴が並ぶが、３列相互や溝３との時期的関係は確認できなかった。柱痕跡は認められなかったが、これに類似し、柱等が確認されている柱穴列は、広島県草戸千軒町遺跡(3)や神奈川県大倉御所東隣や南御門(4)で調査され、柵や板塀と考えられている。当遺跡の例は、それらと比べると小規模かつ簡素であるが、溝とともに寺院や屋敷地を区画する施設等の可能性があると考える(5)。

西側では、建物や溝、土壙墓が確認されている。土壙墓や柱穴等については、先述したように平安時代の遺構が含まれているかもしれない。溝12・17・23は、現存条里の南北方向に一致し、ほぼ同じ場所に何度も開削されていることから、坪境となる可能性が考えられる。土壙墓は屋敷墓と考えられ、方形の建物４あるいは５との関連が注意される。このような土壙墓は、岡山市教育委員会の調査でも検出されている。屋敷墓は、県南部では平安時代末～鎌倉時代に事例が多い。

当該期の遺物として特筆する遺物は、丸・平瓦以外にはなく、古代から存続する寺院が存在する可能性はあるものの周囲は集落であったと考えられる。（柴田）

註

（１）『足守庄荘園遺構緊急調査･延寿寺跡第2次発掘調査概報』岡山市教育委員会　1979
（２）間壁忠彦・間壁葭子「備前焼研究ノート（１）―備前焼の成立―」『倉敷考古館研究集報』第１号　1966
　　間壁忠彦「備前焼」『考古学ライブラリー』60　ニュー・サイエンス社　1991
（３）『草戸千軒町遺跡発掘調査報告』Ⅴ　広島県草戸千軒町遺跡調査研究所　1996
（４）『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』９　鎌倉市教育委員会　1993
　　『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』14　鎌倉市教育委員会　1998
（５）生垣などの植栽に伴う土壙との考え方もある。

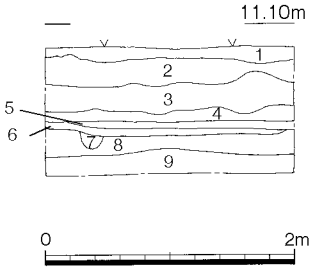
第４章　倉ヶ市遺跡

第１節　発掘調査の概要

遺跡は、延寿寺跡の西側に所在する。調査は、現地表下約50cmまでの砂・微砂層（近代の洪水砂層・耕作土層）を重機によって除去後、着手した。

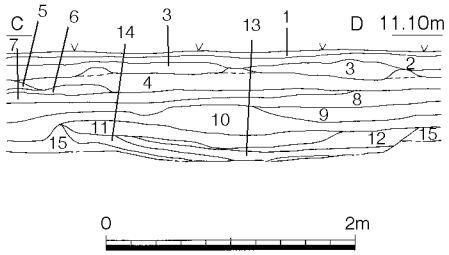
近代の砂・微砂層の下には、部分的に近世の畦状遺構が確認される。その耕作土層を除去した標高10.3ｍ付近で、中世の建物３棟、柱穴列９列、井戸１基、土壙24基、溝27条などを検出した。井戸は１基のみの検出であるが、調査区外の南側に存在する可能性がある。

注目されるのは、現在の土地区画と同じ方向に溝が掘削されていることであり、現在の農道と平行している１区溝１はその顕著な例である。また、２区では同じ方向に何度も掘削を繰り返した結果として、多くの溝が検出されたが、これも現在の土地区画と同じ方向であり、少なくともこの周辺の土地区画の起源が、中世・鎌倉時代にまでさかのぼることを示している。これらに囲まれた建物、柱穴列も同様の方向で検出された。柱穴の密度から、南北方向に流れる溝９と溝１の間と溝１と溝14の間の２つのまとまりが抽出できる。溝14から東は遺構密度が低くなる。　（河合）



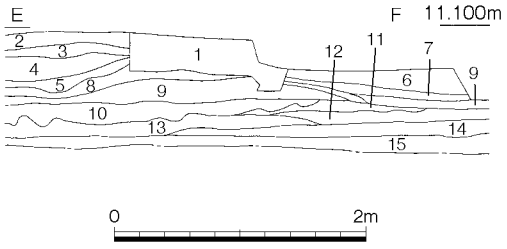
1　黒褐色（2.5Y3/2）砂質土
2　にぶい黄橙色（10YR6/4）砂
3　暗灰黄色（2.5Y5/2）微砂
4　褐色（10YR4/6）砂質土
5　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土
6　褐色（10YR4/4）砂質土
7　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土（Pit）
8　暗褐色（10YR3/3）砂質土（土器片少量含）
9　暗灰黄色（10YR4/2）砂質土（小礫やや多含）

第65図　１区北側断面図（1/60）



1　現代耕作土
2　黄褐色（2.5Y5/3）砂質土
3　にぶい黄色（2.5Y6/3）細砂
4　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土
5　オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土
6　オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土
7　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土
8　オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘質土
9　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土
10　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土
11　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土
12　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土
13　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土
14　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土
15　褐色（10YR4/4）粘質土

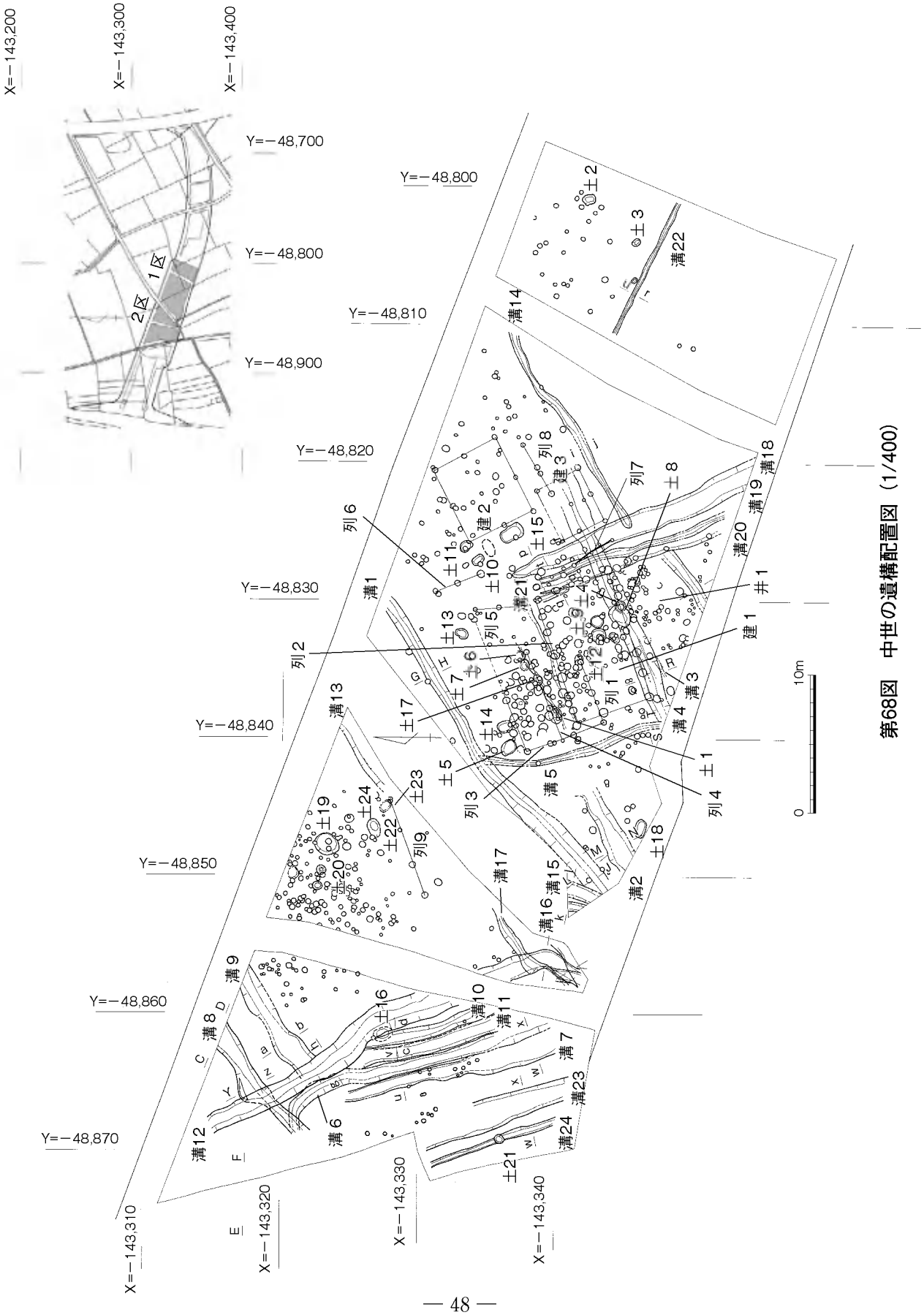
第66図　２区北側断面図（1/60）



1　カクラン
2　黄灰色（2.5Y4/1）砂質土
3　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土
4　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土
5　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土
6　黄褐色（2.5Y5/4）砂質土
7　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土
8　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土
9　黄褐色（2.5Y5/3）砂質土
10　暗灰黄色（2.5Y5/2）細砂
11　黄褐色（2.5Y5/3）砂質土
12　オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘質土
13　暗褐色（10YR3/3）粘土
14　暗灰黄褐色（2.5Y5/2）粘質土
15　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘土

第67図　西断面図（1/60）

第２節　中世の遺構・遺物

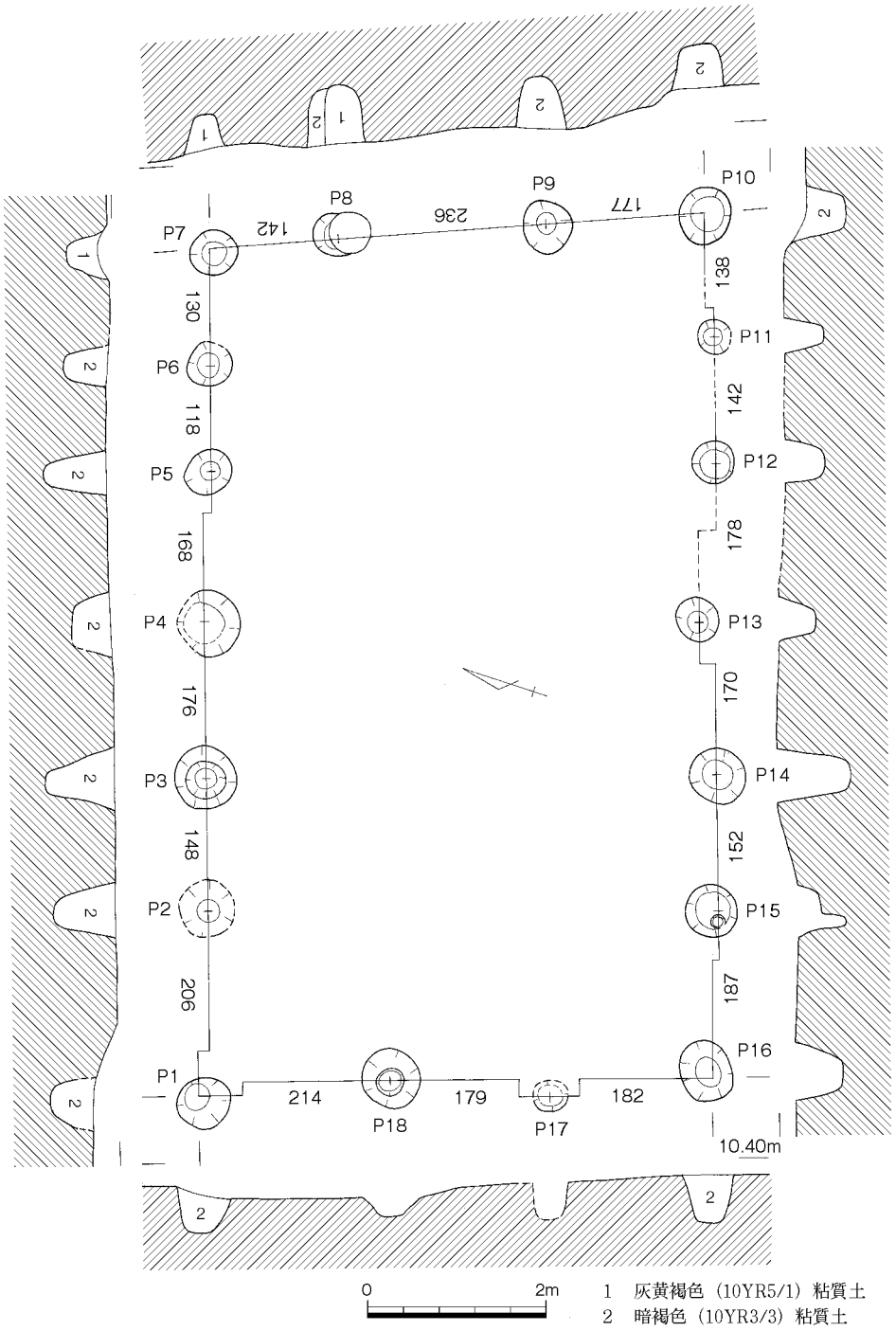


第68図　中世の遺構配置図（1/400）

１　建物

建物１（第69・70図、図版12－１、18・19・21）

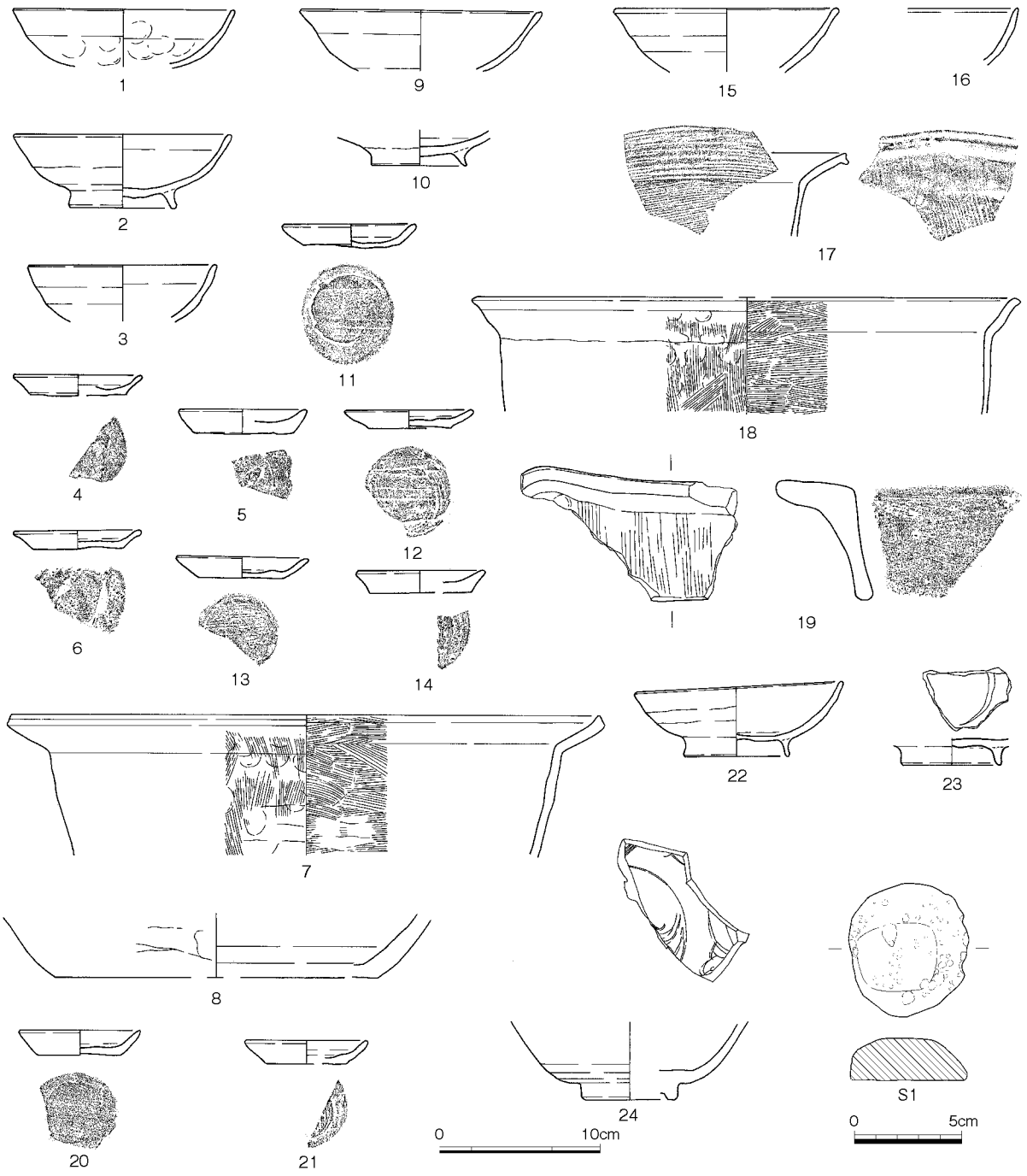
１区の南西、柱穴群が密にある地点から検出された遺構である。周辺の柱穴と比べ、規模が大きく（直径60cm前後のものが主体を占める）、炭も多く含むものが多く見受けられたため、抽出することが可能であった。規模は、桁行６間×梁間３間であり、長さ約950～970cm×556～577cmを測る。残りの良い柱穴では、深さ80cmを超えるものもあり、しっかりとした構造をもつ建物を想定することがで



第69図　建物１（1/80）

きる。近接する溝２からは大量の遺物が出土したが、そのほとんどが建物１付近から出土していること、さらにその方向も揃う（Ｎ－71°－Ｅ）ことから、両者の有機的な関係が想定できる。

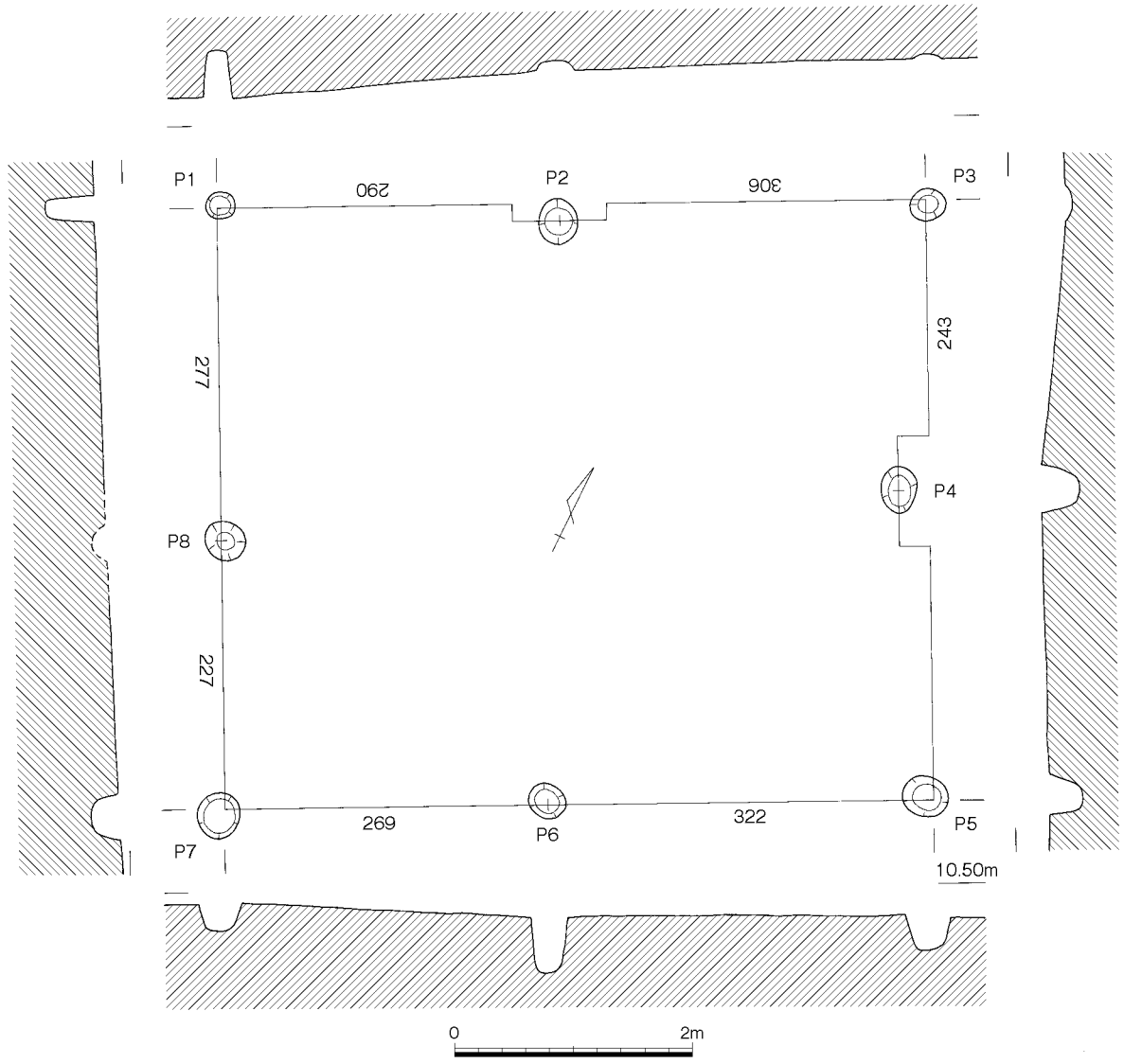
遺物は、溝２同様、土師器が主体を占める。１・２・９・10・15・16・22・23は椀、４～６・11～14・20・21は小皿、７・17・18は鍋、19は竈である。その他、３が黒色土器椀、24が青磁碗である。Ｓ１は九州産とみられる軽石である。遺物から、建物の時期は鎌倉時代前半期と考えられる。（河合）



第70図　建物１出土遺物（1/4・1/3）

建物２（第71図）

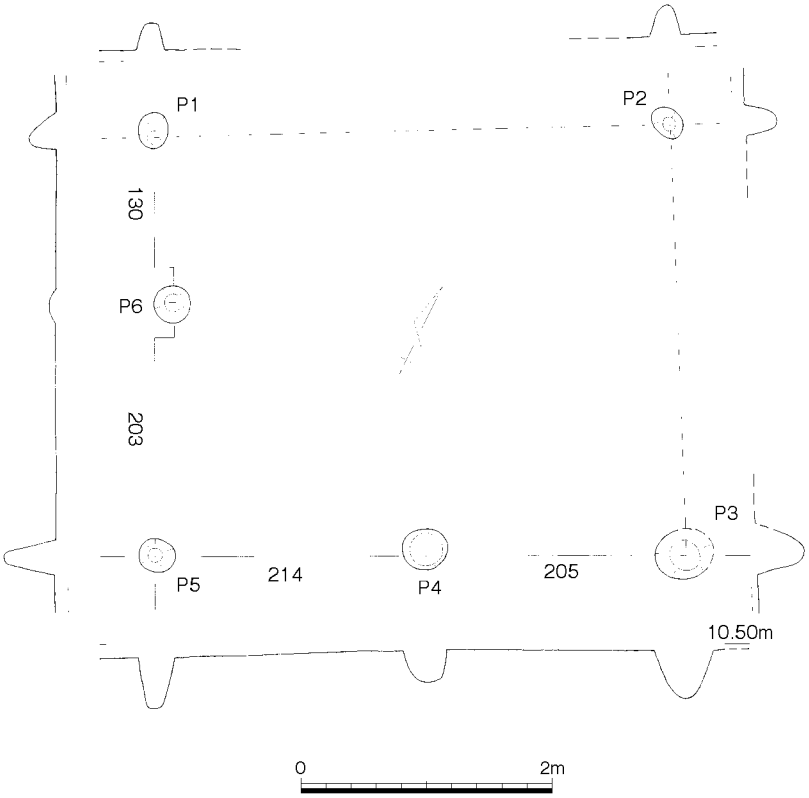
１区の北、柱穴群が密にある地点から検出された遺構である。周辺の柱穴とは区別が難しく、柱の並びから、建物として抽出した。規模は、桁行２間×梁間２間であり、長さ596～591cm×約504cmを測る。建物の方位は、Ｎ－62°－Ｅであり、周辺の建物３や溝14とほぼ平行する。柱穴から出土した遺物細片から、周辺の遺構に近い鎌倉時代前半期に属すると考えておきたい。（河合）



第71図　建物２（1/60）

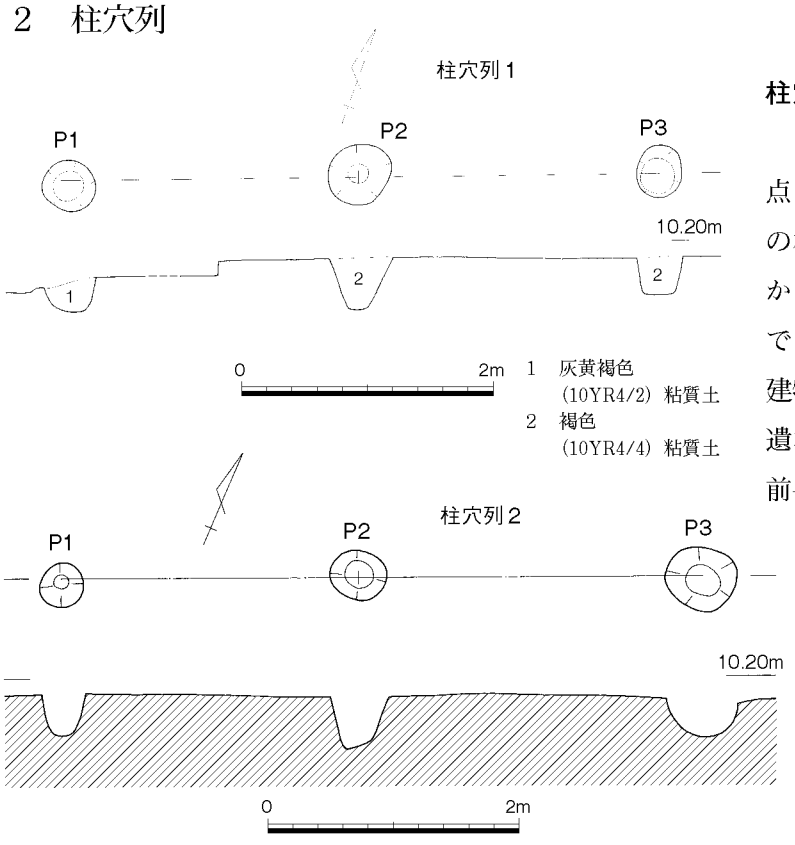
建物３（第72図）

１区の北、柱穴群が密にある地点から検出された遺構である。周辺の柱穴とは区別が難しく、柱の並びから、建物として抽出した。規模は、周辺の削平が強く、性格には判断が難しいが、桁行２間以上×梁間２間であり、長さ約418cm以上×約333cmを測る。建物の方位は、Ｎ－62°－Ｅであり、周辺の建物３や溝14とほぼ平行する。柱穴から出土した遺物細片から、周辺の遺構に近い鎌倉時代前半期に属すると考えておきたい。（河合）



第72図　建物３（1/60）

２　柱穴列



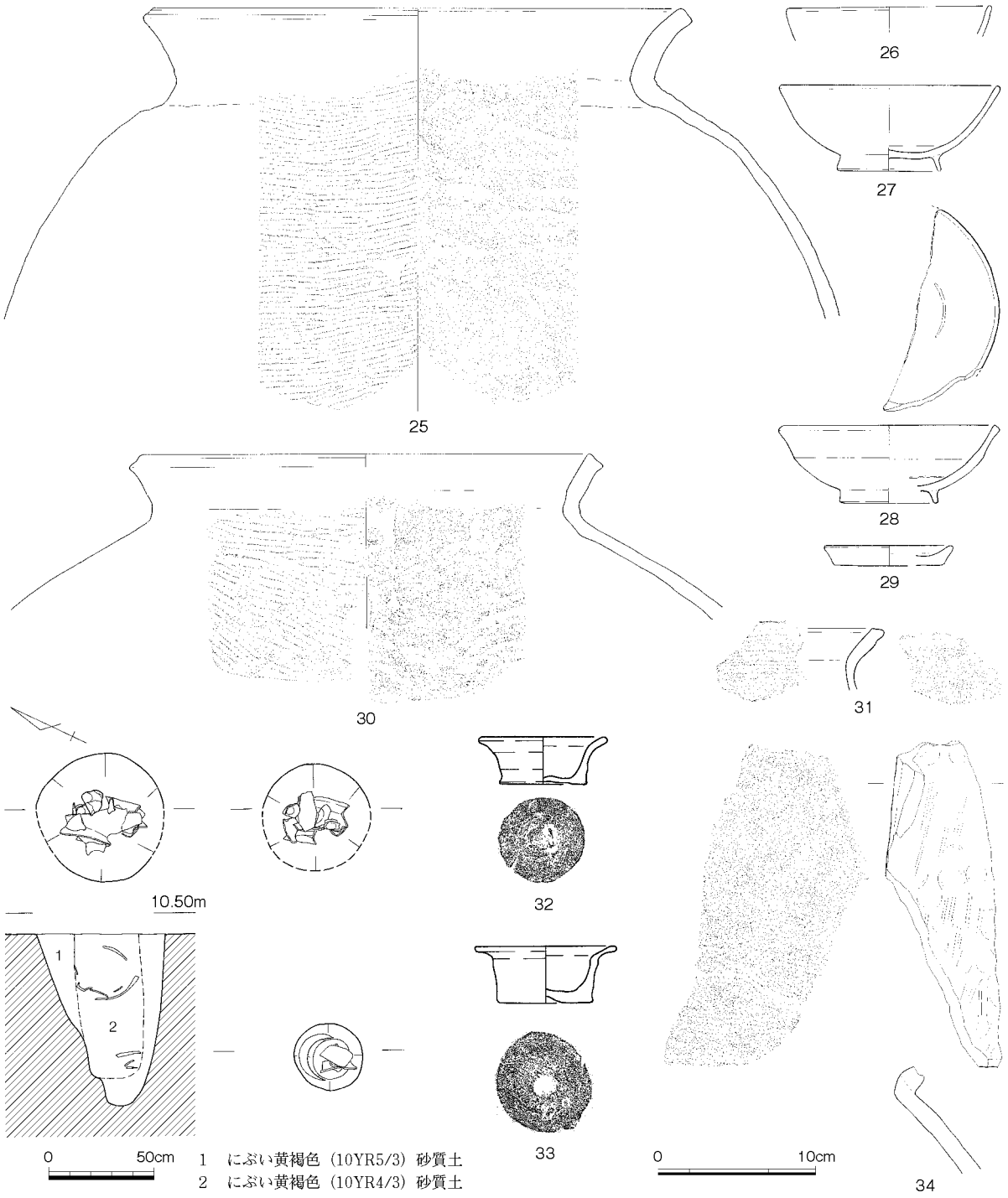
第73図　柱穴列１・２（1/60）

柱穴列１（第73図）

１区の南西、柱穴群が密にある地点から検出された遺構である。周辺の柱穴とは区別が難しく、柱の並びから、柱穴列として抽出した。現状では３つの並びで把握しているが、建物にまとまる可能性も十分にある。遺構の埋土等の特徴から、鎌倉時代前半期と考える。　（河合）

柱穴列２（第73・74図、図版13、18・20・21）

１区の中央、柱穴群が密にある地点から検出された遺構である。周辺の柱穴とは区別が難しく、柱の並びから、柱穴列として抽出した。現状では３つの並びで把握しているが、建物にま

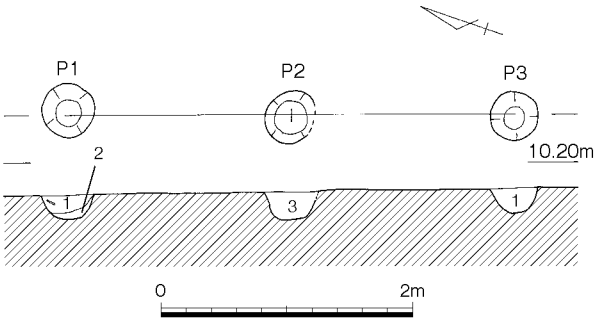


第74図　柱穴列２　Ｐ２（1/30）・出土遺物（1/4）

とまる可能性も十分にある。Ｐ２からは鎌倉時代初頭の遺物がまとまって出土した。遺物は上下３段階のまとまりが見られたが、時期的な差は認められない。遺物のうち亀山焼甕25・30は上層から出土した。その他、土師器椀26～28、小皿29、鍋31、器台32・33、竈34が認められ、編年を行う上でも良好な資料として注目される。（河合）

柱穴列３（第75図）

１区の西、柱穴群が密にある地点から検出された遺構である。周辺の柱穴とは区別が難しく、柱の並びから、柱穴列として抽出した。現状では３つの並びで把握しているが、建物にまとまる可能性も



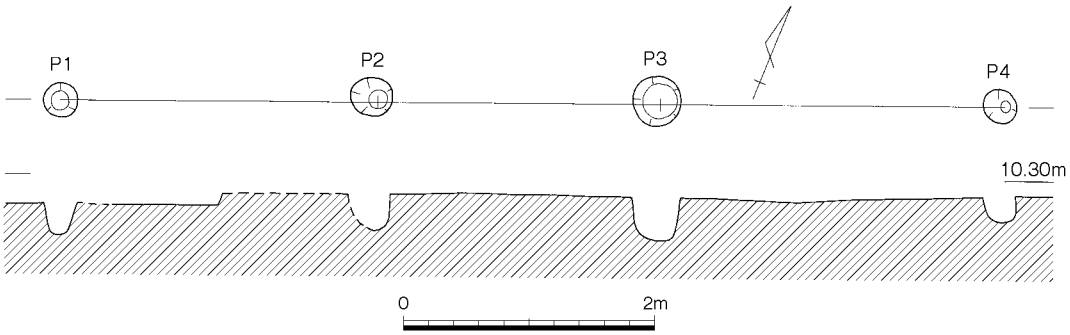
1　灰黄褐色（10YR4/2）粘質土　　3　褐色（10YR4/4）粘質土
2　灰色（5Y4/1）シルト砂混

第75図　柱穴列３（1/60）

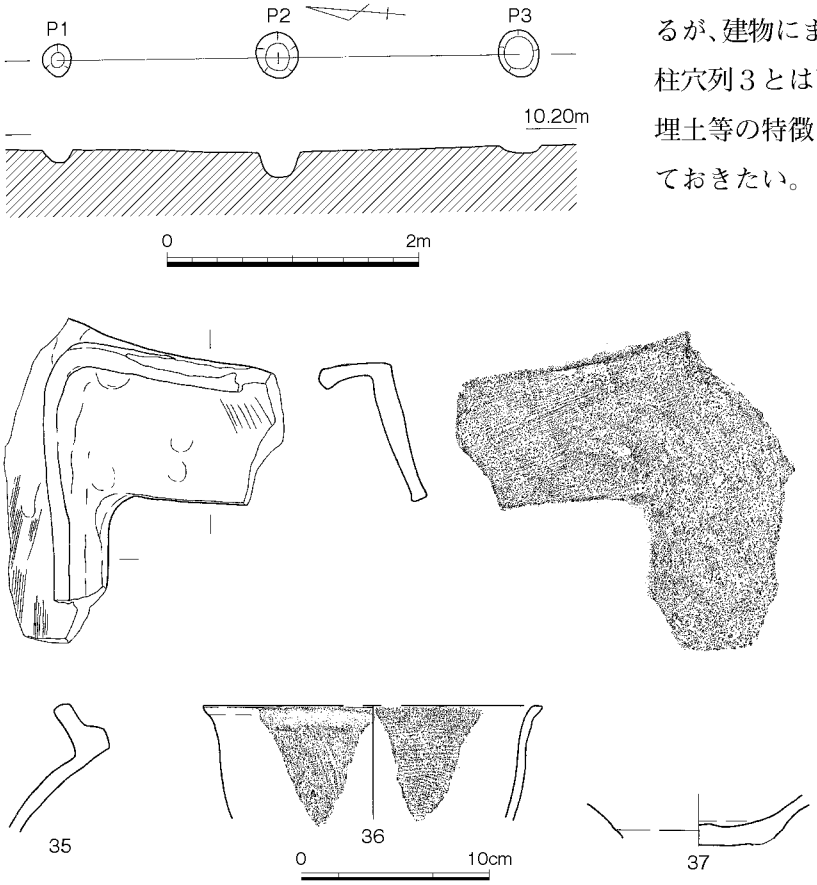
十分にある。柱穴列１・２とは直交する方向に並ぶ。付近の溝５とほぼ平行する。遺構の埋土等の特徴から、鎌倉時代前半期と考える。（河合）

柱穴列４（第76図）

１区の西、柱穴群が密にある地点から検出された遺構である。周辺の柱穴とは区別が難しく、柱の並びから、柱穴列として抽出した。現状では４つの並びで把握しているが、建物にまとまる可能性も十分にある。柱穴列３とは直交する方向に並ぶ。遺構の埋土等の特徴から、鎌倉時代前半期と考えておきたい。（河合）



第76図　柱穴列４（1/60）



第77図　柱穴列５（1/30）・柱穴列５　Ｐ２出土遺物（1/4）

柱穴列５（第77図）

１区の中央、柱穴群が密にある地点から検出された遺構である。周辺の柱穴とは区別が難しく、柱の並びから、柱穴列として抽出した。現状では３つの並びで把握しているが、建物にまとまる可能性がある。周辺の柱穴列や建物・溝と異なり、主軸はほぼ南北方向に揃っている。Ｐ２からは若干の遺物が出土した。出土遺物や遺構埋土等の

特徴から、鎌倉時代前半期と考える。（河合）

柱穴列６（第78図）

１区の北、柱穴群が密にある地点から検出された遺構である。周辺の柱穴とは区別が難しく、柱の並びから、柱穴列として抽出した。現状では３つの並びで把握しているが、建物にまとまる可能性も十分にある。付近の建物２や溝18とほぼ平行し、この周辺の土地区画に沿ったものとなっている。遺構の埋土等の特徴から、鎌倉時代前半期と考える。（河合）

柱穴列７（第78図）

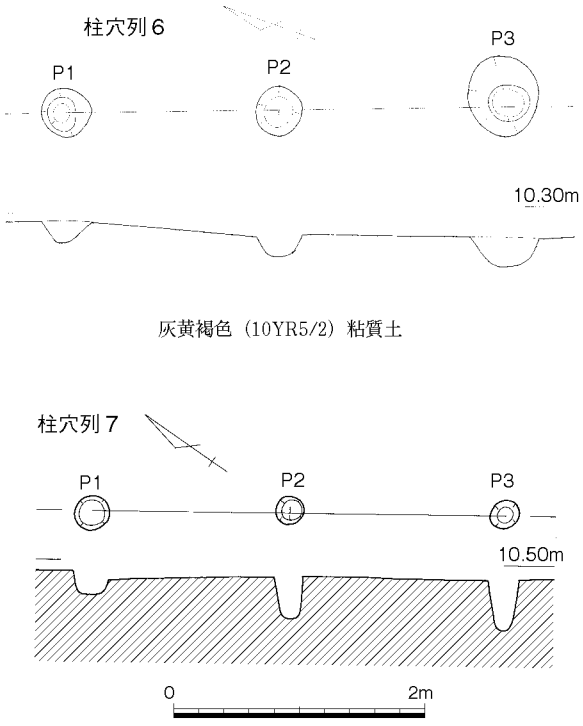
１区の中央から検出された遺構である。周辺の柱穴とは区別が難しく、柱の並びから、柱穴列として抽出した。現状では３つの並びで把握しているが、建物にまとまる可能性も十分にある。付近の建物３や溝18～20とほぼ平行し、この周辺の土地区画に沿ったものとなっている。溝４・18・19とは重複関係にある。遺構の埋土等の特徴から、鎌倉時代前半期と考える。（河合）

柱穴列８（第79図）

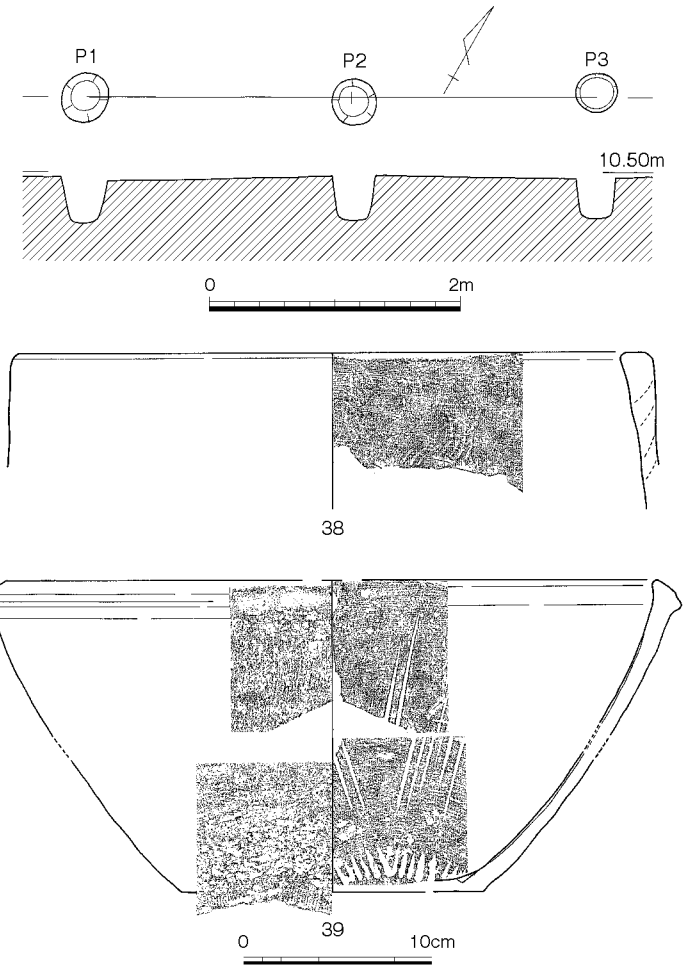
１区の東、柱穴群が密にある地点から検出された遺構である。周辺の柱穴とは区別が難しく、柱の並びから、柱穴列として抽出した。現状では３つの並びで把握しているが、建物にまとまる可能性がある。付近の建物２や溝14とほぼ平行する。Ｐ３からは若干の遺物が出土した。亀山焼擂り鉢39から判断すれば、室町時代前半期まで時期が下る可能性がある。（河合）

柱穴列９（第80図、図版12－２）

２区の東、柱穴群が密にある地点から検出された遺構である。現状では柱穴４つの並びで把握している



第78図　柱穴列６・７（1/60）



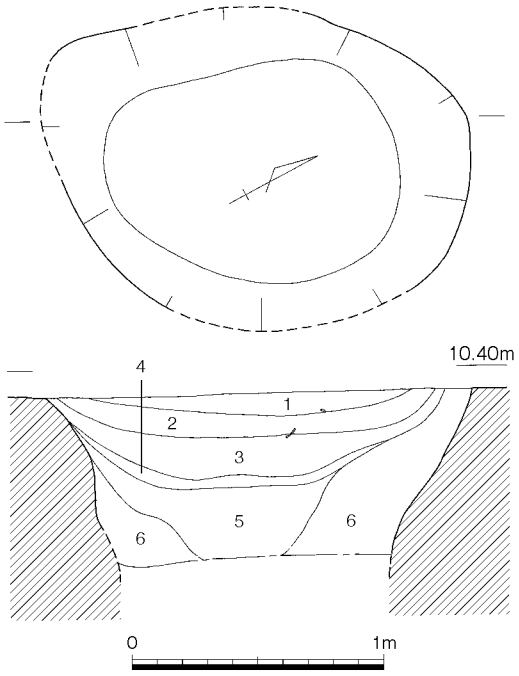
第79図　柱穴列８（1/60）・柱穴列８　Ｐ３出土遺物（1/4）

が、東側に対となる列が存在する可能性が考えられる。柱痕と考えられる暗褐色粘質土が確認されていることから、直径15cm前後の柱が利用されていたと考えられる。埋土や小片出土した遺物から周囲の遺構と同様、鎌倉時代前半期に属する遺構と考える。（河合）

1　暗褐色（10YR3/3）粘質土
2　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土
3　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土
4　灰黄褐色（10YR4/2）粗砂混砂質土
5　黒褐色（10YR3/2）粘質土
6　褐灰色（10YR4/1）粘質土

第80図　柱穴列９（1/60）

３　井戸



1　褐色（10YR4/4）粘質土
2　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土
3　灰黄褐色（10YR4/2）粘質土
4　灰色（5Y4/2）粘質土
5　灰色（5Y4/1）粘質土
6　暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト

第81図　井戸１（1/30）

井戸１（第81図、図版14－１）

１区の中央南より、遺構が集中する地点から検出された遺構である。建物１のＰ13及び土壙４と重複しており、これらを調査後検出することができた。そのため、土壙４の遺物として第85・86図に載せた遺物のうち、本来は井戸１の遺物が含まれている可能性が高い。遺構は長軸約170ｃｍ、短軸約128ｃｍを測り、深さは65cmまで把握できたが、それ以下は湧水が激しく正確な深さを把握することができなかった。埋土は上層が粘質土で、下るにつれ粘質が強まり、第６層はシルト質であった。当遺跡で井戸と判断した遺構は、この１基のみであり、深い土壙の可能性も考えられるが、埋土の状況などから井戸と考えておきたい。なお、井戸は１区の南の調査区外に分布する可能性があると考えている。遺構の時期は、重複関係からみて、土壙４や建物１よりも先行すると判断できるが、鎌倉時代前半期の範疇にあると考える。（河合）

４　土壙

土壙１（第82図）

１区西部の、土壙や柱穴が密集しているところで、柱穴列４Ｐ２等に切られて検出された土壙である。検出された平面形は、楕円に近い不整円形で、長径126cm、短径97cm程を測る。断面は椀形を呈し、10.31mの検出面から深さ41cmを測る。

遺物は他の遺構との切り合いが著しいため明らかでないが、検出状況などから鎌倉時代と考えられる。　（内藤）

土壙２（第83図）

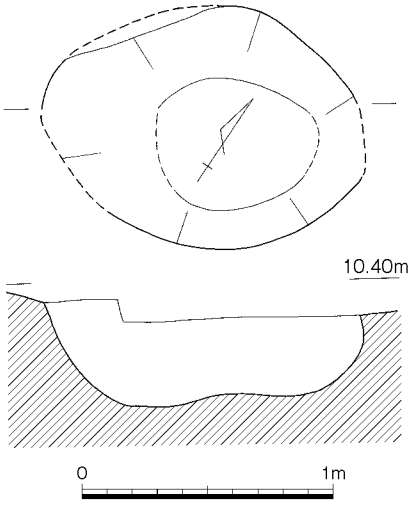
１区北東部、土壙３の北側4.5m程で検出された土壙である。検出された平面形は、長径98㎝、短径75㎝程の不整な楕円形で、断面は皿形を呈す。10.35mの検出面から深さ14㎝を測る。遺物はいずれも細片であるが、土師器椀の高台部片41などが出土している。検出状況などから鎌倉時代と考えられる。　（内藤）

土壙３（第83図）

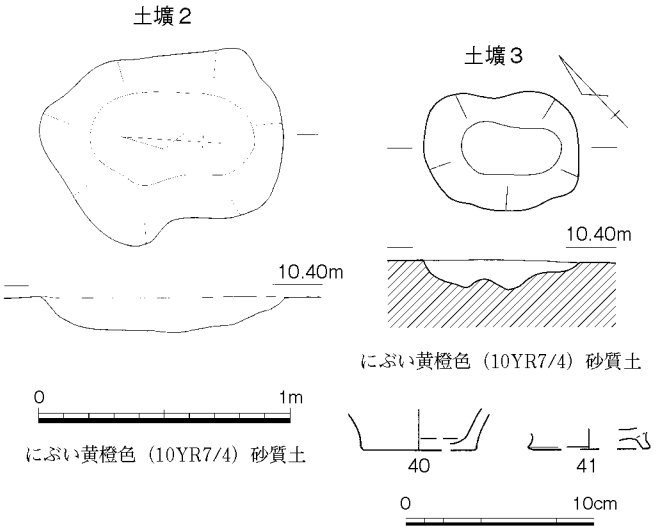
１区北東部、溝22の北側1.2ｍ程で検出された土壙である。検出された平面形は、長径68㎝、短径48㎝程の不整な楕円形で、底面は凹凸が認められる。10.35mの検出面から深さ12㎝程を測る。遺物はいずれも細片である。検出状況などから時期は、鎌倉時代と考えられる。　（内藤）

土壙４（第84・85図、図版18・20）

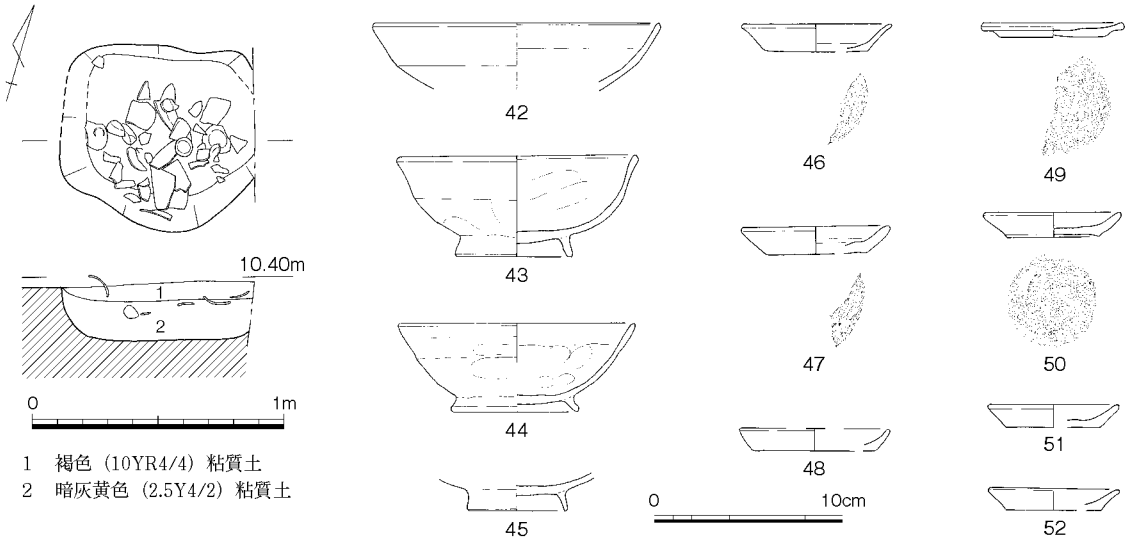
１区中央南部において、井戸１や溝４などの遺構を切って検出された土壙である。検出された平面形は、北側が角張った不整円形で、径75㎝程を測る。断面は椀形を呈し、10.38mの検出面から深さ23㎝を測る。埋土は上層に褐色粘質土が、下層に暗灰黄色粘質土が堆積し、層境で



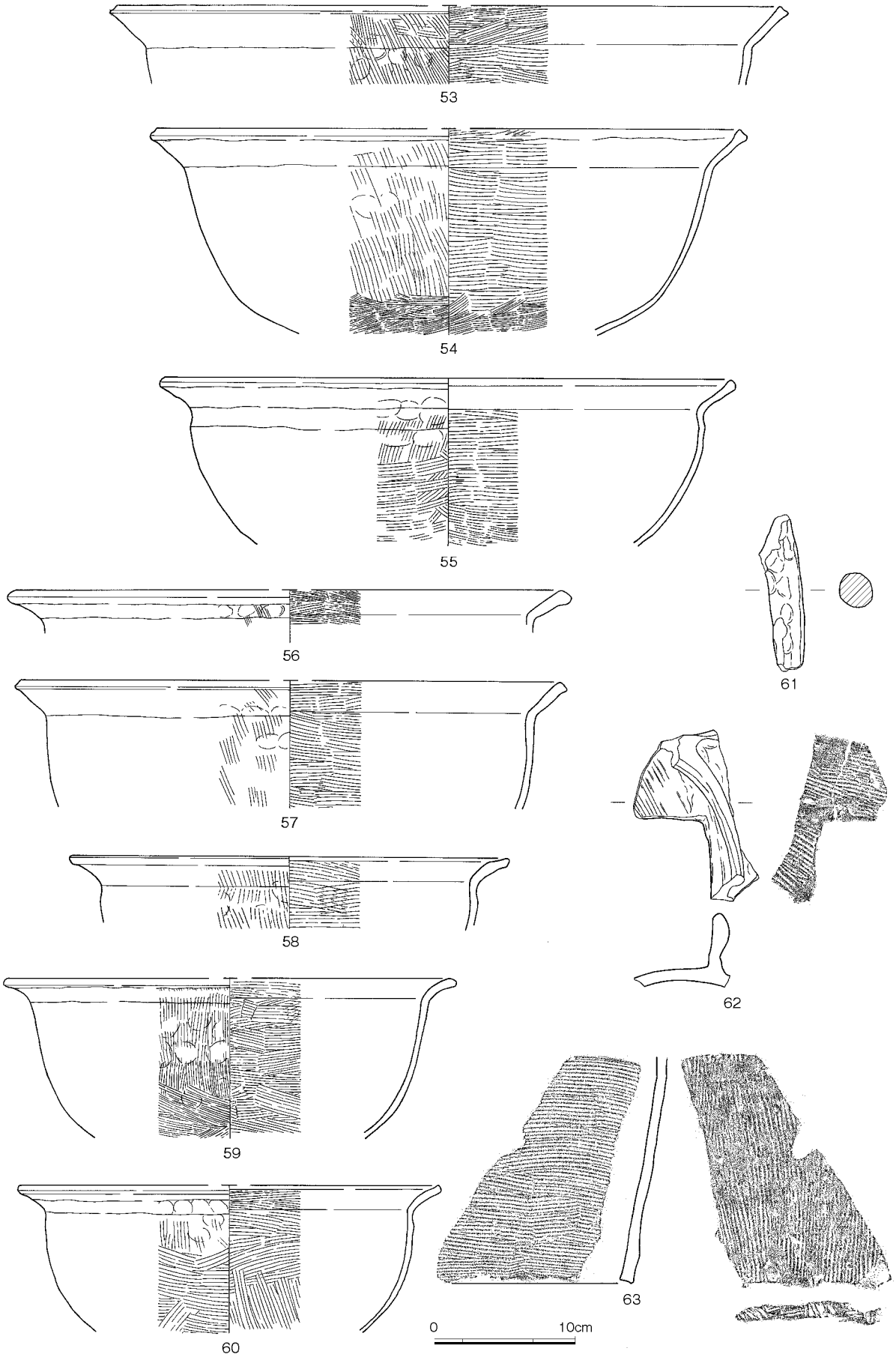
第82図　土壙１（1/30）



第83図　土壙２・３（1/30）・出土遺物（1/4）



第84図　土壙４（1/30）・出土遺物①（1/4）



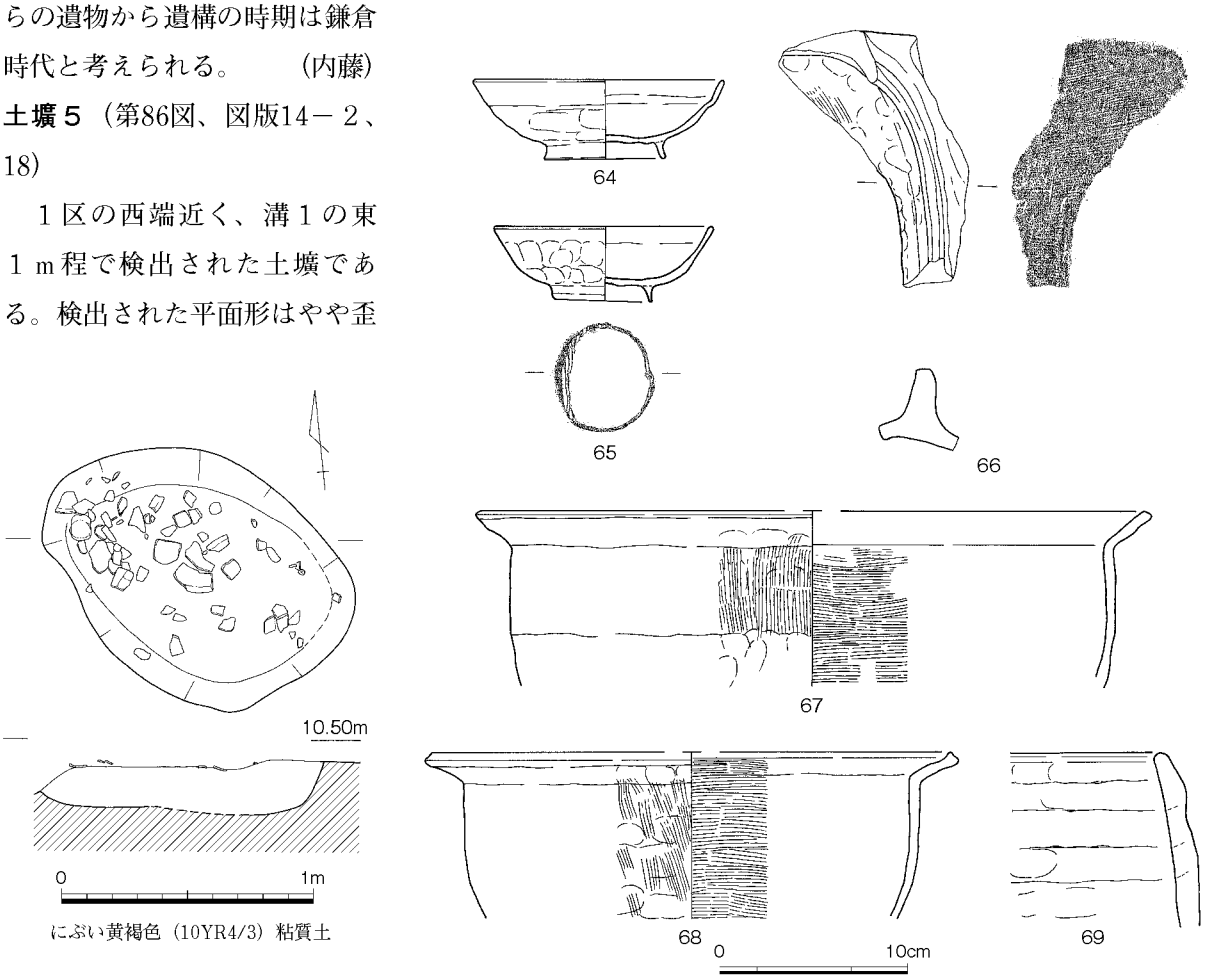
第85図　土壙４出土遺物②（1/4）

は大量の土器などの遺物が出土している。

遺物はいずれも土師器で、高台付椀42～45、小皿46～52、鍋53～61、竈62・63などである。これらの遺物から遺構の時期は鎌倉時代と考えられる。　（内藤）

土壙５（第86図、図版14－２、18）

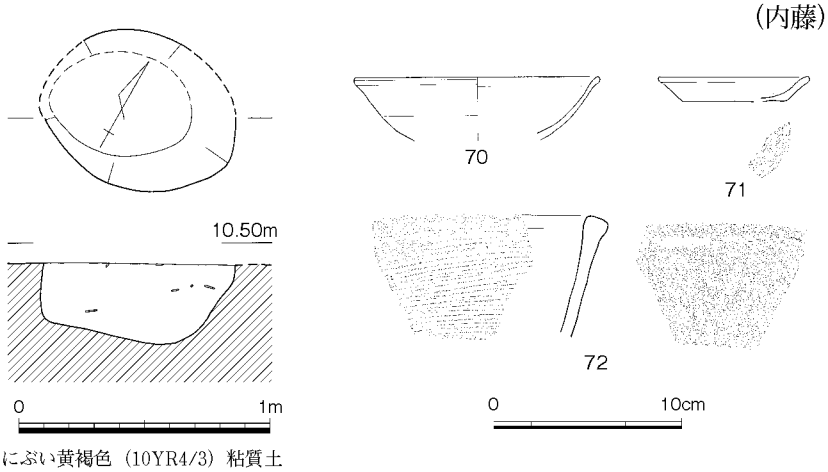
１区の西端近く、溝１の東１ｍ程で検出された土壙である。検出された平面形はやや歪な楕円形を呈し、規模は、長径126㎝、短径102㎝を測る。断面は逆台形を呈し、10.42ｍの検出面からの深さは22㎝を測る。底面はなだらかで、検出面付近の上層を中心に高台付椀64・65、鍋67・68、竈66・69などの土師器が出土している。これらの出土遺物などから時期は、鎌倉時代と考えられる。（内藤）



第86図　土壙５（1/30）・出土遺物（1/4）

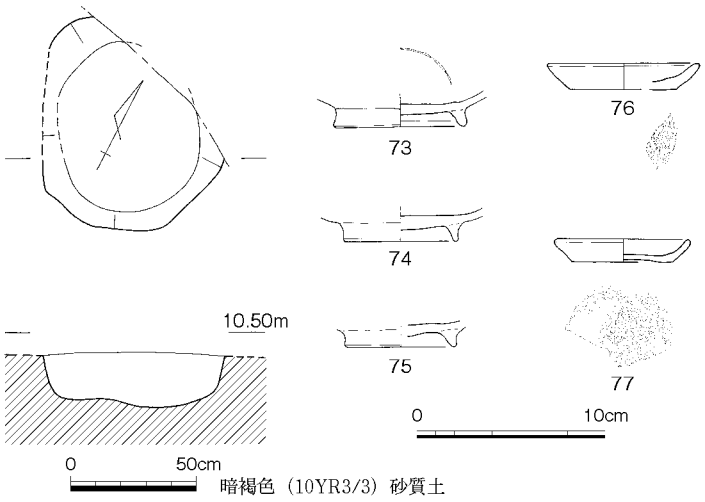
土壙６（第87図）

１区の西部、柱穴列４北端のすぐ西側で、南西の土壙７に接して検出された土壙である。検出平面形はやや歪んだ楕円形で、長径77㎝、短径63㎝程の規模である。断面も歪な逆台形で、10.42ｍの検出面からの深さは32㎝を測る。

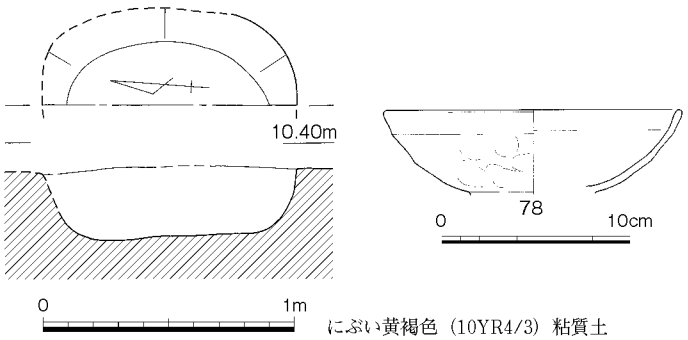


第87図　土壙６（1/30）・出土遺物（1/4）

埋土は、にぶい黄褐色粘質土が一層である。埋土の上部からは、椀70、皿71の土師器など土器片が出土している。遺構の時期は、出土遺物などから鎌倉時代と考えられる。　（内藤）



第88図　土壙７（1/30）・出土遺物（1/4）



第89図　土壙８（1/30）・出土遺物（1/4）

土壙７（第88図）

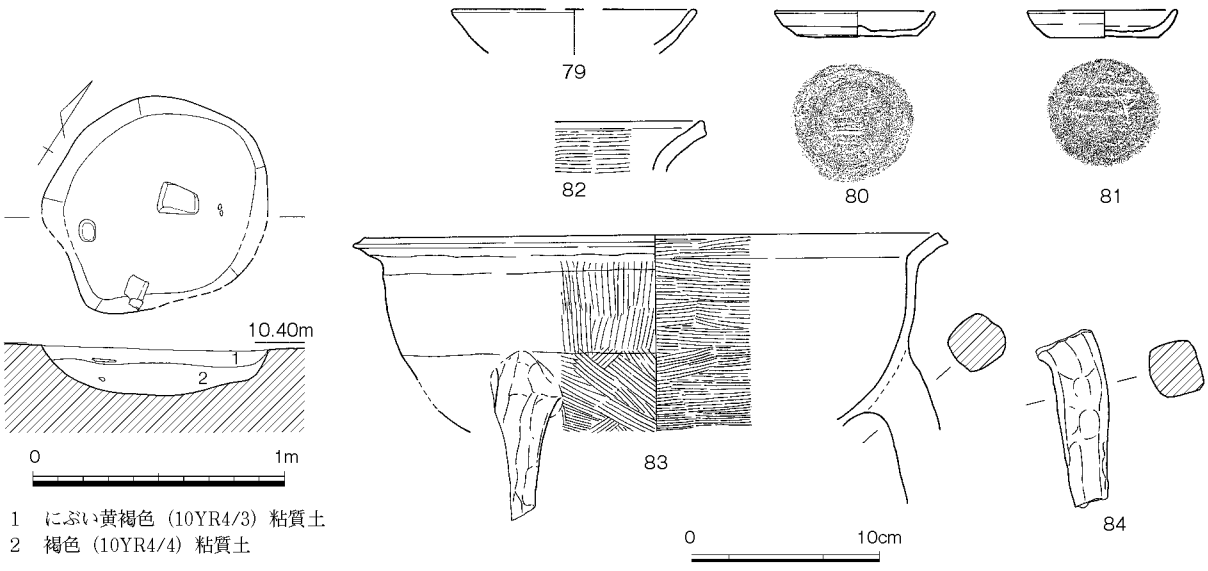
１区の西部、土壙６の北東側にほぼ接して検出された土壙である。検出平面形は、長径85㎝、短径73㎝程の楕円形が想定される。断面は、壁面が比較的真下に掘下げられ、深さは10.42ｍの検出面から22㎝を測るのみであるが、柱穴状の土壙である。

暗褐色粘質土の埋土中から椀73～75、小皿76・77など土師器の細片が出土している。時期は鎌倉時代であるが、溝２に切られている。　（内藤）

土壙８（第89図）

１区中央南部の建物１内に位置する土壙で、東側の土壙９とほぼ接している。削平が著しく判然としないが、径100㎝、深さ30㎝以上の規模で、掘り方がほぼ真下であることから柱穴が想定される遺構である。

土師器の椀78が出土している。時期は、鎌倉時代である。　（内藤）



第90図　土壙９（1/30）・出土遺物（1/4）

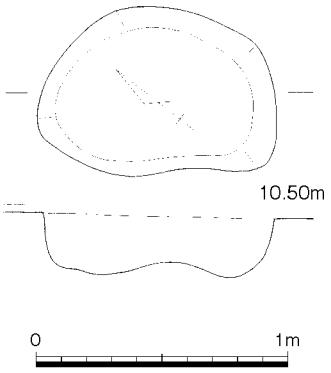
土壙９（第90図、図版19・20）

１区中央部の建物１内に位置している土壙で、南西側の土壙８とほぼ接している。検出平面形は、径90㎝程の不整円形で、断面は椀状を呈する。10.37ｍの検出面から中央部の底まで18㎝を測る。

埋土は第１層ににぶい黄褐色、第２層に褐色の粘質土が堆積し、第１層の埋土中からは土器と伴に焼土塊や炭の散布が多く認められる。出土遺物としては完形のものも含み、椀79、小皿80・81、鍋82～84などの土師器が出土している。これらの遺物などから遺構の時期は鎌倉時代と考えられる。（内藤）

土壙10（第91図）

１区の中央部北寄りで検出した。平面形は96×68㎝の不整楕円形を呈し、深さは24㎝残存していた。埋土は、にぶい黄褐色砂質土が一層のみで、底面には凹凸が認められた。埋土中から土器の小片が出土し、時期は鎌倉時代と考えられる。（平井）

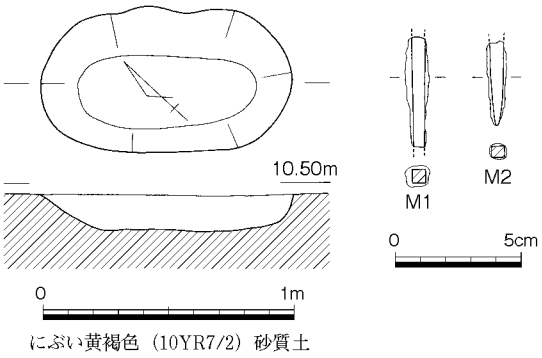


第91図　土壙10（1/30）

土壙11（第92図）

土壙10の北東部で検出した。平面形は100×58㎝の長楕円形を呈し、深さは14㎝残存していた。底面はほぼ平らで、埋土はにぶい黄褐色砂質土が一層のみであった。

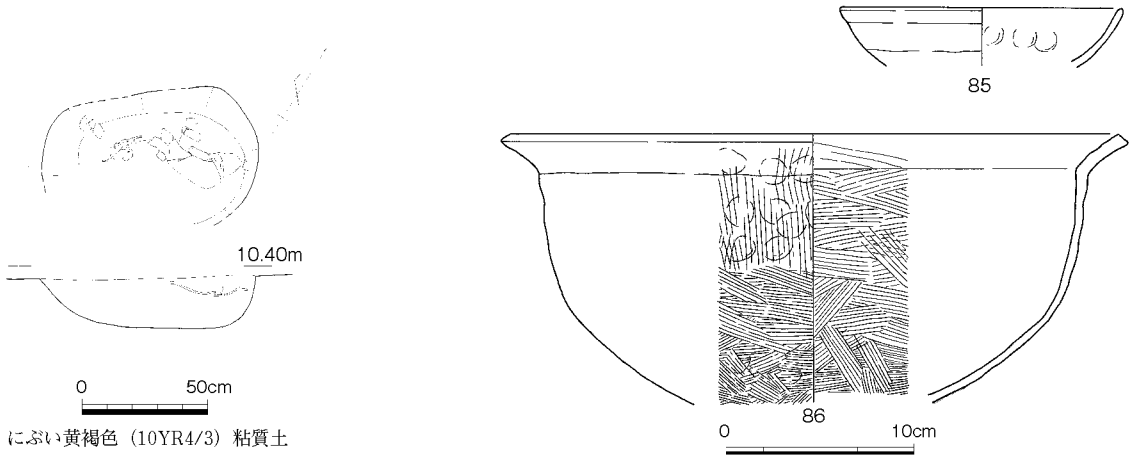
埋土中から土器の小片と共に、鉄釘Ｍ１・Ｍ２などが出土している。時期は鎌倉時代と考えている。（平井）



第92図　土壙11（1/30）・出土遺物（1/3）

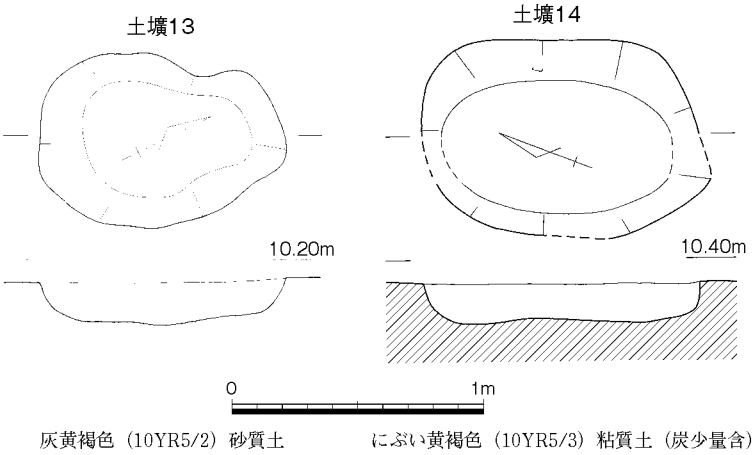
土壙12（第93図、図版14－３）

１区西部、井戸１の西側70㎝程で検出された土壙である。南側が削平されているが、検出平面形は長径85㎝、短径55㎝程の楕円形である。断面は椀状を呈し、10.35ｍの検出面から深さ20㎝を測り、にぶい黄褐色粘質土で埋まっている。



第93図　土壙12（1/30）・出土遺物（1/4）

遺物は、埋土の上部から土師器の椀85、鍋86など比較的大きな破片が出土している。遺構の時期は、出土遺物などから鎌倉時代と考えられる。　（内藤）



第94図　土壙13・14（1/30）

土壙13（第94図）

１区の西北部、溝１の南東2.5ｍ程で検出された土壙で検出平面形は、長径99㎝を測る不整楕円形を呈する。上部が削平された断面は皿状を呈し、10.11ｍの検出面から深さ17㎝を測る。

遺構の時期は、検出状況などから鎌倉時代である。　（内藤）

土壙14（第94図）

１区の西端部、土壙５の北東50㎝程で検出された土壙である。検出平面形は、長径111㎝、短径80㎝を測る不整楕円形を呈する。断面は皿状を呈し、10.30ｍの検出面から深さ16㎝を測り、底面がなだらかなごく浅い土壙である。

土器は細片のみで図示できるものはない。検出状況などから鎌倉時代と考えられる。　（内藤）

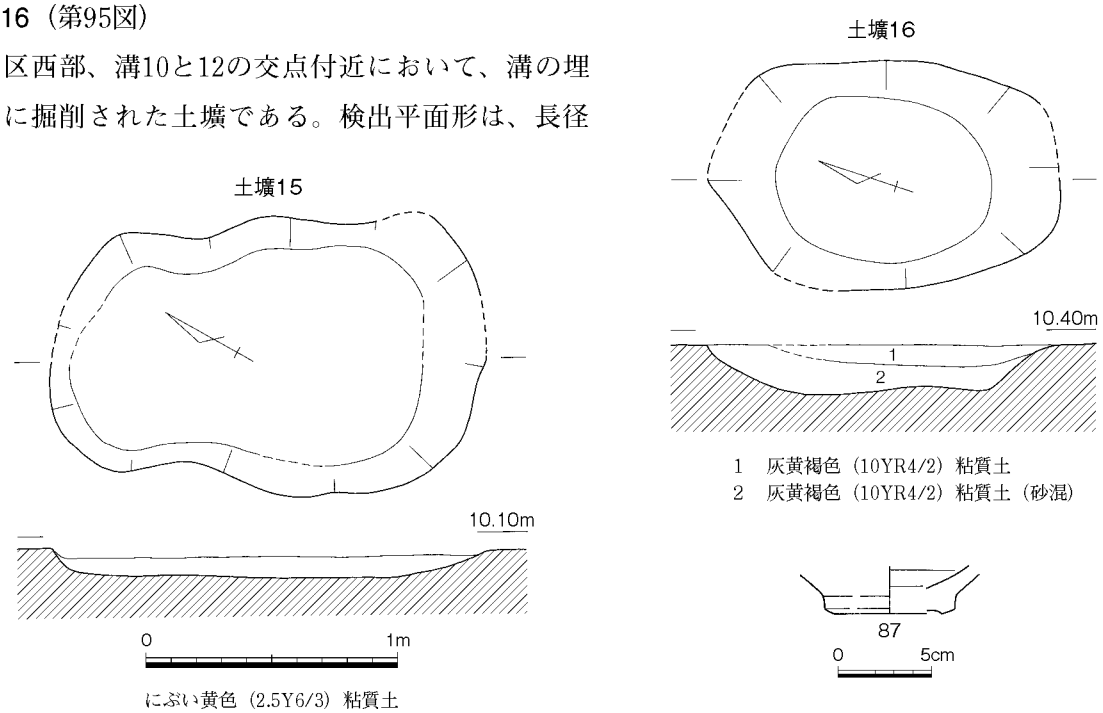
土壙15（第95図）

１区の中央部、建物２のすぐ南西で検出された土壙である。検出平面形は、長径175㎝、短径111㎝を測る長方形に近い不整楕円形を呈する。上部が削平された断面は皿状を呈し、10.00ｍの検出面から深さ９㎝程を測るのみのごく浅い土壙である。

土器は細片のみで図示できるものはないが、検出状況などから鎌倉時代と考えられる。　（内藤）

土壙16（第95図）

２区西部、溝10と12の交点付近において、溝の埋没後に掘削された土壙である。検出平面形は、長径



第95図　土壙15・16（1/30）・土壙16出土遺物（1/4）

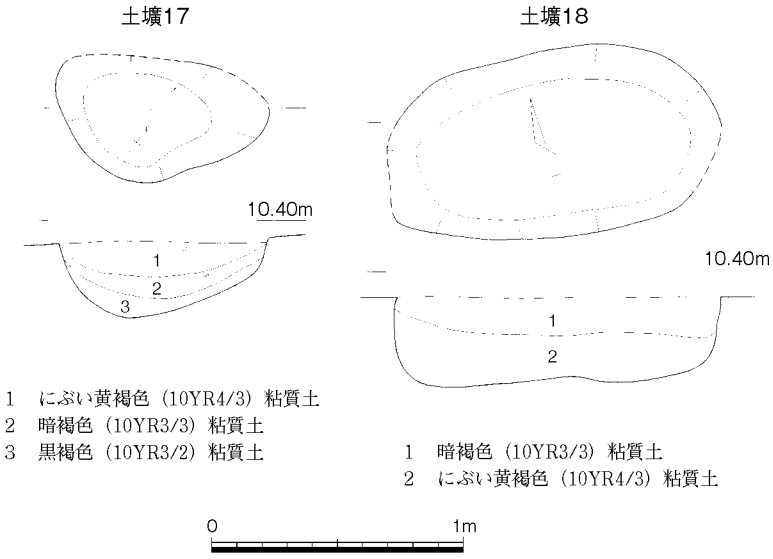
140㎝、短径91㎝を測るやや歪な楕円形を呈する。断面は皿状で、10.35ｍの検出面から深さ19㎝を測り、底面はほぼ平らである。下層の埋土には砂の混入が多く認められる。

出土遺物に、白磁碗の高台部87がある。時期は鎌倉時代頃と考えられる。　（内藤）

土壙17（第96図）

１区西部、土壙６の南西80㎝程の溝２の西肩部において検出された土壙である。検出平面形は、長径84㎝、短径51㎝程の歪な楕円形を呈し、断面は、椀形で、10.32ｍの検出面から深さ31㎝を測る。１層ににぶい黄褐色、２層に暗褐色、３層に黒褐色の粘質土がレンズ状に堆積している。埋土中に土師器片が認められたが、いずれも細片である。

時期は、検出状況などから鎌倉時代と考えられる。　（内藤）



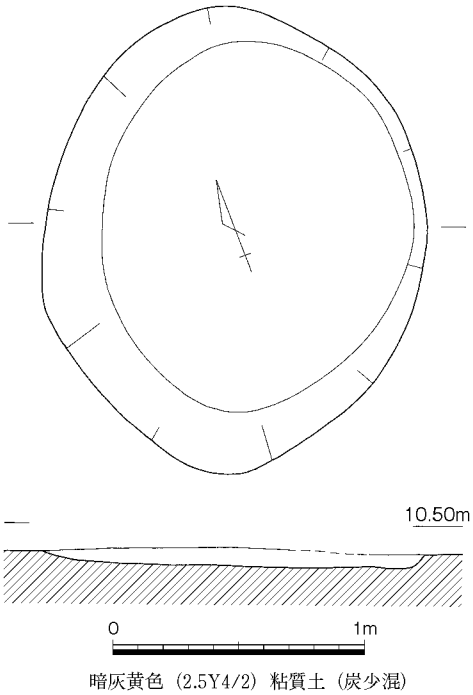
第96図　土壙17・18（1/30）

土壙18（第96図）

１区西部南端の、溝２のすぐ東で検出された土壙である。検出平面形は、長径130㎝、短径75㎝を測る長楕円形で、箱形を呈する断面の底面はやや凹凸が認められる。10.29ｍの検出面からの深さは36㎝を測る。埋土は、１層が暗褐色、２層がにぶい黄褐色の粘質土で、土器の細片が若干出土している。検出状況などから鎌倉時代と考えられる。　（内藤）

土壙19（第97図）

２区東部の北側で検出された土壙で、検出平面形は、長径187㎝、短径153㎝を測る楕円形である。断面は皿形を呈し、10.40ｍの検出面からの深さは７㎝を測るのみとごく浅く、底面は平らである。埋土は、暗灰黄色粘質土で、土器の細片と共に炭の散布が若干認められる。時期は、検出状況などから鎌倉時代と考えられる。　（内藤）

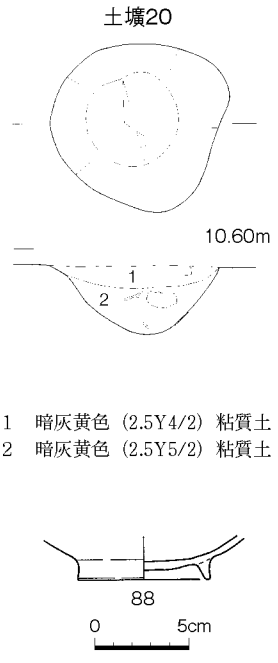


第97図　土壙19（1/30）

土壙20（第98図）

２区東部の北側、土壙19から70㎝程西で検出された土壙である。検出平面形は、径70㎝前後の歪な円形で、10.53ｍの検出面から深さ28㎝を測る断面は、椀形を呈している。埋土は、暗灰黄色粘質土が堆積し、高台付土師器椀88などの土器片と共に拳大の礫数個が出土している。

遺構の時期は出土遺物などから鎌倉時代と考えられる。　（内藤）



第98図　土壙20・21（1/30）・土壙20出土遺物（1/4）

土壙21（第98図）

２区の南西部で、溝24を切って検出された土壙である。検出平面形は径65㎝前後の歪な円形で、10.54ｍの検出面から深さ17㎝を測る断面は、椀形を呈している。埋土は、１層がにぶい黄褐色、２層が灰黄褐色の粘質土が堆積している。遺物は土器の細片が若干認められたのみである。

遺構の時期は、検出状況などから室町時代と考えられる。（内藤）

土壙22（第99図）

２区東部の北側、土壙19から２ｍ程南で検出された土壙である。検出平面形は、長径144㎝、短径83㎝を測る長楕円形で、皿状を呈する断面は、10.39ｍの検出面から深さ17㎝を測り底面は平らである。

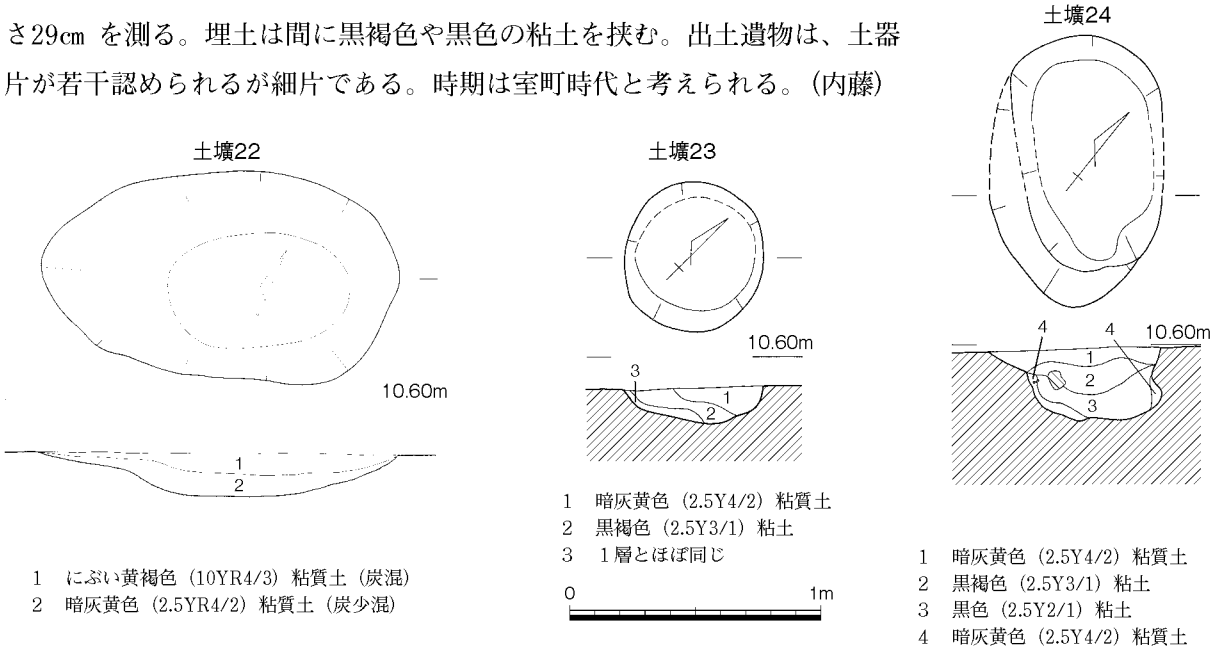
埋土は、１層ににぶい黄褐色粘質土、２層に暗灰黄色粘質土が堆積し、土器の細片と共に若干の炭の散布が認められる。遺構の時期は、室町時代と考えられる。（内藤）

土壙23（第99図）

２区東部の北側、土壙19の東1.5ｍ程で検出された土壙で、検出平面形は径55㎝程の円形である。掘り方は10.48ｍの検出面からほぼ真下で、深さ15㎝を測り柱穴の可能性がある。埋土は、間に黒褐色粘土が挟まれて堆積している。出土土器は細片のみで、時期は室町時代と考えられる。（内藤）

土壙24（第99図）

２区東部の北側、柱穴列９のP ４を切って検出された土壙である。検出平面形は長径108㎝、短径70㎝を測る長楕円形である。掘り方はやや袋状で、10.59ｍの検出面から深さ29㎝ を測る。埋土は間に黒褐色や黒色の粘土を挟む。出土遺物は、土器片が若干認められるが細片である。時期は室町時代と考えられる。（内藤）



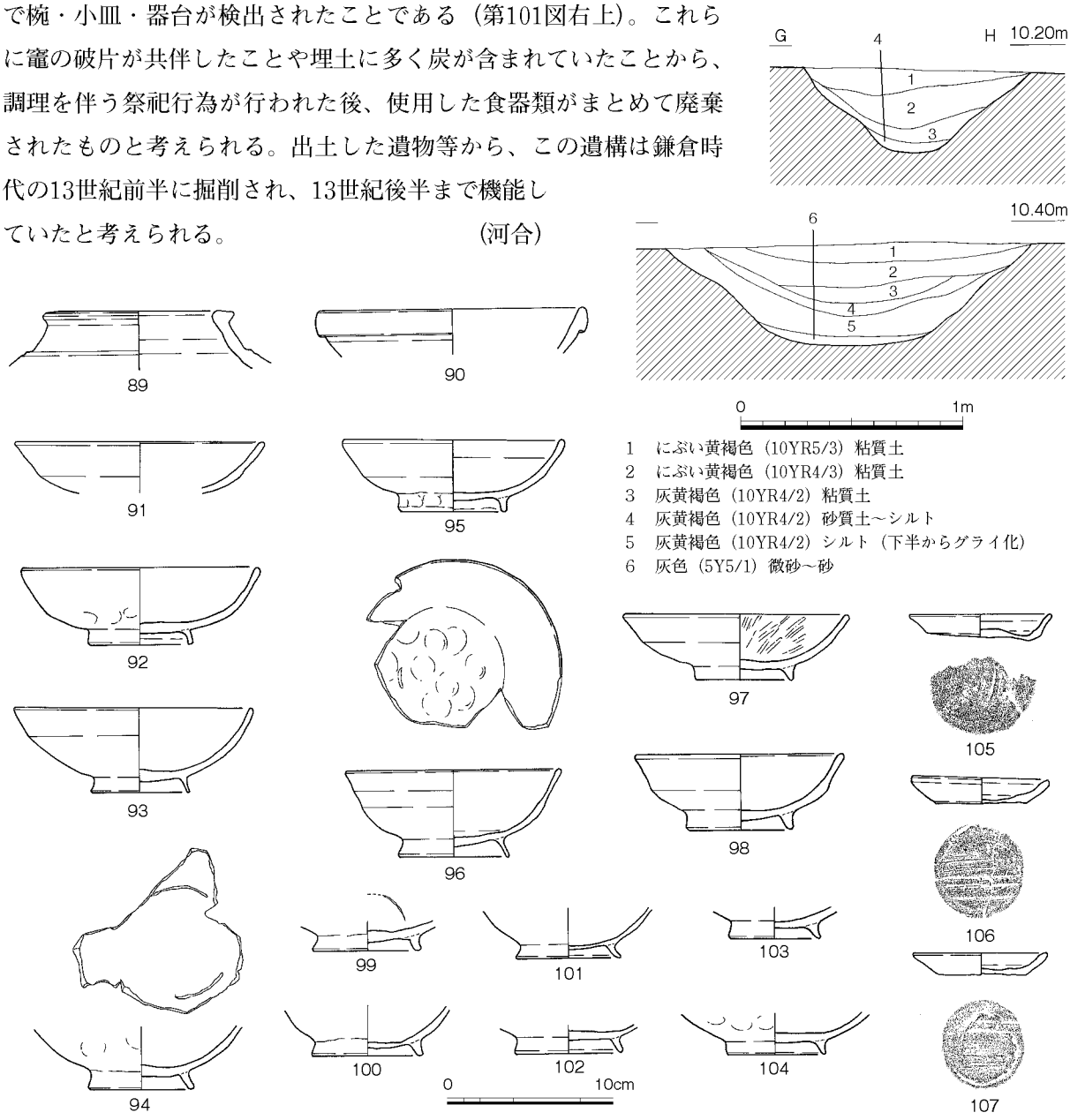
第99図　土壙22～24（1/30）

５　溝

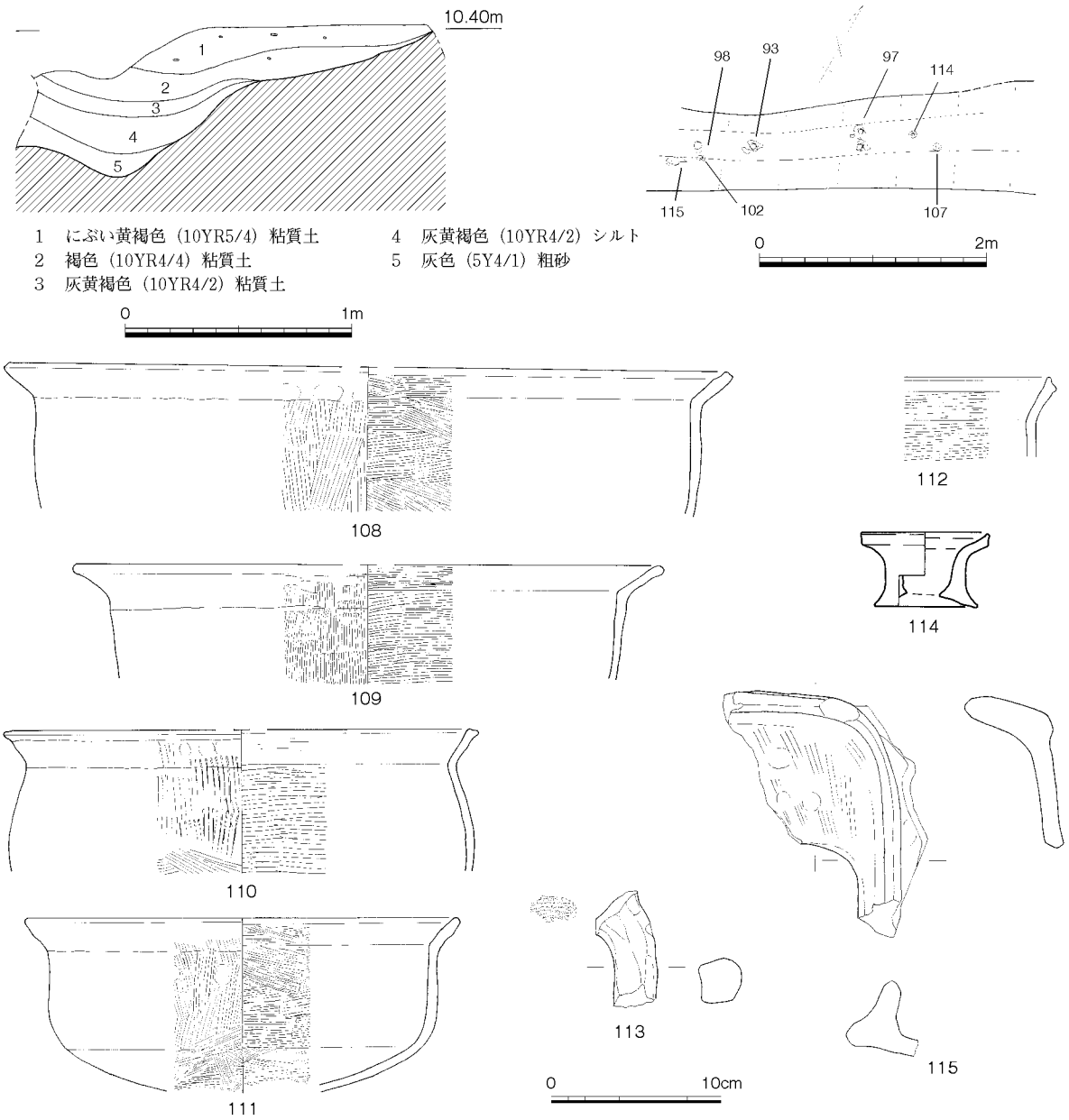
溝１（第100・101図、図版15－２、18・19・20・21）

１区の北西端、現在の農道に沿う形で検出された溝である。最大幅約180cm、深さ約60cmを測る。埋土については、最下層が砂を多く含み、その上にシルト質の層が観察されることから、水が流れていたと判断される。また、この溝を境として、南東側には多くの柱穴があるが、北西側は少量の検出にとどまることからわかるように、遺構の量に多寡が認められる。これは、この溝が区画の役割を果たしていたことを示すものと考えられる。

遺物には須恵器短頸壺89・白磁碗90が認められるほかは、全て土師器または土師質の土器である。それぞれ、91～104が椀、105～107が小皿、108～112が鍋、113は鍋の脚部、114が器台、115が竈である。注目されるのは、検出できた部分のほぼ中央の底部近くから完形、もしくはそれに近い状態で椀・小皿・器台が検出されたことである（第101図右上）。これらに竈の破片が共伴したことや埋土に多く炭が含まれていたことから、調理を伴う祭祀行為が行われた後、使用した食器類がまとめて廃棄されたものと考えられる。出土した遺物等から、この遺構は鎌倉時代の13世紀前半に掘削され、13世紀後半まで機能していたと考えられる。（河合）



第100図　溝１（1/30）・出土遺物①（1/4）



第101図　溝１主要部断面（1/30）・遺物出土図（1/60）・出土遺物②（1/4）

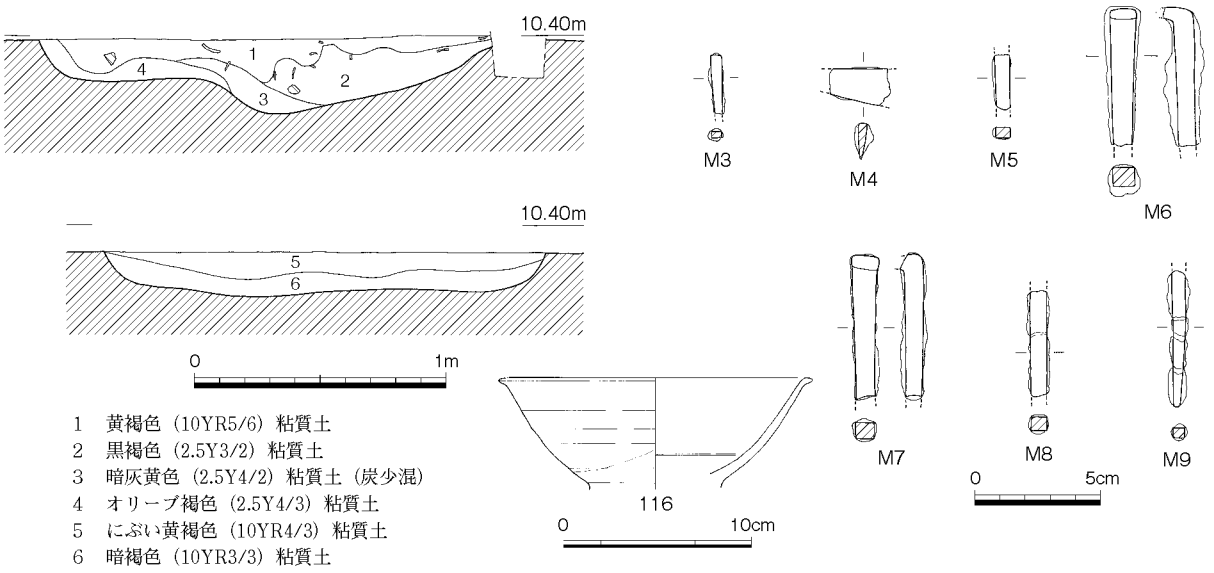
溝２（第102～107図、写真４、図版15－１・３・４、18・19・20・21）

１区の北西部、溝１にほぼ平行して掘削された溝である。最大幅約220cm、深さ約30cmを測る。当遺構は、出土遺物が少ない地点では周辺の埋土と区別が難しかったため、途切れ途切れの検出になっているが、溝１などと同様おそらく調査区を横切っていた可能性が高い。埋土は砂層やシルトが確認できないため、水が常時あるような状況でなかったと判断される。棟方向をほぼ平行させ、隣接するように検出された建物１付近に多量の遺物とともに炭が多く含まれていることが注目される。

遺物は、その多くが建物１と隣接する部分から集中して検出された。鉄製釘Ｍ３・５～９、刀子Ｍ４、青磁碗116の他はほとんどが土師器または土師質の土器である。出土したレベルからおおむね上層・下層に分けて取り上げを行っている。117～181が下層、182～230が上層であるが、顕著な時期差は認められない。構成器種には若干の差異が認められ、下層は小皿が目立ち、上層は鍋が多く含まれている印象がある。117～121・182～203が椀、122が杯、123～180・204～217が小皿、218～230が

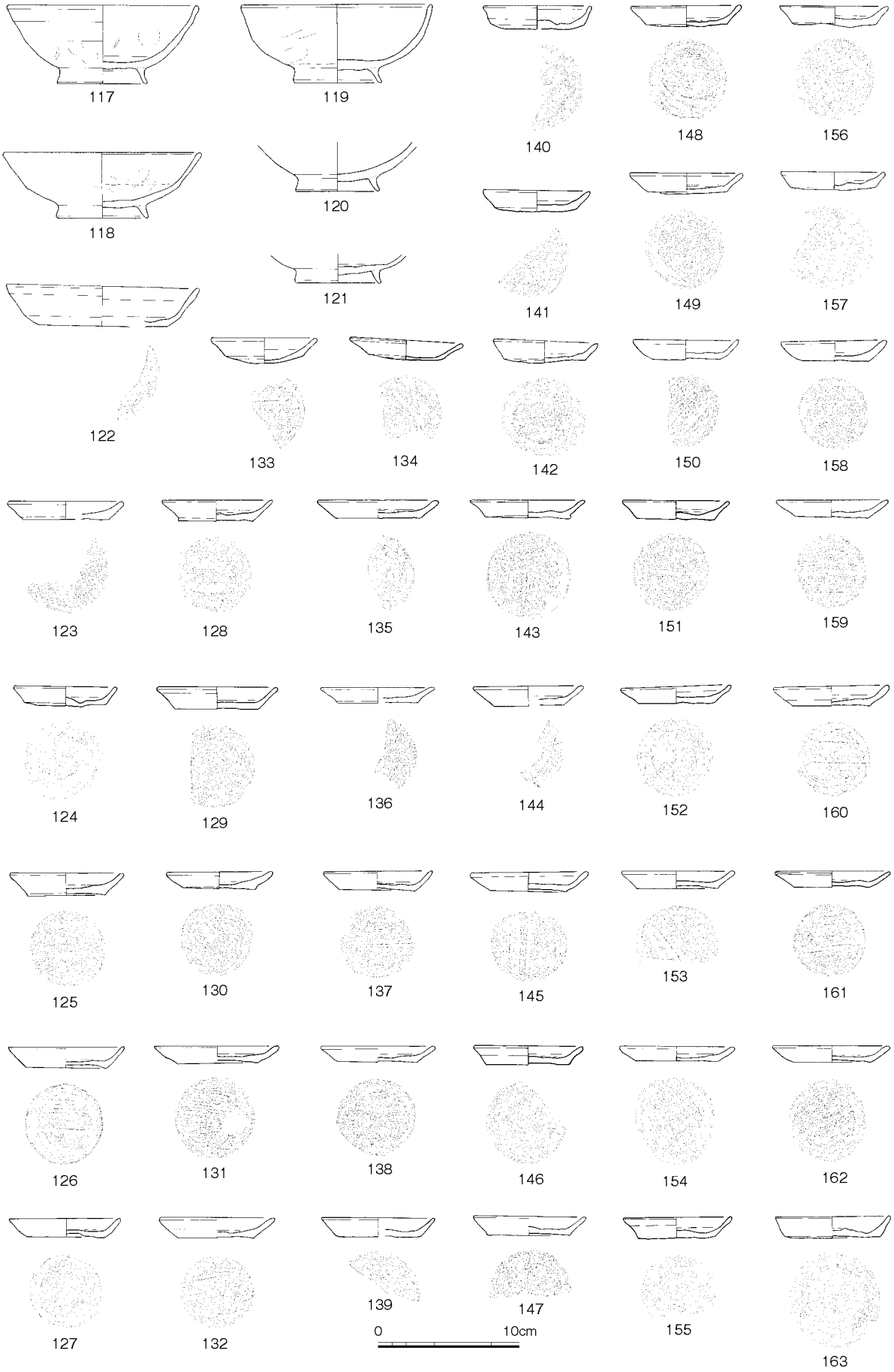
鍋である。これらのうち、小皿は完形に復元されるものが多い。このほか、図化していないが竈片も出土している。出土した遺物等から、この遺構は鎌倉時代の13世紀前半に掘削され、13世紀後半まで機能していたと考えられる。

小皿が図化したものだけで70個体を超える点や遺構の堆積の過程で数単位のまとまりが認められることから、一時期の廃棄行為の結果形成されたのではなく、数回にわたってまとめて廃棄された結果として土器溜まりが形成されたと考える。おそらく位置から考えるとそれは建物１からの廃棄と考えられ、出土遺物の組成からは、鍋での調理を伴った祭祀行為のあと、使用した土器をまとめて廃棄したと考えられる。遺物の量は異なるが、時期が重なり、遺物の器種構成や廃棄の形態も類似するこ

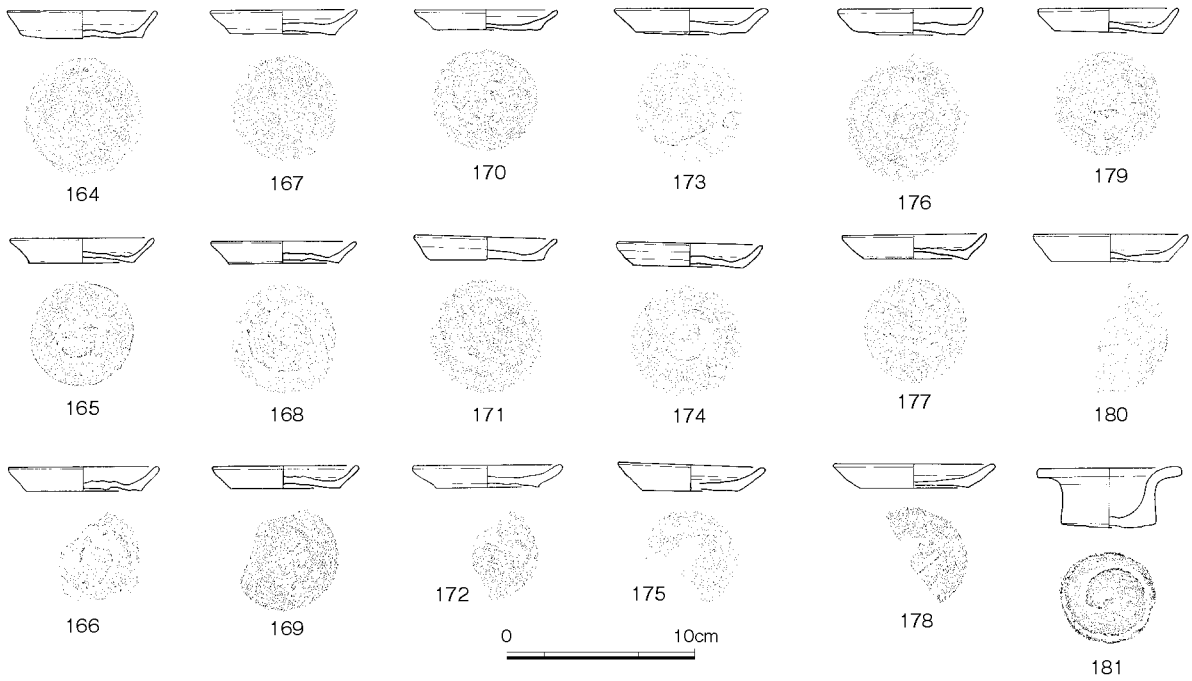


第102図　溝２（1/30）・出土遺物①（1/4・1/3）

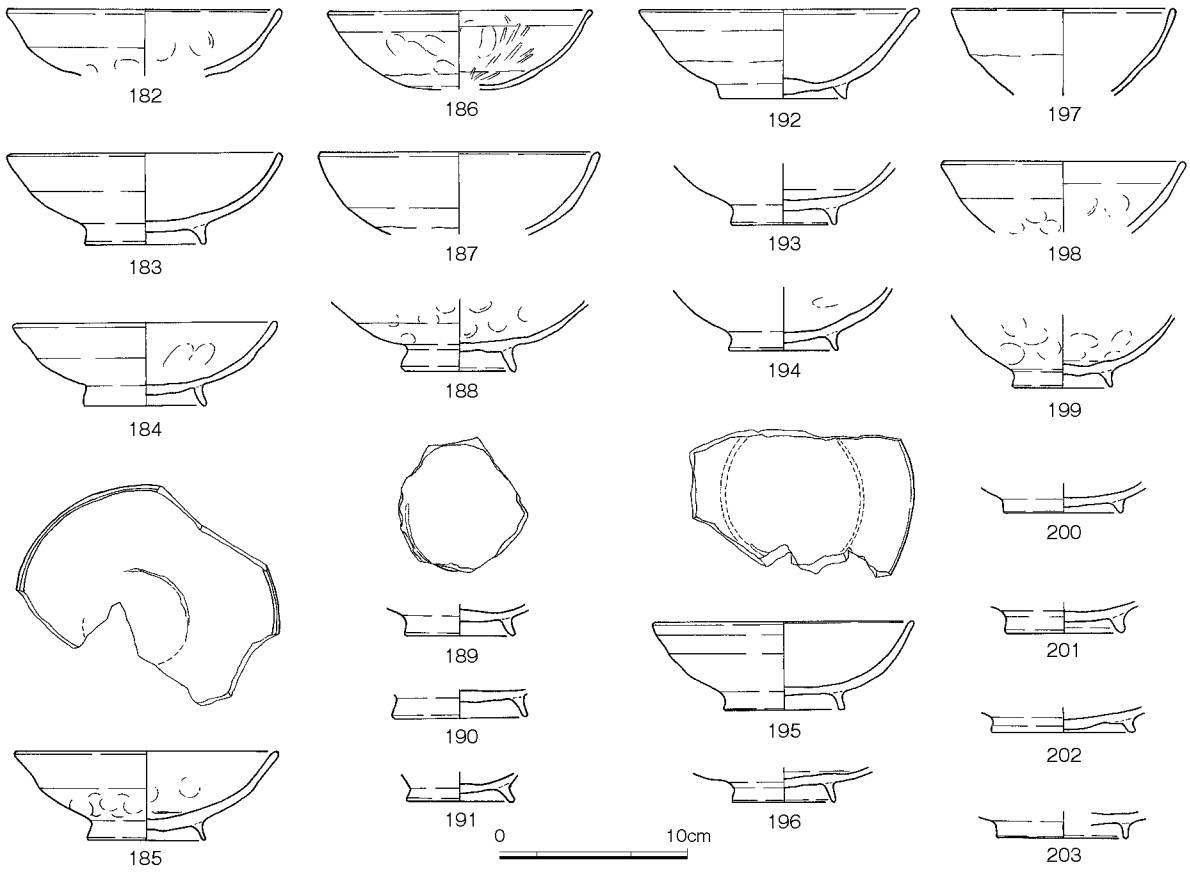
写真４　溝２作業風景（西から）



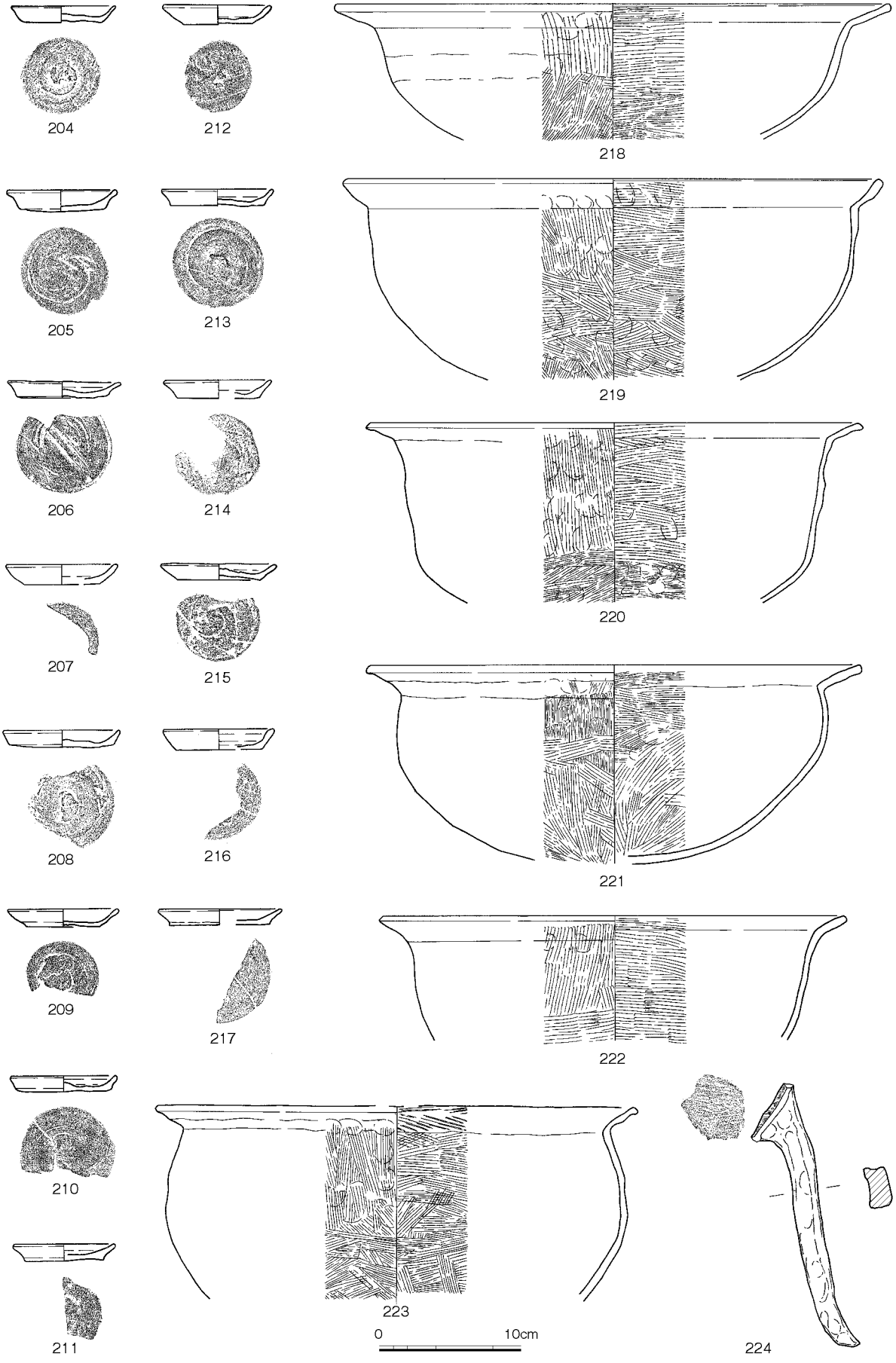
第103図　溝２出土遺物②（1/4）



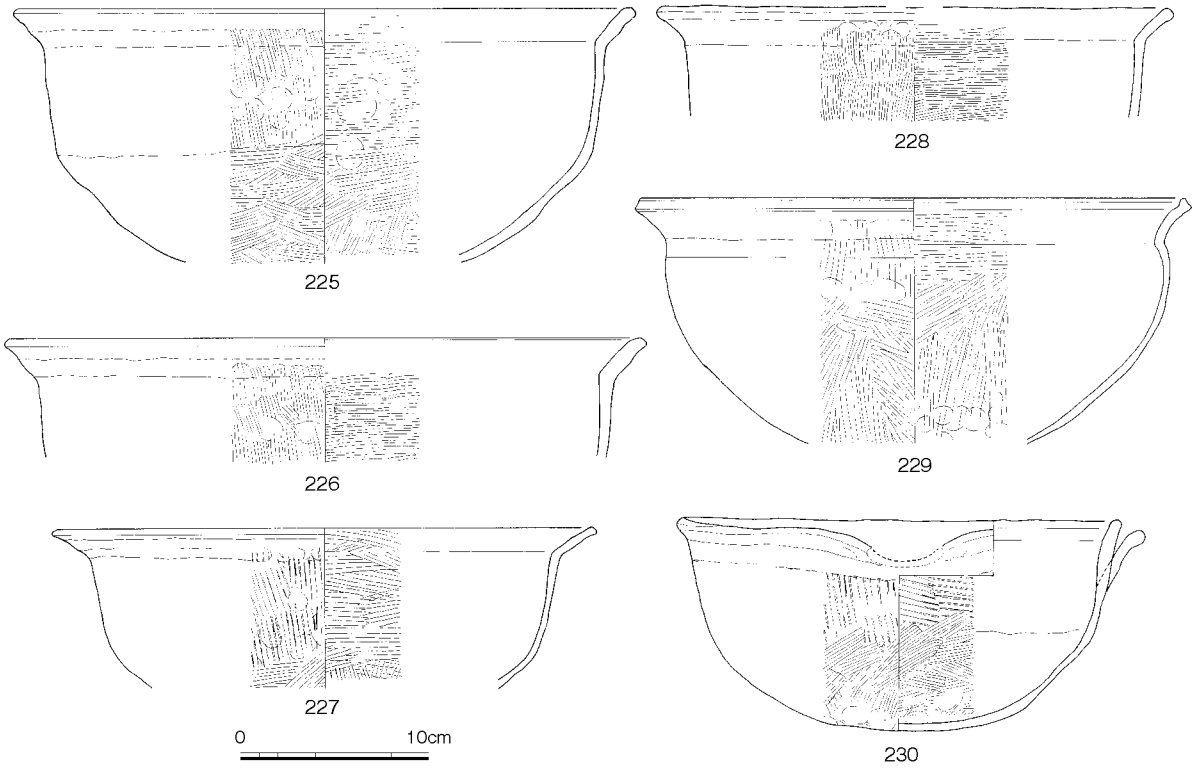
第104図　溝２出土遺物③（1/4）



第105図　溝２出土遺物④（1/4）



第106図　溝２出土遺物⑤（1/4）



第107図　溝２出土遺物⑥（1/4）

とから、近くの溝１の事例との関連性も注目しておきたい。

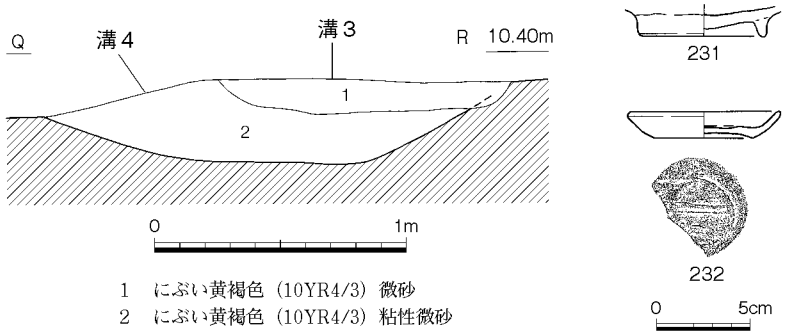
なお後述する土器溜まり１は、調査の都合で同時期に調査できなかったため、溝として把握できなかったが、その位置関係や遺物の共通性などから本来は当遺構に含まれていた可能性が高いと判断できる。（河合）

溝３・４（第108図）

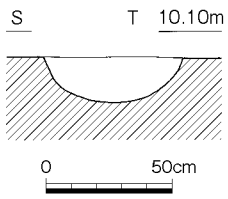
１区のほぼ中央部、溝２・14にほぼ平行して掘削された溝である。建物１・土壙４・井戸１などとは重複関係にあり、その切り合いからこれらに先行する遺構であると考えられるが、複雑に切り合った地点で形成された遺構であるため、正確な判断が難しい。

溝３は一部の検出にとどまっているが、溝４と切り合いの関係にあり、溝４が埋まる過程で掘り直した結果形成された遺構であると考えられ、溝４の上層としたものが溝３に相当すると考えている。溝３は最大幅約117㎝、深さ約13㎝、溝４は最大幅約183㎝、深さ約32㎝を測る。

出土遺物には土師器椀231と皿232などが認められる。これらからと埋土等から、この遺構は周辺の遺構と同様、鎌倉時代前半期を中心とした時期に属すると考えておきたい。（河合）



第108図　溝３・４（1/30）・溝４出土遺物（1/4）



にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土

第109図　溝５（1/30）

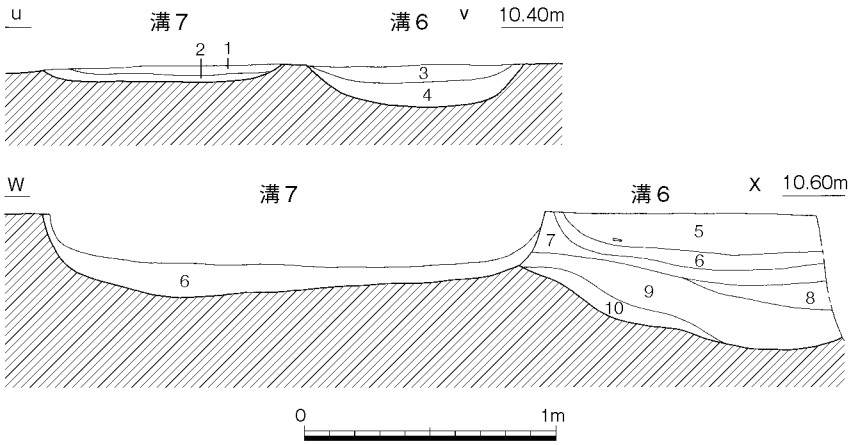
溝５（第109図）

１区の南西部に位置し、溝１に接点をもつ溝である。最大幅約70cm、深さ約17cmを測る。この遺構から南西は遺構が減少することと、周辺の建物に合った方向に掘削されていることから、屋敷地を区画する役割をもった溝である可能性が考えられる。含まれていた遺物と埋土等から、この遺構は周辺の遺構と同様、鎌倉時代前半期を中心とした時期に属すると考えられる。（河合）

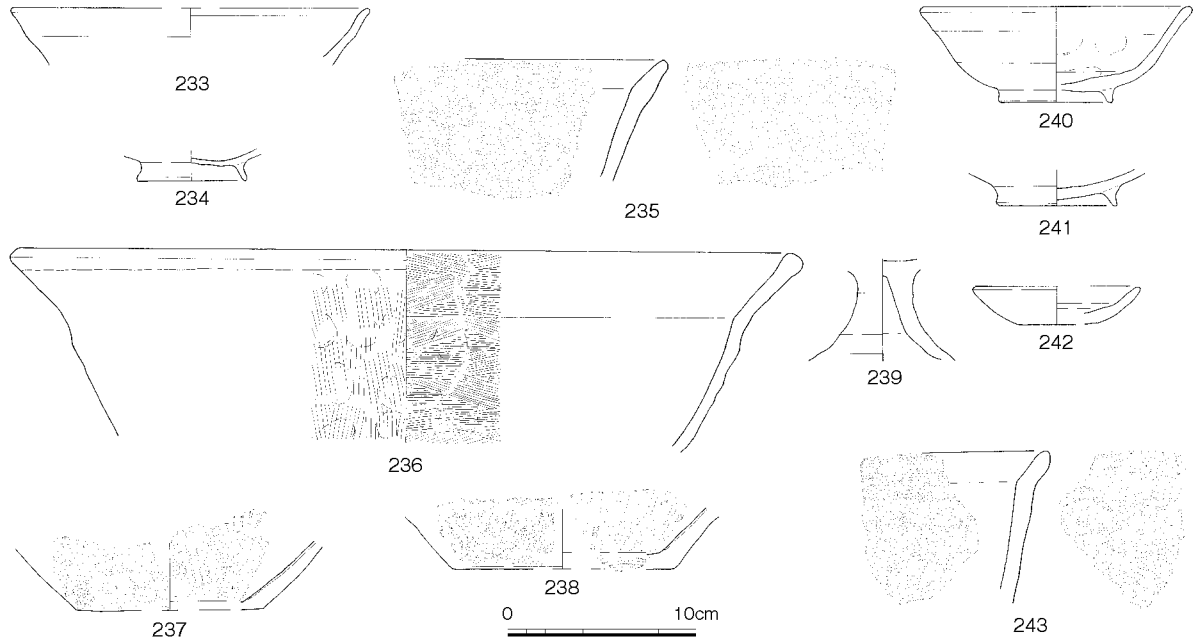
溝６・７（第110図、図版18）

２区の西側に位置する溝である。周辺の溝10・11とは流路の方向も一致し、重複関係が一部認められることから、これらは同時に存在したものではなく、同じ場所を意識して何度も掘削を繰り返した結果形成されたと考える。含まれる遺物と重複関係から溝６→７→10→11の順が想定できる。

溝６は最大幅約110cm、深さ約56cmを測り、溝７は最大幅約205cm、深さ約21cmを測る。溝６の遺物は233～239、溝７の遺物は240～243であるが、双方に顕著な時期差が見いだせない。須恵器高



1　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土（炭少含）
2　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土（粗砂少混）
3　暗褐色（10YR3/3）粘質土（炭・焼土粒含）
4　灰黄褐色（10YR4/2）粘質土（粗砂少含）
5　にぶい黄褐色（10YR5/3）粘質土（粗砂混じり）
6　にぶい黄褐色（10YR5/3）粘質土
7　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土
8　灰黄褐色（10YR4/2）粘質土～シルト
9　灰黄褐色（10YR5/2）シルト
10　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土



第110図　溝６・７（1/30）・出土遺物（1/4）

杯239は古墳時代の混入品であろう。

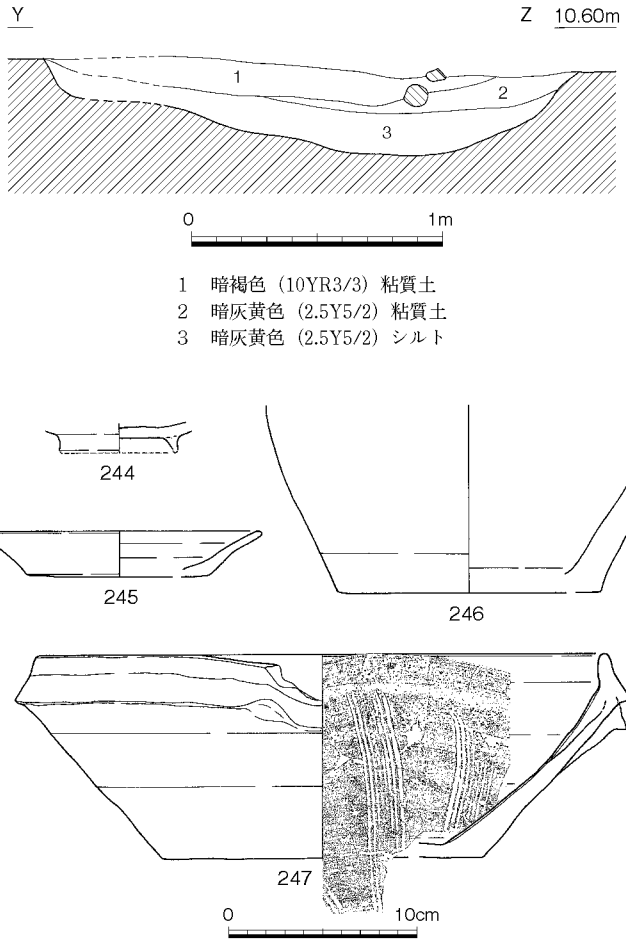
遺構の時期は、溝６・７の出土遺物が鎌倉時代前半期で、溝10が室町時代初頭頃と考えられるため、その間に機能していたと考えられる。これらの溝は現在の土地区画の方向にも一致しているため、室町時代以降もこの区画の意識は継承されていったと考えられる。　(河合)

溝８（第111図、図版20）

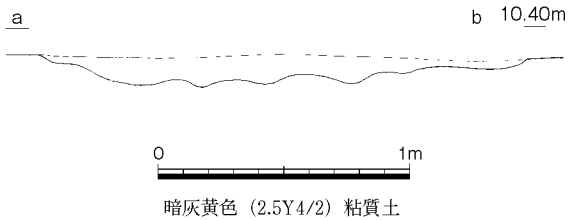
２区の北西側に位置する溝である。周辺の溝９、１区の溝１・14などと流路の方向は一致しており、当遺構もやはり現在の土地区画の方向と一致する。最大幅約209cm、深さ約42cmを測る。出土遺物には土師器椀244・杯245、備前焼壺246・擂鉢247などがある。擂鉢247が含まれていることから、この周辺の中世遺構で最も新しい室町時代中頃の15世紀後半代まで機能していたと考えられる。(河合)

溝９（第112図）

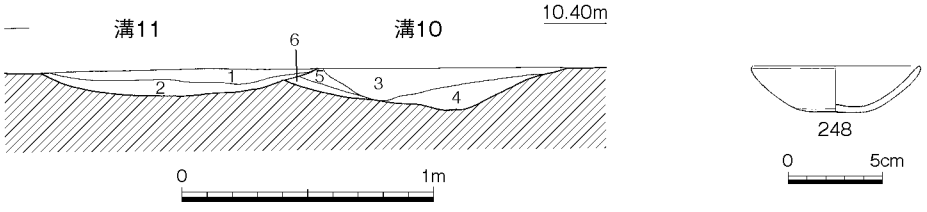
２区の北西側に位置する溝である。周辺の溝８、１区の溝１・14などと流路の方向は一致しており、当遺構もやはり現在の土地区画の方向と一致する。最大幅約200cm、深さ約11cmを測る。底面が不定形のため、人為的な溝ではない可能性もある。遺物はほとんど確認されていないが、層位的な関係から室町時代まで



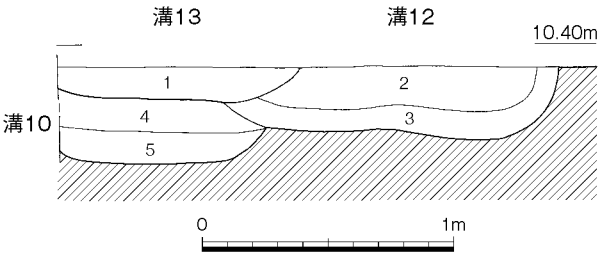
第111図　溝８（1/30）・出土遺物（1/4）



第112図　溝９（1/30）



第113図　溝10・11（1/30）・溝10出土遺物（1/4）



1　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土　4　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土
2　灰黄褐色（10YR4/2）粘質土　5　黄灰色（2.5Y4/1）砂
3　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土

第114図　溝10・12・13（1/30）

下がる可能性がある。（河合）

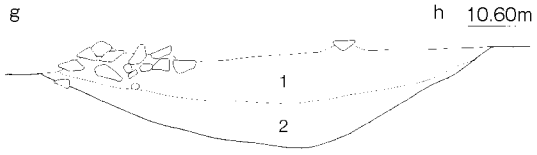
溝10・11（第113・114図、図版16－２、19）

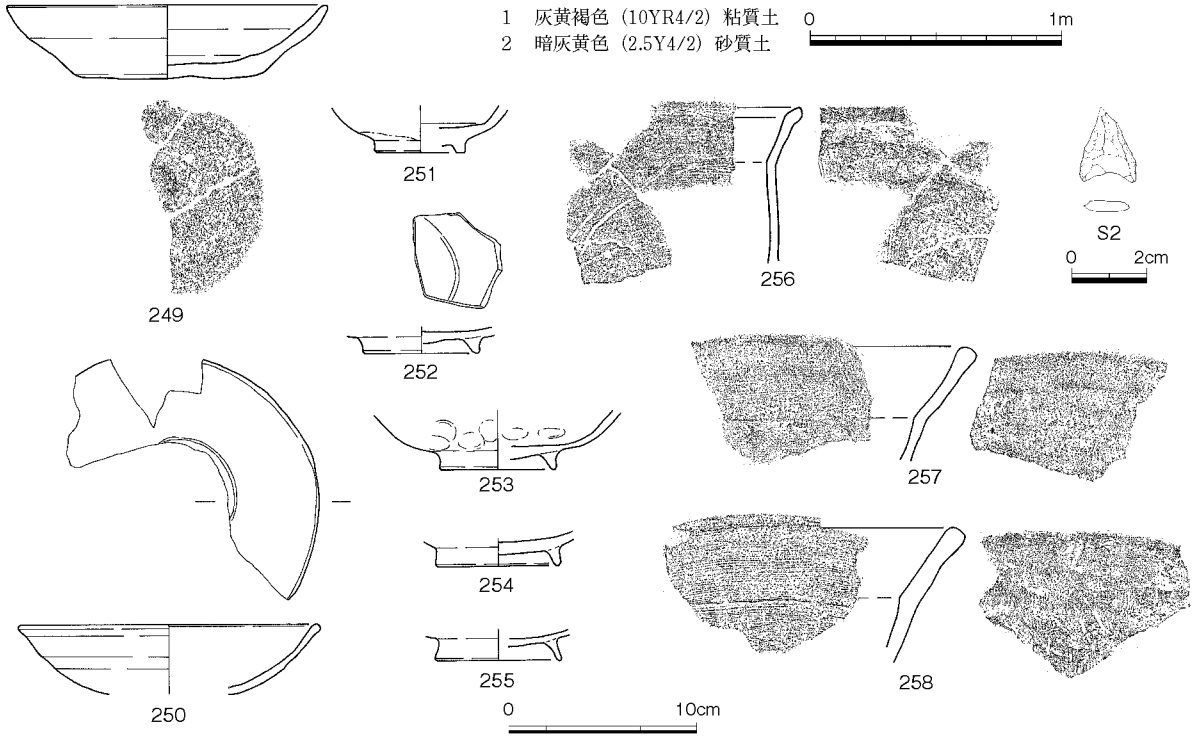
２区の西側に位置する溝である。周辺の溝６・７とは流路の方向も一致し、重複関係が一部認められることから、これらは同時に存在したものではなく、同じ場所を意識して何度も掘削を繰り返した結果形成されたと考える。含まれる遺物と重複関係から溝６・７よりも新しいと判断される。

溝10は最大幅約112cm、深さ約17cmを測り、溝11は最大幅約115cm、深さ約10cmを測る。溝10の埋土には、14世紀中頃、室町時代初頭に比定される土師器椀248が含まれているため、この遺構と切り合い関係にある溝11は室町時代以降に掘削された可能性が高い。後述する溝12・13もこれらの遺構を上から切っていることから、室町時代に下るものと考えられる。（河合）

溝12（第114・115図、図版21）

２区の中央を横断する溝である。溝６・７・10・11などと近い流路の方向をとるが、最南端では流路を南西方向に曲げ、溝１などに近い方向になる。埋土がわかりにくかったため、溝８との重複関係は不確かであるが、溝６・７・９～11を全て切っているため、これらよりは新しいと判断できる。最大幅約185cm、深さ約37cmを測る。土層は上下の２層に分けられるが、下層は時期の異なる溝になる可能性がある。出土遺物には土師器杯249・椀250





第115図　溝12（1/30）・出土遺物（1/4・1/2）

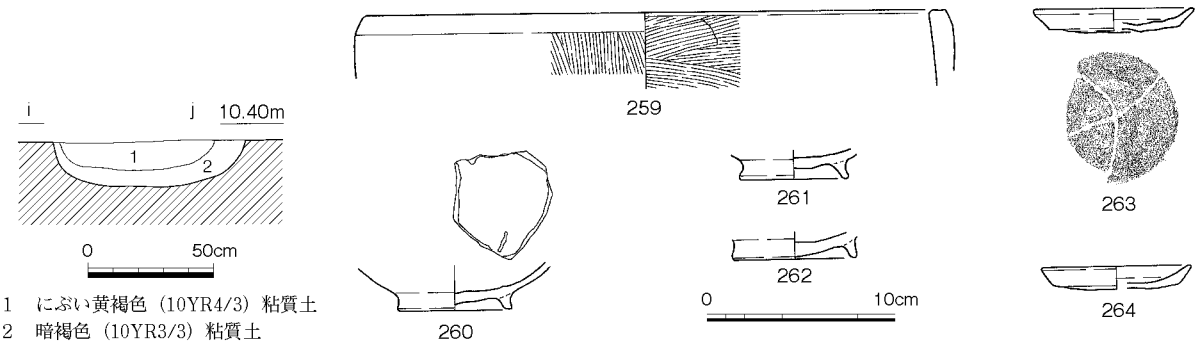
～255・鍋256～258のほか、弥生時代の石鏃Ｓ２があるが、いずれも２層の最下層に近い部分からの出土であり、この溝の時期を示すものではない。土師器は鎌倉時代前半に比定される一群で、石鏃Ｓ２は弥生時代の混入品であろう。遺構の時期は室町時代に下る溝10・11を切っていること、溝８に切られている可能性があることから、室町時代の14世紀中頃～15世紀後半の間に比定される。(河合)

溝13（第114図）

２区の東側に位置する溝である。北東のほか、南東側でも一部検出されているため、現在の農道に沿った流路が考えられる。時期の判断できる出土遺物はないが、南東側の断面で確認した土層において、室町時代前半代に比定される溝10・12よりも後出することが確認されたため、それよりも新しい時期に属すると判断できる。埋土から室町時代中頃までに収まると考えておきたい。　(河合)

溝14（第116図）

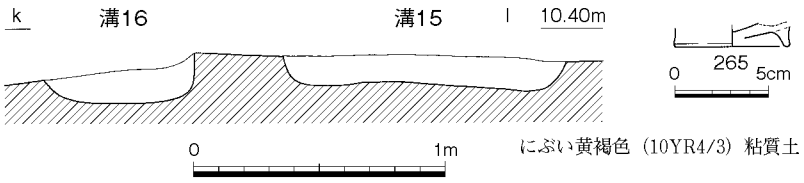
１区の東側に位置する溝である。溝１・３・４と同様、現在の土地区画に沿った方向に掘削されている。最大幅約72cm、深さ約18cmを測る。この溝を境として、南東側の遺構は少ない。この溝も溝１同様、区画の役割を果たしていたことを示すものと考えられる。出土遺物から、鎌倉時代前半期を中心とした時期に属すると考えられる。　(河合)



第116図　溝14（1/30）・出土遺物（1/4）

溝15・16（第117図）

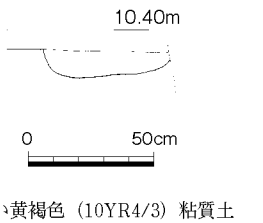
１区の西端に位置する溝である。溝15は溝１とは切り合い関係にあり、溝１より新しい遺構である。溝16との関係は不明であるが、双方は同じ方向に掘削されており、どちらかが掘り直された溝と考える。溝15は最大幅約110cm、深さ約11cmを測り、溝11は最大幅約65cm、深さ約13cmを測る。出土遺物から、鎌倉時代前半期に属すると考えられる。　(河合)



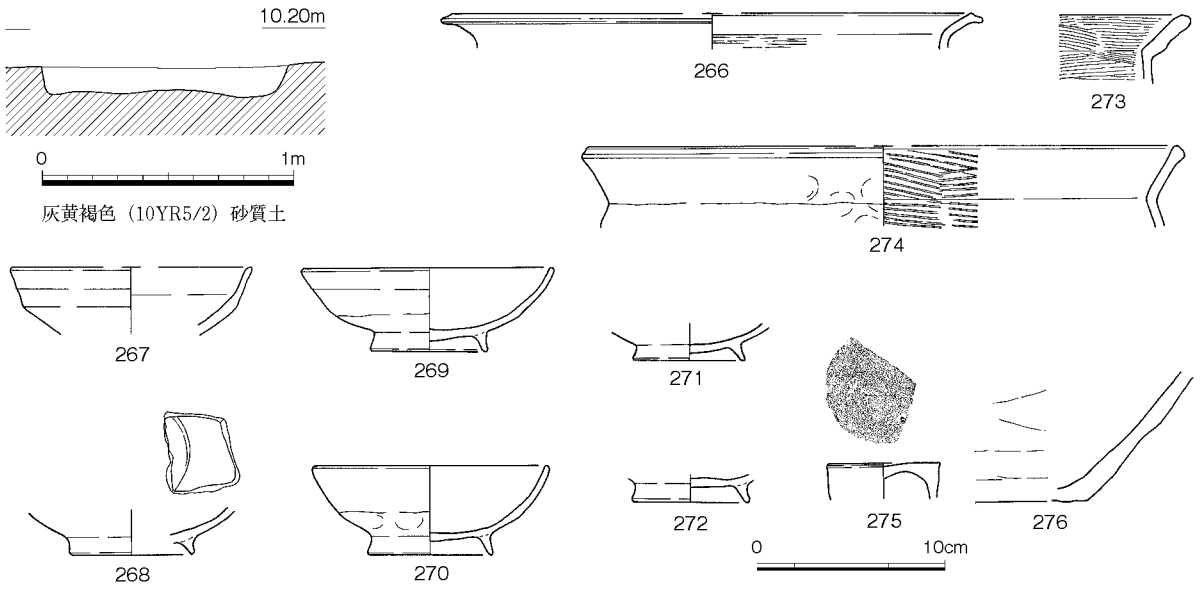
第117図　溝15・16（1/30）・溝15出土遺物（1/4）

溝17（第118図）

２区の南端に位置する溝である。流路の方向は、溝15・16とほぼ平行する。検出は調査区の都合上一部にとどまっており、最大幅約



第118図　溝17（1/30）

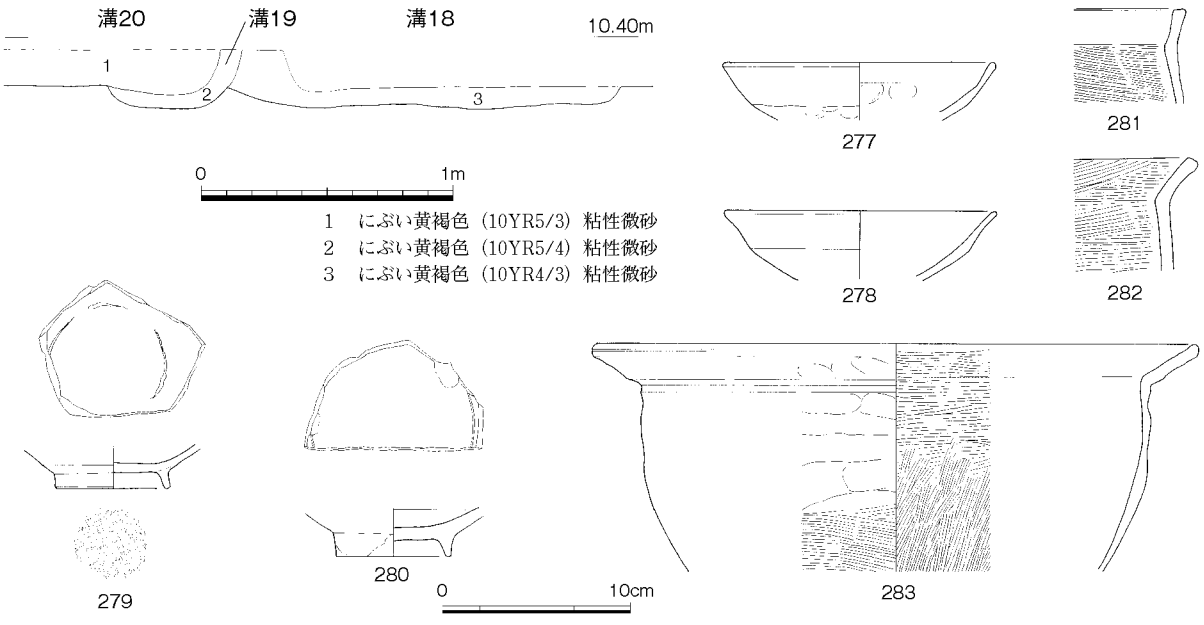


第119図　溝18（1/30）・出土遺物（1/4）

42cm、深さ約10cmを測る。出土遺物は確認できないが、埋土や溝の方向から、鎌倉時代前半期を中心とした時期に属すると考えておきたい。（河合）

溝18（第119・120図、図版18・19）

１区の中央から南側に位置する溝である。溝19～21とは流路の方向も一致し、重複関係が一部認められることから、これらは同時に存在したものではなく、同じ場所を意識して何度も掘削を繰り返した結果形成されたと考える。流路の方向は溝５などと一致し、現在の土地区画に沿った方向である。最大幅約197cm、深さ約45cmを測る。出土遺物には、土師器椀267～272・鍋266・273・274・器台275、須恵器捏鉢276などがある。この一群の溝の中では、当遺構が一番古いものであるが、出土遺物からみると大きな時期差はなく、鎌倉時代前半期を中心とした時期に属すると考えられる。（河合）



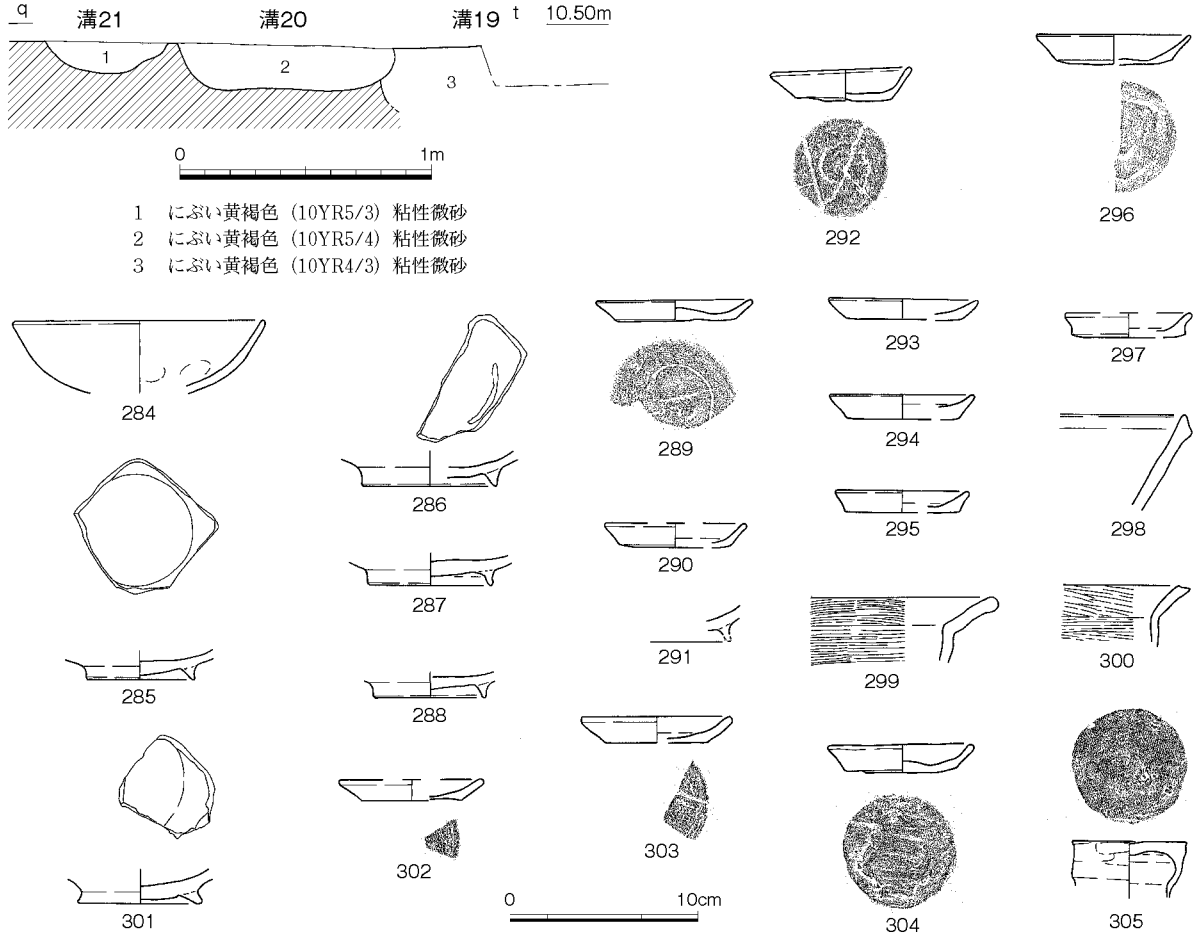
第120図　溝18～20（1/30）・溝19出土遺物（1/4）

溝19（第120・121図、図版20）

１区の中央から南側に位置する溝である。溝19～21とは流路の方向も一致し、重複関係が一部認められる。流路の方向は溝５などと一致し、現在の土地区画に沿った方向である。最大幅約60cm、深さ約23cmを測る。出土遺物には、土師器椀277～279・鍋281～283などがある。出土遺物から、鎌倉時代前半期を中心とした時期に属すると考えられる。（河合）

溝20・21（第120・121図、図版19）

１区の中央から南側に位置する溝である。溝18・19とは流路の方向も一致し、切り合いが一部認められる。重複関係から溝18・19よりも新しいと判断される。溝20は最大幅約８cm、深さ約17cmを測り、溝21は最大幅約69cm、深さ約12cmを測る。遺物は284～300が溝20、301～305が溝21から出土している。時期はともに、鎌倉時代前半期を中心とした時期に属すると考えられる。溝21は本来

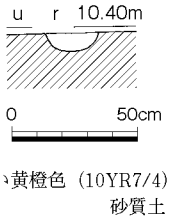


第121図　溝19～21（1/30）・溝20・21 出土遺物（1/4）

は東西に延びていたものと考えられるが、埋土が地山質で区別が難しかったため、一部の検出にとどまった。溝20との新旧関係は不明である。（河合）

溝22（第122図）

１区の東側に位置する溝である。最大幅約20cm、深さ約８cmを測る。今回調査した中で、現在の土地区画に沿わない数少ない遺構であり、遺物が皆無ということからも時期の特定が難しいが、埋土などから鎌倉時代前半期を



第122図　溝22（1/30）

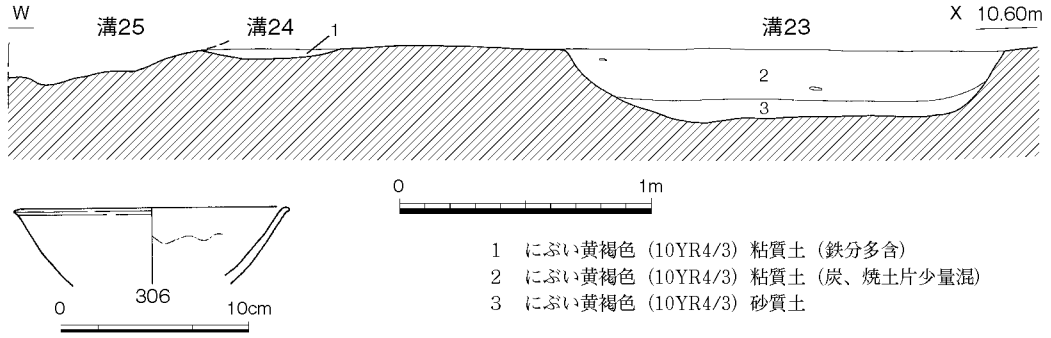
中心とした時期に属すると考えておきたい。（河合）

溝23（第123図）

２区の西南に位置する溝である。流路の方向は、近くの溝24のほか、室町時代の溝６・７・10・11、江戸時代の溝25とほぼ平行する。最大幅は210cm、深さ約27cmを測る比較的しっかりと掘削された溝である。図化できたのは青磁碗306のみであるが、細かい破片で定量の遺物が認められる。時期は、手がかりが少なく判断が難しいが埋土や溝の方向などから室町時代に下る可能性がある。（河合）

溝24（第123図）

２区の西南に位置する溝である。流路の方向は、近くの溝23のほか、室町時代の溝６・７・10・11、江戸時代の溝25とほぼ平行する。最大幅は約111cm、深さ約４cmを測る。埋土には鉄分が多く含まれる。溝25と土壙21に切られている。遺物の出土がなく、判断が難しいが埋土や溝の方向などから、遺構の時期は室町時代に下る可能性があると考えておきたい。（河合）



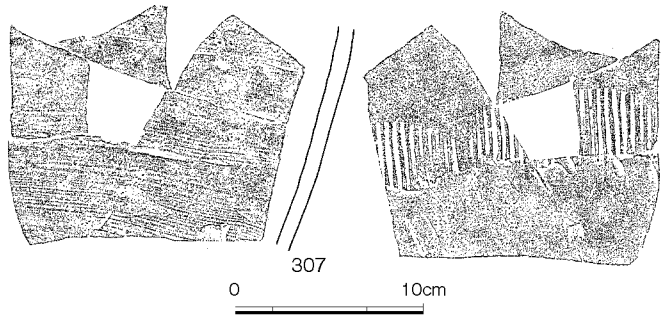
第123図　溝23～25（1/30）・溝23出土遺物（1/4）

６　土器溜まり

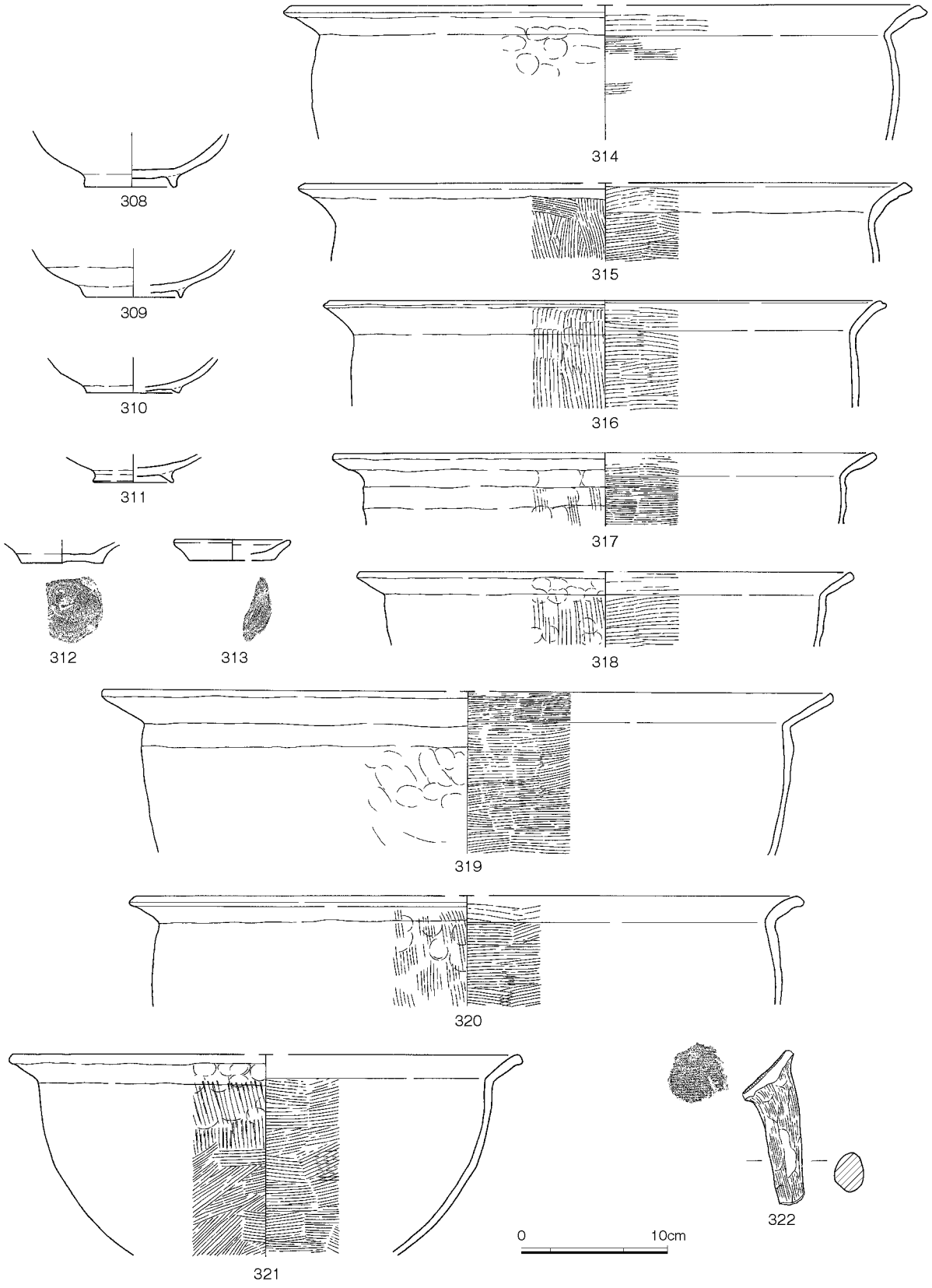
土器溜まり１（第124・125図、図版20）

溝２の北東側で列状にまとまって土器が出土したため、それを土器溜まり１として調査をした。前述したが、調査の都合で溝２と同時期に調査できなかったため、調査時点では溝として把握できなかったが、その位置関係から本来は溝２に含まれていた可能性が高いと判断している。

出土遺物には、陶器307をはじめ、土師器椀308～311・皿312・313、鍋314～322があり、土師器が多い傾向は溝２と同様であり、その中でも鍋が多い組成は上層と近似する。陶器307は灰白色を呈する陶質の焼き具合で、胴部に帯状押印文が認められることから、常滑焼の可能性が高い。この遺物は12世紀後半代に比定されるものであるが、当土器溜まりのほかの遺物の年代観から、鎌倉時代になってから廃棄されたものと考える。この遺物は、常滑焼の流通を考える上でも興味深い資料である。



第124図　土器溜まり１出土遺物①（1/4）

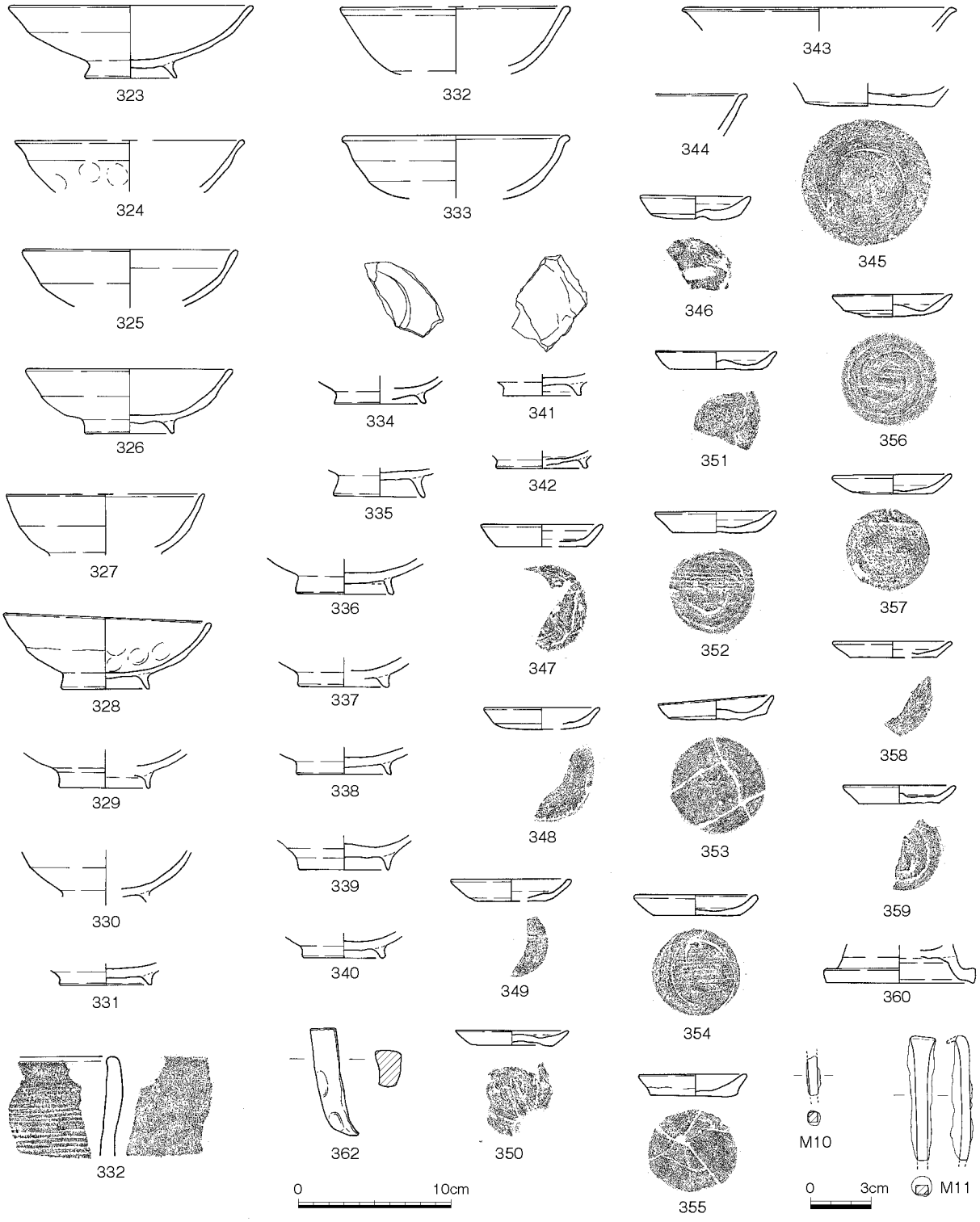


第125図　土器溜まり１出土遺物②（1/4）

当遺構は鎌倉時代の13世紀前半～後半までの遺物が含まれる点からも、本来は溝２の一部をなしていた可能性が高い。（河合）

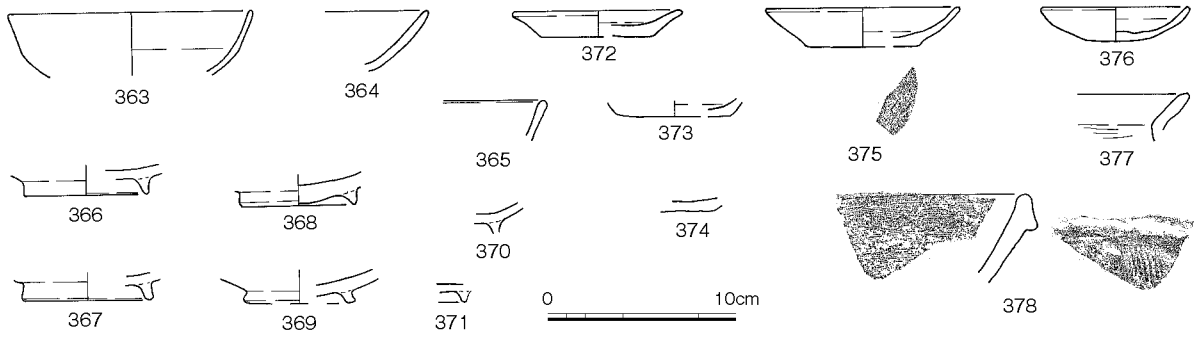
7　柱穴（第126～128図、図版14－４・５、19・21）

倉ヶ市遺跡では、１区西部から中央部の南半、建物１や柱穴列１～５を中心とする（a）、１区中央部から東部北半の建物２を中心とする（b）、２区中央部東寄りの北端部を中心とする（c）の三つの地域には、それぞれ柱穴が集中しており、建物等として纏まる可能性が高いと考えられる。

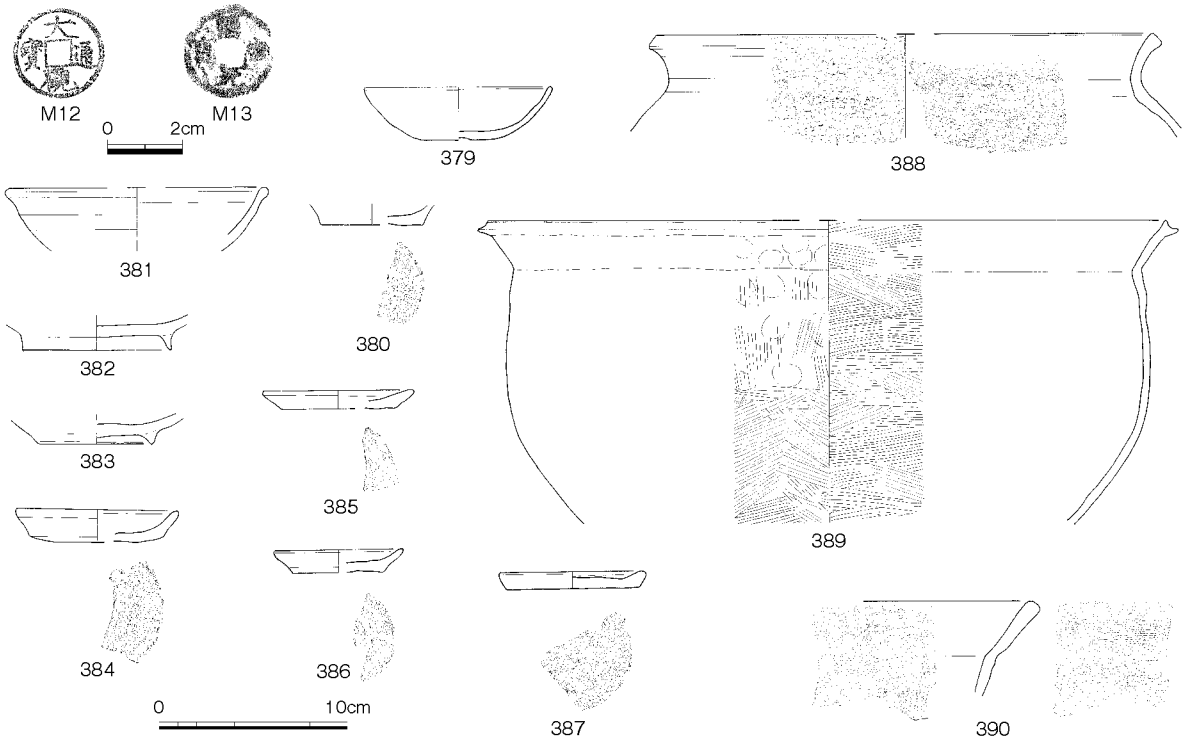


第126図　柱穴出土遺物①（1/4・1/3）

第126図は、ａで検出された柱穴の出土遺物で、Ｐ１から完形で出土した高台付杯323をはじめ大半は、土師器の杯・椀・皿などであるが、P20・P21では細片ながら青磁碗の口縁部片343・344がある。また、高台部片330・331はＰ８から、高台部片342・小皿346はP19から、小皿351～353はP27から、竈片361は椀325とＰ３から、鍋の脚片362は小皿358・359とP32から出土している。第127図は、ｂで検出された柱穴の出土遺物で、土師器の杯・椀・皿などが多いがいずれも小片である。369はP41から出土した内黒土器椀、378は土師器の高台部片370とP42から出土した須恵質の捏鉢である。第128図は、ｃで検出された柱穴の出土遺物で、M12はＰ49から出土した「大観通寶」、M13はP50から出土した「熙寧元寶」である。また、382はP54から出土した瓦質土器、388はP60から出土した亀山焼の甕である。（内藤）



第127図　柱穴出土遺物②（1/4）

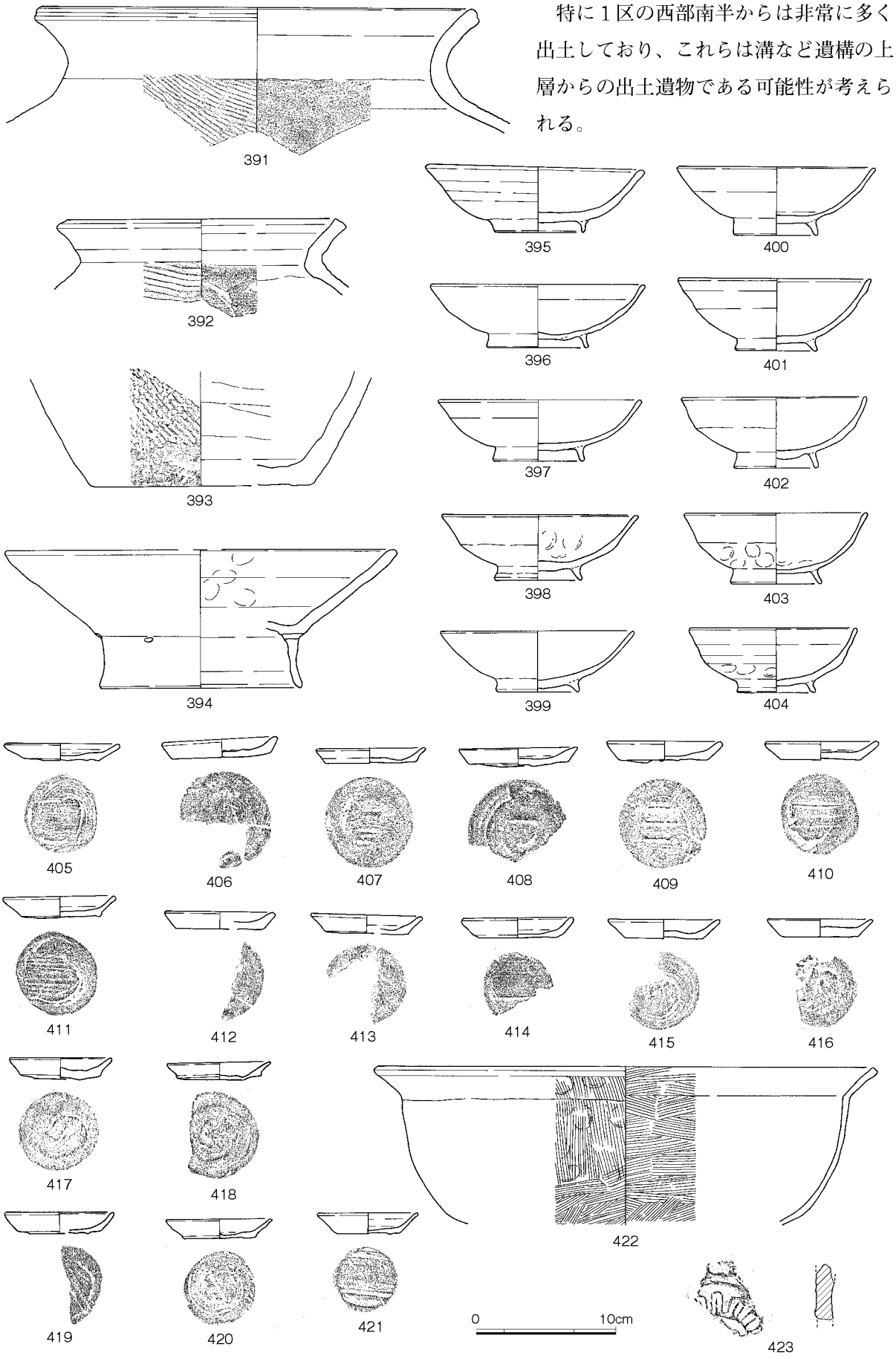


第128図　柱穴出土遺物③（1/4・1/2）

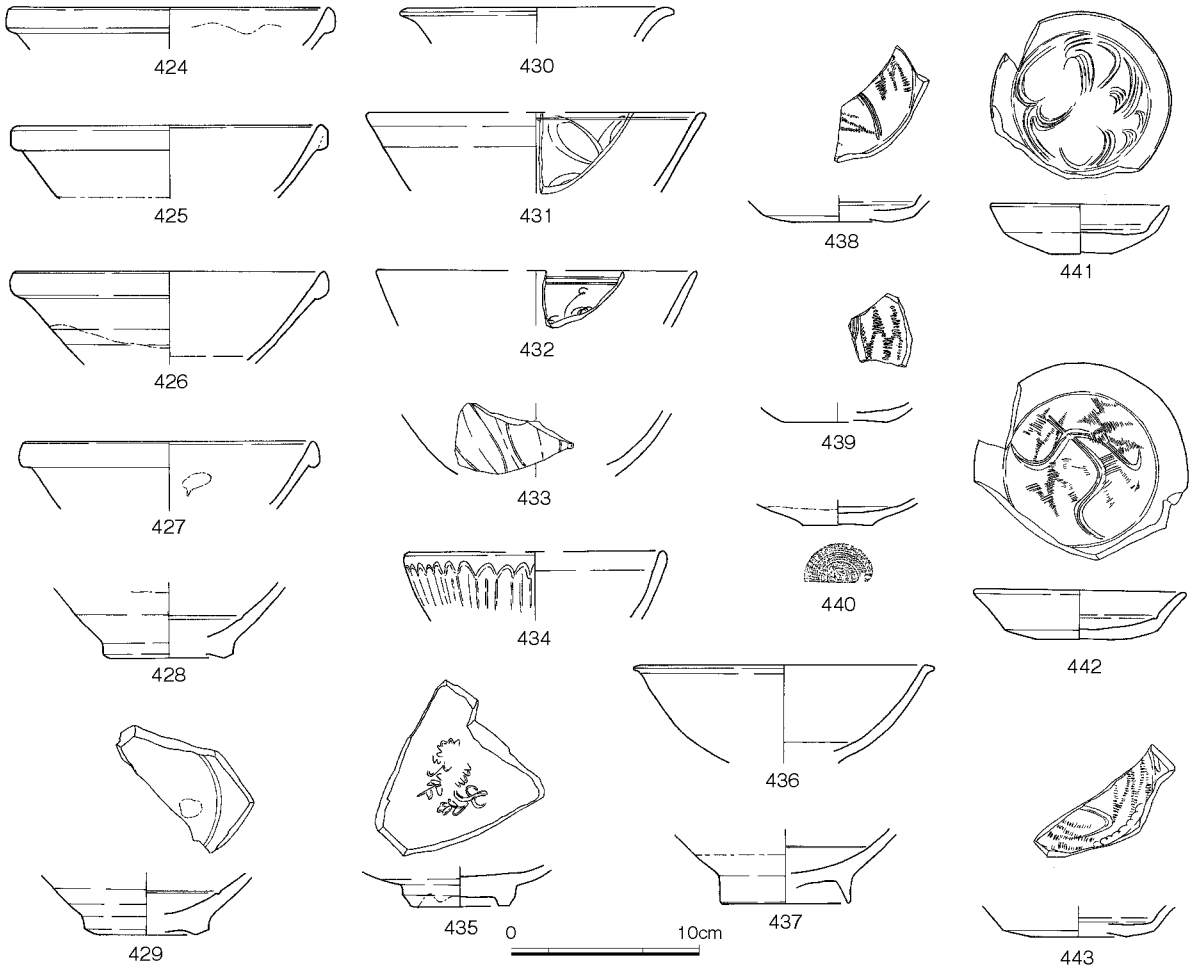
8　遺構に伴わない遺物（第129～132図、図版19・20・21）

倉ヶ市遺跡の遺構に伴わない遺物の中には、完形あるいはほぼ完形で出土しているものがある。

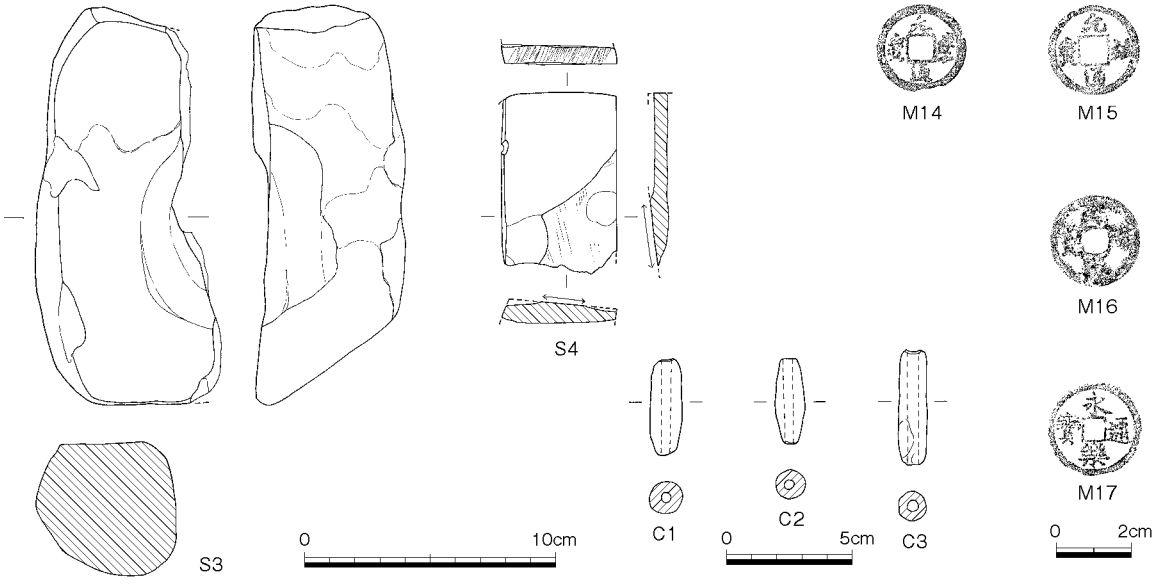
特に１区の西部南半からは非常に多く出土しており、これらは溝など遺構の上層からの出土遺物である可能性が考えられる。



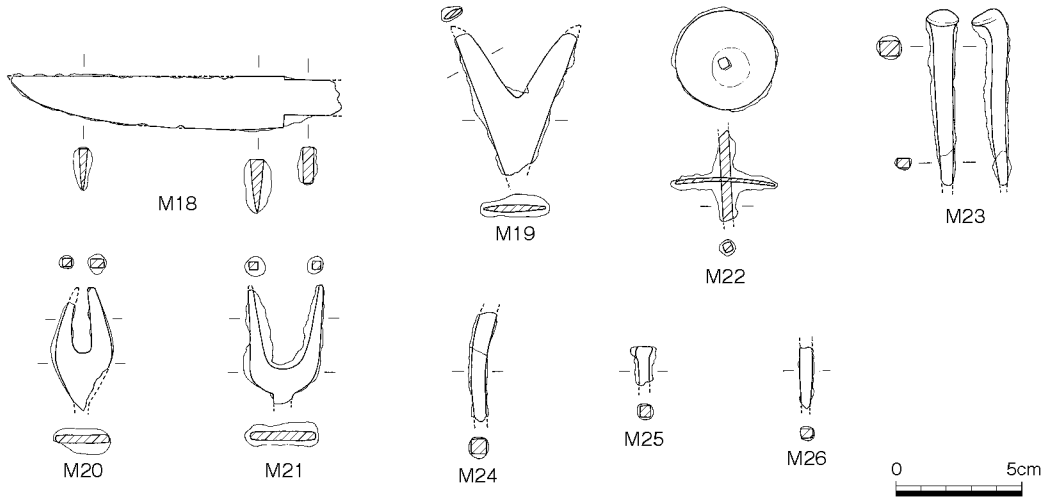
第129図　遺構に伴わない遺物①（1/4）



第130図　遺構に伴わない遺物②（1/4）



第131図　遺構に伴わない遺物③（1/3・1/2）



第132図　遺構に伴わない遺物④（1/3）

出土遺物のうち、第129図に図示した土器はいずれも１区から出土しているもので、亀山焼など須恵質の甕の他は、土師器の杯・椀・皿・鍋である。椀は、大半が灰白色を呈するものであるが、400はにぶい黄橙色を呈する。402は完形、403もほぼ完形のものである。また、小皿は浅黄橙色・にぶい橙色・灰白色を呈するものがあり、405・409～411は完形、420もほぼ完形である。

なお、423は２区東部の包含層中から出土した剣頭文状花弁の蓮華文軒丸瓦の瓦当片である。同じ文様の瓦は、延寿寺跡の遺構に伴わない遺物（第63図361）や岡山市教育委員会が実施した調査時にも出土し、「足守荘絵図」に描かれる延寿寺で使用されていた瓦である可能性が高いものである。

第130図はいずれも中国製の磁器で、426の白磁碗と432・434・435青磁碗以外は１区から出土している。424～429・437は白磁碗である。なお、424と429の白磁碗は同一個体の可能性がある。431～436は青磁碗で、431は内面に画花文が描かれた、433は外面に片切彫り蓮華文の龍泉窯系碗である。438～443は青磁皿で、441は見込みに片切彫り花文の描かれた龍泉窯系の平底皿である。また、438・439・442・443は見込みに片切彫りと櫛描きで花文の描かれた同安窯系の平底皿で、442は完形に近いものである。

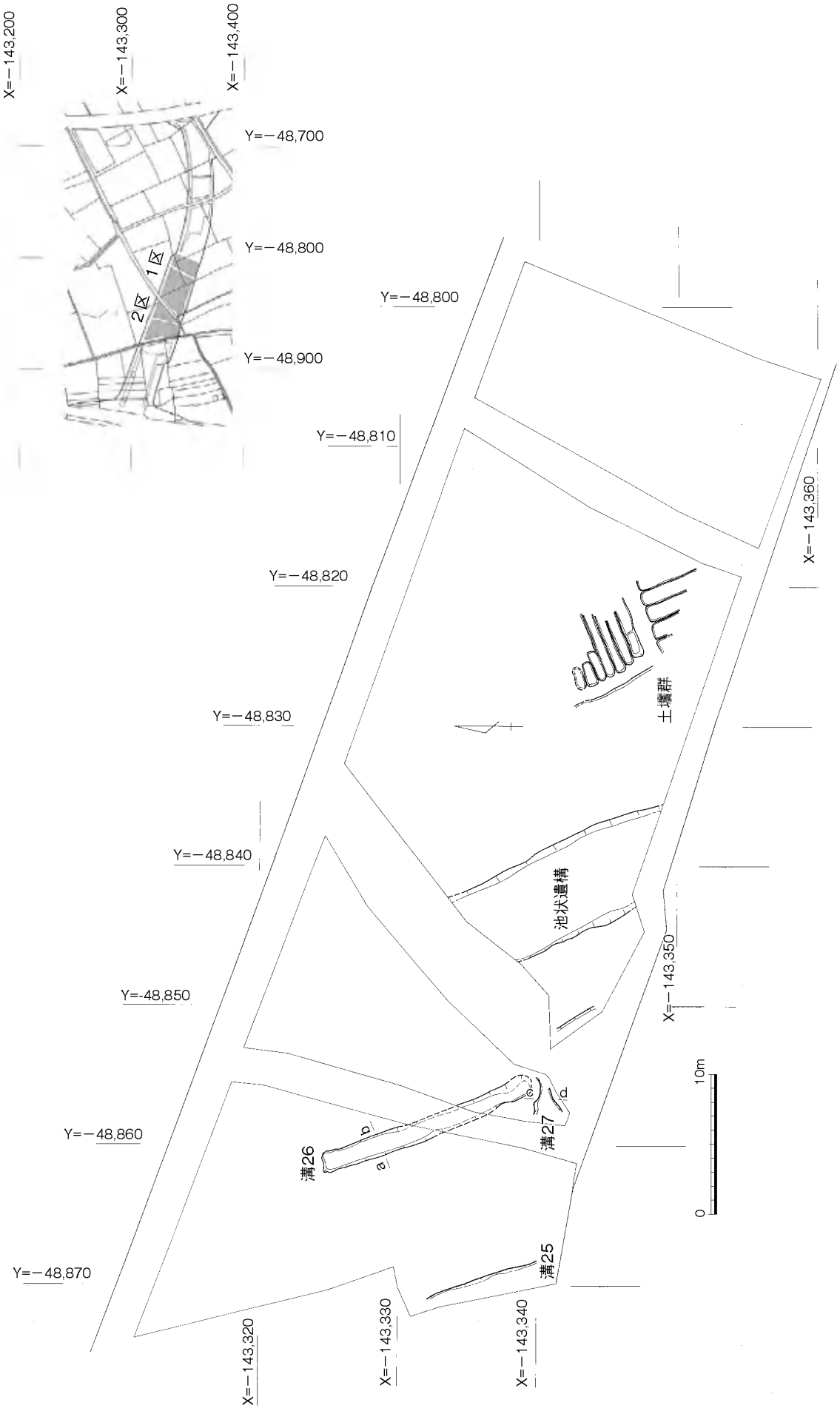
第131図は、１区から出土した砥石と土錘、２区から出土した渡来銭である。Ｓ３は細粒花崗岩製の砥石で全長159㎜を測る。Ｓ４は一部欠損しているが幅46㎜を測る粘板岩製の携行砥石である。Ｃ１～Ｃ３はいずれも土錘である。M14は「元豊通寶」（初鋳1078年）、M15・M16は「元祐通寶」（初鋳1086年）、M17は「永樂通寶」（初鋳1408年）である。

第132図は、２区から出土した釘M24以外は、はいずれも１区から出土の鉄器・鉄製品である。M18は刃渡り110㎜程を測る刀子、M19～M21は先端の形状が異なるもののいずれも二股鏃である。残存長および幅は、M19が57㎜・49㎜、M20が50㎜・25㎜、M21が48㎜・30㎜である。

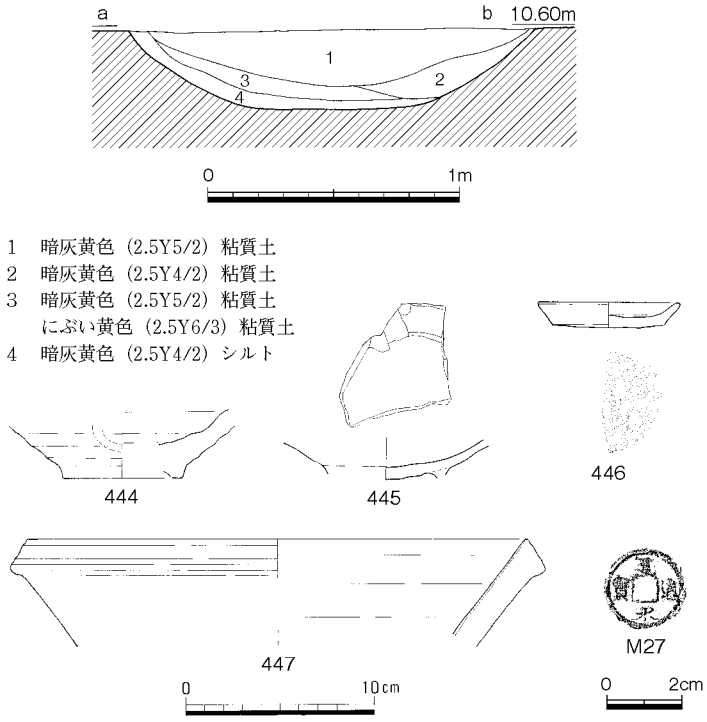
また、M22は、軸部の上下端は欠損している鉄製の紡錘車、M23～M26は釘である。　（内藤）

第３節　近世の遺構・遺物

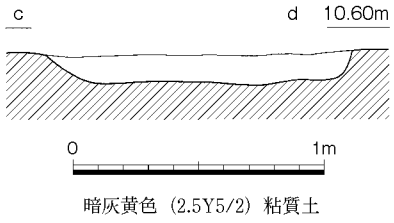
近世の遺構は、中世の遺構に比べると検出されたものが少ないが、１区の南で土壙群が一部検出が



第133図　近世の遺構配置図（1/400）



第134図　溝26（1/30）・出土遺物（1/4・1/2）



第135図　溝27（1/30）

できたように、この一帯が水田など、耕地として利用されるようになったためと考えられる。おそらく室町時代中期以降に耕地化が進み、現在の景観に近い状況になったのであろう。検出された遺構は全て現在の土地区画に方向が一致していることから、鎌倉時代に形成された土地区画を踏襲して、耕地化が行われたと考えられる。その証左の一つが２区のほぼ中央から南東にかけて検出された溝26である。この遺構は鎌倉時代から室町時代にかけて形成された溝６・７・10～12の溝群とほぼ同位置・同方向に掘削されており、この中で一番新しい溝12を踏襲して形成されている可能性が高い。

近世の遺物は出土量が少ない。耕地化が進み、集落が近くに形成されていないことを示すと考えられる。（河合）

１　溝

溝25（第123図）

２区の西南に位置する溝である。一部を確認したのみであり、詳細は不明である。室町時代の溝24を切って形成されている。（河合）

溝26（第134図）

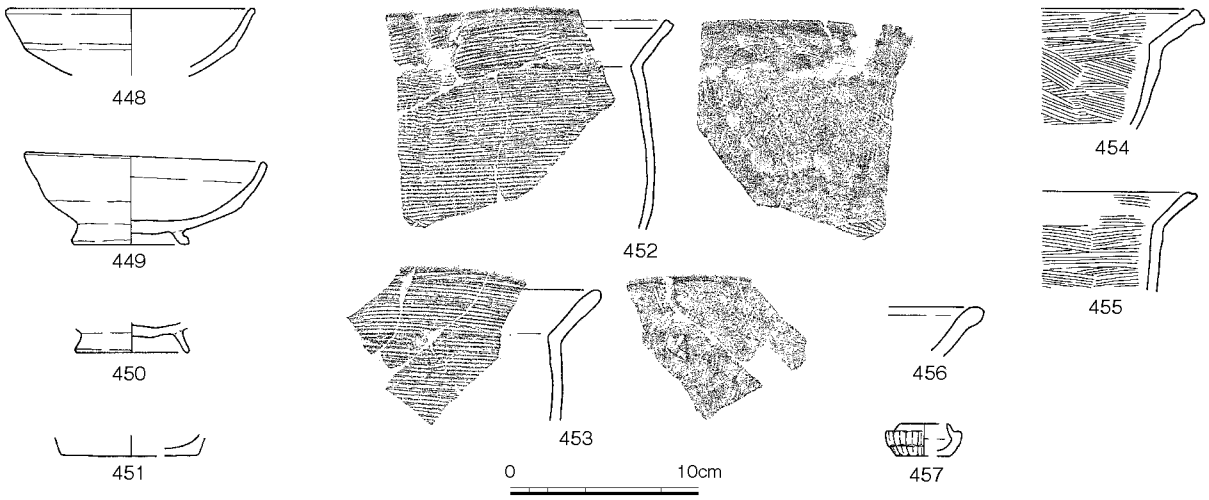
２区の西側に位置する溝である。流路の方向は、近くの溝27のほか、溝６・７・10～12の溝群とほぼ同位置・同方向に掘削されており、この中で一番新しい溝12を踏襲して形成されている可能性が高い。遺物は唐津焼鉢**444**のみがこの溝の本来の出土品であり、備前焼擂鉢**447**や明銭の洪武通寶**M27**は最下層の調査時に出土したものであり、本来は溝12に含まれる遺物である可能性が高い。（河合）

溝27（第135図）

１区の西端で検出された遺構である。最大幅は122cm、深さ約６cmを測る。流路の方向は溝26とほぼ直交するが、溝26との先後関係ははっきりしない。（河合）

２　池状遺構（第136図）

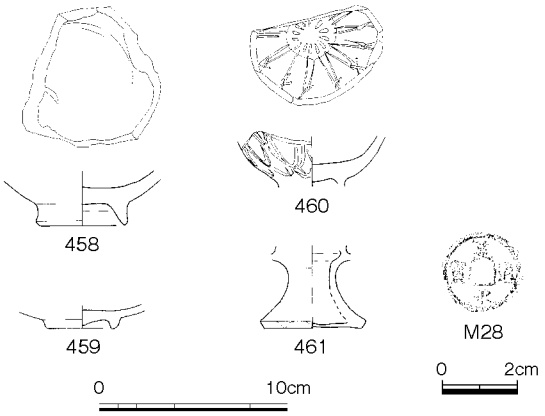
１区の西側で検出された遺構である。池状遺構としたが、溝（水路）の役割を果たした遺構と考える。遺物はどれも下層の中世のものである。青白磁の合子**457**は12世紀後半に遡る遺物である。（河合）



第136図　池状遺構出土遺物（1/4）

３　遺構に伴わない遺物（第137図）

第137図は、近世の耕作土・堆積土を掘り下げ中に検出された遺物である。肥前系陶器椀458、白磁皿459、肥前系染付碗460、京焼系灯明具461のほか、寛永通寶M28などがある。458は削り出し高台を有する碗であり、底径4.4cmを測る。時期は17世紀後半代に比定される。460は削り出し高台を有する椀であり、外面に二重網目文が、見込みには菊花と網目文がそれぞれ施されている。時期は、割筆で二重網目文を描く特徴から18世紀代に比定される。461は燭台に用いられたと考えられるものである。底径は5.1cmを測る。時期は18世紀後半～19世紀代に比定される。　（河合）



第137図　遺構に伴わない遺物（1/4・1/2）

第４節　小結

倉ヶ市遺跡は経緯で述べたとおり周知の遺跡でなかったが、今回の調査によって平安時代末・鎌倉時代～室町時代の集落遺跡であることが明らかになった。

ここでは遺構・遺物についてのまとめを行い、発掘調査の意義についてまとめておきたい。

遺構では、平安時代末・鎌倉時代前期～室町時代中期にかけての建物・柱穴列・井戸・土壙・溝などが検出された。時期の上限は柱穴列２のＰ２出土遺物の年代観が鍵となるだろう。現状では、鎌倉時代初頭の12世紀末頃を上限と考えているが、土師器椀27・28の相対的深さに注目すると、平安時代末までさかのぼる可能性もある。土壙４出土土器も近い時期の遺構と考えられる。しかし、その多くが、鎌倉時代前半期を中心とした時期のものであることは確かで、倉ヶ市遺跡の盛行した時期をう

かがい知ることができる。この時期は、検出された柱穴の密度から、南北方向に流れる溝９と溝１の間と溝１と溝14の間の２つのまとまりが抽出でき、２単位の屋敷地の存在が想定される。

注目されるのは、現在の土地区画と同じ方向に掘削された溝の存在で、現在の農道と平行している１区溝１はその顕著な例である。この溝は坪境となる可能性もある。この周辺で検出された建物、柱穴列も同様の方向で検出された。また、同じ方向に何度も掘削を繰り返した結果として、多くの溝が検出されたが、これらからは土地区画に対する強い規制・意識の存在を読み取ることができる。この傾向は遺構密度が小さくなるが、集落が継続する室町時代前半、その後耕地化していく室町時代後半～江戸時代にかけても同様であり、その意識が現代にまで継承されていることがわかる。つまり、この周辺の土地区画の起源が、少なくとも鎌倉時代にまでさかのぼると指摘できる。

さて、この土地区画の起源がどこまで遡れるかという課題については、今回の調査では鎌倉時代を遡る遺物が少なかったため詳細は不明である。しかし、平安時代末の嘉応元(1169)年に制作された『足守荘絵図』には条里の記載があり、今回調査された延壽（寿）寺跡の成果も参考とすれば、今回の溝の方向が北から西方向に少し振るあり方は、まさにこの条里の方向に沿ったものであると評価できる。つまり、土地区画に対する意識はすでに平安時代末には形成されており、それに沿って鎌倉時代以降の集落が形成された可能性が指摘される。『足守荘絵図』には、延壽（寿）寺の西側に集落の表現がみられることから、当調査区の近くで平安時代に遡る集落のまとまりが存在する可能性は高いと考える。

遺物には、土師器の椀・皿・鍋などのほか、亀山焼・備前焼・常滑焼・東播系須恵器・中国産青磁・白磁などが出土し、当時の流通や生活の一端を知ることができる。遺物の組成や消長は瀬戸内海沿岸の他の中世の遺跡と大きく変わることがない。ただし、亀山焼が一定量を占め、平安時代末・鎌倉時代前期～室町時代中期を通して出土がみられることは、当時の流通を考える上で興味深い。

このほか、鎌倉時代前半期の建物１に隣接した溝２から検出された多量に廃棄された土師器の皿・椀・鍋・竈が注目される。この遺構には上述したように、小皿が図化したものだけで70個体を超える点や遺構の堆積の過程で数単位のまとまりが認められることから、数回にわたってまとめて廃棄された結果として形成されたものと評価できる。出土遺物の組成が、ほぼ土師器のみで構成されることや、鉄製の鍋が普及する中、土師器の鍋（と移動式竈）自体が祭祀性を帯びた遺物であると指摘がなされることなどから、この一群の資料に祭祀性を強く読み取ることができる。これも瀬戸内海沿岸の他の中世の遺跡で確認される事例であるが、組成や出土状況から祭祀行為が具体的に読み取れる資料であるため、注目しておきたい。

平安時代に遡る可能性のある遺物のうち、包含層から出土した軒丸瓦423は、第６章で明らかにされるように、12世紀初頭～12世紀中葉の年代観が与えられる資料であり、近くに存在した延壽（寿）寺との関係を考察する上で、重要な資料である。青白磁の合子457など、この時期に属する貴重な資料が出土していることも注目しておきたい。

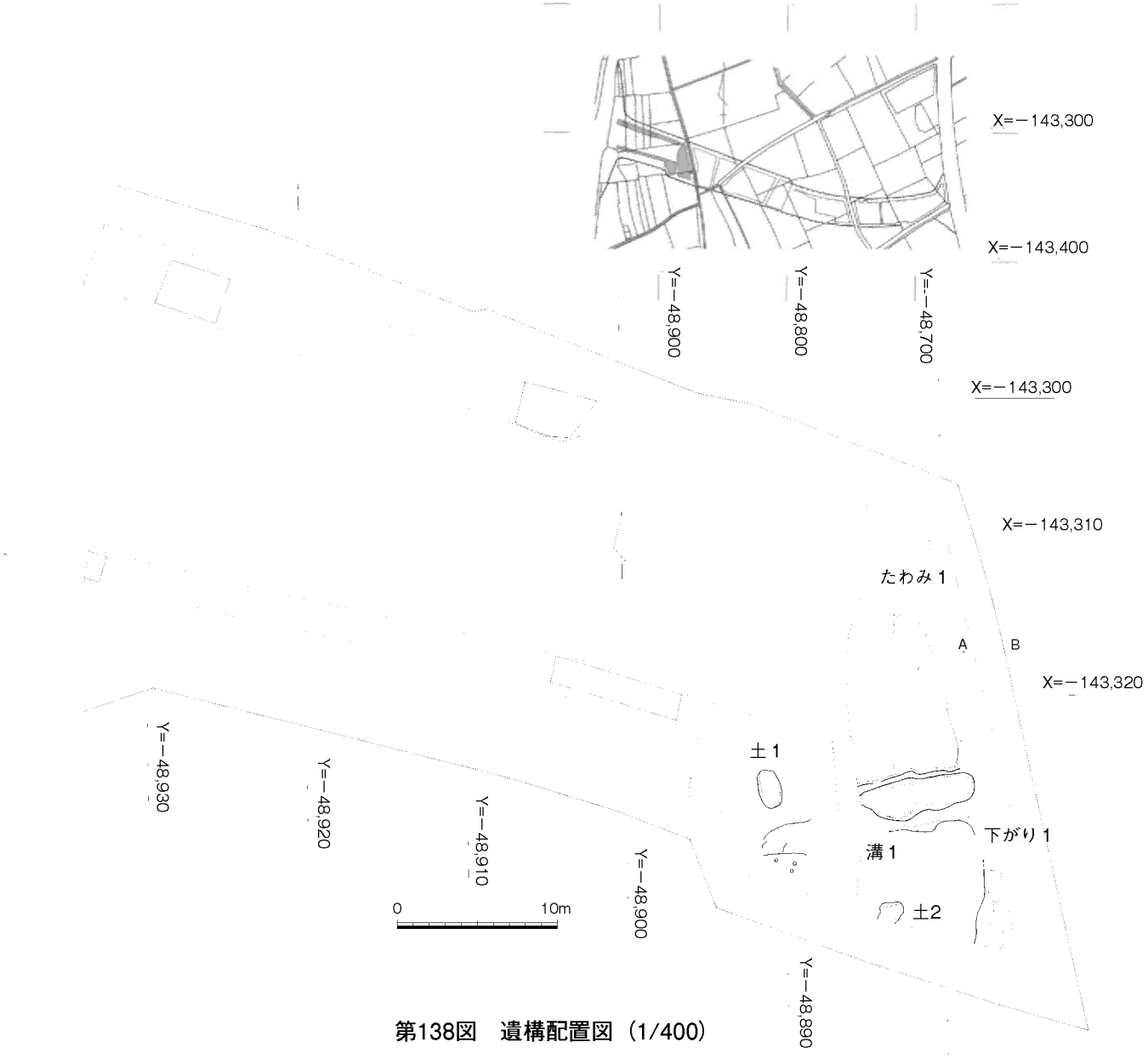
以上、今回の調査成果は当該地域の土地区画の歴史や『足守荘絵図』・延壽（寿）寺との関連性、当時の流通や祭祀の一端を知る上で、多くの情報を提供するものであった。いまだ情報が少ない『足守庄』の具体像を描き出していく上で、貴重な情報を付け加える調査成果と評価できる。　　（河合）

第５章　下土田遺跡

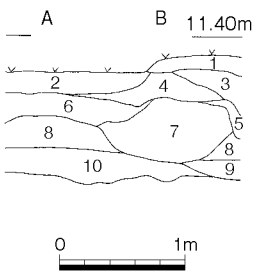
第１節　発掘調査の概要

下土田遺跡は、足守川東岸に位置する。調査地の東端を南北に流れる用水路が、大字の境界で、東は上土田、西が下土田となる。現在の地表面の高さは標高11.1ｍを測り、倉ヶ市遺跡よりも15～20㎝高い。現地形から判断すると、調査地付近を北端とする、紡錘形の自然堤防が南にひろがると推測される。

発掘調査では、用地の南北にトレンチを東西方向に設定し、足守川の堤防近くまで調査を行った。その結果、遺物は全域で出土するが、西へ向かって量が激減すること、東端のみで遺構が認められる



第138図　遺構配置図（1/400）



1　褐灰色（10YR4/1）砂質土
2　灰色（5Y5/1）粘質微砂
3　灰黄褐色（10YR6/2）細砂
4　にぶい黄褐色（10YR5/3）細砂
5　黄灰色（2.5Y6/1）粘質微砂
6　にぶい黄橙色（10YR7/2）細砂
7　にぶい黄橙色（10YR6/3）粘質微砂
8　にぶい黄褐色（10YR5/3）粘質微砂
9　にぶい黄褐色（10YR5/3）細砂
10　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質微砂

第139図　土層断面図（1/60）

ことが明らかとなった。また、４ヶ所で地表以下２～３ｍ程度掘り下げたが、無遺物の砂礫層が認められるだけであった。これをもとに調査区を改めて設定し、調査を実施した。

検出した遺構は、土壙２基、溝２条、柱穴３本、たわみ、下がりである。これらは、鎌倉時代末期以降のものである。倉ヶ市遺跡との境の用水路下については、トレンチで断面を確認した。その結果、南北方向の低位部とその埋没過程で浅い溝などが存在することがわかった。

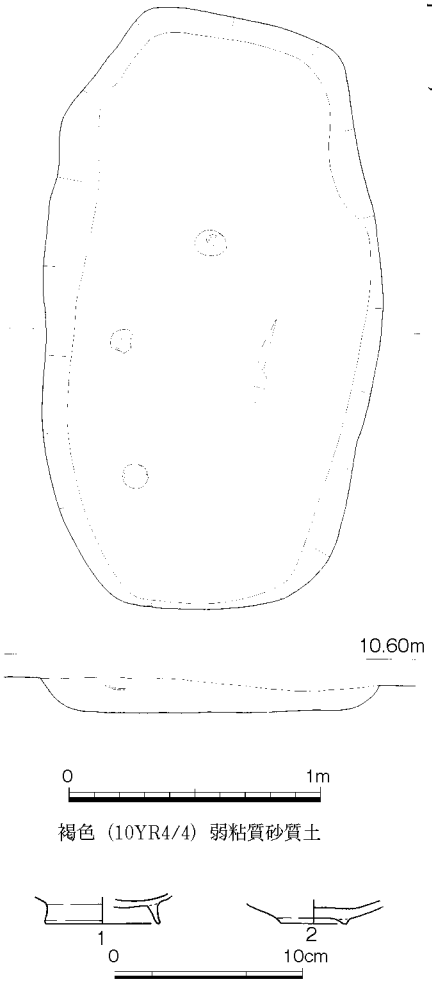
（柴田）

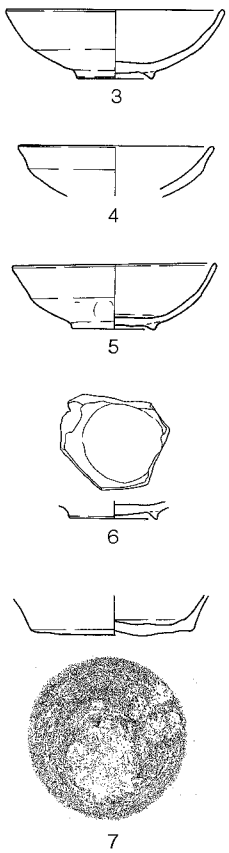
第２節　遺構・遺物

１　土壙

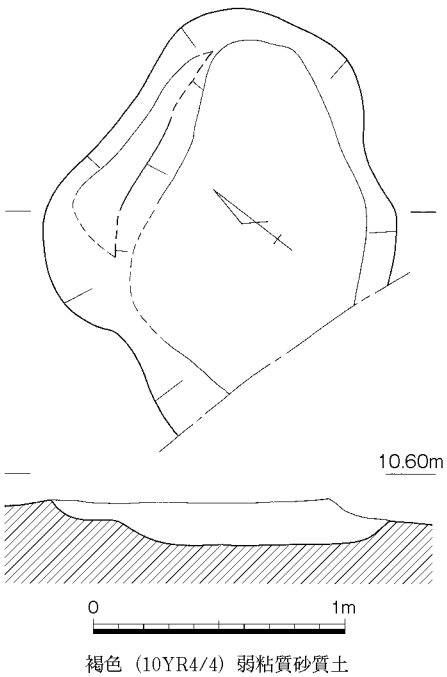
土壙１（第140図、図版22－１、23）

調査地の南東に位置する土壙である。基盤の砂礫層を掘り込んでいる上に、埋土も砂質土であり、検出は困難であった。掘り方平面形は楕円形で、長径238㎝、短径136㎝を測る。検出面からの深さは14㎝を測り、底面は平坦である。埋土内からは、土師器の高台付椀１～６、皿





第140図　土壙１（1/30）・出土遺物（1/4）



第141図　土壙２（1/30）

７が出土している。これらから、遺構の時期は、鎌倉時代末期と考えられる。　（柴田）

土壙２（第141図）

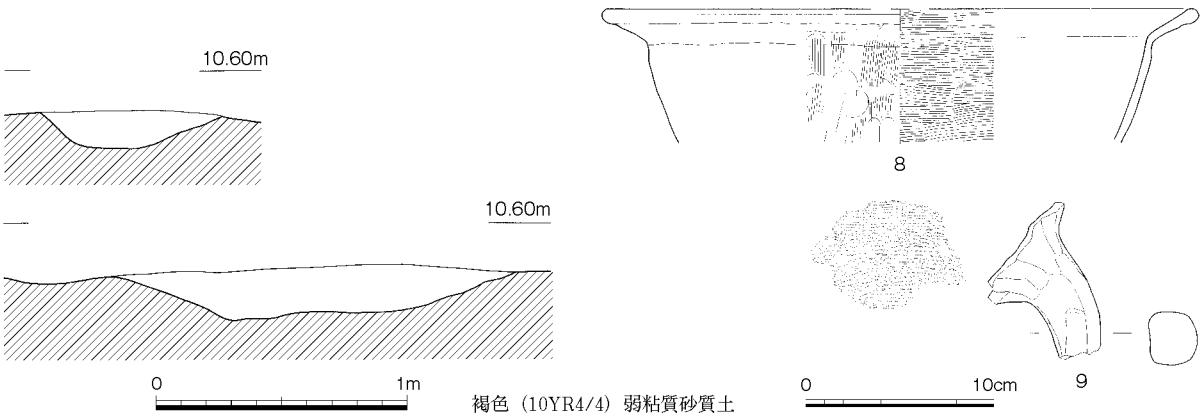
調査地の南東端に位置する土壙である。基盤の砂礫層を掘り込んでいる上に、埋土も砂質土であり、検出は困難であった。掘り方平面形は不整楕円形で、長径140㎝以上、短径139㎝を測る。検出面からの深さは17㎝を測り、底面は平坦である。

時期を特定できる出土遺物は認められなかったが、土層などから、遺構の時期は、鎌倉時代後半以降と考えられる。　（柴田）

２　溝

溝１（第142図、図版22－１・２）

調査地の南東に位置し、東西方向に平行してのびる２条の溝である。西側がどこまでのびるかはわからないが、東側は、下がり１につながっていると考えられる。検出面での幅は、北の溝で72㎝、南の溝で158㎝を測る。深さは、北の溝で15㎝、南の溝で20㎝を測るが、本来はより深いことが、調査時の状況から推測される。埋土内からは、土師器鍋８・９が出土している。これらから、遺構の時期は、鎌倉時代と考えられる。　（柴田）



第142図　溝１（1/30）・出土遺物（1/4）

３　その他の遺構

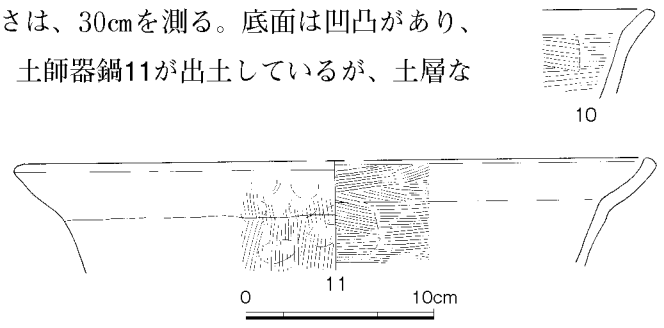
たわみ１（第143図）

調査地北東に位置し、下がり１を切っていることが確認されている。

平面形は不整形を呈する。検出面からの深さは、30㎝を測る。底面は凹凸があり、上面まで砂礫が堆積している。埋土内からは、土師器鍋11が出土しているが、土層などから、たわみの時期は、近世以降と考えられる。　（柴田）

下がり１（第144図、図版22－４、23）

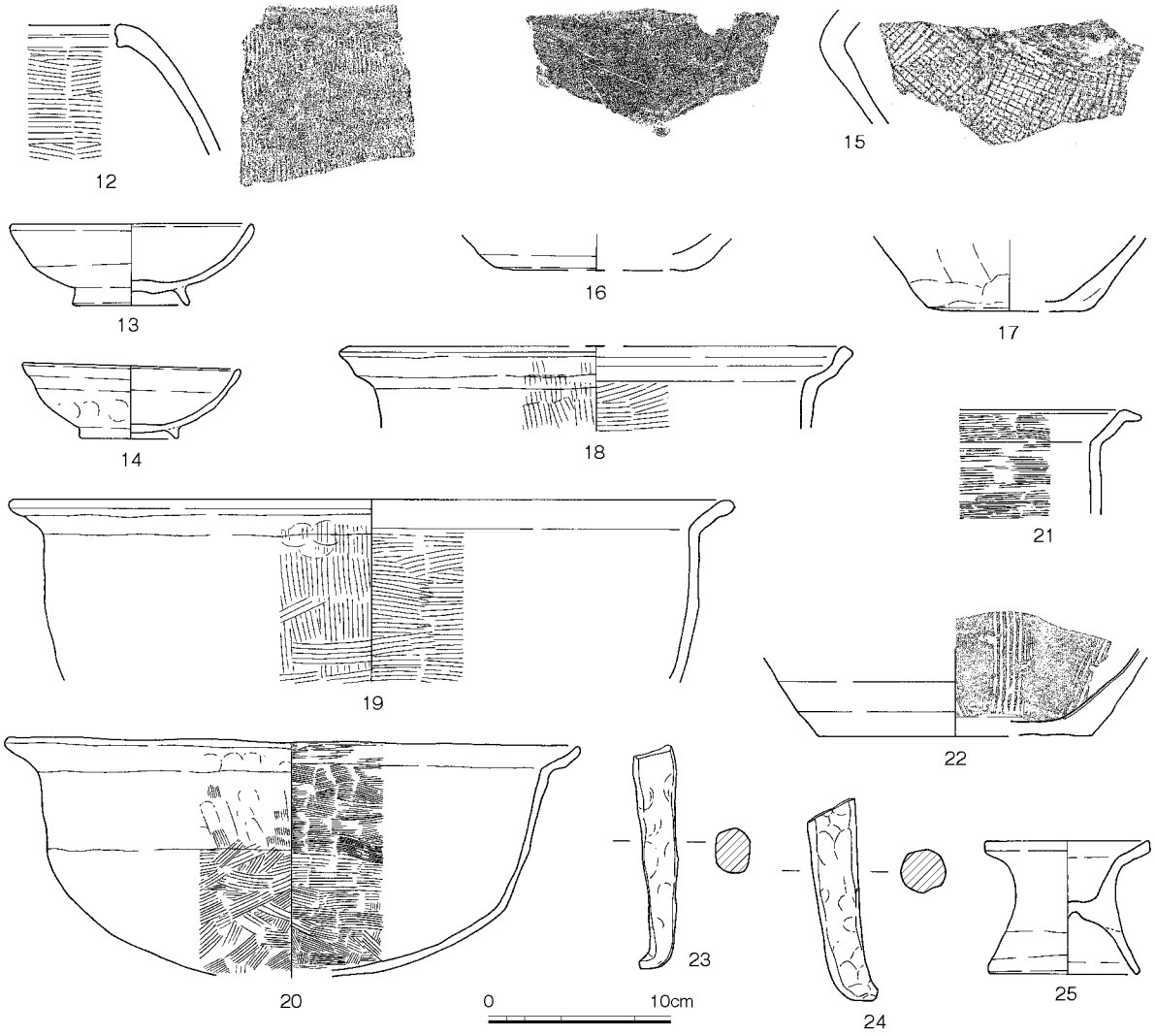
調査地の東端に位置する下がりで、溝１が取り付く。南北にのびる現在の用水路に平行しており、北側はたわみ１に切られて



第143図　たわみ１・Ｐ１出土遺物（1/4）

いる。溝の可能性も考えられるが、東側において関係する遺構は確認できなかった。検出面からの深さは、18㎝を測る。堆積土は、おおむね砂礫で、２か所で土器や獣骨がまとまって出土した。

埋土内からは、土師器の高台付椀13・14、鍋18～21・23･24、器台25、火鉢12、竈52～56、備前焼擂鉢22、亀山焼甕15・16や、獣骨などが出土している。これらから、下がり１には、鎌倉～室町時代にかけて土砂の堆積が進んだと考えられる。（柴田）

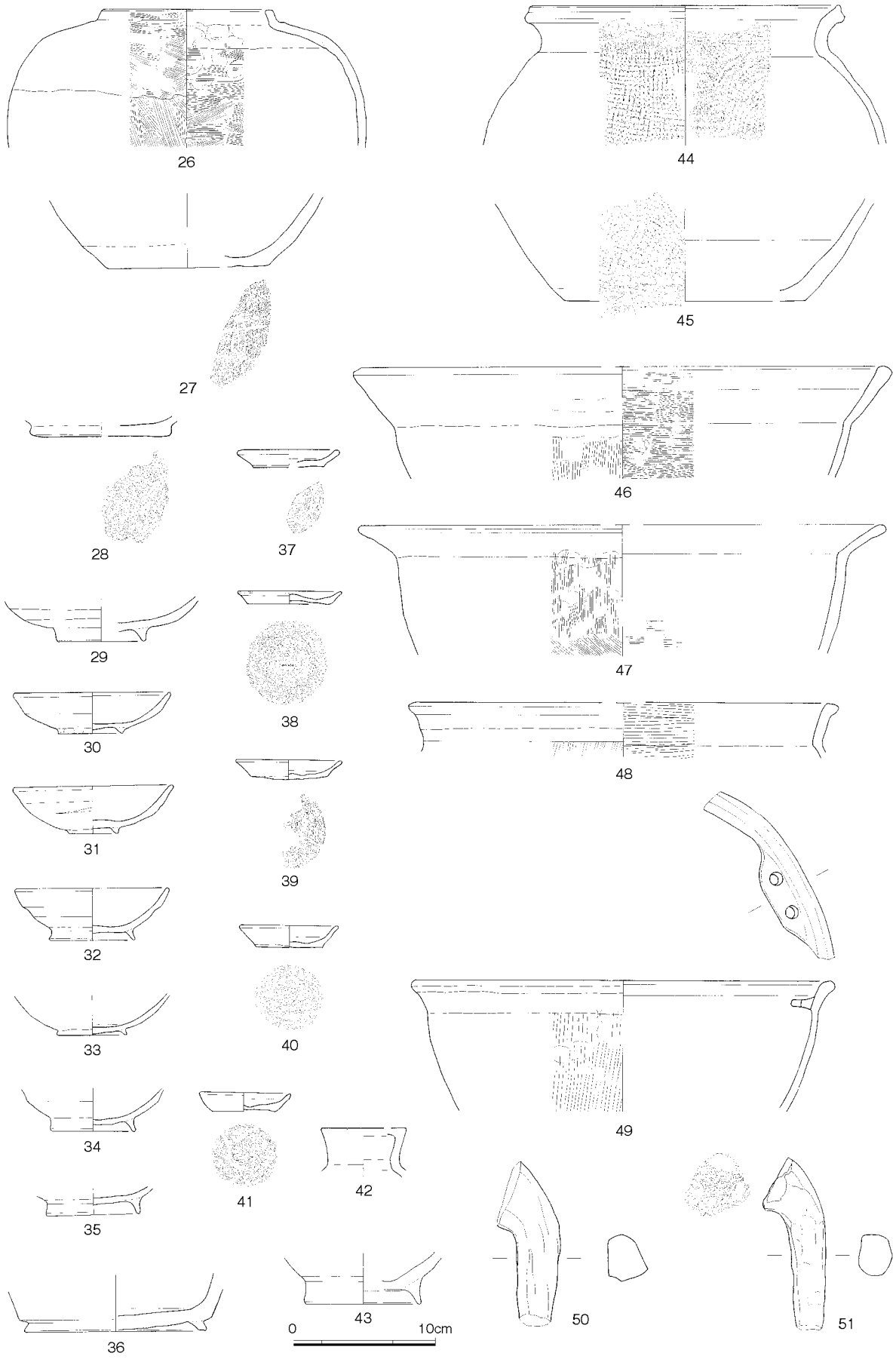


第144図　下がり１出土遺物（1/4）

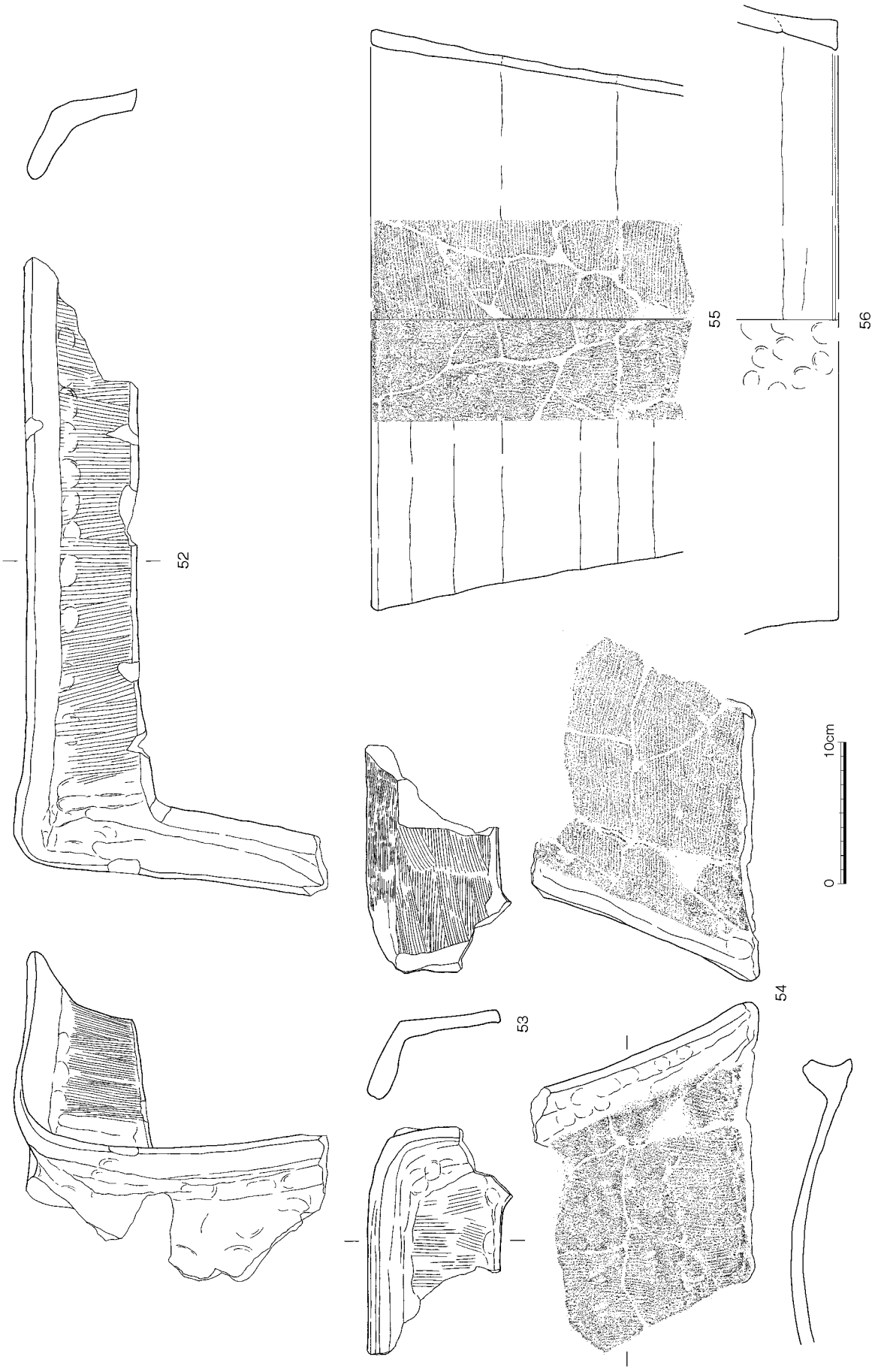
4　遺構に伴わない遺物（第145～148図、図版23）

調査地点は、遺跡の北端に当たると思われ、検出した遺構は少ない。しかし、堆積土からは、遺跡の東部分を中心として、遺物や獣骨が比較的多く出土した。土器表面の摩耗があまり認められないことから、これらは、上流から流されたものと考えるよりも、微高地周辺に廃棄されたものの一部が多いと考えられる。

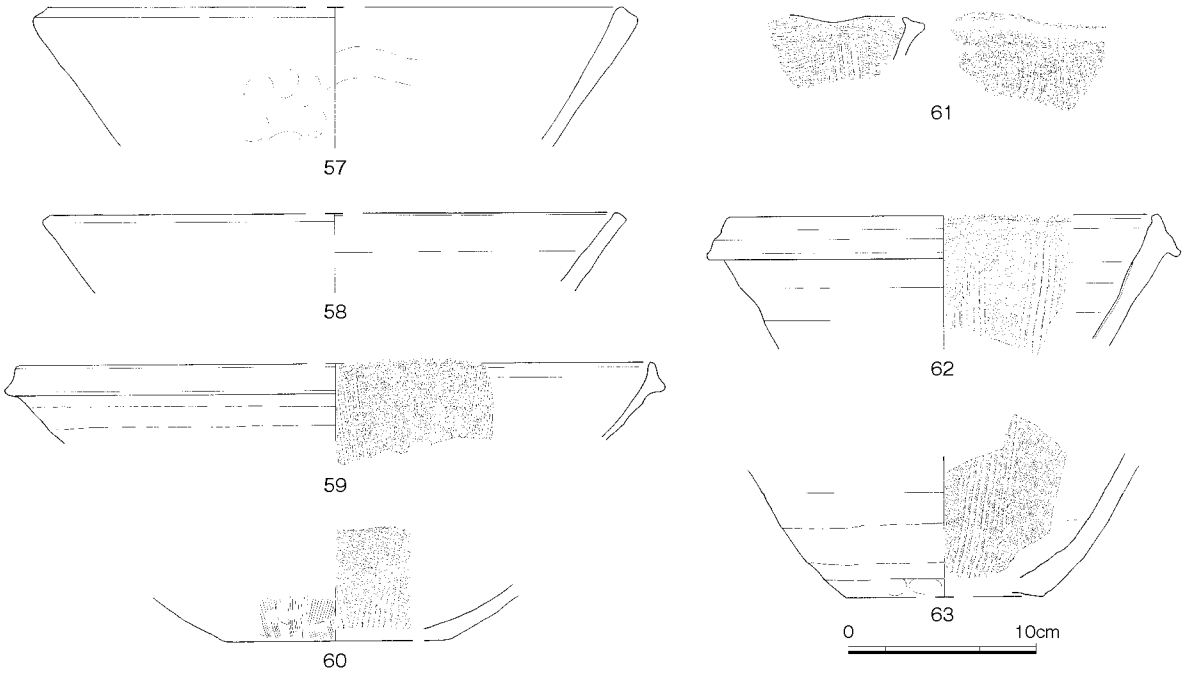
東側で出土したものには、須恵器壺26、43、台付壺36、土師器の高台付椀29～35、皿28、小皿37～41、器台42、鍋46～51、亀山焼甕44・45、捏鉢27・57・58、擂鉢59～61、備前焼擂鉢62・63など



第145図　遺構に伴わない遺物①（1/4）



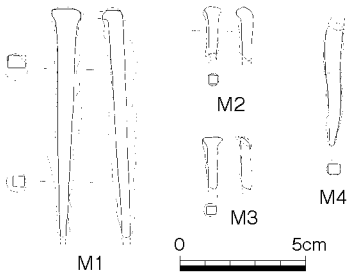
第146図　遺構に伴わない遺物②（1/4）

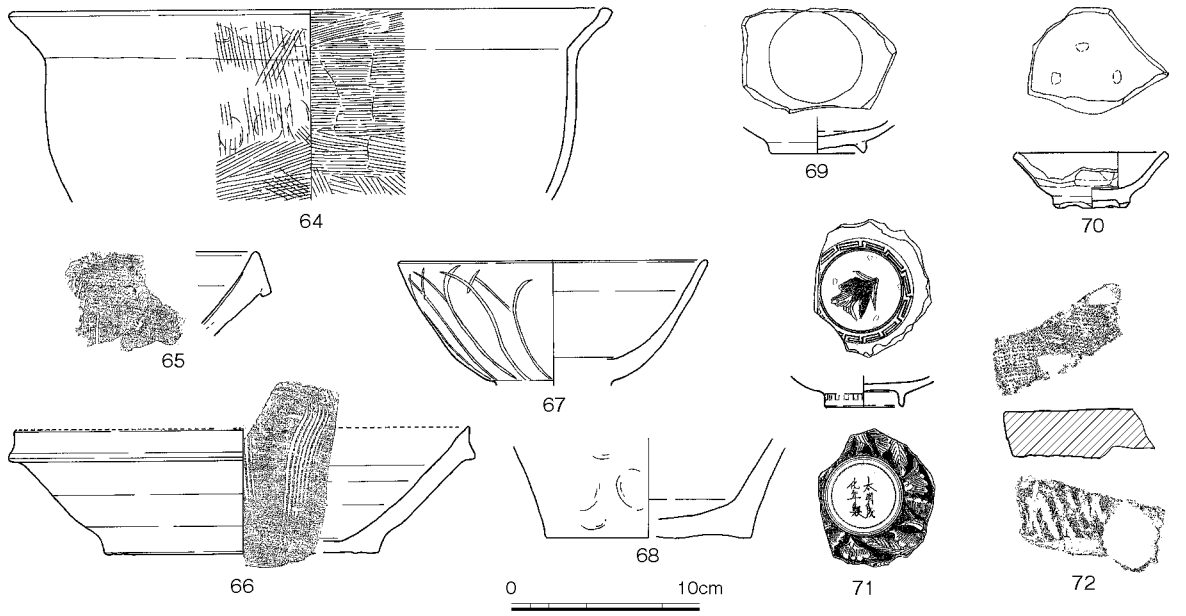


第147図　遺構に伴わない遺物③（1/4）

があり、古いものもあるが鎌倉～室町時代のものが多い。

トレンチの西側で出土したものには、土師器の高台付椀69、鍋64、備前焼擂鉢65・66、青磁碗67、京焼系白磁70、肥前磁器71、平瓦72、釘Ｍ１～Ｍ４など、中世～近世のものを図示した。弥生土器68は、下層の砂礫層から出土した。（柴田）





第148図　遺構に伴わない遺物④（1/4・1/3）

第３節　小結

下土田遺跡は、倉ヶ市遺跡同様、砂の堆積により形成された自然堤防上に、中世以降の集落が展開すると思われる遺跡である。倉ヶ市遺跡とは低位部を挟んで南西に位置し、標高は当遺跡の方が15～20㎝程度高い。現在の地形から判断すると、調査地付近を北端とする、紡錘形の自然堤防が南にひろがるものと推測される。

検出された遺構が少なく詳細は不明であるが、調査地の南側に集落本体が存在するようである。ここでは、中世以前の水田層や条里に関する遺構は確認できなかった。

倉ヶ市遺跡との境界となっている用水路の脇に沿うあぜ道は、近世の道を踏襲していると考えられる。この道は、北の足守方面から南の下土田方面へ抜けるもので、本村（総社市東阿曽）から下土田へは、足守川を渡ることになる。現在は幅員の狭い簡易な橋が架けられ、西詰めの北には常夜燈が置かれている。『備中国足守荘絵図』に描かれている西側の道は、これと似たルートを示している。今回の調査では、この点を検証する目的があったが、確実な古代末～中世の道路遺構を捉えることはできなかった。ただし、倉ヶ市遺跡の西部分から当遺跡にかけて検出された南北方向にのびる多くの溝群、あるいはその一部が何らかの関連を持つ可能性が考えられる。（柴田）

写真５　足守平野遠景（南上空から）

写真６　本村～下土田に架かる橋（南から）

写真７　常夜燈

第６章　まとめ

今回の調査地は、賀陽氏から後白河法皇へ寄進されたと考えられる足守荘に含まれ、昭和51・53年度には、岡山市教育委員会によって延寿寺跡の確認調査が行われている(1)。それから30年近くが経過し、今度は県道改築に伴い、延寿寺跡から西へかけての地域をやむなく発掘調査することとなった。ここでは、古代～中世の遺構・遺物と『備中国足守荘絵図』との比較検討を試みる。

１　各遺跡の遺構・遺物

延寿寺跡では、微高地上で主に平安時代後期から鎌倉時代の遺構が検出された。南北朝期を境にして後の遺構は確認できず、室町時代に一帯は水田となっていると考えられる。しかし、この西側にひろがる低位部は、中世段階でも水田にはあまり適さない土地であったことが想定された。

平安時代後期では、**建物５**、**溝４・６・10・11・13・14**、**下がり１**を検出した(2)。９世紀後半～11世紀前半、微高地西側に、緑釉陶器や二面硯を出土するような寺院や荘園に関わる集落や施設等の存在がうかがえた。ここには、12世紀後葉の遺構も存在する。また、**溝４**が**溝12**などの前身とすれば、現存条里は10世紀までさかのぼる。一方で、この時期の微高地東側の様子は明らかでない。

11世紀後半～12世紀中葉の様相は、遺構・遺物ともに全体的に明らかでないが、軒丸瓦**361**、軒平瓦**135**等が注目される。同文の軒丸瓦は、平安京の三条西殿や大極殿、尊勝寺、法勝寺などからも出土しており、この頃の時期が与えられている(3)。瓦を重視すれば、絵図の時期までに寺院の存在を認めることができるが、明確な寺院遺構が確認できないので寺域特定には至らない。

鎌倉時代の遺構は、微高地上で東西に分かれて分布する。東側では、寺院あるいは屋敷地を区画する施設の可能性がある**溝３**と**柱穴列１～３**が注目される。西側でも、建物や溝等が確認されている。溝**12・17・23**は、現存条里の南北方向に一致し、ほぼ同じ場所に何度も開削されていることから、坪境となる可能性が考えられる。当該期の遺物として格子タタキを有する丸・平瓦があり、前代の寺院が存続している可能性が考えられるが、他に寺院特有の遺物は確認できない。

倉ヶ市遺跡は、延寿寺跡付近を中心とし、また近辺の微高地をも包括する広範な遺跡で、今回の調査地点は遺跡の西端に当たる。延寿寺跡の西にひろがる低位部において、堆積砂の一部が自然堤防となり、古代末から集落化したことが調査で確認された。建物や柱穴列、土壙、溝、さまざまな陶器・磁器等がみられる。これらは鎌倉時代を中心とするが、平安時代末期から室町時代までのものがある。13世紀前半の**溝１**は、現存条里の東西方向に一致し、坪境となる可能性がある。調査地西端は低位部となり、下土田遺跡との間には南北方向の溝が多数検出されている。

下土田遺跡は、倉ヶ市遺跡同様、砂の堆積で形成された自然堤防上に、中世以降の集落が展開すると思われる。当遺跡の標高は、倉ヶ市遺跡よりも高い。検出遺構が少なく詳細は不明であるが、調査地の南側に集落本体が存在するようである。ここでは、条里に関する遺構は確認できなかった。

２　『備中国足守荘絵図』について

足守荘は京都神護寺の六荘のひとつで、寿永３年＝元暦元年（1184年）、安倍資良の私得分寄進を契機に後白河法皇が同寺へ一円を寄進したものである。これをさかのぼること嘉応元年（1169年）に、当荘が賀陽氏から後白河法皇へ寄進される際に制作されたのが『備中国足守荘絵図』である。その経

緯からこれは立券に伴う絵図であり、荘域の基点となる四至牓示、自然地形や集落、寺院等が描かれている。「延壽寺」については、この絵図や地名などから現在の延寿寺跡の地に比定されているが(4)、実際に絵図を重ねた場合、うまく一致しない(5)。そこで、特徴的かつ現在まで地形改変が少ないと考えられる丘陵をもとに絵図を再検討し、「延壽寺」の位置を推定しておくことが重要である。

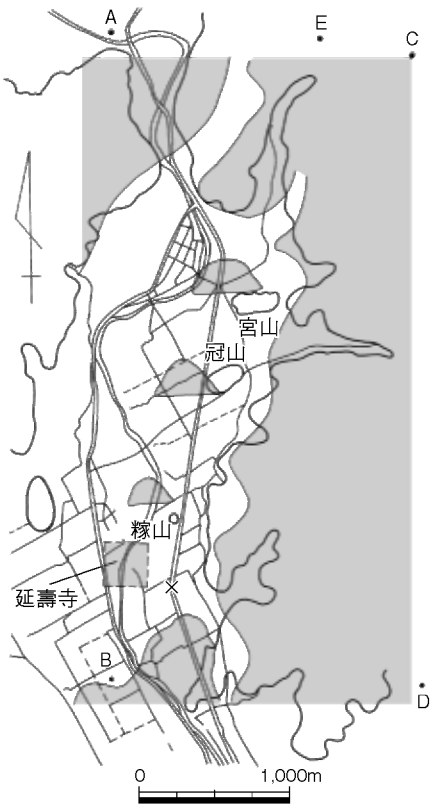
絵図には、平野を取り巻く丘陵と３つの独立丘陵（宮山＝「八満山」、冠山＝「福岡山」、糠山）が描かれている。平野の外郭線となる丘陵裾、特に北から東側は現地形との整合性が高く、当絵図の外郭が真北を基準に描かれ、条里線はそれに従っていることが推測される。また、独立丘陵のみを見た場合、相互の位置関係も比較的整合性が高い。しかし、外郭を優先して図を重ねると、独立丘陵の並びが実際よりも西にずれる(6)。これは、糠山と東の丘陵裾との距離感や南端に描かれた丘陵の大きさなどから判断すると、冠山以南の地域は東西方向を実際の２倍程度広く描いていることから生じる(7)。「延壽寺」は、独立丘陵を結ぶ延長線上にあり、絵図を現地形に合わせると調査地よりもかなり西になるが、上記の点を考慮すると、今回の調査地付近を「延壽寺」に比定することが妥当である。

３　「延壽寺」とその周囲について

「延壽寺」は、九坪もの広範な方形区画を占有し、図中で最も整然としている施設と言える。延寿寺跡の調査では、12世紀中葉の寺院遺構は確認できなかったが、少量の瓦がそれを示す可能性がある(8)。絵図では、周囲を区画する堀・塀などは表現されておらず、竹のような植物に囲まれている点が注目される。そうした見方をすれば、明確な区画施設が確認されないことも十分あり得る。延寿寺跡が「延壽寺」であるとすると、地形の**下がり１**や**河道１**上のたわみをもって、寺域の西限と考えることも可能であろう。これは、屋敷地等の区画施設（堀等）の出現とも関わる課題とも言える。

「延壽寺」の西、寺域北辺延長線上には、南北に１棟ずつ建物が描かれている。今回、倉ヶ市遺跡で見つかった集落は、位置関係では絵図とよく対応し、その時期近くまでさかのぼることができる。仮にそれが同一でなくても、この地点が南北に分かれた集落となることが明らかとなった意味は大きい。また、「延壽寺」の西に描かれた道に該当すると思われる地点で、多くの溝が検出されたが、道路遺構として確定できなかった。しかし、南北方向の土地利用が確認できたことは重要で、以後現在までその影響が認められる。

この他、「延壽寺」の南西方向にかけて条里線が見えない部分があることが注意される。絵図実物を確認していないので何とも言えないが、今回確認した耕地としてふさわしくない低位部との関連があるのかもしれない。



第149図　現地形と絵図の重なり（1/50,000）

４　条里について

今回検出した溝と、岡山市教育委員会による調査で検出した溝（第150図のA・B・C・D・E）をもとに、検討する。

南北方向の溝では、坪境と仮定した**溝12**が、A溝と同

一であることは明らかである。E溝は、厳密な位置等が報告されていないが、「延壽寺の東限」となる南北方向の溝が検出されているようである[9]。**溝12**とE溝が同時期であると仮定すると、溝間の距離は115ｍ前後と推測できる。また、**溝４**は、**溝12・17・23**の前身となる可能性があり注目される[10]。

東西方向の溝では、倉ヶ市遺跡で13世紀前半の**溝１**が検出されている。これは、現在の道路に沿っており、東方でも同様なＤ溝が確認されている。Ｄ溝は、断面図の掲載のみで詳細が不明であるが、13世紀後半の土壙墓[11]より古く、東西方向にのびる溝の可能性がある。Ｂ・Ｃ溝は、「延壽寺の南限」と報告されている。時期等の問題があるが、Ｂ・Ｃ溝とＤ溝の間隔は、111ｍである。以上の点から、１町110～115ｍ前後の条里地割が想定できると考えたい。

絵図に記された条里南北方向は、真北を指すことについては既に述べたが、これは現在の足守地域の土地区画方向（西偏28～29°）とはかなり異なっている。反対に、現在の区画方向は、調査で確認した平安時代後期から鎌倉時代の溝等の方向（西偏25～28°）に比較的近似していることが判明した。このことから、絵図の条里方向は理想型であり、実態を表現しているとは言えないことがわかる。

では、一町の長さについてはどうであろうか。絵図の足守荘は、南北約28町・東西約10町と表現されている。南北の丘陵間は約3.2㎞であるから、１町は約114ｍと試算される。冠山以南では東西方向を広く描いているので、冠山以北で見ると、東西方向の１町は110ｍ前後となる。そこで、条里線を基準にして独立丘陵の大きさをみると、意外に正確に表現されていることがわかる。以上の点から、絵図上半に示された１町と遺構から推測される１町の広さはよく合致するようである。

５　さいごに

遺構・遺物と絵図の検討から、遺跡の変遷、条里の方向や地割、時期などに関して貴重な手がかりが得られた。また、絵図にはいくつかの問題点がある一方で、精度の高い一面も確認できた。その結

第150図　古代～中世主要遺構配置図（1/3,000）

果、延寿寺跡は、明確な寺院遺構こそ確認できなかったが、「延壽寺」の一角であると考えることが妥当と思われる。また、10～11世紀代のこの地に、寺院や荘園に関わる集落や施設等が既に存在していた可能性も指摘できる。そして、鎌倉時代にも、集落内に寺院が存続している可能性も想定された。

平安時代末期～鎌倉時代の「延壽寺」が、当荘域で重要な施設であったことは容易に想像できる。「延壽寺」の創建時期は不明であるが、９世紀後半以降、この地に生活していた平安・鎌倉時代の人びとが、荘園での生産や管理等に深く関わっていたことは疑いないところであろう。　　（柴田）

註

（１）出宮徳尚･根木修『足守庄荘園遺構緊急調査･延寿寺跡第2次発掘調査概報』岡山市教育委員会　1979
（２）土壙墓１や一部の柱穴等もこの時期の可能性があると考えられる。
（３）これらは山城産で、11世紀後葉～12世紀中葉（1075～1157年）の年代とされている。また、植山茂氏からは、12世紀前半という年代観を御教示いただいた。平安博物館編『平安京古瓦図録』雄山閣　1977
（４）調査地に隣接する小字名「堂本」･「堂前」や出土瓦が根拠となっている。
（５）これまでにさまざまに検討されているが、鈴木景二「足守荘絵図および関係史料」『足守庄（足守幼稚園）関連遺跡発掘調査報告』岡山市教育委員会　1994　を参考にした。
（６）南西牓示の黒点Ｂと半黒点Ｅを結んだ線上に独立丘陵を配置しているようである。
（７）南半部を広く描くことになった理由については、測量や作図技術の問題、別の意図があるかどうか等検討が必要である。絵図を部分に分けて検討すると、それぞれに基準があり、その点においては比較的精度が高いということができる。それらを１枚の図にする際に何らかの補正が行われた結果がそこには現れているのではないかと推測している。興味深いことに、絵図に記された牓示である黒点を結ぶと、∠CDA＝25°や∠ABC＝25° 30′は真北と遺構から判明した条里方向の偏差に、∠CDE＝8°や∠CBE＝7° 30′は真北と現在の磁北偏差7°にほぼ一致する。
（８）絵図では、区画中央に入母屋造りの建物１棟が描かれている。檜皮葺・甍棟の屋根を想定すると、瓦の出土量が少ない点は問題にはならないと言える。
（９）出宮徳尚「備中足守庄荘園遺構の発掘調査―岡山県岡山市―」『中世の考古学－遺跡発掘の新資料』齋藤忠編　1983
(10) 集落内の区画溝ではなく、耕地に対する平安時代の条里の有無について検討が必要である。
(11) 土壙墓の遺物は、『足守庄（足守幼稚園）関連遺跡発掘調査報告』1994に掲載されている。

表２　編年対比表

	延寿寺跡	倉ヶ市遺跡	下土田遺跡	対比遺跡（地区）・遺構	
				備　　中	備　　前
1000	溝4･6　下がり10･11層			窪木　溝202･斜面 ①	
				加茂政所　土壙390･溝53 ②	
					百間川原尾島　井戸9 ⑦
	溝13･14　下がり9層				
					鹿田　土壙15 ③
1100					鹿田　井戸21 ⑨
				津寺（土筆山）　中世墓16･土壙1 ③	
	溝10･11	柱穴列2		津寺（土筆山）　中世墓4 ③	百間川当麻　井戸3 ⑩
1200	建物5				
	溝23	溝1･2上層	下がり1	吉野口　P110 ④	助三畑　井戸4 ⑪
	溝3･12			川入　P-9 ⑤	
	建物2･3				
1300	建物1		土壙1	清水角　土壙1 ⑥	
				津寺（土筆山）　土壙14 ③	
	土壙6	溝10			

①「窪木遺跡２」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』124　岡山県教育委員会　1998
②「加茂政所遺跡　高松原古才遺跡　立田遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』138　岡山県教育委員会ほか　1999
③「山陽自動車道建設に伴う発掘調査９　三手遺跡　津寺遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』90　岡山県教育委員会ほか　1994
④『吉野口遺跡－岡山市立鯉山小学校給食棟建築事業に伴う発掘調査報告－』岡山市教育委員会　1997
⑤「川入・上東　都市計画道路（富本町・三田線）に伴う埋蔵文化財発掘調査」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』16　岡山県教育委員会　1977
⑥『総社市史　考古資料編』　総社市　1987
⑦「百間川原尾島遺跡３」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』88　岡山県教育委員会ほか　1994
⑧「鹿田遺跡３－第５次調査－」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』第６冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター　1993
⑨「鹿田遺跡Ⅰ」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』第３冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター　1988
⑩「百間川沢田遺跡１　百間川長谷遺跡　百間川岩間遺跡　百間川当麻遺跡１」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』46　岡山県教育委員会ほか　1981
⑪『邑久町史』考古編　瀬戸内市 2006

付載１　延寿寺跡出土人骨について

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
大塚　愛二

岡山市上土田に所在する延寿寺跡において出土した中世の人骨は、２体分あったが、１つは判別可能な骨部が多かったが、他方は歯の一部分がかろうじて残っていたのみであった。前者を中心にいくつかの所見を記述しておく。

出土状況を図１および図２に示す。

（１）出土時、判別可能であった骨

頭蓋骨

前頭骨、頭頂骨、側頭骨、後頭骨、上顎骨、下顎骨

胴の骨

腰椎の一部、肋骨の一部

上肢骨

右：鎖骨、肩甲骨、上腕骨、尺骨、橈骨、中手骨の一部

左：鎖骨、肩甲骨、上腕骨、尺骨、橈骨、中手骨の一部

下肢骨

右：寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨

左：寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨、足根骨の一部、中足骨の一部

（２）比較的保存の良かった骨の計測からみた身長の推定

右上腕骨　23.5 cm、右橈骨19 cm、右・左脛骨：26 cm

安藤の係数によれば、右上腕骨23.5×5.337＝125.4 cm

右橈骨19×7.086＝134.6 cm

左脛骨26×4.792＝124.6 cm

工藤の式によれば、脛骨26×3.3＋47＝132 cm

となり、およそ130±3 cmほどになる。

（３）大腿骨後面の粗線と殿筋粗面は、発達が悪く平滑に近いものであった（図３）。

（４）歯は、比較的保存状態がよく、全体に磨耗は少ない。下顎の右第３大臼歯（智歯、おやしらず）が萌出しかけているが、十分には萌出していない状態であった（図４）。

図1　出土時の人骨の全体像（おそらく、仰臥位で膝を屈曲して埋葬されたものと思われる）

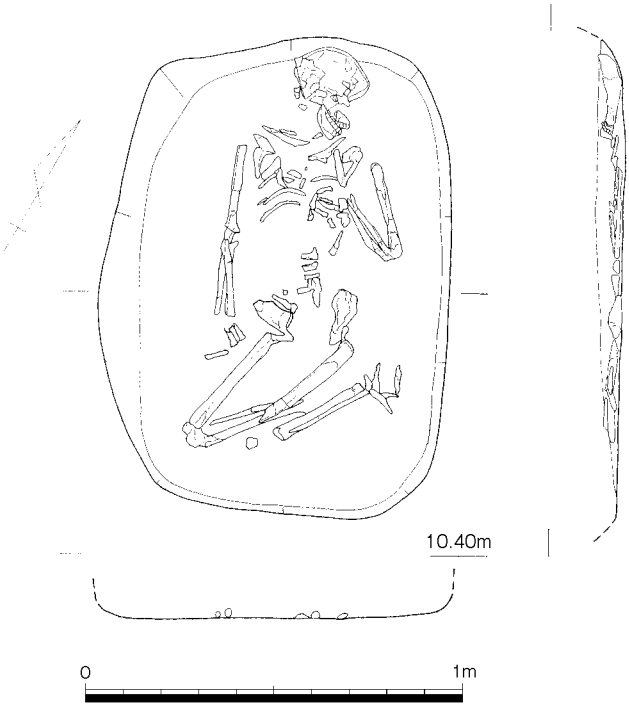


図２　出土状況の見取り図

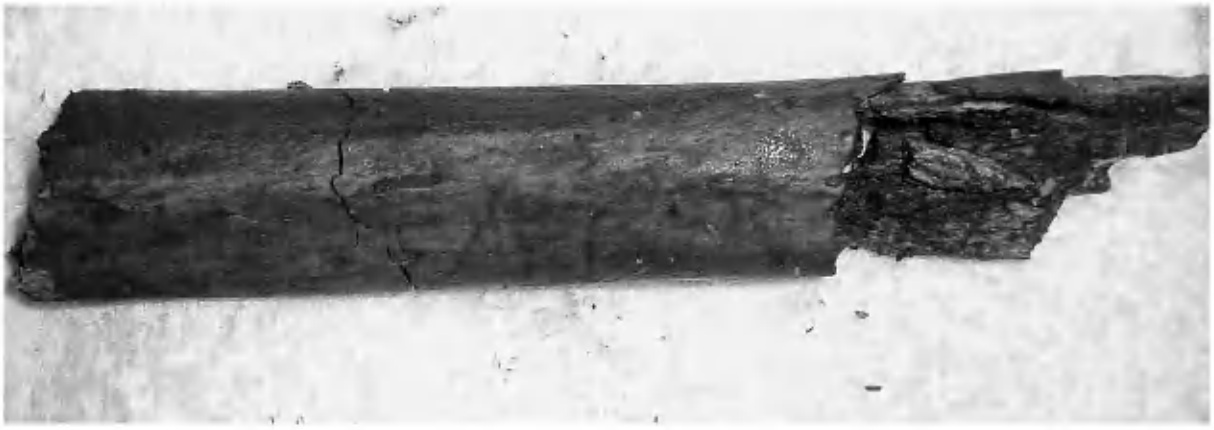


図３　大腿骨後面（粗線と殿筋粗面は、比較的平滑で女性を強く示唆する）

図４　顔面部（矢印は、第３大臼歯を示す）

（5）（1）～（4）を総合的に考えると、この人骨は、10代後半の女性である可能性が高い。

（註）安藤の方法では、身長＝長骨長×その骨の係数で求められる。係数は、上腕骨＝5.337、橈骨＝7.086、脛骨＝4.792である。工藤の方法では、長骨長×係数Ａ＋係数Ｂで求められる。脛骨においては、Ａ＝3.3、Ｂ＝47である。本例の場合、骨最大長が実際のところいくらであったかが、腐食等によって短くなっている可能性がある。その誤差も含めると130cmよりも高い可能性が大きい。

図５　頭部の出土時の写真

図６　左上肢の出土時の写真

図７　下肢

付載２　延寿寺跡・倉ヶ市遺跡出土遺物の胎土分析

岡山理科大学自然科学研究所
白石　　純

１　分析目的

この分析では、延寿寺跡・倉ヶ市遺跡から出土した平安時代から鎌倉時代かけての遺物の理化学的な胎土分析を実施し、以下のことについて検討した。

（１）中世包含層出土の製鉄関連遺物（フイゴ羽口）の胎土が、時期は異なるが以前分析した古墳時代後期の原尾島遺跡（藤原光町３丁目地区）から出土している炉壁[(1)]および岡山県南部地域の炉壁粘土と胎土的に差異があるのかどうか。

（２）足守川下流域の倉ヶ市遺跡と旭川下流域の天神河原遺跡[(2)]出土の鎌倉時代の土師質土器椀で胎土に違いがあるかどうか検討した。

２　分析結果

理化学的な分析方法は、蛍光Ｘ線分析法で実施した。この方法は、試料に含まれる成分(元素)量を測定するもので、その成分量の違いから胎土の差を推定する方法である。また蛍光Ｘ線分析装置の特徴は、分析試料の作製が簡単で、測定も短時間のため、多量に試料を分析するのに有効である。しかし、測定試料は均質性が求められることから、分析試料を２ｇほど粉末にする必要があり、一部破壊分析である。

測定装置は、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置(セイコーインスツルメンツ社製SEA2010L)を使用し、SiO_2・TiO_2・Al_2O_3・Fe_2O_3・MnO・MgO・CaO・Na_2O・K_2O・P_2O_5の10元素を測定した。第１表の出土試料分析値一覧表からCaO（カルシウム）、K_2O（カリウム）の各元素に顕著な違いがみられる。そこで、これらの元素のXY散布図を作成し、胎土の比較を行った。また蛍光Ｘ線分析法以外に実体顕微鏡観察法により胎土の差異を検討した。この方法は土器の表面に観察される砂粒(岩石・鉱物)の種類や大まかな含有量を調べる方法である。

分析に供した試料は、第１表に示した延寿寺跡出土のフイゴ羽口１点と倉ヶ市遺跡、天神河原遺跡出土の土師質土器椀45点の合計46点である。

（１）蛍光Ｘ線分析結果

第１図K_2O－CaO散布図では、延寿寺跡出土のフイゴ羽口と時期は異なるが、古墳時代後期の製鉄関連の炉壁胎土と比較したところ、フイゴ羽口は基盤層が花崗岩地帯に分布する製鉄の炉壁と胎土が類似していた。

第２図K_2O－CaO散布図では、流域が異なる地域に分布する土師質土器椀の胎土を比較した。その結果、CaO量の違いで胎土が異なる傾向がみられた。つまり、足守川下流域に位置する倉ヶ市遺跡出土の椀・皿は旭川下流域に位置する天神河原遺跡出土の椀に比べてCaO量が多く含まれる傾向にあった。また、天神河原遺跡出土の椀は、倉ヶ市遺跡に椀に比べて、胎土的に１つにまとまる傾向がみら

れた。

（2）実体顕微鏡観察法による結果

今回分析した試料46点の表面観察を実施したところ、以下のような砂粒に分類された。

・石英と多量の火山ガラスおよび少量の長石・角閃石を含むもの（写真１）倉ヶ市遺跡の椀・皿

・１mm以下の石英を少量含むもの（写真２）天神河原遺跡の椀

・３mm以下の石英のみを含むもの（写真３）延寿寺跡のフイゴ羽口

３　まとめ

延寿寺跡・倉ヶ市遺跡出土遺物の胎土分析を実施したところ、以下のことが明らかになった。

（1）延寿寺跡出土フイゴ羽口は、蛍光Ｘ線分析法および砂粒観察から花崗岩質の粘土を使用していることが推定された。

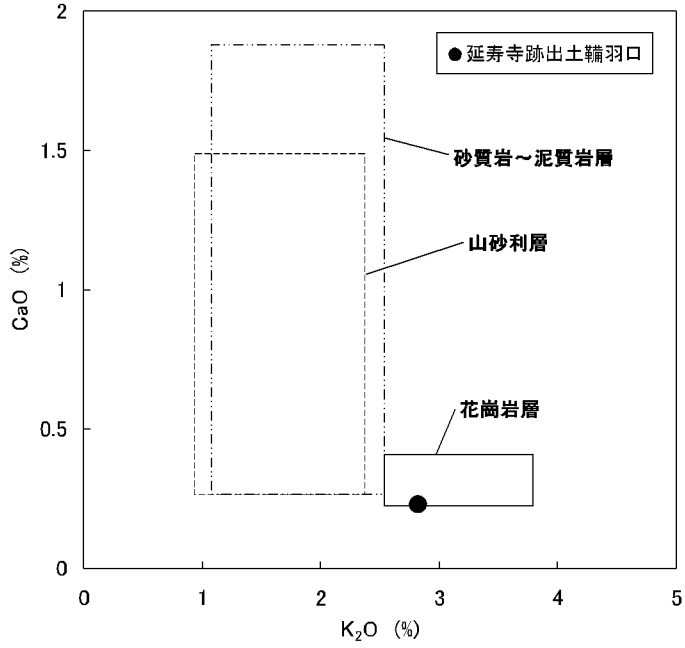
（2）倉ヶ市および天神河原遺跡出土の土師質土器椀・皿を分析した結果、蛍光Ｘ線分析では各遺跡でまとまる傾向にあるが、分布域が半分ほど重なった。しかし、砂粒観察では、足守川下流域の倉ヶ市遺跡の椀・皿には、多量の火山ガラスと少量の角閃石を含んでいた。また、旭川下流域の天神河原遺跡の椀には、少量の石英が含まれており、砂粒観察では胎土に違いがみられた。したがって、倉ヶ市と天神河原で出土した土師質土器椀は胎土が異なっていることが推定された。

この分析の機会を与えていただいた、内藤善史氏および岡山県古代吉備文化財センターの職員の方々にはいろいろご教示いただいた。末筆ではありますが、記して感謝いたします。

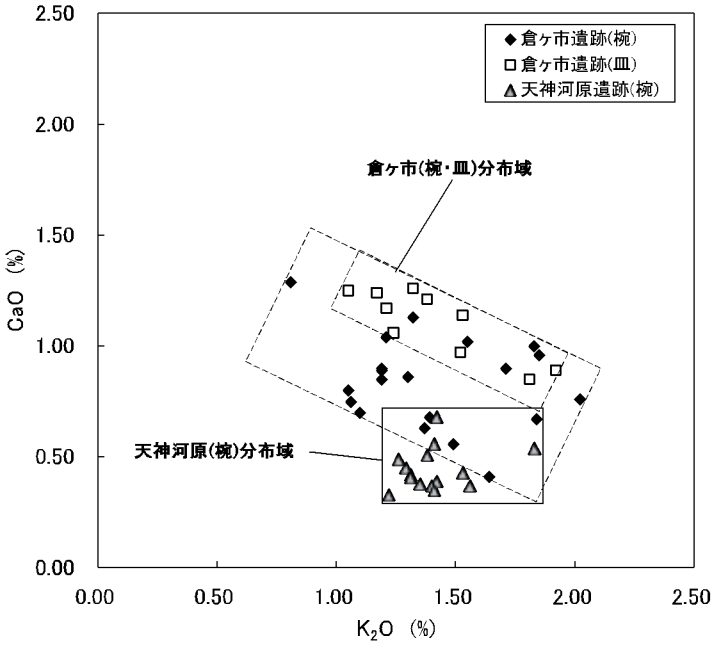
註

（1）白石　純「原尾島遺跡(藤原光町3丁目地区)出土の鉄関連遺物の分析」「原尾島遺跡（藤原光町3丁目地区)」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』139　岡山県教育委員会　1999

（2）「中島遺跡・宮南遺跡・国長遺跡・天神河原遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』221　岡山県教育委員会　2009



第１図　延寿寺跡出土のフイゴ羽口の胎土比較（K_2O-CaO散布図）



第２図　倉ヶ市と天神河原の土師質土器の胎土比較（K_2O-CaO散布図）

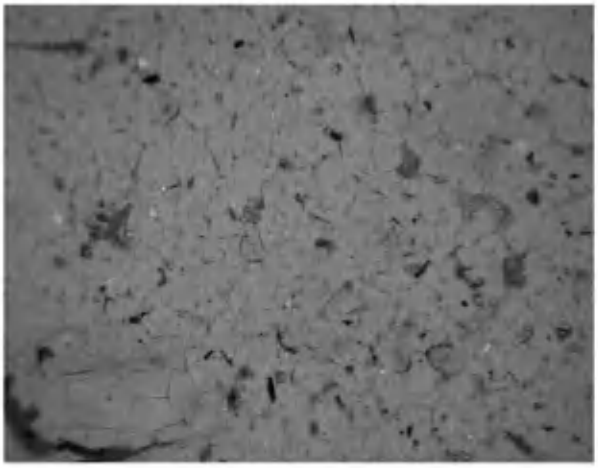


写真１　倉ヶ市遺跡土師質土器椀

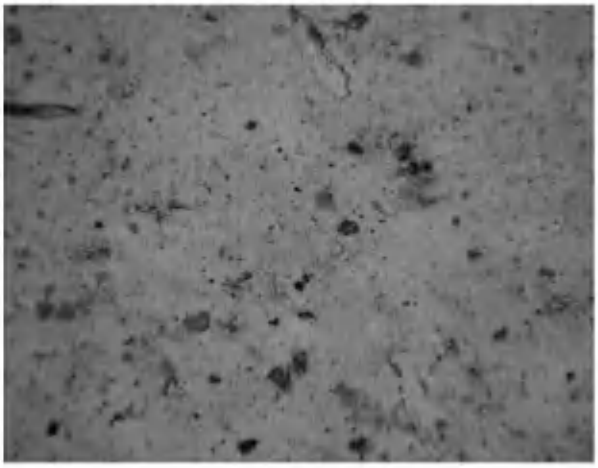


写真２　天神河原遺跡土師質土器椀

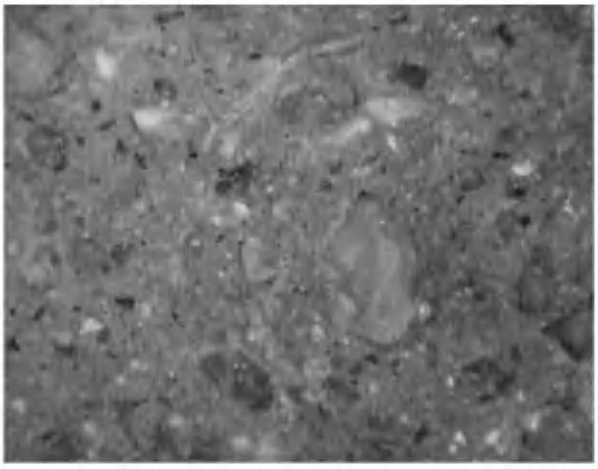


写真３　延寿寺跡出土フイゴ羽口

第３図　実体顕微鏡写真

第１表　胎土分析試料一覧表

単位：SiO_2～P_2O_5（%）

試料番号	遺跡名	遺構名	器種	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	Fe_2O_3	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	P_2O_5
1	倉ヶ市遺跡	溝１	椀	66.17	0.69	20.43	5.45	0.11	1.58	0.89	2.49	1.19	0.86
2	倉ヶ市遺跡	溝１	椀	65.67	0.67	21.53	6.05	0.09	1.36	0.85	1.51	1.19	0.88
3	倉ヶ市遺跡	溝１	椀	65.15	0.58	20.81	4.38	0.08	2.70	0.75	2.37	1.06	0.61
4	倉ヶ市遺跡	溝１	椀	67.59	0.65	22.19	3.03	0.05	1.51	0.90	1.78	1.71	0.40
5	倉ヶ市遺跡	溝１	椀	67.14	0.77	20.50	4.23	0.07	1.64	0.86	2.48	1.30	0.84
6	倉ヶ市遺跡	溝１	椀	64.41	0.79	22.73	5.59	0.06	1.73	0.70	2.61	1.10	0.14
7	倉ヶ市遺跡	溝１	椀	68.74	0.91	19.44	4.14	0.07	1.65	0.56	2.67	1.49	0.16
8	倉ヶ市遺跡	溝１	椀	66.13	0.81	20.36	5.03	0.09	1.64	0.90	2.97	1.19	0.71
9	倉ヶ市遺跡	溝１	椀	74.62	0.77	16.04	2.32	0.05	1.53	0.68	1.69	1.39	0.77
10	倉ヶ市遺跡	溝１	椀	69.70	0.75	19.88	2.21	0.03	1.59	0.41	3.43	1.64	0.19
11	倉ヶ市遺跡	溝２	椀	67.79	0.62	20.57	3.71	0.05	1.50	1.13	2.52	1.32	0.59
12	倉ヶ市遺跡	溝２	椀	64.30	0.62	19.23	3.17	0.04	2.45	0.80	7.56	1.05	0.60
13	倉ヶ市遺跡	溝２	椀	70.29	0.71	16.87	3.99	0.06	1.38	1.00	1.88	1.83	1.67
14	倉ヶ市遺跡	溝２	椀	64.28	0.67	23.10	4.74	0.08	1.56	0.63	3.20	1.37	0.21
15	倉ヶ市遺跡	溝２	椀	66.52	0.72	19.44	4.39	0.09	1.51	1.02	2.41	1.55	1.82
16	倉ヶ市遺跡	溝２	椀	70.59	0.86	18.55	3.11	0.08	1.38	0.67	2.04	1.84	0.64
17	倉ヶ市遺跡	溝２	椀	65.51	0.64	21.35	4.81	0.06	1.55	1.04	2.94	1.21	0.67
18	倉ヶ市遺跡	溝２	椀	73.12	0.63	17.22	2.18	0.07	1.23	0.76	2.05	2.02	0.44
19	倉ヶ市遺跡	溝２	椀	64.51	0.49	22.89	5.25	0.08	1.77	1.29	1.84	0.81	0.67
20	倉ヶ市遺跡	溝２	椀	69.94	0.76	16.89	4.12	0.07	1.55	0.96	1.58	1.85	1.95
21	倉ヶ市遺跡	溝２	皿	70.42	0.65	18.41	2.92	0.05	1.43	0.89	2.55	1.92	0.52
22	倉ヶ市遺跡	溝２	皿	65.22	0.68	20.35	5.37	0.14	1.80	1.24	2.46	1.17	1.25
23	倉ヶ市遺跡	溝２	皿	66.94	0.83	19.64	5.06	0.08	1.64	1.26	2.36	1.32	0.71
24	倉ヶ市遺跡	溝２	皿	67.33	0.60	20.57	4.96	0.10	1.50	1.21	1.27	1.38	0.70
25	倉ヶ市遺跡	溝２	皿	65.00	0.51	22.18	5.05	0.08	1.38	1.25	2.50	1.05	0.71
26	倉ヶ市遺跡	溝２	皿	69.98	0.64	18.51	4.23	0.08	1.49	1.06	1.51	1.24	0.92
27	倉ヶ市遺跡	溝２	皿	65.72	0.69	19.03	5.45	0.07	1.45	0.97	2.31	1.52	2.07
28	倉ヶ市遺跡	溝２	皿	69.03	0.69	19.13	3.17	0.08	1.61	1.14	2.02	1.53	1.11
29	倉ヶ市遺跡	溝２	皿	67.10	0.62	20.99	4.03	0.06	1.52	1.17	2.32	1.21	0.69
30	倉ヶ市遺跡	溝２	皿	70.63	0.64	18.03	3.04	0.04	1.65	0.85	2.45	1.81	0.61
31	天神河原遺跡	包含層	椀	70.78	0.75	18.82	3.24	0.05	1.65	0.33	2.67	1.22	0.35
32	天神河原遺跡	包含層	椀	68.91	0.76	19.39	4.09	0.06	1.49	0.56	2.50	1.41	0.65
33	天神河原遺跡	包含層	椀	67.54	0.85	20.31	4.13	0.07	1.75	0.39	3.03	1.42	0.25
34	天神河原遺跡	包含層	椀	70.18	0.74	19.27	3.17	0.06	1.42	0.54	2.16	1.83	0.46
35	天神河原遺跡	包含層	椀	68.93	0.81	20.19	3.55	0.05	1.59	0.38	2.38	1.35	0.43
36	天神河原遺跡	包含層	椀	70.06	0.67	19.20	3.70	0.06	1.65	0.45	2.46	1.29	0.32
37	天神河原遺跡	包含層	椀	71.93	0.81	17.82	2.66	0.03	1.67	0.37	2.70	1.56	0.26
38	天神河原遺跡	包含層	椀	67.94	0.91	20.79	4.58	0.07	1.53	0.42	2.03	1.31	0.23
39	天神河原遺跡	包含層	椀	71.81	0.70	18.88	3.48	0.05	1.30	0.43	1.33	1.53	0.31
40	天神河原遺跡	包含層	椀	67.04	0.69	21.84	2.83	0.04	1.46	0.68	2.49	1.42	1.30
41	天神河原遺跡	包含層	椀	71.38	0.71	17.09	3.28	0.06	1.55	0.49	2.14	1.26	1.78
42	天神河原遺跡	包含層	椀	71.35	0.66	18.92	3.04	0.05	1.39	0.37	2.37	1.40	0.30
43	天神河原遺跡	包含層	椀	70.72	0.68	17.63	3.76	0.07	1.62	0.51	2.55	1.38	0.85
44	天神河原遺跡	包含層	椀	67.36	1.00	20.79	4.55	0.09	1.52	0.41	2.54	1.31	0.25
45	天神河原遺跡	包含層	椀	71.66	0.71	18.21	3.03	0.04	1.48	0.35	2.50	1.41	0.42
46	延寿寺跡	B層	フイゴ羽口	72.67	0.40	16.34	3.89	0.06	1.26	0.23	1.91	2.82	0.25

1　延寿寺跡遺構一覧表
2　延寿寺跡遺物観察表
3　倉ヶ市遺跡遺構一覧表
4　倉ヶ市遺跡遺物観察表
5　下土田遺跡遺構一覧表
6　下土田遺跡遺物観察表
7　新旧遺構対応表

遺構一覧・遺物観察表凡例

1　遺構一覧表

・平面形は検出面での形状を示す。
・掘立柱建物の面積は、建坪を示す。
・各項目の表記のうち、「－」は確認が不可能なものを示している。
・規模を示す数値のうち、「()」は残存値を示す。

2　遺物観察表

土器・瓦

・「計測値」のうち、口径と底径の「()」は復元値、器高の「()」は残存値、「－」は計測不能を示す。
・残存状況は、復元も含めて全体が残るものは、「完形」、「ほぼ完形」と表した。
・土器の「色調」は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）よる。

石製品・土製品・木製品・金属製品・銭

・「計測値」のうち、「()」は残存値を示す。「重量」は、現状の最大値を示す。
・石器の「石材」は、岡山大学鈴木茂之氏の同定による。
・土製品の「色調」は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）よる。

1　延寿寺跡遺構一覧表

建物

遺構名	規模	柱間距離（cm）		桁行（cm）	梁間（cm）	面積（㎡）	棟方向	柱穴平面形	時期	備考
		桁	梁							
建物1	5以上×1	197～220	326～330	1080以上	326～330	－	N-28°-W	円	中世	
建物2	3×2	234～250	195～204	725	395	28.8	N-28°-W	円	中世	
建物3	3×1	220～256	366～368	715	366～368	26.17	N-65°-E	円・方	中世	
建物4	2×2	265～320	260～330	588	595	34.57	N-32°-W	円	中世	
建物5	2×2	200～215	195～220	420	422	17.35	N-34°-W	円	中世	
建物6	3×2	204～222	187～206	640	394	25.28	N-26°-W	円	中世	

柱穴列

遺構名	柱穴の数	柱間距離（cm）	主軸	柱穴平面形	時期	備考
柱穴列 1	12	70 ～ 100	N － 25° － W	円	中世	
柱穴列 2	10	80 ～ 130	N － 25° － W	円	中世	
柱穴列 3	6	70 ～ 120	N － 25° － W	円	中世	

土壙墓

遺構名	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	底面海抜高（cm）	時期	備考
土壙墓 1	隅丸長方	Ⅲ	125	90	7	1038	中世	

土壙

遺構名	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	底面海抜高（cm）	時期	備考
土壙 1	楕円	逆台	100	68	49	971	弥生	
土壙 2	不整楕円	Ⅲ	65	50	28	1012	弥生	
土壙 3	楕円	Ⅲ	163	117	40	1017	中世	
土壙 4	円	Ⅲ	66	62	19	1041	古代～中世	
土壙 5	楕円	逆台	61	30	10	1038	古代～中世	
土壙 6	楕円	Ⅲ	100	73	14	1039	中世	
土壙 7	不整楕円	Ⅲ 2 段	218	62	8	1030	古代～中世	
土壙 8	円	逆台	(70)	－	20	1029	中世	
土壙 9	不整円	逆台	80	60	28	1014	中世	
土壙 10	方	箱形	114	－	32	1008	近世～	

溝

遺構名	断面形	上端幅（cm）	底面幅（cm）	深さ（cm）	底面標高（cm）	時期	備考
溝 1	椀	34	6 ～ 15	13	1008 ～ 1013	弥生	
溝 2	Ⅲ	85 ～ 135	50 ～ 110	10	1027 ～ 1038	弥生～古墳	
溝 3	椀	100	17 ～ 60	30	1031 ～ 1040	中世	
溝 4	Ⅲ	60 ～ 70	28 ～ 57	10	1035 ～ 1040	古代	
溝 5	椀	70	8 ～ 22	6	1009 ～ 1036	中世	
溝 6	Ⅲ	40	5 ～ 16	10	1035 ～ 1038	古代	
溝 7	Ⅲ	40	15 ～ 31	6	1035 ～ 1038	古代～中世	
溝 8	椀	40	4 ～ 25	12	1038 ～ 1040	古代～中世	
溝 9	Ⅲ＋椀	38	10 ～ 15	12	1034 ～ 1036	中世	
溝 10	「V」字	28	7 ～ 25	13	1027 ～ 1035	中世	
溝 11	「U」字	55	9 ～ 23	45	994 ～ 1002	中世	
溝 12	Ⅲ＋「V」字	280	20 ～ 54	65	1004 ～ 1014	中世	
溝 13	Ⅲ＋椀	100 ～ 120	65 ～ 95	19	1013 ～ 1020	中世	
溝 14	Ⅲ	120	4 ～ 24	12	1038 ～ 1038	中世	
溝 15	Ⅲ	40	15 ～ 37	10	1020 ～ 1029	中世	
溝 16	Ⅲ	15	4 ～ 14	5	1035 ～ 1040	中世	
溝 17	Ⅲ	60 ～ 70	34 ～ 50	10	1028 ～ 1026	中世	
溝 18	Ⅲ	30	5 ～ 20	10	1034 ～ 1035	中世	
溝 19	Ⅲ	51	25 ～ 42	6	1029 ～ 1040	中世	
溝 20	Ⅲ	6 ～ 11	2 ～ 6	6	1031 ～ 1037	古代～中世	
溝 21	Ⅲ	14 ～ 20	5 ～ 9	4	1031 ～ 1031	古代～中世	
溝 22	Ⅲ	9 ～ 15	3 ～ 6	4	1034 ～ 1035	古代～中世	
溝 23	Ⅲ＋逆台	148 ～ 165	27 ～ 34	28	1002 ～ 1014	中世	

2　延寿寺跡遺物観察表

土器

掲載番号	遺構名	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
				口径	器高	底径				
1	土壙 2	弥生土器	高杯？	－	－	－	にぶい橙（7.5YR7/4）			338
2	溝 1	土師器	甕	－	－	－	橙（7.5YR6/6）			336
3	河道 1	縄文土器	浅鉢	－	－	－	にぶい黄橙（10YR6/3）			128
4	河道 1	縄文土器	深鉢	－	－	－	黒褐（10YR3/1）			129
5	河道 1	縄文土器	深鉢	－	－	－	にぶい黄橙（10YR6/3）			130
6	河道 1	縄文土器	深鉢	－	－	－	灰黄褐（10YR6/2）			131
7	河道 1	縄文土器	壺？	－	－	－	褐灰（5YR4/1）			122
8	河道 1		壺	－	－	－	灰黄褐（10YR5/2）			121
9	河道 1	縄文土器	深鉢	－	－	－	灰白（2.5Y7/1）			125
10	河道 1	弥生土器	壺？	－	－	－	灰黄（2.5Y6/2）			126
11	河道 1	縄文土器	浅鉢？	－	－	－	灰白（10YR8/2）			127
12	河道 1	縄文土器？	深鉢	－	－	－	灰白（2.5Y 7/1）			124
13	河道 1	弥生土器	甕	－	－	－	灰黄（2.5Y7/2）			119

掲載番号	遺構名	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
				口径	器高	底径				
14	河道1	弥生土器	壺	(14.4)	24.8	7.1	灰白（2.5Y7/1）			136
15	河道1	弥生土器	甕	16.1	(15.2)	－	灰白（2.5Y7/1）			137
16	河道1	弥生土器	壺	(15.4)	(7.5)	－	橙（5YR6/6）			123
17	河道1	弥生土器	甕	－	－	4.6	褐灰（10YR6/1）			118
18	河道1	弥生土器	甕 or 壺	－	－	(7.6)	灰黄褐（10YR5/2）			120
19	河道1	弥生土器	壺	(14.6)	28.6	9.0	黄灰（2.5Y6/1）			134
20	河道1	弥生土器	壺	13.8	(9.4)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			135
21	河道1	弥生土器	甕	－	(13.2)	(8.8)	にぶい黄橙（10YR7/2）			116
22	河道1	弥生土器	甕	－	－	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			114
23	河道1	弥生土器	壺	－	－	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			115
24	河道1	弥生土器	壺	－	－	－	浅黄橙（7.5YR8/4）			133
25	河道1	弥生土器	壺？	－	－	－	灰黄褐（10YR6/2）			112
26	河道1	弥生土器	甕	－	(4.2)	9.0	灰白（2.5Y7/1）			107
27	河道1	弥生土器	壺	－	(2.5)	(8.5)	灰白（2.5Y7/1）			111
28	河道1	弥生土器	甕	－	(7.1)	8.7	黒（N1.5/） すす			117
29	河道1	弥生土器	壺	－	(4.5)	(8.0)	灰黄褐（10YR6/2）			179
30	河道1	弥生土器	甕	－	(2.3)	6.2	灰白（2.5Y7/1）			113
31	河道1	弥生土器	蓋	－	8.9	(21.6)	灰黄（2.5Y7/2）			109
32	河道1	弥生土器	甕 or 壺	－	－	－	灰黄（2.5Y7/2）			110
33	河道1	弥生土器	甕	－	－	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			108
34	河道1	弥生土器	甕	－	(6.8)	8.9	黄灰（2.5Y6/）			187
35	河道1	弥生土器	蓋	(12.2)	2.85	－	灰（N4/0） オリーブ黒（5Y3/1）			186
36	河道1	弥生土器	甕	(37.2)	(9.0)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			185
37	河道1	弥生土器	甕	(27.4)	(11.7)	－	灰白（2.5Y8/1）			184
38	河道1	弥生土器		－	－	－	灰黄褐（10YR5/2）			181
39	河道1	弥生土器	壺 or 甕？	－	－	－	灰白（2.5Y7/1）			141
40	河道1	弥生土器	甕	－	－	－	灰白（10YR8/2）			102
41	河道1	弥生土器	甕	(25.0)	(12.6)	－	暗灰黄（2.5Y5/2）			180
42	河道1	弥生土器	甕	－	(3.1)	6.5	灰白（10YR8/1）			105
43	河道1	弥生土器	甕	－	(2.4)	8.2	灰白（2.5Y7/1）			106
44	河道1	弥生土器	壺	－	(2.2)	7.7	灰白（10YR7/1）			101
45	河道1	弥生土器	甕	－	－	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			104
46	河道1	弥生土器	甕	－	－	－	灰白（10YR8/2）			103
47	河道1	弥生土器	壺	(15.0)	(4.8)	－	にぶい黄褐（10YR5/3）			96
48	河道1	弥生土器	甕	－	－	－	にぶい橙（7.5YR7/4）			99
49	河道1	弥生土器	甕	－	－	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			170
50	河道1	弥生土器	甕	(20.5)	(3.0)	－	にぶい橙（7.5YR7/4）			100
51	河道1	弥生土器	甕	－	－	－	にぶい橙（7.5YR6/4）			95
52	河道1	弥生土器	鉢	(27.0)	(4.2)	－	にぶい橙（7.5YR7/4）			183
53	河道1	弥生土器	壺	－	(3.7)	(9.9)	灰白（2.5Y7/1）			171
54	河道1	弥生土器	壺	－	(4.2)	(9.8)	灰白（2.5Y7/1）			93
55	河道1	弥生土器		－	(2.6)	5.6	灰白（2.5Y7/1）			94
56	河道1	縄文土器	浅鉢	－	(2.9)	3.9	灰黄（2.5Y6/2）			177
57	河道1	弥生土器	甕	－	－	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			75
58	河道1	弥生土器	甕	－	－	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			74
59	河道1	縄文土器？	深鉢	－	－	－	灰白（2.5Y7/1）			178
60	河道1		甕？	－	－	－	灰白（2.5Y7/1）			98
61	河道1	縄文土器	浅鉢	－	－	－	灰黄褐（10YR6/2）			97
62	河道1		甕？	－	－	－	黄灰（2.5Y4/1）			79
63	河道1	弥生土器	壺	(15.0)	(6.0)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			168
64	河道1	弥生土器	壺	(12.2)	(4.4)	－	灰白（2.5Y7/1）			163
65	河道1	弥生土器	甕	－	－	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			85
66	河道1	弥生土器	壺	(13.7)	(7.7)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			138
67	河道1	弥生土器	甕	(20.3)	(4.8)	－	にぶい黄橙（10YR6/4）			169
68	河道1	弥生土器	甕	(13.0)	(4.3)	－	にぶい黄橙（10YR6/3）			77
69	河道1	縄文土器	深鉢	－	－	－	黒褐（10YR3/1）			88
70	河道1	弥生土器	壺	－	－	－	灰黄褐（10YR5/2）			86
71	河道1	縄文土器		－	－	－	灰黄褐（10YR6/2）			173
72	河道1	縄文土器	浅鉢	－	－	－	灰黄褐（10YR5/2）			172
73	河道1	弥生土器	壺？	－	(4.4)	(8.5)	灰白（2.5Y7/1）			92
74	河道1	弥生土器	壺	－	(3.3)	7.2	にぶい黄橙（10YR7/2）			132
75	河道1	弥生土器	壺	－	(5.0)	(9.0)	灰白（2.5Y 白）			166
76	河道1	弥生土器	壺？	－	(4.6)	9.7	にぶい黄橙（10YR7/2）			72
77	河道1	弥生土器	壺	－	(3.6)	7.6	灰白（2.5Y7/1）			167
78	河道1	弥生土器	壺？	－	(2.5)	(9.8)	灰黄（2.5Y6/2）			89
79	河道1	弥生土器	甕？	－	(4.4)	(10.7)	にぶい黄橙（10YR7/2）			76
80	河道1	弥生土器	壺？	－	(5.0)	7.8	灰白（2.5Y8/1）			90
81	河道1	弥生土器	壺	－	(5.4)	(11.0)	灰黄褐（10YR6/2）			164
82	河道1	弥生土器	壺？	－	(3.4)	(9.5)	にぶい黄橙（10YR7/2）			91

掲載番号	遺構名	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
				口径	器高	底径				
83	河道1	弥生土器	壺	－	(3.8)	(10.0)	にぶい黄橙（10YR7/2）			162
84	河道1	弥生土器	甕	－	(3.1)	(6.0)	にぶい黄橙（10YR7/2） 明赤褐（2.5YR5/6）			175
85	河道1	弥生土器	壺	－	(4.6)	(8.0)	灰白（2.5Y7/1）			140
86	河道1	弥生土器	壺	－	(2.2)	8.6	灰白（10YR8/2）			165
87	河道1	弥生土器	壺？	－	(3.3)	7.0	灰黄（2.5Y7/2）			87
88	河道1	弥生土器	甕	－	(3.2)	(4.6)	灰黄褐（10YR6/2）			78
89	河道1	弥生土器	甕	－	(5.7)	(6.4)	橙（5YR7/6）			174
90	河道1	弥生土器	壺	－	(5.0)	6.5	明赤褐（5YR5/6）			139
91	河道1　たわみ	土師器	壺	(16.8)	(7.6)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			70
92	河道1　たわみ	土師器	壺	－	(4.3)	6.2	灰白（10YR8/1）			71
93	河道1　土器溜まり	弥生土器	壺	－	(7.2)	10.5	灰白（5Y7/1）			176
94	河道1　土器溜まり	弥生土器	壺	－	－	－	灰黄褐（10YR6/2）			68
95	河道1　土器溜まり	弥生土器	壺	－	(2.6)	(8.0)	にぶい黄橙（10YR7/2）			67
96	河道1　土器溜まり	弥生土器	壺	－	(5.5)	5.7	灰白（10YR7/1）			69
97	柱穴	弥生土器	甕？	－	(2.4)	(7.2)	明赤褐（2.5YR5/6）			461
98	遺構に伴わない遺物	弥生土器	甕	(14.8)	(1.7)	－	にぶい黄（2.5Y6/3）			337
99	遺構に伴わない遺物	弥生土器	高杯	(39.9)	(5.6)	－	にぶい橙（7.5YR6/4）			372
100	建物1	土師器	椀？	－	(1.4)	(5.8)	灰白（2.5Y8/2）			65
101	建物1	土師器	椀？	－	(0.8)	(4.4)	浅黄橙（10YR8/3）			64
102	建物1	土師器	小皿	(7.2)	1.4	(5.2)	灰白（10YR8/2）			63
103	建物1	土師器	鍋	－	－	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			62
104	建物2	土師器	椀	(10.8)	(2.4)	－	灰白（2.5Y8/1）			49
105	建物3	土師器	椀	(11.6)	(4.5)	－	灰白（10YR8/1）			55
106	建物3	土師器	椀	－	(2.5)	(5.3)	灰白（10YR8/2）			56
107	建物3	土師器	椀	－	(1.6)	(5.7)	灰白（10YR8/1）			57
108	建物4	土師器	椀	(15.0)	(2.8)	－	灰白（2.5Y8/2）			420
109	建物4	土師器	椀	－	(1.4)	(6.9)	灰白（2.5Y8/2）			419
110	建物5	土師器	杯	(8.6)	2.3	4.8	灰白（2.5Y8/2）			422
111	建物5	土師器	椀	－	(1.3)	－	黄灰（2.5Y4/1）			423
112	建物5	土師器	椀	－	(1.5)	(6.8)	灰白（2.5Y8/2）			421
113	建物6	土師器	杯	(13.5)	(4.1)	－	灰白（2.5Y8/1）			453
114	建物6	黒色土器	椀	－	(1.9)	(6.7)	灰白（10YR7/1）			433
115	建物6	土師器	小皿	(7.8)	(1.2)	(6.0)	灰白（10YR8/2）			430
116	建物6	土師器	椀	－	－	－	灰白（10YR8/2）			436
117	建物6	土師器	椀	－	(1.6)	(8.2)	灰白（10YR8/2）			431
118	溝3	土師器	椀	(13.9)	4.6	(7.2)	灰白（2.5Y8/1）			28
119	溝3	土師器	椀	－	－	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			29
120	溝3	土師器	椀	－	(1.4)	5.8	灰白（10YR8/2）			32
121	溝3	土師器	椀	－	(1.3)	－	にぶい黄橙（10YR7/3）			35
122	溝3	土師器	皿	－	(1.2)	9.0	橙（7.5YR7/6）			31
123	溝3	土師器	鍋	－	－	－	灰白（10YR7/1）			30
124	溝3	瓦	丸瓦	長（5.2）	幅（3.5）	厚（0.9）	凸褐灰（10YR4/1）橙（5YR6/6） 凹にぶい褐（7.5YR6/3）			33
125	溝3	瓦	平瓦	長（11.5）	幅（10.0）	厚（1.8）	凹凸灰褐（7.5YR5/2）			34
126	溝3	縄文土器	深鉢	－	－	－	灰（7.5Y4/1）			36
127	柱穴列1～3	土師器	椀	(15.0)	(3.2)	－	灰白（2.5Y8/1）			158
128	柱穴列1～3	土師器	椀	－	(1.5)	5.9	灰黄（2.5Y7/2）			60
129	柱穴列1～3	土師器	小皿	(8.2)	1.3	(6.0)	橙（5YR6/6）			59
130	柱穴列1～3	土師器	椀	－	－	－	灰白（N8/）			58
131	土壙3	須恵器	大甕	－	－	－	褐灰（5Y R 6/1）			7
132	土壙3	須恵器	壺	－	(7.7)	(11.6)	灰（N 6/）			18
133	土壙3	土師器	鍋（脚）	－	(9.6)	－	にぶい褐（7.5YR5/4）			3
134	土壙3	土師器	鍋（脚）	－	(9.2)	－	にぶい黄橙（10YR6/3）			6
135	土壙3	瓦	軒平瓦	長（13.2）	幅（5.5）	厚 5.3	凸凹灰（5Y6/1）			4
136	土壙3	瓦	平瓦	長（9.8）	幅（9.6）	厚 1.95	凸凹灰（5Y4/1） 凹もう少し黒っぽい灰色			15
137	土壙3	瓦	平瓦	長（6.2）	幅（7.3）	厚 1.7	凸凹黄灰（2.5Y4/1）			5
138	土壙3	瓦	平瓦	長（9.1）	幅（8.3）	厚 1.9	凸凹灰（5Y4/1） 凹もう少し濃い灰色			20
139	土壙3	瓦	平瓦	長（5.9）	幅（6.7）	厚 1.7	凹黄灰（2.5Y6/1） 凸灰（7.5Y4/1）			13
140	土壙3	瓦	平瓦	長（5.9）	幅（7.2）	厚 1.8	凸凹灰白（2.5Y7/1） 凹少し灰色入			1
141	土壙3	瓦	平瓦	長（8.0）	幅（6.0）	厚（2.0）	凸灰（7.5Y4/1） 凹灰（N4/）			9
142	土壙3	瓦	平瓦	長（6.2）	幅（5.0）	厚（1.6）	凹凸灰（7.5Y4/1）			14
143	土壙3	瓦	平瓦	長（8.0）	幅（6.4）	厚（1.8）	凸黄灰（2.5Y5/1） 凹灰（5Y5/1）			8
144	土壙3	瓦	平瓦	長（6.8）	幅（5.5）	厚（1.4）	凸凹灰（N6/）			17

掲載番号	遺構名	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
				口径	器高	底径				
145	土壙３	瓦	平瓦	長（8.3）	幅（6.0）	厚（1.4）	凹灰（N6/）凸灰（N5/）			25
146	土壙３	瓦	平瓦	長（7.8）	幅（9.2）	厚（2.2）	凹凸灰白（10Y7/1）			27
147	土壙３	瓦	平瓦	長（2.3）	幅（8.4）	厚 1.9	凸凹オリーブ黒（5Y3/1）			19
148	土壙３	瓦	平瓦	長（6.4）	幅（9.4）	厚（2.1）	凹凸灰白（2.5Y7/1）			26
149	土壙３	瓦	平瓦	長（8.6）	幅（4.4）	厚 2.0	凸凹灰黄（2.5Y7/1）			22
150	土壙３	瓦	丸瓦	長（5.0）	幅（5.4）	厚 1.8	凸凹灰白（N7/）			21
151	土壙３	瓦	丸瓦	長（9.7）	幅（6.8）	厚 1.7	凹凸灰（N4/）			12
152	土壙３	瓦	丸瓦	長（5.5）	幅（8.1）	厚 1.9	凹凸灰（N5/）			24
153	土壙３	瓦	丸瓦	長（8.9）	幅（6.1）	厚 1.6	凸凹灰（5Y4/1）凹少し黒っぽい			2
154	土壙３	瓦	丸瓦	長（7.2）	幅（6.4）	厚 1.4	凸凹灰（N5/）			16
155	土壙３	瓦	丸瓦	長（5.3）	幅（5.0）	厚 1.3	凸凹灰（N6/）			23
156	土壙３	瓦	丸瓦	長（7.7）	幅（5.4）	厚（1.6）	凹暗灰（N3/）凸灰（7.5Y5/1）灰（N4/）間色			11
157	土壙３	瓦	丸瓦	長（8.3）	幅（3.3）	厚 1.7	凸凹灰（N 4/）			10
158	土壙６	土師器	椀	8.7	2.5	4.2	灰白（10YR8/2）	ほぼ完形		66
159	土壙９	土師器	椀	－	（1.6）	（6.2）	明褐灰（5YR7/2）			370
160	土壙９	土師器	鍋	（33.0）	（7.9）	－	にぶい黄橙（10YR7/3）			371
161	溝４	土師器	杯	（15.1）	4.0	（10.1）	にぶい橙（7.5YR6/4）			407
162	溝４	土師器	杯	（13.8）	3.7	（10.7）	にぶい褐（7.5YR5/4）			405
163	溝４	土師器	杯	14.1	3.5～4.4	8.4	にぶい黄橙（10YR6/4）	ほぼ完形		417
164	溝４	土師器	杯	（15.1）	3.6	（9.7）	にぶい黄褐（10YR5/3）			408
165	溝４	土師器	杯	（15.6）	2.6	（7.0）	にぶい褐（7.5YR5/4）			403
166	溝４	土師器	皿	12.7	2.6	7.6	にぶい橙（7.5YR6/4）	ほぼ完形		413
167	溝４	土師器	杯	（12.9）	2.8	7.8	にぶい橙（7.5YR7/3）			402
168	溝４	土師器	小皿	10.2	2.0～2.7	3.4	にぶい橙（7.5YR6/4）	ほぼ完形		410
169	溝４	土師器	小皿	（11.0）	2.2	（6.4）	にぶい褐（7.5YR5/3）			409
170	溝４	土師器	小皿	（11.1）	2.0	8.3	にぶい橙（7.5YR6/4）			415
171	溝４	土師器	小皿	10.1	2.3	6.0	橙（5YR6/6）	ほぼ完形		406
172	溝４	土師器	皿	10.5	2.0	7.0	にぶい黄橙（10YR7/4）			404
173	溝４	土師器	椀	（16.8）	（5.1）	（7.4）	にぶい黄褐（10YR5/3）			400
174	溝４	土師器	椀	13.5	（4.1～5.0）	7.0	にぶい橙（7.5YR6/4）			401
175	溝４	土師器	椀	－	（2.3）	7.2	明赤褐（5YR5/6）			418
176	溝４	黒色土器	椀	（14.8）	（4.9）	－	灰白（10YR8/2）			411
177	溝４	土師器	椀	－	（2.2）	－	灰白（2.5Y8/2）			416
178	溝４	黒色土器	椀	－	（1.3）	5.8	灰（5Y4/1）			412
179	溝４	土師器	台付皿	10.2	2.2	6.2	にぶい橙（7.5YR6/4）	ほぼ完形		414
180	溝６	土師器	椀	（14.5）	5.5	（7.1）	灰黄褐（10YR5/2）			374
181	溝６	土師器	椀	－	（2.1）	7.0	にぶい黄橙（10YR7/3）			378
182	溝６	土師器	椀	－	（2.0）	7.8	浅黄橙（10YR8/3）			379
183	溝６	土師器	台付皿	9.9	2.5	5.3	にぶい褐（7.5YR5/4）	完形		377
184	溝６	土師器	台付皿	（10.6）	2.0	6.2	にぶい褐（7.5YR5/4）			376
185	溝６	土師器	杯	－	（1.4）	7.0	明赤褐（2.5YR5/6）			380
186	溝６	土師器	鍋	（29.8）	（18.7）	－	灰（5Y4/1）			375
187	溝８	土師器	鍋	－	－	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			381
188	溝10	土師器	椀	（12.8）	（5.0～5.8）	5.5	灰白（2.5Y8/1）			384
189	溝10	土師器	椀	（14.0）	5.5	（7.8）	灰白（10YR8/1）			389･390
190	溝10	土師器	椀	13.4	5.45	（6.0）	灰黄（2.5Y7/2）			383
191	溝10	土師器	小皿	8.7	0.9～1.2	5.4	灰白（10YR8/2）	ほぼ完形		388
192	溝10	土師器	小皿	（8.0）	1.3	（5.7）	橙（7.5YR6/6）			386
193	溝10	土師器	小皿	8.1	1.1	6.9	にぶい橙（7.5YR6/4）			385
194	溝10	土師器	小皿	（8.5）	1.3	（6.8）	にぶい橙（7.5YR7/3）			392
195	溝10	土師器	小皿	8.2	1.6	7.6	橙（7.5YR6/6）	完形		382
196	溝10	土師器	小皿	（8.6）	1.6	（7.0）	橙（7.5YR6/6）			387
197	溝10	土師器	小皿	（9.9）	1.3	（9.5）	灰黄（2.5Y6/2）			391
198	溝10	土師器	小皿	8.8	1.1	7.6	にぶい橙（7.5YR6/4）			393
199	溝11	土師器	椀	14.5	5.5	6.4	灰白（10YR8/1）			398
200	溝11	土師器	杯	（14.6）	（4.8）	－	灰白（10YR8/1）			399
201	溝11	土師器	杯	－	（2.1）	5.8	灰白（10YR8/2）			397
202	溝11	土師器	小皿	（8.2）	1.0	（6.3）	にぶい橙（7.5YR6/4）			395
203	溝11	土師器	小皿	7.7	1.1	6.2	灰黄（2.5Y7/2）にぶい橙（7.5YR6/4）	完形		396
204	溝11	土師器	鍋	（42.8）	（5.6）	－	にぶい黄橙（10YR7/3）			394
205	溝12	須恵器	壺	（12.0）	（2.9）	－	灰白（N7/） もう少しにぶい灰色			356
206	溝12	土師器	椀	（15.5）	6.5	7.1	にぶい黄橙（10YR7/2）			348
207	溝12	土師器	椀	（14.8）	（4.3）	－	灰白（10YR8/2）			353
208	溝12	土師器	椀	－	（4.2）	7.4	にぶい褐（7.5YR5/4）			344
209	溝12	黒色土器	椀	－	（1.8）	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			340
210	溝12　下層	土師器	椀	－	（2.0）	（5.7）	灰黄（2.5Y7/2）			355
211	溝12	土師器	椀	－	（2.1）	5.2	灰白（10YR8/2）			352
212	溝12	土師器	小皿	（10.2）	1.7	（7.0）	橙（5YR6/6）			360

掲載番号	遺構名	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
				口径	器高	底径				
213	溝12	土師器	小皿	(8.4)	1.2	(7.0)	灰白（10YR8/2）			363
214	溝12	土師器	小皿	7.8	1.3	6.6	にぶい橙（7.5YR6/4）	完形		361
215	溝12	土師器	小皿	7.1	1.5	5.8	にぶい橙（7.5YR6/4）	完形		343
216	溝12　下層	土師器	小皿	7.4	1.1	6.4	にぶい橙（7.5YR7/3）	ほぼ完形		358
217	溝12	土師器	小皿	(8.9)	1.4	(6.4)	明赤褐（5YR5/6）			347
218	溝12	土師器	台付杯？	—	(2.3)	—	にぶい黄橙（10YR6/4）			351
219	溝12	土師器？	台付杯？	—	(2.5)	—	橙（2.5YR6/8）			350
220	溝12	土師器	小皿	(9.9)	1.7	(7.6)	にぶい橙（7.5YR6/4）			346
221	溝12　下層	土師器	小皿	8.6	1.1	7.2	橙（5YR6/6）			359
222	溝12	土師器	鍋？甕？	25.2	(4.9)	—	灰褐（7.5YR5/2）			354
223	溝12	土師器	鍋	—	—	—	にぶい黄橙（10YR7/3）			342
224	溝12	土師器	鍋	—	—	—	にぶい黄橙（10YR7/2）			349
225	溝12	土師器	小皿	9.4	1.9	6.4	にぶい褐（7.5YR5/3）			362
226	溝12	土師器	鉢？	—	(2.1)	(6.3)	にぶい橙（7.5YR7/4）			341
227	溝12	土師器	甕？	—	(2.9)	(11.0)	浅黄橙（7.5YR8/3）			345
228	溝12	弥生土器	高杯	—	—	—	にぶい黄橙（10YR7/3）			357
229	溝13	黒色土器	椀	(14.9)	(5.1)	—	にぶい黄橙（10YR6/3）			43
230	溝13	土師器	椀	—	(1.9)	(5.7)	にぶい橙（7.5YR6/4）			44
231	溝13	土師器	杯	11.0	2.1	7.2	にぶい橙（7.5YR6/4）			45
232	溝13	土師器	小皿	(7.4)	0.9	(5.0)	にぶい黄（2.5Y6/4）			373
233	溝14	土師器	杯	—	(2.8)	—	橙（5YR6/8）			42
234	溝14	土師器	杯	—	(2.7)	(7.2)	灰白（2.5YR）			41
235	溝14	土師器	皿？	—	(1.1)	(7.0)	橙（7.5YR6/6）			40
236	溝14	土師器	小皿	(7.4)	(0.9)	(5.7)	にぶい黄橙（10YR6/4）			39
237	溝16	土師器	椀？	—	—	—	灰白（2.5Y8/2）			38
238	溝16	土師器	小皿	—	(1.2)	(5.4)	にぶい黄橙（10YR7/2）			37
239	溝17	土師器	椀	14.4	5.0	6.4	にぶい黄橙（10YR7/2）			339
240	溝18	土師器	杯	(14.4)	2.8	(9.6)	灰白（7.5YR8/2）			61
241	溝23	須恵器	甕	(38.7)	(6.9)	—	灰白（10YR7/1）			327
242	溝23	土師器	椀	(15.0)	5.3	(5.7)	灰白（10YR8/2）			366
243	溝23	土師器	椀	(14.8)	(3.0)	—	灰白（10YR8/2）			367
244	溝23	土師器	椀	(14.0)	5.0	(5.7)	にぶい黄褐（10YR7/3）			365
245	溝23	土師器	椀	(13.8)	(4.5)	—	灰黄（2.5Y7/2）			331
246	溝23	土師器	椀	13.3	5.2	5.3	灰白（10YR8/2）	ほぼ完形		368
247	溝23	土師器	椀	(13.4)	4.7	5.5	灰黄（2.5Y7/2）			330
248	溝23	土師器	皿	12.9	2.4	6.3	にぶい黄橙（10YR6/3）			329
249	溝23	土師器	小皿	(7.8)	0.7	(6.0)	灰白（10YR8/2）			334
250	溝23	土師器	小皿	(8.2)	1.3	6.4	灰黄（2.5Y7/2）			332
251	溝23	土師器	器台？	(8.4)	(3.1)	—	灰白（10YR8/2）			333
252	溝23	土師器	鍋	—	—	—	にぶい黄橙（10YR7/2）			328
253	溝23	土師器	鍋	(33.9)	(6.4)	—	にぶい黄橙（10YR7/3）			335
254	溝23	土師器	鍋	—	—	—	にぶい橙（7.5YR6/4）			364
255	溝23	土師器	竈	—	(32.2)	—	にぶい黄橙（10YR7/2）			369
256	たわみ1	土師器	台付皿	(10.2)	2.9	6.2	にぶい橙（7.5YR7/4）			425
257	たわみ1	土師器	杯？	—	(2.7)	7.0	にぶい褐（7.5YR5/4）			427
258	たわみ1	土師器	小皿	(10.7)	2.1	(7.0)	にぶい橙（5YR6/4）			426
259	たわみ1	土師器	皿	11.0	1.8	8.5	にぶい褐（7.5YR5/4）			429
260	たわみ1	土師器	小皿	(10.2)	2.4	(4.7)	にぶい褐（7.5YR5/3）			424
261	たわみ1	土師器	小皿	9.0	2.0	6.3	にぶい橙（7.5YR7/4）			428
262	たわみ2	土師器	皿or杯？	(10.9)	2.1	(6.2)	にぶい黄橙（10YR7/3）			81
263	たわみ2	土師器	皿	10.8	1.9	(8.0)	にぶい褐（7.5YR5/4）			182
264	たわみ2	土師器	皿？	10.1	2.3	3.6	にぶい黄橙（7.5YR5/4）			82
265	たわみ2	須恵器	杯身	—	(1.3)	9.2	灰白（N7/）			80
266	たわみ2	土師器	杯？	—	(2.4)	(7.2)	灰白（10YR8/2）			73
267	たわみ2	土師器	椀	—	(1.9)	5.8	灰白（10YR8/2）			84
268	たわみ2	土師器	椀？	—	(1.4)	4.7	にぶい黄橙（10YR7/2）			83
269	柱穴	土師器	小皿	(7.8)	1.9	(6.0)	灰黄（2.5Y7/2）			159
270	柱穴	土師器	椀	15.7	6.2	6.0	灰白（2.5Y8/1）			457
271	柱穴	土師器	小皿	8.2	1.2	6.8	橙（7.5YR7/6）	ほぼ完形		458
272	柱穴	土師器	小皿	(8.6)	1.1	(6.8)	にぶい黄橙（10YR7/3）			456
273	柱穴	土師器	小皿	(8.8)	1.1	(7.6)	橙（5YR6/6）			455
274	柱穴	土師器	皿	(15.9)	3.4	(9.9)	にぶい褐（7.5YR6/3）			450
275	柱穴	土師器	皿	(13.5)	2.4	(9.7)	にぶい橙（7.5YR6/4）			438
276	柱穴	土師器	小皿	(12.8)	2.5	(10.6)	灰白（10YR7/1）			463
277	柱穴	土師器	杯	(12.0)	3.0	6.3	にぶい褐（7.5YR6/3）			452
278	柱穴	土師器	椀	(14.9)	(4.8)	—	灰白（10YR8/2）			449
279	柱穴	土師器	杯？	13.9	(3.7)	—	灰白（2.5Y8/1）			441
280	柱穴	土師器	椀？	(13.0)	(3.6)	(3.5)	橙（2.5YR6/6）にぶい橙（7.5YR6/4）			464
281	柱穴	土師器	椀	—	(2.2)	(7.0)	灰白（10YR8/2）			440
282	柱穴	土師器	椀	—	(1.6)	(6.6)	灰黄（2.5Y7/2）			48

掲載番号	遺構名	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
				口径	器高	底径				
283	柱穴	土師器	椀	－	(1.4)	6.6	灰黄（2.5Y7/2）			52
284	柱穴	黒色土器	椀	(13.5)	(4.0)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			434
285	柱穴	土師器	椀	(11.8)	(3.9)	－	灰白（2.5Y8/2）			443
286	柱穴	土師器	椀	－	(3.1)	5.4	灰白（10YR8/2）			432
287	柱穴	土師器	椀	－	(1.5)	(6.1)	灰白（10YR8/2）			442
288	柱穴	土師器	椀	－	(1.6)	(5.3)	灰白（10YR8/2）			46
289	柱穴	土師器	椀	－	(1.5)	(5.3)	灰白（2.5Y8/1）			50
290	柱穴	黒色土器	椀	－	－	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			460
291	柱穴	土師器	椀	(10.5)	3.4	4.2	灰白（10YR8/2）			47
292	柱穴	土師器	椀？	(10.4)	(2.6)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			53
293	柱穴	土師器	椀	－	(2.5)	6.2	灰白（10YR8/1）			468
294	柱穴	土師器	椀	－	(1.2)	4.3	浅黄橙（10YR8/3）			160
295	柱穴	土師器	小皿	－	(1.2)	6.0	にぶい褐（7.5YR6/3）			451
296	柱穴	土師器	小皿	(8.4)	0.9	(6.0)	灰白（7.5YR8/2）			444
297	柱穴	土師器	小皿	(9.2)	1.7	(7.1)	にぶい橙（5YR6/4）			462
298	柱穴	土師器	小皿	(8.8)	1.2	(6.6)	にぶい褐（7.5YR5/4）			445
299	柱穴	土師器	小皿	8.5	1.2	6.6	灰白（10YR8/2）			439
300	柱穴	土師器	小皿	8.7	1.2	7.4	橙（5YR7/6）			465
301	柱穴	土師器	小皿	8.8	1.0	(6.4)	灰白（10YR8/2）			437
302	柱穴	土師器	小皿	(8.5)	1.3	(6.4)	灰白（7.5YR8/2）			446
303	柱穴	土師器	小皿	(7.8)	1.0	(6.1)	にぶい黄橙（10YR7/3）			161
304	柱穴	土師器	小皿	(7.7)	1.6	(5.7)	褐灰（10YR6/1）			467
305	柱穴	土師器	小皿	(8.7)	1.2	(6.4)	にぶい橙（7YR7/4）			459
306	柱穴	土師器	小皿	(8.8)	1.3	(5.1)	にぶい橙（7.5YR6/4）			466
307	柱穴	土師器	小皿	(9.0)	1.9	(7.7)	にぶい橙（7.5YR7/4）			435
308	柱穴	土師器	小皿	(7.7)	1.2	(6.8)	にぶい褐（7.5YR6/3）			447
309	柱穴	土師器	小皿	7.1	0.9	4.6	灰黄（2.5Y7/2）	ほぼ完形		454
310	柱穴	土師器	器台？	(5.2)	1.6	(3.4)	灰黄（2.5Y7/2）			51
311	柱穴	土師器	鍋	(34.5)	(16.4)	－	灰黄褐（10YR5/2）			448
312	下がり1　9層	須恵器	壺	(17.4)	(4.9)	－	灰（N6/）			575
313	下がり1　10～11層	土師器	杯	(13.5)	(3.3)	－	明赤褐（5YR5/6）			591
314	下がり1　10～11層	土師器	杯	(10.6)	2.6	7.0	灰褐（7.5YR6/2）			579
315	下がり1　10～11層	黒色土器	椀？杯？	(12.8)	4.3	(6.8)	明赤褐（5YR5/6）			589
316	下がり1　10～11層	土師器	皿	11.8	3.8	6.5	にぶい褐（7.5YR6/3）			580
317	下がり1　10～11層	黒色土器	椀	－	(1.9)	(8.3)	にぶい橙（7.5YR6/4）			585
318	下がり1　9層	土師器	椀	－	(12.1)	(6.0)	橙（5YR6/6）			578
319	下がり1　10～11層	黒色土器	椀	－	(1.2)	(5.7)	にぶい橙（7.5YR6/4）			586
320	下がり1　10～11層	土師器	椀	(11.6)	4.6	6.8	にぶい橙（7.5YR7/4）			612
321	下がり1	土師器	椀	－	(3.3)	(6.8)	浅黄橙（7.5YR8/3）			596
322	下がり1　9層	土師器	椀	－	(1.65)	6.6	灰白（2.5Y8/1）			572
323	下がり1　9層	土師器	椀	－	(1.8)	(6.0)	にぶい黄橙（10YR5/1）			583
324	下がり1　10～11層	黒色土器	椀？	－	(1.8)	(6.0)	にぶい黄橙（10YR6/4）			593
325	下がり1　10～11層	土師器	甕	(38.0)	(6.8)	－	にぶい黄橙（10YR7/3）			598
326	下がり1　10～11層	黒色土器	椀	(18.8)	(4.2)	－	浅黄橙（7.5YR8/4）			595
327	下がり1　10～11層	土師器	椀	－	(2.7)	－	にぶい褐（7.5YR5/3）			584
328	下がり1　9層	土師器	椀	－	(2.2)	－	灰白（10YR8/1）			581
329	下がり1　10～11層	黒色土器	椀	－	(1.9)	(8.9)	にぶい橙（7.5YR6/4）			594
330	下がり1	土師器	椀	－	(1.1)	6.2	灰白（2.5Y8/2）			597
331	下がり1　10～11層	黒色土器	椀	－	(1.6)	(5.8)	にぶい黄橙（10YR7/2）			587
332	下がり1　10～11層	土師器	皿	(11.6)	1.3	8.2	にぶい黄橙（10YR6/3）			588
333	下がり1　9層	土師器	小皿	8.8	1.2	6.8	橙（7.5YR6/6）			577
334	下がり1　9層	土師器	小皿	(8.9)	1.1	(7.4)	橙（5YR7/6） もう少し 6/6 橙に近い色			573
335	下がり1　9層	土師器	小皿	(7.8)	0.8	(5.6)	橙（5YR7/6） もう少し 6/6 橙に近い色			574
336	下がり1　9層	土師器	皿	(9.0)	1.6	(5.6)	浅黄橙（10YR8/4）			582
337	下がり1　10～11層	土師器	甕	－	－	－	にぶい橙（7.5YR7/4）			590
338	下がり1　9層	土師器	鍋	－	－	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			576
339	下がり1　10～11層	土師器	甕	(30.8)	(18.3)	－	にぶい黄橙（10YR6/3）			592
340	下がり1　10～11層	須恵器	甕	(35.0)	(6.9)	－	灰（N5/）			599
341	下がり1　10～11層	須恵器	甕	(32.0)	(9.0)	－	灰（N6/）			600
342	下がり1　10～11層	須恵器	甕	22.0	(9.3)	－	灰（N6/）			602
343	下がり1　10～11層	須恵器	甕	－	－	－	暗赤灰（7.5R4/1）			601
344	下がり1　10～11層	緑釉陶器	皿	－	(1.3)	7.1	釉：オリーブ黄（5Y6/4） 素地：にぶい黄橙（10YR7/3）		9C 中頃、京都	658
345	遺構に伴わない遺物	土師器	椀	(11.8)	(3.3)	－	浅黄橙（10YR8/3）			144
346	遺構に伴わない遺物	土師器	皿 or 椀？	－	(1.8)	7.1	灰白（2.5Y8/2）			157
347	遺構に伴わない遺物	黒色土器	椀	－	(2.1)	7.0	にぶい黄橙（10YR7/3）			191
348	遺構に伴わない遺物	黒色土器	椀	－	(1.9)	(7.2)	灰白（10YR8/1）			155
349	遺構に伴わない遺物	土師器	椀	－	(2.0)	(6.8)	浅黄橙（10YR8/3）			192

掲載番号	遺構名	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
				口径	器高	底径				
350	遺構に伴わない遺物	土師器	椀	(12.9)	(4.0)	－	灰白（2.5Y7/1）			188
351	遺構に伴わない遺物	土師器	椀？皿？	－	(1.5)	(5.4)	浅黄橙（10YR8/3）			142
352	遺構に伴わない遺物	土師器	椀	－	(1.4)	(5.8)	浅黄橙（7.5YR8/3）			143
353	遺構に伴わない遺物	土師器	椀	－	(1.8)	5.8	灰白（2.5Y8/1）			156
354	遺構に伴わない遺物	土師器	椀？	－	(1.6)	5.9	灰白（2.5Y8/2）			149
355	遺構に伴わない遺物	土師器	皿？	－	(1.2)	(8.4)	にぶい橙（7.5YR6/4）			150
356	遺構に伴わない遺物	土師器	小皿	－	(1.1)	5.3	にぶい黄橙（10YR7/3）			190
357	遺構に伴わない遺物	土師器	小皿	(5.7)	1.2	4.4	にぶい黄橙（10YR7/3）			54
358	遺構に伴わない遺物	須恵器	提瓶	－	－	－	灰（N6/）			145
359	遺構に伴わない遺物	土師器	器台？	－	(3.7)	(10.5)	灰白（10YR8/2）			189
360	遺構に伴わない遺物	土師器	器台？	－	(2.4)	6.6	灰白（10YR8/2）			151
361	遺構に伴わない遺物	瓦	軒丸瓦	長（2.3）	幅（4.0）	厚（1.0）				
362	遺構に伴わない遺物	瓦	軒丸瓦	長（6.9）	幅（2.2）	厚（1.5）	凸凹浅黄橙（10YR8/3）			148
363	遺構に伴わない遺物	瓦	丸瓦	長（9.6）	幅（6.6）	厚（2.0）	凸凹黄灰（2.5Y5/1）			194
364	遺構に伴わない遺物	瓦	丸瓦	長（4.1）	幅（4.4）	厚（1.4）	凹灰（10Y6/1） 凸灰白（7.5Y7/1）			154
365	遺構に伴わない遺物	瓦	軒丸瓦	長（4.3）	幅（2.9）	厚（1.3）	凸凹灰（N6/）			147
366	遺構に伴わない遺物	瓦	平瓦	長（11.0）	幅（10.5）	厚（2.0）	凹凸灰（5Y4/1）			146
367	遺構に伴わない遺物	瓦	平瓦	長（7.7）	幅（9.0）	厚（1.3）	凹凸灰白（5Y7/1）			152
368	遺構に伴わない遺物	瓦	平瓦	長（5.8）	幅（5.5）	厚（1.8）	凹凸灰白（5Y7/1）			153
369	遺構に伴わない遺物	瓦	平瓦	長（7.5）	幅（9.8）	厚（1.8）	凸凹灰白（2.5Y7/1） 黄灰（2.5Y6/1）			193
370	遺構に伴わない遺物	弥生土器	甕	－	(2.1)	5.0	にぶい橙（7.5YR7/4）			604
371	遺構に伴わない遺物	土師器	杯	(14.7)	4.3	5.6	灰白（10YR8/2）	ほぼ完形		614
372	遺構に伴わない遺物	土師器	杯	－	(3.3)	6.3	灰白（10YR8/2）			615
373	遺構に伴わない遺物	土師器	杯	－	(1.6)	－	灰白（10YR8/2）			610
374	遺構に伴わない遺物	土師器	小皿	(8.0)	2.1	(5.0)	にぶい黄橙（10YR7/4）			607
375	遺構に伴わない遺物	土師器	小皿	8.2	1.4～1.5	5.8	灰白（2.5Y8/2）	完形		608
376	遺構に伴わない遺物	土師器	小皿	8.0	1.4～1.5	7.0	灰白（10YR8/2）	ほぼ完形		611
377	遺構に伴わない遺物	土師器	小皿	7.7	1.0～1.6	6.6	明褐灰（7.5YR7/2）			613
378	遺構に伴わない遺物	土師器	小皿	－	(1.8)	5.0	にぶい黄橙（10YR7/4）			605
379	遺構に伴わない遺物	土師器	甕	(34.8)	(9.1)	－	褐灰（7.5YR4/1）			616
380	遺構に伴わない遺物	須恵器	甕	－	－	－	灰（N6/）			603
381	遺構に伴わない遺物	青磁	壺	－	(3.9)	－	釉：灰オリーブ（5Y5/2） 素地：灰白（N7/）			617
382	遺構に伴わない遺物	土師器	器台	(6.0)	1.8	9.7	浅黄橙（10YR8/3）			609
383	遺構に伴わない遺物	白磁	碗	－	(1.3)	2.8	釉：明オリーブ灰（2.5GY7/1） 素地：灰白（N8/）			619
384	遺構に伴わない遺物	青白磁	合子	(3.8)	2.0	(3.0)	釉：明青灰（5BG） 素地：灰白（N8/）			618

金属製品

掲載番号	遺構名	器種	計測値（㎜）			重量（g）	材質	残存状況	備考	実測番号
			最大長	最大幅	最大厚					
M1	下がり1	鏃	(79.0)	12.5	3.5	4.88	鉄	一部欠損		1
M2	下がり1	釘	(37.0)	5.0	4.0	3.03	鉄	一部欠損		2
M3	下がり1		43.0	12.0	3.5	9.12	鉄	一部欠損		3
M4	遺構に伴わない遺物	釘	(55.0)	8.0	6.0	9.63	鉄	一部欠損		7
M5	遺構に伴わない遺物	釘	(46.5)	8.0	5.0	6.43	鉄	一部欠損		6

土製品

掲載番号	遺構名	器種	計測値（㎜）			重量（g）	色調	残存状況	備考	実測番号
			最大長	最大幅	孔径					
C1	溝4	二面硯	(52)	(82)	(32)	－	灰（N5/）	一部残存		690
C2	溝10	土錘	63.8	18.3	7.2	17.11	にぶい黄橙（10YR7/3）	完形	黒斑あり	C 1
C3	遺構に伴わない遺物	羽口	(5.0)	(7.4)	－	119.4	黄灰（2.5Y6/1） にぶい褐（7.5YR6/3）	破片		195
C4	遺構に伴わない遺物	土錘	(39.2)	18.7	8.0	7.18	にぶい黄橙（10YR7/3）	1/2残存	黒斑あり	C 2

石製品

掲載番号	遺構名	器種	計測値（㎜）			重量（g）	石材	残存状況	備考	実測番号
			最大長	最大幅	最大厚					
S1	河道1	石鏃	(20.0)	(15.0)	3.4	0.69	サヌカイト	一部欠損		(延) S15
S2	河道1	石棒	132.5	42.0	16.0	122.53	塩基性片岩	一部欠損		(延) S5
S3	河道1		74.0	(55.0)	17.0	51.92	流紋岩	一部欠損	斑晶が多い	(延) S33
S4	河道1		98.0	59.0	56.0	387.39	流紋岩	完形		(延) S34
S5	河道1	楔	22.0	22.0	7.5	3.20	サヌカイト	完形		(延) S10
S6	河道1	石鏃	30.0	17.0	6.0	1.53	サヌカイト	完形		(延) S8

掲載番号	遺構名	器種	計測値（mm）			重量（g）	石材	残存状況	備考	実測番号
			最大長	最大幅	最大厚					
S7	河道１	石鏃	21.0	16.0	2.5	0.56	サヌカイト	完形		（延）S9
S8	河道１	石鏃	18.5	15.0	2.5	0.57	サヌカイト	完形		（延）S30
S9	河道１	石錐？	(21.0)	15.0	2.2	0.56	サヌカイト	一部欠損		（延）S28
S10	河道１	石錐	(17.0)	(9.5)	4.0	0.58	サヌカイト	一部欠損		（延）S29
S11	河道１	砥石	(96.5)	62.5	41.5	508.29	流紋岩	一部欠損	斑晶が少ない	（延）S3
S12	河道１		351.0	166.0	42.0	1863.68	サヌカイト	完形		（延）S35
S13	河道１	磨製石包丁	50.0	(35.5)	6.5	15.63	粘板岩	一部欠損		（延）S25
S14	河道１	打製石包丁	83.5	43.0	10.5	42.72	サヌカイト	完形		（延）S6
S15	河道１	楔？	43.0	45.0	5.5	12.02	サヌカイト	完形		（延）S4
S16	河道１	石匙	62.0	32.0	7.0	11.50	サヌカイト	完形		（延）S18
S17	河道１	石鏃	(23.0)	12.0	3.2	0.62	サヌカイト	一部欠損		（延）S7
S18	河道１	石鏃	(18.0)	(18.0)	3.0	0.92	サヌカイト	一部欠損		（延）S16
S19	河道１	石鏃	(13.0)	(16.0)	2.8	0.60	サヌカイト	一部欠損		（延）S20
S20	河道１	石鏃	17.0	13.5	2.8	0.50	サヌカイト	一部欠損		（延）S17
S21	河道１	石鏃？	16.5	14.5	3.5	0.53	サヌカイト	一部欠損		（延）S13
S22	河道１	石	21.0	16.5	3.0	0.56	サヌカイト	完形		（延）S27
S23	河道１	石鏃	28.0	(14.0)	3.5	1.16	サヌカイト	一部欠損		（延）S26
S24	河道１	石鏃	17.0	(11.5)	2.7	0.37	サヌカイト	一部欠損		（延）S22
S25	河道１	石鏃	22.0	17.0	3.0	0.89	サヌカイト	完形		（延）S23
S26	河道１	石鏃	(19.5)	15.0	3.5	1.17	サヌカイト	一部欠損		（延）S19
S27	河道１	石錐	(30.0)	17.5	4.7	1.37	サヌカイト	一部欠損		（延）S11
S28	河道１	石錐	(34.0)	16.0	7.0	1.72	サヌカイト	一部欠損		（延）S12
S29	河道１	楔	29.0	23.0	6.0	5.44	サヌカイト	完形		（延）S21
S30	河道１	楔	36.0	19.0	6.0	5.21	サヌカイト	完形		（延）S24
S31	河道１　たわみ	石鏃	(23.0)	(13.0)	2.7	0.63	サヌカイト	一部欠損		（延）S14
S32	柱穴２	石鏃	(25.5)	16.0	5.0	1.36	サヌカイト	一部欠損		（倉）S6
S33	柱穴３	石鏃	16.5	12.0	2.8	0.32	サヌカイト	完形		（倉）S7
S34	遺構に伴わない遺物	石鏃	17.0	12.5	3.5	0.63	サヌカイト	完形		（延）S31
S35	遺構に伴わない遺物	石鏃	(11.5)	(17.0)	3.0	0.51	サヌカイト	一部欠損		（延）S32
S36	遺構に伴わない遺物	石包丁	(49.0)	36.0	7.5	17.82	サヌカイト？	一部欠損		（倉）S4
S37	溝３	石鏃	(15.0)	13.5	3.0	0.73	サヌカイト	一部欠損		（延）S1
S38	溝３	石鏃	22.0	16.5	4.4	1.65	サヌカイト	完形		（延）S2
S39	溝 12	石鏃	25.0	15.0	3.5	1.18	サヌカイト	完形		（倉）S3
S40	溝 23	石鏃	(18.5)	15.0	4.0	0.71	サヌカイト	一部欠損		（倉）S1
S41	下がり１	石錘	56.0	65.0	22.0	107.44	安山岩	一部欠損		（倉）S5

３　倉ヶ市遺跡遺構一覧表

建物

地区	遺構名	規模	柱間距離（cm）		桁行（cm）	梁間（cm）	面積（㎡）	棟方向	柱穴平面形	時期	備考
			桁	梁							
１区	建物１	６×３	118 ～ 207	145 ～ 234	950 ～ 970	556 ～ 577	54.4	N-71° -E	円	中世	
１区	建物２	２×２	269 ～ 322	227 ～ 277	591 ～ 596	465 ～ 504	34.22	N-62° -E	円	中世	
１区	建物３	２×２	205 ～ 214	130 ～ 203	419	333	－	N-62° -E	円	中世	

柱穴列

地区	遺構名	柱穴の数	柱間距離（cm）	主軸	柱穴平面形	時期	備考
１区	柱穴列１	３	230・240	N-69° -E	円	中世	
１区	柱穴列２	３	235・275	N-66° -E	円	中世	
１区	柱穴列３	３	180	N-19° -W	円	中世	
１区	柱穴列４	４	225 ～ 275	N-68° -E	円	中世	
１区	柱穴列５	３	175・195	N-5° -W	円	中世	
１区	柱穴列６	３	170・180	N-21° -W	円	中世	
１区	柱穴列７	３	170・160	N-35° -W	円	中世	
１区	柱穴列８	３	195・210	N-60° -E	円	中世	
２区	柱穴列９	４	217 ～ 269	N-71° -E	円	中世	

井戸

地区	遺構名	構造	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	底面海抜高（cm）	時期	備考
１区	井戸１	素掘り	楕円	逆台	170	128	65 以上	966 以下	中世	

土壙

地区	遺構名	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	底面海抜高（cm）	時期	備考
１区	土壙１	不整円	椀	126	97	41	990	中世	
１区	土壙２	不整楕円	Ⅲ	98	75	14	1021	中世	
１区	土壙３	不整楕円	不定	68	48	12	1023	中世	

地区	遺構名	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	底面海抜高（cm）	時期	備考
1区	土壙4	不整円	椀	75	73	23	1014	中世	
1区	土壙5	楕円	逆台	126	102	22	1020	中世	
1区	土壙6	楕円	逆台	77	63	32	1009	中世	
1区	土壙7	不整円	逆台	85	73	22	1020	中世	
1区	土壙8	楕円	椀	100	－	30	1001	中世	
1区	土壙9	不整円	椀	90	85	18	1019	中世	
1区	土壙10	不整楕円	凸凹	96	68	24	1020	中世	
1区	土壙11	楕円	皿	100	58	14	1031	中世	
1区	土壙12	楕円	椀	85	55	20	1015	中世	
1区	土壙13	不整楕円	皿	99	69	17	994	中世	
1区	土壙14	不整楕円	皿	111	80	16	1014	中世	
1区	土壙15	不整楕円	皿	175	111	9	991	中世	
2区	土壙16	楕円	皿	140	91	19	1016	中世	
1区	土壙17	不整楕円	椀	84	51	31	1001	中世	
1区	土壙18	楕円	箱	130	75	36	993	中世	
2区	土壙19	楕円	皿	187	153	7	1033	中世	
2区	土壙20	不整円	椀	72	70	28	1025	中世	
2区	土壙21	不整円	椀	68	60	17	1036	中世	
2区	土壙22	楕円	皿	144	83	17	1022	中世	
2区	土壙23	円	箱	60	55	15	1033	中世	
2区	土壙24	楕円	袋状	108	70	29	1030	中世	

溝

地区	遺構名	断面形	上端幅（cm）	底面幅（cm）	深さ（cm）	底面標高（cm）	時期	備考
1区	溝1	逆台	180	13～37	65	951～975	中世	
1区	溝2	皿＋椀	220	55～112	29	1005～1017	中世	
1区	溝3	椀	117	50～62	13	1016～1022	中世	
1区	溝4	皿	183	60～90	32	980～1000	中世	
1区	溝5	椀	35～69	8～30	17	983～995	中世	
2区	溝6	皿	50～110	40～70	56	979～1003	中世	
2区	溝7	皿	80～205	55～95	21	1005～1017	中世	
2区	溝8	皿	74～209	44～110	42	999～1009	中世	
2区	溝9	不定	140～200	58～152	11	1024～1016	中世	
2区	溝10	皿	70～112	20～58	17	988～1004	中世	
2区	溝11	逆台	105～115	60～81	10	1004～1012	中世	
2区	溝12	「V」字	80～185	40～127	37	1009～1016	中世	
2区	溝13	椀	95	-	14	1018～1020	中世	
1区	溝14	椀	33～72	10～47	18	998～1037	中世	
1区	溝15	椀	100～110	65～70	11	1003～1012	中世	
1区	溝16	皿	60～65	42～43	13	1005～1008	中世	
2区	溝17	椀	24～42	-	10	1034～1044	中世	
1区	溝18	皿	115～197	97～145	45	1009～1022	中世	
1区	溝19	椀	60	-	23	1016～1018	中世	
1区	溝20	皿	19～87	-	17	1018～1020	中世	
1区	溝21	椀	40～69	13～35	12	1024～1026	中世	
1区	溝22	椀	20	10	8	1028～1030	中世	
2区	溝23	椀	166～210	106～191	27	1033～1035	中世	
2区	溝24	皿	28～111	13～34	4	1045～1049	中世	
2区	溝25	不定	7～27	-	14	1042～1050	近世	
2区	溝26	椀	152～160	40～58	31	1028～1036	近世	
2区	溝27	皿	92～122	70～102	11	1038～1040	近世	

4　倉ヶ市遺跡遺物観察表

土器

掲載番号	遺構名	地区	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
					口径	器高	底径				
1	建物1	1区	土師器	椀	13.6	(3.6)	－	灰白（2.5Y7/1）			325
2	建物1	1区	土師器	椀	(13.4)	4.6	6.4	灰白（2.5Y8/1）			286
3	建物1	1区	黒色土器	椀	(11.6)	(3.5)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			285
4	建物1	1区	土師器	小皿	(7.4)	1.3	(6.0)	にぶい黄橙（10YR7/2）			282
5	建物1	1区	土師器	小皿	(7.8)	1.6	(6.2)	橙（5YR7/6）			283
6	建物1	1区	土師器	小皿	(7.8)	1.2	(5.6)	浅黄橙（7.5YR8/3）			284
7	建物1	1区	土師器	鍋	(36.2)	(8.7)	－	にぶい褐（7.5YR5/4）			288
8	建物1	1区	須恵器	甕	－	(4.0)	(20.0)	灰白（N5/）			287
9	建物1	1区	土師器	椀	(14.8)	(3.7)	－	灰黄（2.5Y7/2）			523
10	建物1	1区	土師器	椀	－	(2.2)	5.9	灰白（2.5Y8/2）			522

掲載番号	遺構名	地区	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
					口径	器高	底径				
11	建物１	１区	土師器	小皿	8.1	1.5	6.0	灰白（2.5Y8/2）	完形		518
12	建物１	１区	土師器	小皿	7.8	1.2	5.0	にぶい黄橙（10YR7/3）			521
13	建物１	１区	土師器	小皿	(8.0)	1.3	5.0	灰白（2.5Y8/2）			519
14	建物１	１区	土師器	小皿	(7.8)	1.4	(6.2)	にぶい黄橙（10YR6/4）			520
15	建物１	１区	土師器	椀	(13.6)	(3.0)	－	灰白（10YR8/2）			299
16	建物１	１区	土師器	椀	－	－	－	灰白（10YR8/2）			298
17	建物１	１区	土師器	鍋	－	－	－	にぶい橙（7.5YR6/4）			301
18	建物１	１区	土師器	鍋	(33.0)	(7.3)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			300
19	建物１	１区	土師器	竈	－	(8.3)	－	褐（7.5YR4/3）			302
20	建物１	１区	土師器	小皿	(7.4)	1.6	5.1	灰白（2.5Y8/2）			524
21	建物１	１区	土師器	小皿	(7.5)	1.5	(5.0)	灰白（10YR8/2）			525
22	建物１	１区	土師器	椀	12.8	4.0 － 4.7	6.4	灰白（10YR8/2）	ほぼ完形		526
23	建物１	１区	土師器	椀	－	(1.6)	(6.0)	灰白（10YR8/2）			532
24	建物１	１区	青磁	碗	－	(4.9)	(5.4)	釉：灰オリーブ（5Y5/2） 素地：灰（N6/）			621
25	柱穴列２　Ｐ２	１区	亀山焼	甕	33.1	(19.7)	－	灰（N6/）			274
26	柱穴列２　Ｐ２	１区	黒色土器	椀	(12.7)	(2.0)	－	にぶい黄橙（10YR7/3）			277
27	柱穴列２　Ｐ２	１区	土師器	椀	(13.8)	5.5	6.3	灰白（10YR8/2）			278
28	柱穴列２　Ｐ２	１区	土師器	椀	(13.3)	5.0	(6.3)	灰白（2.5Y8/1）			61
29	柱穴列２　Ｐ２	１区	土師器	小皿	(8.0)	1.3	(7.0)	にぶい黄橙（10YR6/4）			276
30	柱穴列２　Ｐ２	１区	亀山焼	甕	28.2	(10.4)	－	灰（N6/）			275
31	柱穴列２　Ｐ２	１区	土師器	鍋	－	－	－	にぶい黄橙（10YR6/4）			279
32	柱穴列２　Ｐ２	１区	土師器	器台	7.7	3.0	5.5	浅黄橙（10YR8/3）	ほぼ完形		57
33	柱穴列２　Ｐ２	１区	土師器	器台	8.8	3.6	6.1	灰白（10YR8/2）			58
34	柱穴列２　Ｐ２	１区	土師器	竈	－	(20.7)	－	橙（5YR6/6）			280
35	柱穴列５　Ｐ２	１区	土師器	竈	－	(17.2)	－	にぶい褐（7.5YR6/3）			303
36	柱穴列５　Ｐ２	１区	土師器	鍋？	(17.8)	(6.1)	－	褐灰（7.5YR4/3）			322
37	柱穴列５　Ｐ２	１区	土師器	鍋？	－	(2.8)	－	にぶい橙（7.5YR7/4）			321
38	柱穴列８　Ｐ３	１区	土師器	竈	(31.0)	(8.3)	－	浅黄橙（10YR8/3）			326
39	柱穴列８　Ｐ３	１区	亀山焼	擂鉢	(34.3)	16.5	(16.0)	灰白（10YR8/1）			311
40	土壙２・３	１区	弥生土器	甕	－	(2.1)	(6.0)	橙（5YR7/6）			217
41	土壙２・３	１区	土師器	椀	－	(1.1)	(5.7)	灰白（7.5YR8/2）			218
42	土壙４	１区	土師器	椀	(15.0)	(3.6)	－	にぶい黄橙（10YR7/3）			231
43	土壙４	１区	土師器	椀	12.5	5.3	(6.1)	灰白（10YR8/2）			237
44	土壙４	１区	土師器	椀	12.4	4.7	6.5	灰白（10YR8/2）			236
45	土壙４	１区	土師器	椀	－	(1.5)	5.0	灰白（10YR8/2）			230
46	土壙４	１区	土師器	小皿	(7.9)	1.5	(5.4)	浅黄橙（10YR8/3）			225
47	土壙４	１区	土師器	小皿	(7.7)	1.5	5.3	にぶい黄橙（10YR7/3）			227
48	土壙４	１区	土師器	小皿	(7.8)	1.2	(6.5)	浅黄橙（10YR8/3）			223
49	土壙４	１区	土師器	小皿	(7.3)	0.8	5.6	浅黄橙（10YR8/3）			224
50	土壙４	１区	土師器	小皿	7.0	1.3	4.9	灰黄褐（10YR6/2）	完形		228
51	土壙４	１区	土師器	小皿	(6.9)	1.2	(5.0)	橙（5YR6/6）			226
52	土壙４	１区	土師器	小皿	(6.6)	1.2	(5.2)	にぶい黄橙（10YR6/4）			229
53	土壙４	１区	土師器	鍋	(46.6)	(5.6)	－	にぶい黄橙（10YR7/3）			232
54	土壙４	１区	土師器	鍋	(41.1)	(14.8)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			238
55	土壙４	１区	土師器	鍋	(40.0)	(11.8)	－	灰黄褐（10YR6/2）			239
56	土壙４	１区	土師器	鍋	(38.3)	(2.9)	－	にぶい褐（7.5YR6/3）			233
57	土壙４	１区	土師器	鍋	(37.8)	(9.0)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			244
58	土壙４	１区	土師器	鍋	(30.6)	(5.0)	－	にぶい（7.5YR6/4）			242
59	土壙４	１区	土師器	鍋	(31.0)	(11.3)	－	にぶい黄橙（10YR7/4）			243
60	土壙４	１区	土師器	鍋	(29.6)	(10.4)	－	灰黄褐（10YR4/2）			245
61	土壙４	１区	土師器	鍋	－	(11.0)	－	灰白（5Y7/1）			235
62	土壙４	１区	土師器	竈	－	(12.0)	－	にぶい黄橙（10YR6/3）			240
63	土壙４	１区	土師器	竈	－	(16.0)	－	にぶい黄橙（10YR6/）			241
64	土壙５	１区	土師器	椀	(13.0)	4.2	(6.2)	灰黄（2.5Y7/2）			259
65	土壙５	１区	土師器	椀	11.5	4.0	5.1	灰白（2.5Y8/2）			258
66	土壙５	１区	土師器	竈	－	(13.5)	－	にぶい褐（7.5YR5/4）			260
67	土壙５	１区	土師器	鍋	(35.0)	(9.3)	－	にぶい黄橙（10YR5/3）			256
68	土壙５	１区	土師器	鍋	(27.4)	(8.8)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			257
69	土壙５	１区	土師器	竈？	－	－	－	にぶい褐（7.5YR5/4）			261
70	土壙６	１区	土師器	椀	(12.8)	(3.4)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			253
71	土壙６	１区	土師器	小皿	7.8	1.3	5.4	灰白（2.5Y8/2）			254
72	土壙６	１区	土師器	竈	－	－	－	浅黄（2.5Y7/3）			252
73	土壙７	１区	土師器	椀	－	(1.8)	6.8	灰白（2.5Y8/2）			248
74	土壙７	１区	土師器	椀	－	(1.8)	5.8	灰白（10YR8/2）			247
75	土壙７	１区	土師器	椀	－	(1.5)	5.6	灰白（2.5Y8/1）			249
76	土壙７	１区	土師器	小皿	(7.9)	1.4	(5.6)	灰白（5Y8/2）			251
77	土壙７	１区	土師器	小皿	7.0	1.2	5.3	浅黄（2.5Y7/3）			250
78	土壙８	１区	土師器	椀	(15.5)	(4.5)	－	灰白（2.5Y8/2）			255
79	土壙９	１区	土師器	椀？	(12.8)	(2.4)	－	灰白（10YR8/2）			221

掲載番号	遺構名	地区	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
					口径	器高	底径				
80	土壙9	1区	土師器	小皿	8.4	1.4	6.4	浅黄（2.5Y7/3）	完形		60
81	土壙9	1区	土師器	小皿	7.8	1.5	5.5	浅黄橙（10YR8/3）	完形		59
82	土壙9	1区	土師器	鍋	—	—	—	にぶい橙（7.5YR6/4）			220
83	土壙9	1区	土師器	鍋	(30.2)	(15.0)	—	にぶい黄橙（10YR6/3）			219
84	土壙9	1区	土師器	鍋	—	(9.3)	—	にぶい橙（7.5YR7/4）			222
85	土壙12	1区	土師器	椀	(14.9)	(3.1)	—	灰白（10YR8/2）			262
86	土壙12	1区	土師器	鍋	32.2	(14.3)	—	にぶい黄橙（10YR7/2）			264
87	土壙16	2区	白磁	碗	—	(2.4)	(5.6)	釉：明ｵﾘｰﾌﾞ灰（2.5GY7/1） 素地：灰白（N7/）			649
88	土壙20	2区	土師器	椀	—	(2.3)	6.9	にぶい橙（7.5YB7/4）			555
89	溝1　下層	1区	須恵器	短頸壺	(9.5)	(3.7)	—	灰（7.5Y6/1）			142
90	溝1	1区	白磁	碗	(15.8)	(2.8)	—	釉：灰白（5Y7/1） 素地：灰白（2.5Y7/1）			623
91	溝1	1区	土師器	椀	(14.9)	(3.1)	—	灰白（2.5Y8/2）			140
92	溝1	1区	土師器	椀	(14.2)	4.7	(6.0)	灰白（10YR8/2）			137
93	溝1	1区	土師器	椀	14.1	5.2	5.8	灰白（2.5Y8/2）	ほぼ完形		69
94	溝1	1区	土師器	椀	—	(3.8)	6.0	浅黄橙（7.5YR8/3）			139
95	溝1	1区	黒色土器	椀	(13.1)	4.4	6.2	明褐灰（7.5YR7/2）			65
96	溝1　下層	1区	土師器	椀	(12.8)	5.3	(6.5)	灰白（2.5Y8/2）			141
97	溝1	1区	土師器	椀	13.4	4.0	5.7	灰白（2.5Y8/1）			73
98	溝1	1区	土師器	椀	12.4	4.6	6.1	灰白（2.5Y8/2）			71
99	溝1　下層	1区	土師器	椀	—	(1.8)	6.3	灰白（2.5Y8/2）			143
100	溝1　下層	1区	土師器	椀	—	(3.0)	6.5	灰白（10YR8/2）			144
101	溝1　下層	1区	土師器	椀	—	(3.0)	6.0	灰白（10YR8/2）			145
102	溝1	1区	土師器	椀	—	(1.7)	6.2	にぶい橙（5YR6/4）			72
103	溝1	1区	土師器	椀	—	(1.8)	5.3	黒褐（2.5Y3/1）			151
104	溝1	1区	土師器	椀	—	(2.5)	5.8	灰（10YR8/2）			138
105	溝1	1区	土師器	小皿	(8.4)	1.6	(6.9)	灰白（2.5Y7/2）			64
106	溝1	1区	土師器	小皿	8.2	1.7	5.5	灰白（5Y7/2）	ほぼ完形		66
107	溝1	1区	土師器	小皿	7.9	1.4	5.2	灰白（2.5Y8/2）	完形		63
108	溝1　下層	1区	土師器	鍋	(42.3)	(8.5)	—	灰黄褐（10YR5/2）			146
109	溝1	1区	土師器	鍋	(34.3)	(6.7)	—	灰白（2.5Y8/2）			148
110	溝1	1区	土師器	鍋	(27.8)	(8.3)	—	にぶい黄橙（10YR6/3）			149
111	溝1	1区	土師器	鍋	(25.4)	(10.5)	—	灰白（10YR8/2）			68
112	溝1	1区	土師器	鍋	—	—	—	浅黄（2.5Y7/3）			150
113	溝1	1区	土師器	鍋	—	(7.0)	—	にぶい橙（7.5YR6/4）			147
114	溝1	1区	土師器	器台	7.4	4.4	6.0	灰白（2.5Y8/2）	ほぼ完形		70
115	溝1	1区	土師器	甕	—	(14.5)	—	灰黄褐（10YR5/2）			74
116	溝2	1区	青磁	碗	(15.8)	(5.9)	—	釉：灰ｵﾘｰﾌﾞ（5Y5/2） 素地：灰（5Y6/1）			624
117	溝2　下層	1区	土師器	椀	(13.4)	5.5	6.3	浅黄橙（10YR8/3）			114
118	溝2　下層	1区	土師器	椀	(13.8)	4.6	(6.4)	灰黄（2.5Y7/2）			112
119	溝2　下層	1区	土師器	椀	(13.3)	5.4	(6.0)	灰白（2.5Y8/2）			113
120	溝2　下層	1区	土師器	椀	—	(3.5)	5.7	にぶい橙（7.5YR7/3）			115
121	溝2　下層	1区	土師器	椀	—	(2.0)	5.9	灰白（10YR8/2）			110
122	溝2　下層	1区	土師器	杯	(13.4)	2.8	(9.1)	橙（5YR7/6）			55
123	溝2　下層	1区	土師器	小皿	8.1	1.3	6.2	灰黄（2.5Y7/2）			106
124	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.1	1.5	5.7	浅黄橙（10YR8/3）	完形		32
125	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.9	1.7	5.4	灰白（2.5Y8/1）	完形		4
126	溝2　下層	1区	土師器	小皿	8.1	1.6	5.6	にぶい黄橙（10YR7/4）			45
127	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.7	1.4	5.4	灰白（2.5Y8/2）	完形		14
128	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.6	1.5	5.2	灰白（2.5Y8/2）	完形		15
129	溝2	1区	土師器	小皿	8.2	1.6	5.8	灰白（10YR8/2）			33
130	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.3	1.3	5.2	浅黄橙（10YR8/3）	完形		8
131	溝2　下層	1区	土師器	小皿	8.6	1.3	5.6	浅黄橙（10YR8/4）	完形		52
132	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.9	1.5	5.2	灰白（2.5Y8/1）	完形	灯明用皿に使用か？	6
133	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.3	1.8	5.5	にぶい黄橙（10YR7/2）			50
134	溝2　下層	1区	土師器	小皿	(7.8)	1.5	(5.4)	灰白（10YR8/2）			38
135	溝2　下層	1区	土師器	小皿	(8.0)	1.3	6.0	灰白（10YR8/2）			49
136	溝2　下層	1区	土師器	小皿	(7.9)	1.1	5.6	にぶい橙（7.5YR6/4）			107
137	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.6	1.5	5.3	灰白（2.5Y8/1）	完形		7
138	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.9	1.2	5.5	灰白（10YR8/2）	完形		11
139	溝2　下層	1区	土師器	小皿	(7.9)	1.4	(6.0)	浅黄橙（7.5YR8/3）			48
140	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.4	1.7	6.4	灰白（2.5Y8/2）			39
141	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.3	1.5	5.8	浅黄橙（10YR8/3）			54
142	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.1	1.7	5.7	浅黄橙（10YR8/3）	完形		13
143	溝2　下層	1区	土師器	小皿	8.0	1.3	5.9	浅黄橙（10YR8/3）	完形		30
144	溝2　下層	1区	土師器	小皿	(7.6)	1.4	(4.9)	灰白（10YR8/2）			47
145	溝2　下層	1区	土師器	小皿	8.2	1.5	5.4	灰白（10YR8/2）	完形		1
146	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.6	1.4	5.9	灰白（10YR8/2）			21

掲載番号	遺構名	地区	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
					口径	器高	底径				
147	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.9	1.4	5.9	にぶい黄橙（10YR7/3）			41
148	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.7	1.5	5.7	灰黄（2.5Y7/2）	完形	灯明用皿に使用か？	25
149	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.8	1.5	5.5	浅黄橙（7.5YR8/3）	完形		3
150	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.3	1.4	4.6	灰白（2.5Y8/2）			40
151	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.3	1.4	5.5	灰白（10YR8/2）			22
152	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.6	1.3	5.5	灰白（10YR8/2）	ほぼ完形		36
153	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.8	1.2	5.7	灰白（10YR8/2）			42
154	溝2　下層	1区	土師器	小皿	8.0	1.1	5.9	灰白（2.5Y8/2）	完形		37
155	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.5	1.5	5.4	灰白（10YR8/2）			20
156	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.4	1.5	5.9	灰白（10YR8/2）	完形		24
157	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.2	1.3	6.0	浅黄橙（10YR8/3）			104
158	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.2	1.5	5.0	灰白（10YR8/2）	完形		10
159	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.8	1.3	5.0	灰黄（2.5Y7/2）	ほぼ完形		9
160	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.9	1.5	5.4	浅黄橙（10YR8/3）	完形		5
161	溝2　下層	1区	土師器	小皿	8.0	1.1	5.1	灰黄（2.5Y7/2）	完形		31
162	溝2　下層	1区	土師器	小皿	8.1	1.2	5.3	灰白（2.5Y8/2）			16
163	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.9	1.5	6.7	浅黄橙（10YR8/3）			44
164	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.8	1.5	6.2	灰白（10YR8/2）			12
165	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.5	1.3	5.5	浅黄橙（10YR8/3）	完形		27
166	溝2　下層	1区	土師器	小皿	(7.9)	1.3	(6.1)	浅黄橙（10YR8/3）			51
167	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.8	1.4	5.7	にぶい橙（7.5YR7/3）	完形		2
168	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.6	1.2	5.8	灰白（10YR8/2）	完形		29
169	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.7	1.2	5.8	浅黄橙（10YR8/3）			19
170	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.6	1.1	5.7	浅黄橙（7.5YR8/4）	ほぼ完形		18
171	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.5	1.4	6.0	灰白（10YR8/2）	完形		28
172	溝2　下層	1区	土師器	小皿	(7.7)	1.2	(5.4)	にぶい橙（7.5YR7/4）			109
173	溝2　下層	1区	土師器	小皿	8.0	1.4	5.9	にぶい黄橙（10YR7/3）	完形		35
174	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.6	1.2	5.8	灰白（2.5Y8/2）	完形		34
175	溝2　下層	1区	土師器	小皿	(7.6)	1.5	5.0	灰白（10YR8/2）			53
176	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.6	1.4	5.6	浅黄橙（10YR8/3）	完形		17
177	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.6	1.5	5.5	浅黄橙（10YR8/3）	完形		26
178	溝2　下層	1区	土師器	小皿	8.4	1.3	5.6	灰白（2.5Y8/2）			43
179	溝2　下層	1区	土師器	小皿	7.2	1.3	5.7	淡黄（2.5Y8/3）	完形		23
180	溝2　下層	1区	土師器	小皿	(8.1)	1.5	6.2	浅黄橙（10YR8/3）			46
181	溝2　下層	1区	土師器	器台	7.5	3.8	5.1	浅黄橙（10YR8/3）	ほぼ完形		56
182	溝2　上層	1区	土師器	椀	(14.4)	(3.6)	－	灰白（2.5Y8/1）			79
183	溝2	1区	土師器	椀	(14.2)	4.9	6.4	灰白（2.5Y8/1）			81
184	溝2	1区	土師器	椀	(13.8)	4.4	6.2	灰白（10YR8/2）			158
185	溝2	1区	土師器	椀	(13.9)	4.7	6.2	灰白（2.5Y8/2）			82
186	溝2　上層	1区	瓦質土器？	椀	(13.8)	(4.2)	－	灰黄褐（10YR6/2）			77
187	溝2	1区	土師器	椀	14.8	(4.4)	－	灰白（2.5Y8/1）			80
188	溝2　上層	1区	土師器	椀	－	(3.8)	5.8	灰白（2.5Y8/2）			116
189	溝2	1区	土師器	椀	－	(1.8)	5.7	灰白（10YR8/2）			101
190	溝2	1区	土師器	椀	－	(1.5)	7.0	浅黄（2.5Y7/3）			95
191	溝2	1区	土師器	椀	－	(1.6)	5.6	灰白（10YR8/2）			94
192	溝2　上層	1区	土師器	椀	(14.7)	4.8	(6.6)	灰白（2.5Y8/1）			78
193	溝2	1区	土師器	椀	－	(3.3)	5.5	灰白（10YR8/2）			98
194	溝2	1区	黒色土器	椀	－	(3.4)	5.6	灰白（2.5Y7/1）			111
195	溝2　上層	1区	土師器	椀	(13.6)	4.7	6.0	浅黄橙（10YR8/3）			121
196	溝2　上層	1区	土師器	椀	－	(1.9)	5.3	にぶい黄橙（10YR7/2）			119
197	溝2	1区	土師器	椀	(11.6)	(4.7)	－	灰黄（2.5Y6/2）			76
198	溝2　上層	1区	土師器	椀	12.8	(3.8)	－	灰白（10YR8/2）			120
199	溝2　上層	1区	土師器	椀	－	(3.9)	5.2	にぶい黄橙（10YR7/3）			117
200	溝2　上層	1区	土師器	椀	－	(1.5)	6.0	灰白（10YR8/2）			118
201	溝2	1区	土師器	椀	－	(1.6)	6.1	灰黄 2.5Y6/2）			93
202	溝2	1区	土師器	椀	－	(1.3)	7.4	灰白（10YR8/2）			103
203	溝2	1区	土師器	椀	－	(1.3)	(6.7)	灰白（2.5Y8/1）			102
204	溝2　上層	1区	土師器	小皿	7.3	1.2	5.4	灰白（10YR8/1）			90
205	溝2　上層	1区	土師器	小皿	7.7	1.5	5.9	灰白（10YR7/1）	ほぼ完形		87
206	溝2	1区	土師器	小皿	7.9	1.2	6.2	灰白（10YR8/2）			159
207	溝2	1区	土師器	小皿	(7.7)	1.5	(5.2)	にぶい橙（7.5YR7/3）			99
208	溝2　上層	1区	土師器	小皿	(8.1)	1.2	(7.4)	灰白（2.5Y8/2）			89
209	溝2　上層	1区	土師器	小皿	7.7	1.3	5.1	浅黄（2.5Y7/3）			86
210	溝2　上層	1区	土師器	小皿	7.4	1.1	6.6	灰黄褐（10YR5/2）			85
211	溝2	1区	土師器	灯明皿	(7.0)	1.2	(5.6)	灰（10YR7/1）			92
212	溝2　上層	1区	土師器	小皿	7.5	1.4	4.8	灰白（10YR8/2）			84
213	溝2　上層	1区	土師器	小皿	7.8	1.2	6.5	灰白（10YR8/2）	完形		91
214	溝2	1区	土師器	小皿	7.5	1.4	5.8	浅黄橙（10YR8/3）			88
215	溝2	1区	土師器	小皿	8.0	1.2	5.8	浅黄橙（10YR8/3）			96
216	溝2　上層	1区	土師器	小皿	7.6	1.4	6.0	灰白（10YR8/2）			105

掲載番号	遺構名	地区	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
					口径	器高	底径				
217	溝2	1区	土師器	小皿	8.6	1.1	7.1	にぶい黄橙（10YR7/2）			83
218	溝2　上層	1区	土師器	鍋	(38.8)	(9.5)	—	灰白（10YR8/2）			124
219	溝2　上層	1区	土師器	鍋	(37.6)	(14.2)	—	にぶい黄橙（10YR7/3）			125
220	溝2　上層	1区	土師器	鍋	(34.4)	(12.6)	—	にぶい橙（7.5YR6/3）			130
221	溝2　上層	1区	土師器	鍋	34.5	(13.9)	—	灰白（10YR8/2）			132
222	溝2　上層	1区	土師器	鍋	32.5	(8.6)	—	浅黄褐（10YR4/2）			123
223	溝2　上層	1区	土師器	鍋	(33.4)	(13.7)	—	灰白（10YR8/2）			133
224	溝2	1区	土師器	鍋	—	(18.7)	—	にぶい黄橙（10YR7/3）			97
225	溝2　上層	1区	土師器	鍋	(32.4)	(13.4)	—	灰白（10YR8/2）			127
226	溝2　上層	1区	土師器	鍋	(33.4)	(6.8)	—	にぶい黄橙（10YR7/2）			128
227	溝2　上層	1区	土師器	鍋	(28.3)	(8.4)	—	にぶい黄橙（10YR7/3）			131
228	溝2　上層	1区	土師器	鍋	(26.9)	(5.8)	—	灰黄褐（10YR5/2）			129
229	溝2	1区	土師器	鍋	28.8	(13.0)	—	浅黄橙（10YR8/3）			122
230	溝2　上層	1区	土師器	鍋	23.0	11.3	—	灰白（2.5Y8/2）		注口部あり	126
231	溝4	1区	土師器	椀	—	(1.6)	6.4	灰白（10YR8/1）			189
232	溝4	1区	土師器	小皿	8.0	1.4	5.2	褐灰（10YR4/1）			193
233	溝6	2区	青磁	杯	(19.0)	(3.1)	—	釉：オリーブ黄（7.5Y6/3） 素地：灰（7.5Y6/1）			644
234	溝6	2区	土師器	椀	—	(1.7)	5.7	浅黄橙（10YR8/3）			568
235	溝6	2区	土師器	鍋	—	—	—	にぶい褐（7.5YR5/4）			553
236	溝6	2区	土師器	鍋	(40.5)	(10.5)	—	褐灰（10YR4/1）			549
237	溝6	2区	亀山焼	擂鉢	—	(3.6)	(10.0)	浅黄橙（7.5YR8/3）			554
238	溝6	2区	亀山焼	擂鉢	—	(3.3)	12.0	灰白（2.5Y8/2）			567
239	溝6	2区	須恵器	高杯	—	(5.3)	—	灰白（N7/）			548
240	溝7	2区	土師器	椀	(14.1)	5.1	(5.8)	にぶい橙（7.5YR6/4）			570
241	溝7	2区	土師器	椀	—	(1.9)	6.1	灰白（7.5YR8/2）			571
242	溝7	2区	土師器	小皿	(8.7)	2.0	(4.4)	にぶい橙（7.5YR6/4）			569
243	溝7	2区	土師器	鍋	—	—	—	黒褐（7.5YR3/1）			551
244	溝8	2区	土師器	椀	—	(1.6)	6.0	灰白（2.5Y8/1）			541
245	溝8	2区	土師器	杯	(14.6)	2.3	(9.8)	にぶい黄橙（10YR7/4）			540
246	溝8	2区	備前焼	壺	—	(9.9)	13.9	黄灰（2.5Y5/1）			543
247	溝8	2区	備前焼	擂鉢	(29.8)	10.8	(17.2)	橙（5YR6/6）			542
248	溝10	2区	土師器	椀	(8.8)	2.4	(4.2)	灰白（10YR8/2）			550
249	溝12	2区	土師器	杯	(16.9)	3.9	(8.9)	にぶい赤褐（2.5YR5/4）			536
250	溝12	2区	土師器	椀	15.8	(3.7)	—	浅黄橙（10YR8/3）			546
251	溝12	2区	青磁	碗	—	(2.5)	(4.5)	釉：明オリーブ灰（2.5GY7/1） 素地：灰白（N8/）			648
252	溝12	2区	土師器	椀	—	(1.4)	6.0	灰白（2.5Y8/2）			545
253	溝12	2区	土師器	椀	—	(3.1)	6.0	灰白（2.5Y8/1）			544
254	溝12	2区	土師器	椀	—	(1.8)	6.3	灰白（2.5Y8/1）			566
255	溝12	2区	土師器	椀	—	(1.6)	6.5	にぶい橙（5YR6/4）			539
256	溝12	2区	土師器	鍋	—	—	—	にぶい褐（7.5YR5/3）			547
257	溝12	2区	土師器	鍋	—	—	—	にぶい橙（7.5YR6/4）			538
258	溝12	2区	土師器	鍋	—	—	—	にぶい黄（7.5YR6/4）			537
259	溝14	1区	土師器	竈	(29.6)	(4.0)	—	にぶい橙（7.5YR6/4）			154
260	溝14	1区	土師器	椀	—	(2.4)	(5.8)	灰白（10YR8/2）			153
261	溝14	1区	土師器	椀	—	(1.5)	5.6	浅黄橙（10YR8/3）			152
262	溝14	1区	土師器	椀	—	(1.4)	(6.3)	灰白（10YR8/2）			157
263	溝14	1区	土師器	小皿	8.6	1.3	7.0	灰白（10YR8/1）			155
264	溝14	1区	土師器	小皿	(7.9)	1.3	(6.6)	灰白（2.5Y8/2）			156
265	溝15	1区	土師器	椀	—	(1.1)	(5.9)	灰白（10YR8/2）			188
266	溝18	1区	土師器	鍋	(27.3)	(1.9)	—	にぶい黄橙（10YR7/2）			198
267	溝18	1区	土師器	椀	(12.7)	(3.6)	—	灰白（10YR8/2）			191
268	溝18	1区	土師器	椀	—	(2.3)	(6.2)	灰白（10YR8/2）			194
269	溝18	1区	土師器	椀	(13.1)	4.5	5.9	灰白（2.5Y8/2）			215
270	溝18	1区	土師器	椀	(12.0)	4.7	6.3	灰白（10YR8/2）			216
271	溝18	1区	土師器	椀	—	(1.9)	5.8	浅黄橙（7.5YR8/3）			136
272	溝18	1区	土師器	椀	—	(1.4)	6.0	褐灰（10YR4/1）			195
273	溝18	1区	土師器	鍋	—	—	—	にぶい黄橙（10YR7/3）			192
274	溝18	1区	土師器	鍋	(31.0)	(3.2)	—	にぶい黄橙（10YR6/3）			190
275	溝18	1区	土師器	器台	—	(1.9)	5.9	にぶい黄橙（10YR7/2）			196
276	溝18	1区	須恵器	捏鉢	—	—	—	灰黄（2.5Y7/2）			197
277	溝19	1区	土師器	椀	(14.4)	(3.1)	—	灰白（10YR8/2）			183
278	溝19	1区	土師器	椀	(14.4)	(3.6)	—	灰白（10YR8/2）			182
279	溝19	1区	土師器	椀	—	(2.2)	(5.8)	浅黄（2.5Y7/3）			184
280	溝19	1区	青磁	碗	—	(2.6)	(6.0)	釉：灰白（5Y7/1） 素地：灰白（2.5Y7/1）			625
281	溝19	1区	土師器	鍋	—	—	—	にぶい（7.5YR7/4）			186
282	溝19	1区	土師器	鍋	—	—	—	にぶい橙（7.5YR7/3）			185
283	溝19	1区	土師器	鍋	(31.8)	(12.1)	—	にぶい黄橙（10YR7/3）			187

掲載番号	遺構名	地区	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
					口径	器高	底径				
284	溝 20	1 区	土師器	椀	(13.3)	(3.9)	—	灰白（10YR8/2）			177
285	溝 20	1 区	土師器	椀	—	(1.5)	5.6	灰白（10YR8/2）			180
286	溝 20	1 区	土師器	椀	—	(1.8)	7.0	灰白（2.5Y8/1）			175
287	溝 20	1 区	土師器？	椀	—	(1.8)	6.3	灰白（10YR8/1）			179
288	溝 20	1 区	土師器	椀	—	(1.7)	5.8	灰白（10YR8/2）			174
289	溝 20	1 区	土師器	小皿	8.2	1.1	6.4	浅黄橙（7.5YR8/3）			171
290	溝 20	1 区	土師器	小皿	(7.4)	1.3	(5.8)	にぶい橙（7.5YR7/4）			167
291	溝 20	1 区	土師器	椀	—	—	—	灰白（10YR8/2）			173
292	溝 20	1 区	土師器	小皿	7.3	1.8	5.0	にぶい黄橙（10YR7/3）	完形		181
293	溝 20	1 区	土師器	小皿	(7.7)	1.1	(6.0)	にぶい黄橙（10YR7/2）			170
294	溝 20	1 区	土師器	小皿	(7.6)	1.3	(6.0)	にぶい橙（7.5YR6/4）			165
295	溝 20	1 区	土師器	小皿	7.0	1.2	6.0	橙（5YR7/6）			166
296	溝 20	1 区	土師器	小皿	8.1	1.6	6.1	灰白（10YR7/1）			172
297	溝 20	1 区	土師器	小皿	(6.6)	1.3	(6.0)	浅黄橙（7.5YR8/3）			168
298	溝 20	1 区	須恵器	捏鉢	—	—	—	灰（N6/）		東播系	176
299	溝 20	1 区	土師器	鍋	—	—	—	にぶい黄橙（10YR6/3）			178
300	溝 20	1 区	土師器	鍋	—	—	—	にぶい橙（7.5YR7/4）			169
301	溝 21	1 区	土師器	椀	—	(1.8)	(6.6)	灰白（2.5Y8/2）			160
302	溝 21	1 区	土師器	小皿	(7.6)	1.1	(5.2)	灰白（2.5Y8/2）			164
303	溝 21	1 区	土師器	小皿	7.8	1.4	5.4	灰白（2.5Y8/2）			163
304	溝 21	1 区	土師器	小皿	7.7	1.5	5.8	にぶい黄橙（10YR7/3）			162
305	溝 21	1 区	土師器	器台？	—	(3.1)	6.0	灰白（10YR8/2）			161
306	溝 23	2 区	青磁	鉢	(13.9)	(4.1)	—	釉：灰（7.5Y6/1） 素地：灰白（5Y7/1）			651
307	土器溜まり 1	1 区	常滑焼	甕	—	(19.0)	—	灰白（5Y6/1）		12C 第 3 四半期頃	660
308	土器溜まり 1	1 区	土師器	椀	—	(3.8)	6.3	灰白（10YR8/2）			199
309	土器溜まり 1	1 区	土師器	椀	—	(3.3)	(6.4)	灰白（10YR8/2）			200
310	土器溜まり 1	1 区	土師器	椀	—	(2.4)	(6.2)	にぶい黄橙（10YR6/3）			202
311	土器溜まり 1	1 区	土師器	椀	—	(1.9)	(5.4)	にぶい黄橙（10YR7/2）			204
312	土器溜まり 1	1 区	土師器	小皿	—	(1.6)	(5.6)	灰白（2.5Y8/2）			203
313	土器溜まり 1	1 区	土師器	小皿	(7.7)	1.4	(5.8)	にぶい黄橙（10YR7/3）			201
314	土器溜まり 1	1 区	土師器	鍋	(42.6)	(9.1)	—	灰黄褐（10YR6/2）			214
315	土器溜まり 1	1 区	土師器	鍋	40.8	(5.3)	—	にぶい橙（7.5YR6/4）			206
316	土器溜まり 1	1 区	土師器	鍋	(37.4)	(7.3)	—	灰黄褐（10YR6/3）			213
317	土器溜まり 1	1 区	土師器	鍋	(36.7)	(4.8)	—	にぶい黄橙（10YR7/2）			211
318	土器溜まり 1	1 区	土師器	鍋	(33.3)	(5.0)	—	にぶい黄橙（10YR7/2）			212
319	土器溜まり 1	1 区	土師器	鍋	(49.4)	(11.0)	—	にぶい黄橙（10YR7/2）			210
320	土器溜まり 1	1 区	土師器	鍋	(45.0)	(7.5)	—	浅黄橙（10YR8/3）			209
321	土器溜まり 1	1 区	土師器	鍋	(34.6)	(13.7)	—	浅黄橙（10YR8/3）			208
322	土器溜まり 1	1 区	土師器	鍋	—	(10.5)	—	にぶい橙（10YR5/3）			207
323	柱穴 1	1 区	土師器	椀	15.7	4.8	5.8	灰白（2.5Y8/1）	完形		533
324	柱穴 2	1 区	土師器	椀	(14.9)	(3.4)	—	灰白（10YR8/2）			506
325	柱穴 3	1 区	土師器	椀	(14.0)	(4.0)	—	灰白（10YR8/2）			320
326	柱穴 4	1 区	土師器	椀	(13.3)	4.3	5.8	灰白（10YR8/2）			515
327	柱穴 5	1 区	土師器	椀	(12.8)	(3.9)		浅黄橙（10YR8/3）			498
328	柱穴 6	1 区	土師器	椀	13.6	4.3 — 5.0	5.6	灰白（10YR8/2）			296
329	柱穴 7	1 区	土師器	椀	—	(2.5)	(5.7)	灰白（2.5Y8/2）			297
330	柱穴 8	1 区	土師器	椀	—	(3.4)	—	灰白（10YR8/2）			531
331	柱穴 8	1 区	土師器	椀	—	(1.4)	5.8	にぶい黄橙（10YR7/3）			530
332	柱穴 9	1 区	土師器	鉢	(14.8)	(4.3)	—	灰白（10YR8/2）			505
333	柱穴 10	1 区	土師器	椀	(14.6)	(4.2)	—	灰白（10YR8/2）			516
334	柱穴 11	1 区	土師器	椀	—	(1.8)	(5.8)	灰白（2.5Y8/1）			534
335	柱穴 12	1 区	土師器	椀	—	(1.9)	5.8	灰白（10YR8/2）			527
336	柱穴 13	1 区	土師器	椀	—	(2.3)	6.2	灰白（10YR8/2）			507
337	柱穴 14	1 区	土師器	椀	—	(2.0)	(5.6)	灰白（10YR8/2）			528
338	柱穴 15	1 区	土師器	椀	—	(1.8)	6.0	灰白（10YR8/1）			289
339	柱穴 16	1 区	土師器	椀	—	(2.2)	5.7	灰白（10YR8/2）			513
340	柱穴 17	1 区	土師器	椀	—	(1.7)	5.2	灰白（10YR7/1）			529
341	柱穴 18	1 区	土師器	椀	—	(1.4)	4.7	にぶい黄橙（10YR7/4）			499
342	柱穴 19	1 区	土師器	椀	—	(1.1)	5.8	灰白（10YR8/2）			290
343	柱穴 20	1 区	青磁	碗	(17.2)	(1.5)	—	釉：灰オリーブ（5Y6/2） 素地：灰白（N7/）			622
344	柱穴 21	1 区	青磁	碗	—	—	—	釉：灰オリーブ（5Y6/2） 素地：灰白（5Y7/1）			620
345	柱穴 22	1 区	土師器	杯	—	(1.5)	8.6	灰白（10YR8/1）			511
346	柱穴 19	1 区	土師器	小皿	(7.2)	1.5	(6.0)	にぶい黄橙（10YR7/3）			291
347	柱穴 23	1 区	土師器	小皿	(7.9)	1.5	(5.8)	灰白（10YR8/2）			281
348	柱穴 24	1 区	土師器	小皿	(7.6)	1.4	(6.3)	にぶい橙（7.5YR6/4）			504
349	柱穴 25	1 区	土師器	小皿	(7.9)	1.4	(4.6)	灰白（10YR8/2）			514
350	柱穴 26	1 区	土師器	小皿	7.4	1.0	5.3	灰黄褐（10YR6/2）			502

掲載番号	遺構名	地区	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
					口径	器高	底径				
351	柱穴 27	1 区	土師器	小皿	(7.8)	1.2	(6.0)	灰白（10YR8/2）			292
352	柱穴 27	1 区	土師器	小皿	7.9	1.4	5.6	灰白（2.5Y8/2）	ほぼ完形		293
353	柱穴 27	1 区	土師器	小皿	7.6	1.1 － 1.6	6.4	灰白（10YR8/2）	ほぼ完形		294
354	柱穴 28	1 区	土師器	小皿	7.8	1.4	5.6	浅黄（2.5Y7/3）	完形		500
355	柱穴 29	1 区	土師器	小皿	6.9	1.6	5.7	灰白（10YR8/2）	ほぼ完形		501
356	柱穴 30	1 区	土師器	小皿	7.8	1.6	6.4	にぶい黄橙（10YR7/3）	完形		512
357	柱穴 31	1 区	土師器	小皿	7.7	1.3	5.4	灰白（2.5Y8/2）	完形		517
358	柱穴 32	1 区	土師器	小皿	(7.8)	1.1	(5.7)	灰白（10YR8/2）			510
359	柱穴 32	1 区	土師器	小皿	(7.3)	1.2	(5.3)	灰白（10YR8/2）			509
360	柱穴 33	1 区	土師器	器台？	－	(2.5)	(9.6)	浅黄橙（7.5YR8/3）			503
361	柱穴 3	1 区	土師器	竈	－	－	－	にぶい褐（7.5YR5/4）			319
362	柱穴 32	1 区	土師器	鍋	－	(7.0)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			508
363	柱穴 35	1 区	土師器	椀	(12.8)	(3.4)	－	灰白（10YR8/2）			315
364	柱穴 36	1 区	土師器	椀	－	－	－	にぶい橙（2.5YR6/4）			310
365	柱穴 37	1 区	土師器	椀	－	－	－	灰白（10YR8/2）			309
366	柱穴 38	1 区	土師器	椀	－	(1.6)	(6.3)	灰白（10YR8/1）			313
367	柱穴 39	1 区	土師器	椀	－	(1.5)	(6.6)	灰白（10YR8/2）			314
368	柱穴 40	1 区	土師器	椀	－	(1.7)	(6.0)	灰白（10YR8/2）			316
369	柱穴 41	1 区	黒色土器？	椀	－	(1.8)	(5.0)	浅黄橙（7.5YR8/3）			306
370	柱穴 42	1 区	土師器	椀	－	－	－	浅黄橙（10YR8/3）			305
371	柱穴 43	1 区	土師器	椀	－	－	－	浅黄橙（10YR8/3）			308
372	柱穴 44	1 区	土師器	小皿	(8.7)	1.4	(6.0)	橙（7.5YR6/6）			318
373	柱穴 38	1 区	土師器	小皿	－	(0.9)	(6.0)	浅黄橙（10YR8/3）			312
374	柱穴 46	1 区	土師器	小皿	－	－	－	灰白（10YR8/2）			317
375	柱穴 47	1 区	土師器	小皿	(10.2)	2.1	(6.0)	にぶい橙（7.5YR6/4）			324
376	柱穴 48	1 区	土師器	小皿	(7.7)	(1.8)	(2.5)	にぶい橙（5YR6/4）			323
377	柱穴 45	1 区	土師器	鍋	－	－	－	浅黄橙（10YR8/3）			307
378	柱穴 42	1 区	須恵器	捏鉢	－	－	－	にぶい橙（7.5YR7/4）		東播系	304
379	柱穴 51	2 区	土師器	椀	(9.8)	2.8	(3.7)	浅黄橙（10YR8/3）			556
380	柱穴 52	2 区	土師器	皿	－	(1.1)	(5.3)	橙（7.5YR7/6）			561
381	柱穴 53	2 区	土師器	椀	(13.5)	(3.3)	－	灰白（10YR8/2）			562
382	柱穴 54	2 区	瓦質土器？	椀	－	(1.9)	(7.8)	灰白（10YR8/1）			559
383	柱穴 55	2 区	土師器	椀	－	(1.6)	(5.8)	灰白（10YR8/2）			560
384	柱穴 56	2 区	土師器	小皿	(8.4)	1.7	(7.0)	にぶい黄橙（10YR6/3）			563
385	柱穴 57	2 区	土師器	小皿	(7.9)	1.0	(5.6)	橙（5YR6/6）			558
386	柱穴 58	2 区	土師器	小皿	(6.8)	1.2	(4.8)	浅黄橙（10YR8/3）			557
387	柱穴 59	1 区	土師器	小皿	(7.6)	0.9	(7.0)	橙（7.5YR6/6）			295
388	柱穴 60	2 区	亀山焼	甕	(26.3)	(5.5)	－	灰白（5Y7/2）			564
389	柱穴 62	2 区	土師器	鍋	(35.8)	(15.9)	－	にぶい黄橙（10YR6/3）			552
390	柱穴 61	2 区	土師器	鍋	－	－	－	褐灰（10YR4/1）			565
391	遺構に伴わない遺物	1 区	亀山焼	甕	(30.7)	(9.1)	－	灰（N4/）			246
392	遺構に伴わない遺物	1 区	亀山焼	甕	(19.2)	(5.4)	－	灰（N5/）			665
393	遺構に伴わない遺物	1 区	亀山焼	甕	－	(8.2)	(16.0)	灰白（2.5Y7/1）			682
394	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	杯	(27.4)	9.9	(14.2)	にぶい褐（7.5YR5/4）			661
395	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	椀	15.2	4.8	6.2	灰白（10YR8/1）			679
396	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	椀	(15.2)	4.5	7.0	灰白（10YR8/2）			666
397	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	椀	(14.4)	4.4	6.3	灰白（10YR8/2）			662
398	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	椀	13.8	4.7	6.1	灰白（10YR8/2）			62
399	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	椀	(13.7)	4.4	5.6	灰白（10YR8/2）			673
400	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	椀	13.9	4.9	5.8	にぶい黄橙（10YR7/2）			674
401	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	椀	13.6	5.2	5.7	灰白（5Y8/2）			67
402	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	椀	13.0	5.1	5.8	灰白（10YR8/2）	完形		678
403	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	椀	12.9	5.0	6.2	灰白（10YR8/2）	ほぼ完形		683
404	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	椀	(11.8)	4.7	5.4	灰白（10YR8/2）			684
405	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	7.9	1.2	5.5	浅黄橙（10YR8/3）	完形		675
406	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	8.0	1.4	7.1	にぶい橙（7.5YR6/4）			670
407	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	7.7	1.1	6.4	淡橙（5YR8/4）			687
408	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	8.4	1.3	7.2	浅黄橙（7.5YR8/4）			664
409	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	8.0	1.6	6.2	浅黄橙（10YR8/3）	完形		688
410	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	8.0	1.4	5.7	灰白（10YR8/2）	完形		677
411	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	7.8	1.6	5.6	灰白（10YR8/2）	完形		669
412	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	7.6	1.2	6.3	にぶい橙（7.5YR6/4）			671
413	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	7.9	1.3	6.0	にぶい橙（7.5YR7/3）			676
414	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	7.8	1.5	5.6	灰白（10YR8/2）			663
415	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	7.9	1.4	5.6	浅黄橙（7.5YR8/3）			681
416	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	7.3	1.3	5.6	にぶい橙（7.5YR7/3）			685
417	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	7.1	1.6	5.7	灰白（10YR8/2）			686
418	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	7.3	1.3	6.1	浅黄橙（10YR8/3）			667
419	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	7.7	1.6	5.9	灰白（2.5Y8/2）			205
420	遺構に伴わない遺物	1 区	土師器	小皿	7.4	1.4	5.2	灰白（10YR8/2）	ほぼ完形		680

掲載番号	遺構名	地区	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
					口径	器高	底径				
421	遺構に伴わない遺物	1区	土師器	小皿	7.0	1.6	4.4	にぶい橙（5YR7/4）			668
422	遺構に伴わない遺物	1区	土師器	鍋	(35.3)	(11.2)	—	にぶい黄橙（10YR7/2）			672
423	遺構に伴わない遺物	2区	瓦	軒丸瓦	長（5.6）	—	厚（1.3）	凹凸灰白（N7/）			659
424	遺構に伴わない遺物	1区	白磁	椀	(16.8)	(2.2)	—	釉：灰白（7.5Y7/1） 素地：灰白（2.5Y7/1）		429と同一個体？	642
425	遺構に伴わない遺物	1区	白磁	碗	(16.0)	(3.8)	—	釉：灰白（10Y7/1） 素地：灰白（N8/）			630
426	遺構に伴わない遺物	2区	白磁	碗	(16.3)	(4.9)	—	釉：灰オリーブ（7.5Y6/2） 素地：灰白（N7/）			650
427	遺構に伴わない遺物	1区	白磁	碗	(15.2)	(3.7)	—	釉：灰白（2.5Y7/1） 素地：灰白（2.5Y7/1）			640
428	遺構に伴わない遺物	1区	白磁	碗	—	(4.0)	(6.0)	釉：灰白（7.5Y7/1） 素地：灰白（2.5Y7/1）			639
429	遺構に伴わない遺物	1区	白磁	碗	—	(3.3)	5.1	釉：灰白（7.5Y7/1） 素地：灰白（10Y7/1）		424と同一個体？	641
430	遺構に伴わない遺物	1区	青磁	碗	(13.5)	(1.9)	—	釉：一塵（5GY5/3） 素地：灰白（5Y8/1）			631
431	遺構に伴わない遺物	1区	青磁	碗	(17.8)	(4.3)	—	釉：明緑灰（10GY7/1） 素地：灰白（7.5Y8/1）		龍泉窯系	637
432	遺構に伴わない遺物	2区	青磁	碗	(16.9)	(2.9)	—	釉：オリーブ灰（10YR6/2） 素地：灰白（7.5Y7/1）			643
433	遺構に伴わない遺物	1区	青磁	碗	—	—	—	釉：灰オリーブ（5Y4/2） 素地：灰（N6/）		龍泉窯系	626
434	遺構に伴わない遺物	2区	青磁	碗	(13.7)	(3.6)	—	釉：灰（7.5Y6/1） 素地：灰（N6/）、にぶい橙（7.5YR6/4）			647
435	遺構に伴わない遺物	2区	青磁	碗	—	(2.1)	(5.3)	釉：オリーブ灰（2.5GY6/1） 素地：灰（N6/）			645
436	遺構に伴わない遺物	1区	青磁	碗	(14.9)	(5.2)	—	釉：灰オリーブ（5Y6/2） 素地：灰白（5Y7/1）			628
437	遺構に伴わない遺物	1区	白磁	碗	—	(4.0)	6.6	釉：灰白（2.5Y8/2） 素地：灰黄（2.5Y7/2）			629
438	遺構に伴わない遺物	1区	青磁	皿	—	—	5.0	釉：灰オリーブ（7.5Y6/2） 素地：灰白（7.5Y7/1）		同安窯系か	634
439	遺構に伴わない遺物	1区	青磁	皿	—	(1.0)	5.3	釉：オリーブ灰（5GY6/1） 素地：灰（10Y6/1）		同安窯系か	635
440	遺構に伴わない遺物	1区	青磁	皿	—	(1.4)	3.6	釉：灰白（5Y7/2） 素地：灰白（5Y7/1）			638
441	遺構に伴わない遺物	1区	青磁	皿	9.4	2.7	3.2	釉：オリーブ黄（5Y6/3） 素地：灰白（5Y7/1）	ほぼ完形	龍泉窯系	633
442	遺構に伴わない遺物	1区	青磁	皿	(11.1)	2.5	5.0	釉：オリーブ灰（2.5GY6/1） 素地：灰白（N7/）少し灰色		同安窯系	632
443	遺構に伴わない遺物	1区	青磁	皿	—	(1.7)	5.0	釉：灰オリーブ（7.5Y6/2） 素地：灰（5Y6/1）		同安窯系	636
444	溝26	2区	唐津	鉢	—	(3.6)	(6.4)	釉：灰（10Y6/1） 素地：にぶい黄（2.5Y6/3）		17C初	655
445	溝26	1区	土師器	椀	—	(2.3)	—	灰白（10YR8/2）			135
446	溝26	1区	土師器	小皿	(7.6)	1.4	(5.9)	橙（7.5YR6/6）			134
447	溝26	2区	備前焼	擂鉢	(26.4)	(5.7)	—	橙（2.5YR6/6）			535
448	池状遺構	1区	土師器	椀	(12.7)	(3.6)	—	浅黄橙（10YR8/3）			271
449	池状遺構	1区	土師器	椀	12.4	4.9	6.0	灰白（2.5Y8/2）	ほぼ完形		266
450	池状遺構	1区	土師器	椀	—	(1.5)	5.8	灰白（10YR8/2）			268
451	池状遺構	1区		皿？	—	(1.1)	(7.1)	橙（7.5YR6/6）			273
452	池状遺構	1区	土師器	鍋	—	—	—	にぶい黄橙（10YR7/3）			270
453	池状遺構	1区	土師器	鍋	—	—	—	灰白（10YR8/2）			269
454	池状遺構	1区	土師器	鍋	—	—	—	にぶい黄橙（10YR6/3）			265
455	池状遺構	1区	土師器	鍋	—	—	—	にぶい黄橙（10YR7/4）			267
456	池状遺構	1区	土師器	焙烙	—	—	—	灰黄褐（10YR5/2）			272
457	池状遺構	1区	青白磁	合子	(2.5)	1.7	(2.8)	釉：明青灰（5BG7/1） 素地：灰白（7.5Y8/1）			627
458	遺構に伴わない遺物	1区	陶器	椀	—	(2.9)	(4.4)	釉：にぶい黄橙（10YR7/3） 素地：灰黄（2.5Y7/2）		17C後半、肥前内山系	654
459	遺構に伴わない遺物	1区	白磁	皿？	—	(1.3)	3.4	釉：灰白（5Y8/1） 素地：灰白（2.5Y8/1）			656
460	遺構に伴わない遺物	1区	染付	小碗	—	(2.7)	—	釉：明緑灰（7.5GY8/1） 素地：灰白（7.5Y8/1）		18C代、肥前、二本線で割り筆、綱目抽	652
461	遺構に伴わない遺物	1区	磁器	灯明具	—	(4.3)	5.1	釉：灰白（10Y7/1） 素地：灰白（7.5Y8/1）		18後－19C、ヒョウソク、京焼系信楽	653

金属製品

掲載番号	遺構名	地区	器種	計測値（㎜）			重量（g）	材質	残存状況	備考	実測番号
				最大長	最大幅	最大厚					
M1	土壙11	1区	釘	(44.0)	5.0	5.5	6.16	鉄	一部欠損		4-1
M2	土壙11	1区	釘	(34.0)	5.5	5.0	3.05	鉄	一部欠損		4-2
M3	溝2	1区	釘	(24.0)	5.0	3.0	1.07	鉄	一部欠損		5-5
M4	溝2	1区	刀子	(25.0)	15.0	4.0	3.33	鉄	一部欠損		5-6
M5	溝2	1区	釘	(22.0)	6.0	4.5	1.52	鉄	一部欠損		5-1
M6	溝2	1区	釘	(55.7)	14.5	12.6	17.8	鉄	一部欠損		16
M7	溝2	1区	釘	(58.0)	10.0	8.0	13.77	鉄	一部欠損		5-2
M8	溝2	1区	釘	(43.0)	7.0	5.5	5.25	鉄	一部欠損		5-3
M9	溝2	1区	釘	(55.0)	5.5	5.0	4.7	鉄	一部欠損		5-4
M10	遺構に伴わない遺物		釘	(20.0)	5.0	5.0	1.6	鉄	一部欠損		14
M11	遺構に伴わない遺物		鏃	(62.0)	7.0	5.0	11.51	鉄	一部欠損		15
M18	遺構に伴わない遺物	1区	刀子	(132.5)	22.0	5.0	48.84	鉄	一部欠損		9
M19	遺構に伴わない遺物	1区	鏃	(57.0)	49.0	5.0	19.47	鉄	一部欠損		13
M20	遺構に伴わない遺物	1区	鏃	(50.0)	25.0	5.0	12.18	鉄	一部欠損		8-1
M21	遺構に伴わない遺物	1区	鏃	(48.0)	30.0	5.0	12.23	鉄	一部欠損		10
M22	遺構に伴わない遺物	1区	紡錘車	(36.0)	径40.0	－	16.85	鉄	一部欠損		12
M23	遺構に伴わない遺物	1区	釘	(71.0)	8.0	7.0	14.56	鉄	一部欠損		11
M24	遺構に伴わない遺物	2区	鏃	(44.0)	7.0	6.0	6.33	鉄	一部欠損		17
M25	遺構に伴わない遺物	1区	釘	(16.0)	4.0	5.0	1.41	鉄	一部欠損		8-3
M26	遺構に伴わない遺物	1区	釘	(25.0)	5.0	4.0	1.89	鉄	一部欠損		8-2

土製品

掲載番号	遺構名	地区	器種	計測値（㎜）			重量（g）	色調	残存状況	備考	実測番号
				最大長	最大幅	孔径					
C1	遺構に伴わない遺物	1区	土錘	38.6	13.3	4.1	5.48	にぶい黄橙（10YR7/3）	ほぼ完形		C-5
C2	遺構に伴わない遺物	1区	土錘	33.9	12.2	3.6	4.79	にぶい黄橙（7.5YR6/3）	完形		C-4
C3	遺構に伴わない遺物	1区	土錘	46.2	12.1	4.4	5.79	にぶい褐（7.5YR6/3）	ほぼ完形	黒斑あり	C-3

銭

掲載番号	地区	遺構名	種類	初鋳	字体	材質	計測値		重量（g）	残存状態	備考	実測番号
							最大径	最大厚				
M12	2区	柱穴	大観通寶（北宋）	1107年	－	銅	24.5	1.7	2.4	完形		Z98
M13	2区	柱穴	寧寧元寶（北宋）	1068年	真書	銅	25.1	0.9	1.1	完形		Z99
M14	2区	遺構に伴わない遺物	元豊通寶（北宋）	1078年	行書	銅	24.1	1.4	2.4	完形		Z97
M15	2区	遺構に伴わない遺物	元祐通寶（北宋）	1086年	行書	銅	24.8	1.4	2.5	完形		Z95
M16	2区	遺構に伴わない遺物	元祐通寶（北宋）	1086年	－	銅	24.5	1.2	2.1	完形		Z94
M17	2区	遺構に伴わない遺物	永楽通寶（明）	1408年	－	銅	25.2	1.5	2.9	完形		Z96
M27	2区	溝26	洪武通寶（明）	1368年	－	銅	23.8	1.4	1.8	欠損		Z101
M28	2区	遺構に伴わない遺物	寛永通寶	－	－	銅	22.2	1.0	1.6	完形		Z100

石製品

掲載番号	遺構名	地区	器種	計測値（㎜）			重量（g）	石材	残存状況	備考	実測番号
				最大長	最大幅	最大厚					
S1	建物1	1区		62.0	57.0	22.0	17.5	軽石	完形		S9
S2	溝13	2区	石鏃	19.0	15.0	3.0	0.8	サヌカイト	完形		S2
S3	遺構に伴わない遺物	1区	砥石	159.0	75.0	61.0	864.6	細粒花崗岩	完形		S10
S4	遺構に伴わない遺物	1区	砥石	(73.0)	46.0	8.0	40.1	粘板岩	一部欠損		S8

5　下土田遺跡遺構一覧表

土壙

遺構名	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	底面海抜高（cm）	時期	備考
土壙1	楕円	Ⅲ	238	136	14	1036	中世	
土壙2	不整楕円	Ⅲ2段	-	139	17	1031	中世	

溝

遺構名	断面形	上端幅（cm）	底面幅（cm）	深さ（cm）	底面標高（cm）	時期	備考
溝1	逆台	72～158	26～68	15～20	1038～1038		

6　下土田遺跡遺物観察表

土器

掲載番号	遺構名	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
				口径	器高	底径				
1	土壙１	土師器	椀	－	(1.4)	(6.0)	浅黄橙（10YR8/3）			53
2	土壙１	土師器	椀	－	(1.2)	3.5	浅黄橙（10YR8/3）			54
3	土壙１	土師器	椀	11.4	3.6	4.0	浅黄橙（10YR8/3）			57
4	土壙１	土師器	椀－	10.3	(2.7)	－	浅黄橙（10YR8/3）			55
5	土壙１	土師器	椀	10.7	3.6	4.4	浅黄橙（10YR8/3）	完形		56
6	土壙１	土師器	椀	－	(1.0)	4.5	にぶい黄橙（10YR7/4）			52
7	土壙１	土師器	皿？	(10.3)	(2.1)	8.6	橙（7.5YR7/6）			58
8	溝１	土師器	鍋	(31.0)	(7.2)	－	灰白（2.5Y8/2）			39
9	溝１	土師器	鍋	－	(8.3)	－	にぶい橙（7.5YR7/3）			51
10	Ｐ１	土師器	鍋	－	－	－	明褐（7.5YR5/6）			61
11	たわみ１	土師器	鍋	(33.0)	(5.8)	－	橙（5YR6/6）			60
12	下がり１	土師器	火鉢	－	－	－	にぶい黄橙（10YR7/4）			7
13	下がり１	土師器	椀	13.2	4.4	6.1	灰白（2.5Y8/2）			48
14	下がり１	土師器	椀	11.8	4.15	5.2	にぶい黄橙（10YR7/3）			4
15	下がり１	亀山焼	甕？	－	－	－	灰（5Y4/1）			49
16	下がり１	亀山焼	甕	－	(2.0)	(11.0)	灰（N5/）			5
17	下がり１	土師器	壺	－	(4.2)	(9.0)	にぶい橙（7.5YR7/4）			50
18	下がり１	土師器	鍋	(27.1)	(4.6)	－	にぶい黄橙（10YR6/3）			64
19	下がり１	土師器	鍋	(39.2)	(10.0)	－	にぶい黄橙（10YR7/2）			47
20	下がり１	土師器	鍋	31.1	13.3	－	灰黄褐（10YR6/2）	ほぼ完形		59
21	下がり１	土師器	鍋	－	－	－	灰黄（2.5Y7/2）			63
22	下がり１	備前焼	擂鉢	－	(4.8)	(15.0)	にぶい赤褐（7.5R4/3）			6
23	下がり１	土師器	鍋	－	(12.4)	－	にぶい黄橙（10YR7/4）橙（5YR6/6）			8
24	下がり１	土師器	鍋	－	(11.1)	－	にぶい黄橙（10YR6/3）			62
25	下がり１	土師器	器台	8.9	7.25	(8.1)	灰白（10YR8/2）			1
26	遺構に伴わない遺物	須恵器	短頸壺	11.1	(9.9)	－	灰（N6/）			40
27	遺構に伴わない遺物	須恵器	捏鉢？	－	(5.2)	11.4	灰（7.5Y6/1）			23
28	遺構に伴わない遺物	土師器	皿？	－	(1.4)	9.6	にぶい橙（7.5YR7/4）			17
29	遺構に伴わない遺物	土師器	椀	－	(3.5)	6.0	にぶい黄橙（10YR7/3）			14
30	遺構に伴わない遺物	土師器	碗	(11.0)	2.8	4.6	灰白（10YR8/1）			36
31	遺構に伴わない遺物	土師器	椀	11.2	3.45	3.5	浅黄橙（10YR8/3）	ほぼ完形		3
32	遺構に伴わない遺物	土師器	椀	10.7	3.6	5.8	灰白（2.5Y8/2）			13
33	遺構に伴わない遺物	土師器	椀	－	(3.0)	4.9	灰白（10YR8/2）			38
34	遺構に伴わない遺物	土師器	椀	－	(3.0)	5.8	灰白（10YR8/2）			35
35	遺構に伴わない遺物	土師器	椀	－	(1.8)	6.4	にぶい黄橙（10YR7/4）			18
36	遺構に伴わない遺物	須恵器	壺	－	(3.9)	(12.6)	灰（N6/）			27
37	遺構に伴わない遺物	土師器	小皿	(6.5)	1.25	(5.0)	浅黄橙（7.5YR8/3）			20
38	遺構に伴わない遺物	土師器	小皿	7.2	0.9	5.9	浅黄橙（7.5YR8/3）			19
39	遺構に伴わない遺物	土師器	小皿	(7.4)	1.4	(5.4)	にぶい橙（7.5YR6/4）			41
40	遺構に伴わない遺物	土師器	小皿	6.8	1.6	4.6	にぶい黄橙（10YR7/3）	完形		2
41	遺構に伴わない遺物	土師器	小皿	6.3	1.4	4.4	にぶい黄橙（10YR7/3）			34
42	遺構に伴わない遺物	土師器	器台	(6.4)	(3.5)	－	浅黄橙（10YR8/3）			42
43	遺構に伴わない遺物	須恵器	高台付鉢	－	(3.6)	(8.0)	灰（N5/）			21
44	遺構に伴わない遺物	亀山焼	甕	(21.6)	(10.0)	－	黄灰（2.5Y6/1）			43
45	遺構に伴わない遺物	亀山焼	甕	－	(7.1)	(17.0)	灰（N5/）			32
46	遺構に伴わない遺物	土師器	鍋	(36.7)	(7.9)	－	浅黄橙（10YR8/3）			15
47	遺構に伴わない遺物	土師器	鍋	(36.6)	(9.2)	－	にぶい橙（7.5YR6/4）			44
48	遺構に伴わない遺物	土師器	鍋？	(28.6)	(3.8)	－	黒褐（7.5YR3/1）			28
49	遺構に伴わない遺物	土師器	内耳鍋	(29.1)	(9.3)	－	灰黄褐（10YR5/2）			37
50	遺構に伴わない遺物	土師器	鍋	－	(11.7)	－	灰黄（2.5Y6/2）			33
51	遺構に伴わない遺物	土師器	鍋	－	(12.2)	－	にぶい黄橙（10YR6/3）			45
52	遺構に伴わない遺物	土師器	竈	－	(22.3)	－	にぶい褐（7.5YR5/4）			68
53	遺構に伴わない遺物	土師器	竈	－	(9.7)	－	にぶい褐（7.5YR5/4）			65
54	遺構に伴わない遺物	土師器	竈	－	(16.1)	－	にぶい褐（7.5YR5/4）		56と同一個体	67-B
55	遺構に伴わない遺物	土師器	竈	－	(21.9)	(38.4)	にぶい褐（7.5YR5/4）			66
56	遺構に伴わない遺物	土師器	竈	－	(40.6)	－	にぶい褐（7.5YR5/4）		54と同一個体	67-A
57	遺構に伴わない遺物	土師質土器	捏鉢	(30.4)	(7.5)	－	灰（N5/）			31
58	遺構に伴わない遺物	須恵器	捏鉢	(30.0)	(4.3)	－	灰（N6/）			30
59	遺構に伴わない遺物	須恵器	擂鉢	(33.6)	(4.1)	－	灰（N6/）			25
60	遺構に伴わない遺物	土師器	擂鉢	－	(2.9)	(12.0)	灰褐（7.5YR4/2）			29
61	遺構に伴わない遺物	土師器	擂鉢	－	－	－	灰黄褐（10YR4/2）			16
62	遺構に伴わない遺物	備前焼	擂鉢	(22.6)	(7.2)	－	灰褐（5YR5/2）			26
63	遺構に伴わない遺物	備前焼？	擂鉢	－	(7.4)	(10.6)	にぶい赤褐色（5YR5/4）			24
64	遺構に伴わない遺物	土師器	鍋	(31.1)	(10.1)	－	にぶい黄橙（10YR7/3）			22
65	遺構に伴わない遺物	備前焼	擂鉢	－	－	－	橙（2.5YR6/6）			12
66	遺構に伴わない遺物	備前焼	擂鉢	(24)	(6.6)	(14.5)	浅黄橙（10YR8/3） 口縁褐灰（10YR6/1）			9

掲載番号	遺構名	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	残存状況	備考	実測番号
				口径	器高	底径				
67	遺構に伴わない遺物	青磁	碗	(16.2)	(6.6)	—	釉：黄褐（2.5Y5/3） 素地：にぶい黄橙（10YR7/2）		龍泉窯系	69
68	遺構に伴わない遺物	弥生土器	甕	—	(5.3)	(10.8)	明赤褐色（2.5YR5/6）			11
69	遺構に伴わない遺物	土師器	椀	—	(1.5)	4.8	灰白（10YR8/2）			10
70	遺構に伴わない遺物	白磁	角杯？	(7.8)	3.0	3.8	釉：灰白（5Y8/2） 素地：灰白（2.5Y8/2）		18～19C、不明京焼系	70
71	遺構に伴わない遺物	肥前？	皿？	—	(1.6)	(4.0)	釉：オイスターホワイト（5GY8.5/0.3） 素地：灰白（N8/）			71
72	遺構に伴わない遺物	瓦	平瓦	長（3.6）	幅（7.6）	厚（2.6）	凹灰(2.5Y7/1)凸灰黄(2.5Y6/2)			46

金属製品

掲載番号	遺構名	器種	計測値（mm）			重量（g）	材質	残存状況	備考	実測番号
			最大長	最大幅	最大厚					
M 1	遺構に伴わない遺物	釘	(92.0)	7.0	5.0	14.39	鉄	一部欠損		3
M 2	遺構に伴わない遺物	釘	(22.0)	4.0	4.0	1.05	鉄	一部欠損		4
M 3	遺構に伴わない遺物	釘	(21.0)	4.0	3.5	1.02	鉄	一部欠損		1
M 4	遺構に伴わない遺物	釘	49.0	7.0	4.0	3.73	鉄	完形		2

7　新旧遺構対応表

延寿寺跡

遺構名	旧遺構名	調査時地区
建物1	No.6 建物	延寿寺
建物2	No.20 建物	延寿寺
建物3	No.1 建物	延寿寺
建物4	No.22 建物	倉ヶ市1区
建物5	No.23 建物	倉ヶ市1区
建物6	No.26 建物	倉ヶ市1区
柱穴列1	No.3 柱穴列	延寿寺
柱穴列2	No.17 柱穴列	延寿寺
柱穴列3	No.18 柱穴列	延寿寺
土壙墓1	No.11 土壙墓	倉ヶ市1区
土壙1	No.3 土壙	倉ヶ市1区
土壙2	No.4 土壙	倉ヶ市1区
土壙3	No.7 土壙	延寿寺
土壙4	No.8 土壙	延寿寺
土壙5	No.10 土壙	延寿寺
土壙6	No.9 土壙	延寿寺

遺構名	旧遺構名	調査時地区
土壙7	No.19 土壙	延寿寺
土壙8	No.19 土壙	倉ヶ市1区
土壙9	No.12 土壙	倉ヶ市1区
土壙10	No.11 土壙	延寿寺
溝1	No.23 溝	延寿寺
溝2	No.2 溝	倉ヶ市1区
溝3	No.2 溝	延寿寺
溝4	No.10 溝	倉ヶ市1区
溝5	No.8 溝	倉ヶ市1区
溝6	No.17 溝	倉ヶ市1区
溝7	No.18 溝	倉ヶ市1区
溝8	No.13 溝	倉ヶ市1区
溝9	No.14 溝	倉ヶ市1区
溝10	No.20 溝	倉ヶ市1区
溝11	No.9 溝	倉ヶ市1区
溝12	No.7 溝	倉ヶ市1区

遺構名	旧遺構名	調査時地区
溝13	No.16 溝	延寿寺
溝14	No.12 溝	延寿寺
溝15	No.15 溝	延寿寺
溝16	No.13 溝	延寿寺
溝17	No.6 溝	倉ヶ市1区
溝18	No.4 溝	延寿寺
溝19	No.21 溝	倉ヶ市1区
溝20	No.20 溝	延寿寺
溝21	No.21 溝	延寿寺
溝22	No.22 溝	延寿寺
溝23	No.1 溝	倉ヶ市1区
河道1	No.5 河道	延寿寺
柱穴1	P36	延寿寺
柱穴2	No.35	延寿寺

倉ヶ市遺跡

遺構名	旧遺構名	調査時地区
建物1	No.60 建物	倉ヶ市3区
建物2	No.24 建物	倉ヶ市3区
建物3	No.34 建物	倉ヶ市3区
柱穴列1	No.26 建物	倉ヶ市3区
柱穴列2	No.26 建物	倉ヶ市3区
柱穴列3	No.26 建物	倉ヶ市3区
柱穴列4	No.61 柱穴列	倉ヶ市3区
柱穴列5	No.22 柱穴列	倉ヶ市3区
柱穴列6	No.23 建物	倉ヶ市3区
柱穴列7	No.25 建物	倉ヶ市3区
柱穴列8	P175・176・159	倉ヶ市3区
柱穴列9	No.15 柱穴列	倉ヶ市4区
井戸1	No.54 井戸	倉ヶ市3区
土壙1	No.56 土壙	倉ヶ市3区
土壙2	No.19 土壙	倉ヶ市3区
土壙3	No.20 土壙	倉ヶ市3区
土壙4	No.39 土壙	倉ヶ市3区
土壙5	No.49 土壙	倉ヶ市3区
土壙6	No.44 土壙	倉ヶ市3区
土壙7	No.43 土壙	倉ヶ市3区
土壙8	No.48 土壙	倉ヶ市3区
土壙9	No.38 土壙	倉ヶ市3区

遺構名	旧遺構名	調査時地区
土壙10	No.9 土壙	倉ヶ市3区
土壙11	No.10 土壙	倉ヶ市3区
土壙12	No.50 土壙	倉ヶ市3区
土壙13	No.16 土壙	倉ヶ市3区
土壙14	No.55 土壙	倉ヶ市3区
土壙15	No.13 土壙	倉ヶ市3区
土壙16	No.27 土壙	倉ヶ市4区
土壙17	No.53 土壙	倉ヶ市3区
土壙18	No.59 土壙	倉ヶ市3区
土壙19	No.12 土壙	倉ヶ市4区
土壙20	No.8 土壙	倉ヶ市4区
土壙21	No.45 土壙	倉ヶ市4区
土壙22	No.11 土壙	倉ヶ市4区
土壙23	No.6 土壙	倉ヶ市4区
土壙24	No.7 土壙	倉ヶ市4区
溝1	No.18 溝	倉ヶ市3区
溝2	No.35 溝	倉ヶ市3区
溝3	No.62 溝	倉ヶ市3区
溝4	No.63 溝	倉ヶ市3区
溝5	溝	倉ヶ市3区
溝6	No.4 溝	倉ヶ市4区
溝7	No.29 溝	倉ヶ市4区

遺構名	旧遺構名	調査時地区
溝8	No.3 溝	倉ヶ市4区
溝9	No.5 溝	倉ヶ市4区
溝10	No.31 溝	倉ヶ市4区
溝11	No.30 溝	倉ヶ市4区
溝12	No.2 溝	倉ヶ市4区
溝13	No.32 溝	倉ヶ市4区
溝14	No.28 溝	倉ヶ市3区
溝15	No.57 溝	倉ヶ市3区
溝16	No.58 溝	倉ヶ市3区
溝17	No.40 溝	倉ヶ市4区
溝18	No.65 溝	倉ヶ市3区
溝19	No.47 溝	倉ヶ市3区
溝20	No.37 溝	倉ヶ市3区
溝21	No.36 溝	倉ヶ市3区
溝22	No.21 溝	倉ヶ市3区
溝23	No.41 溝	倉ヶ市4区
溝24	No.46 溝	倉ヶ市4区
溝25	No.42 溝	倉ヶ市4区
溝26	No.1 溝	倉ヶ市4区
溝27	No.51 溝	倉ヶ市4区

下土田遺跡

遺構名	旧遺構名	調査時地区
土壙1	No.3 土壙	下土田

遺構名	旧遺構名	調査時地区
土壙2	No.4 土壙	下土田

遺構名	旧遺構名	調査時地区
溝1	No.1 溝	下土田

１　延寿寺跡・
倉ヶ市遺跡調査前
（東から）

２　下土田・
倉ヶ市遺跡調査前
（西から）

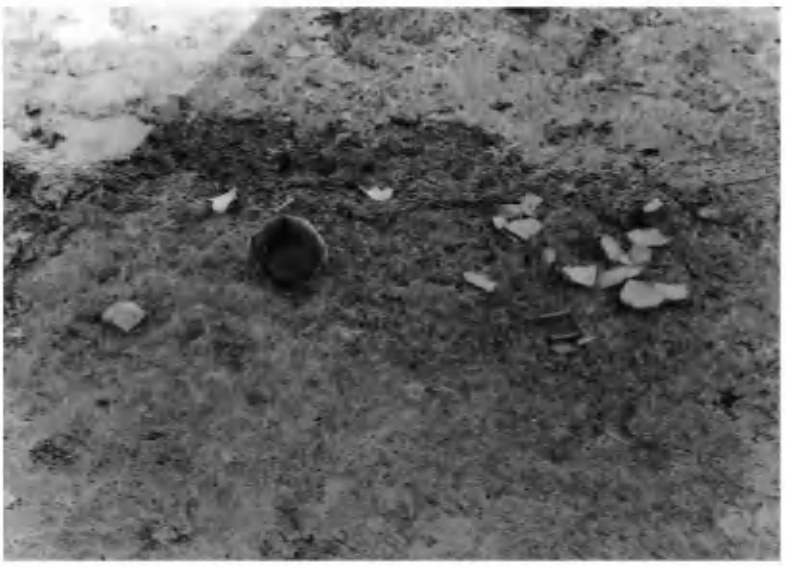
３　調査対象区全景
（東上空から）

図版２

延寿寺跡

１　河道１（南から）

２　河道１　北断面
（南東から）



３　河道１遺物出土状況（西から）

４　河道１石棒出土状況（西から）

延寿寺跡

１　建物１
（南東から）

２　建物１　Ｐ７
（西から）（左）

３　建物１　P10
（西から）（右）

４　建物３（西から）

図版４

延寿寺跡

１　柱穴列１・溝３
（南東から）

２　溝３断面
（南東から）

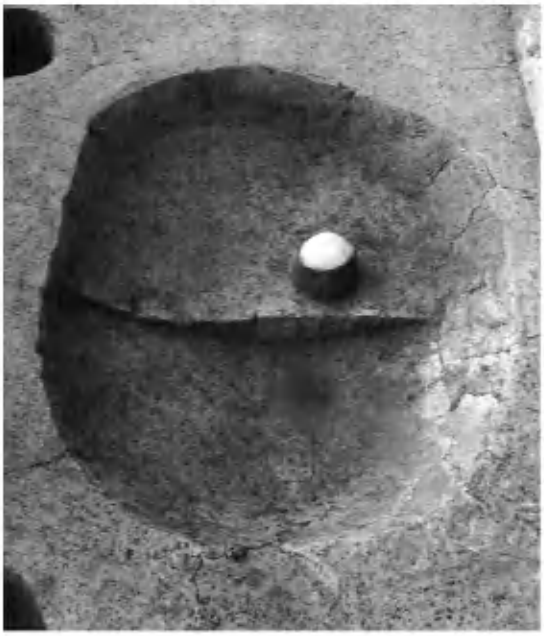
３　土壙墓１（南東から）

４　土壙墓１人骨検出作業（西から）

１　土壙３（南東から）

２　土壙３瓦出土状況
（東から）

３　土壙４（南東から）



４　土壙６（南から）

図版 6

延寿寺跡

1　西部溝群（南東から）

2　溝 12 断面
（南西から）

3　溝 17・23 断面（南東から）

4　溝 11 断面（南西から）

延寿寺跡

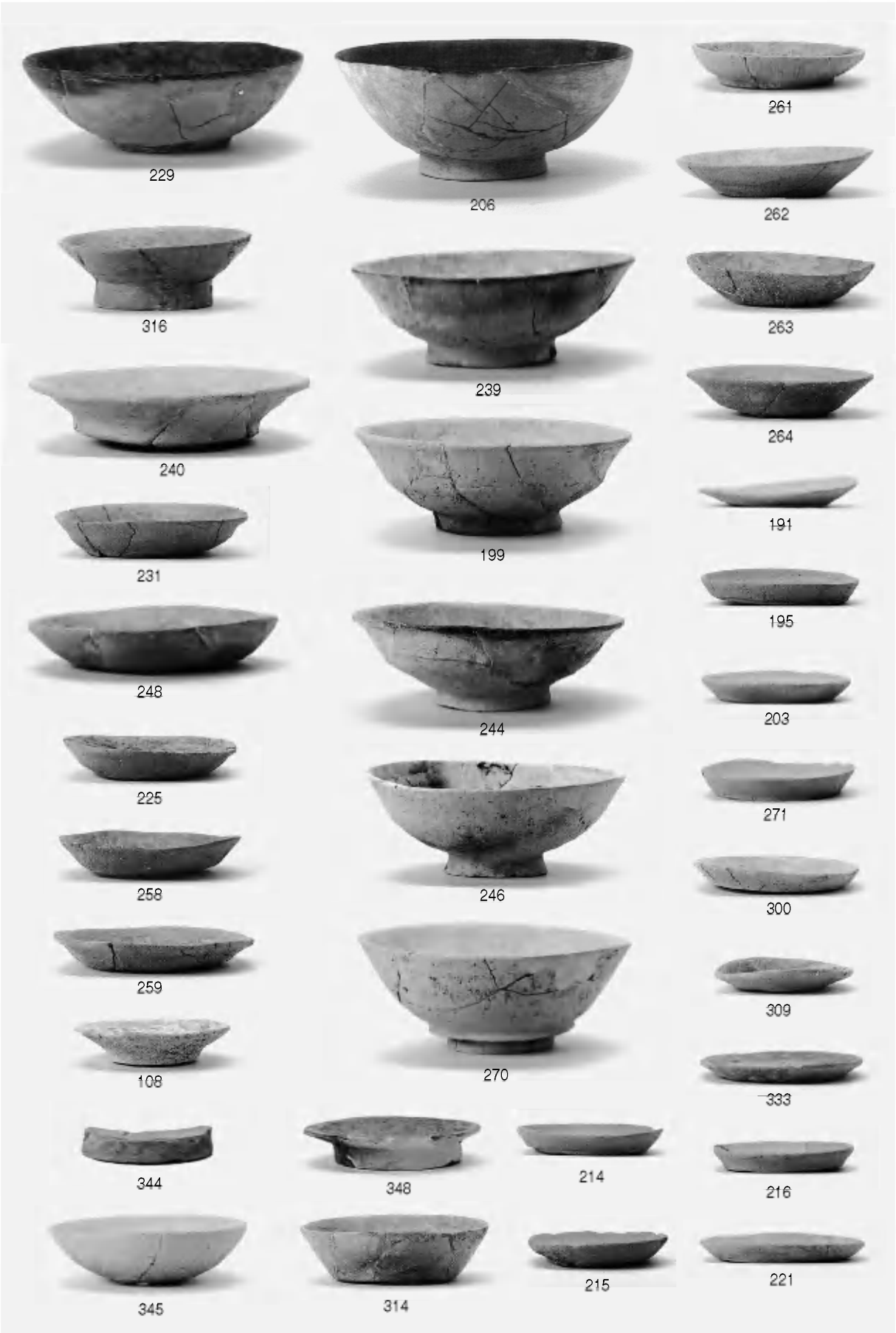
１　溝 15・16
（北東から）

２　下がり１
（南東から）

３　柱穴４（南から）

４　柱穴５（南から）

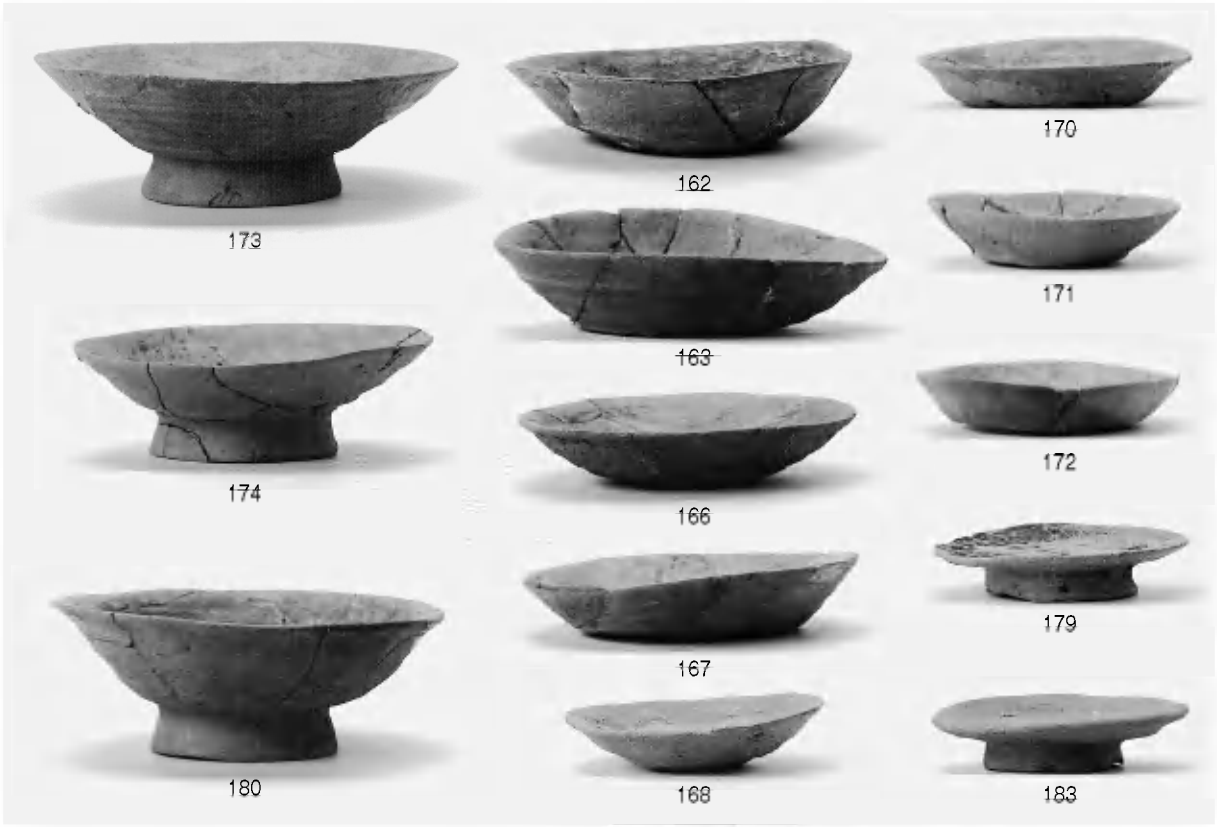
河道 1 出土縄文・弥生土器


229
206
261
262
316
239
263
240
264
231
199
191
248
244
195
225
203
258
246
271
259
270
300
309
108
333
344
348
214
216
345
314
215
221

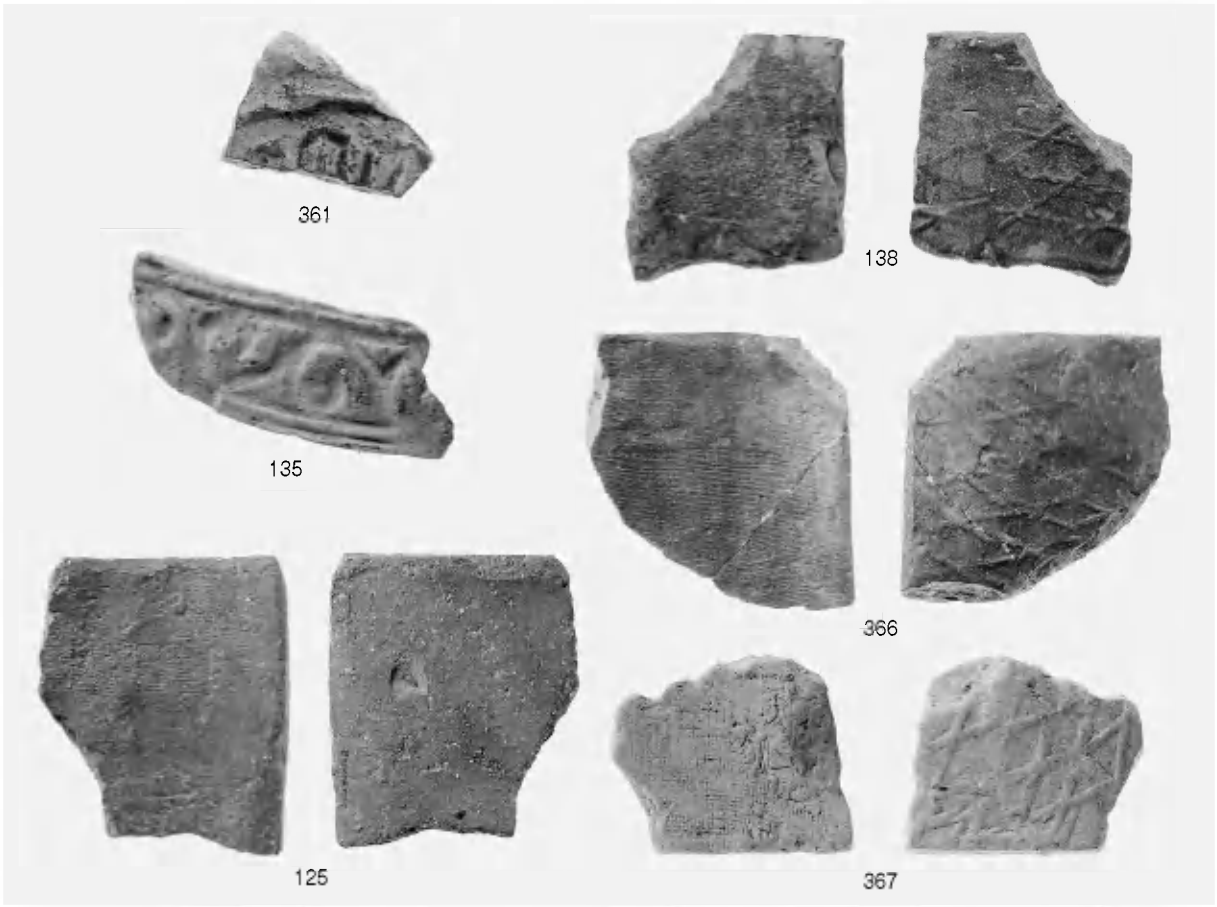
出土土師器①

図版 10

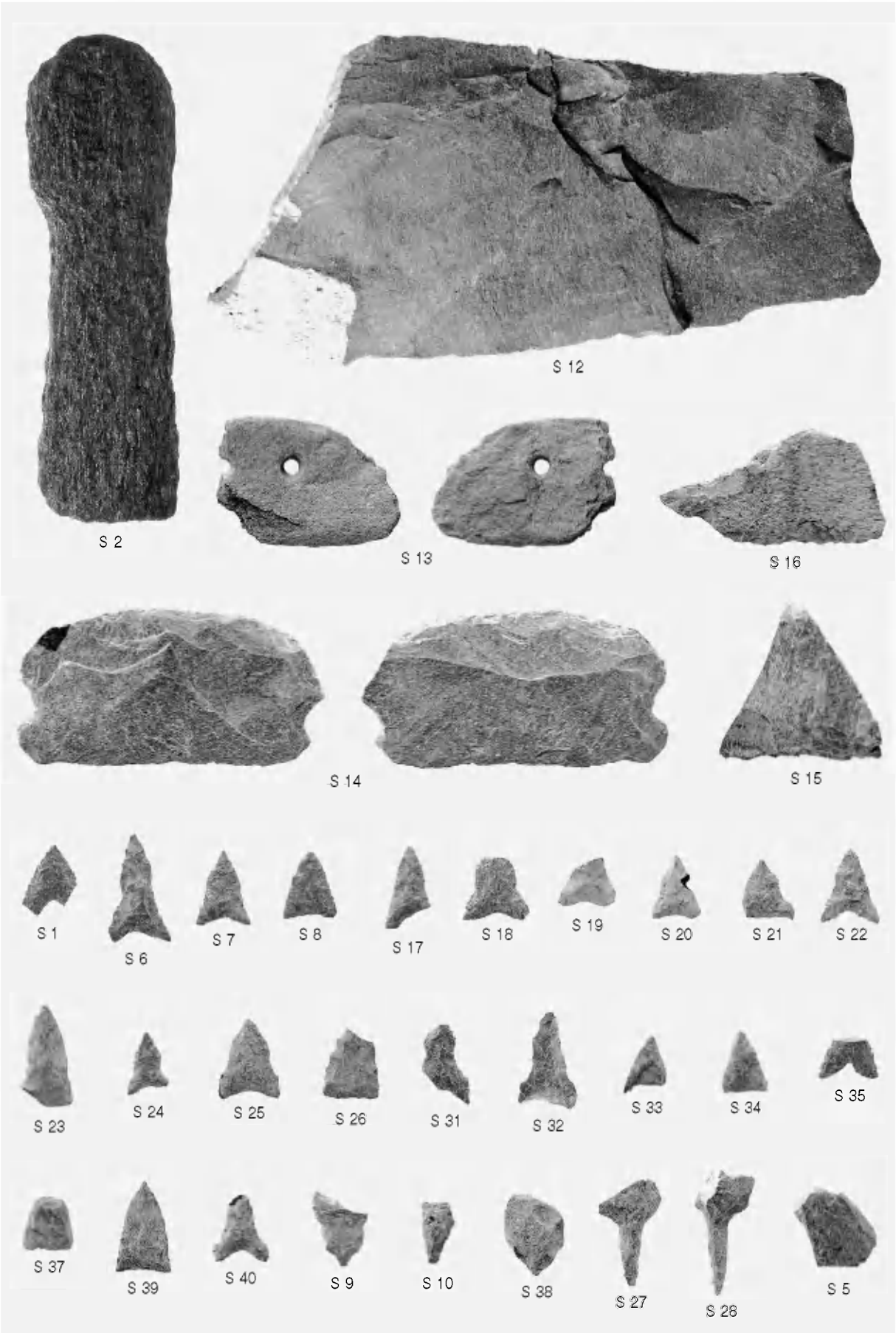
延寿寺跡



1　出土土師器②



2　出土瓦


S 2
S 12
S 13
S 16
S 14
S 15
S 1
S 6
S 7
S 8
S 17
S 18
S 19
S 20
S 21
S 22
S 23
S 24
S 25
S 26
S 31
S 32
S 33
S 34
S 35
S 37
S 39
S 40
S 9
S 10
S 38
S 27
S 28
S 5

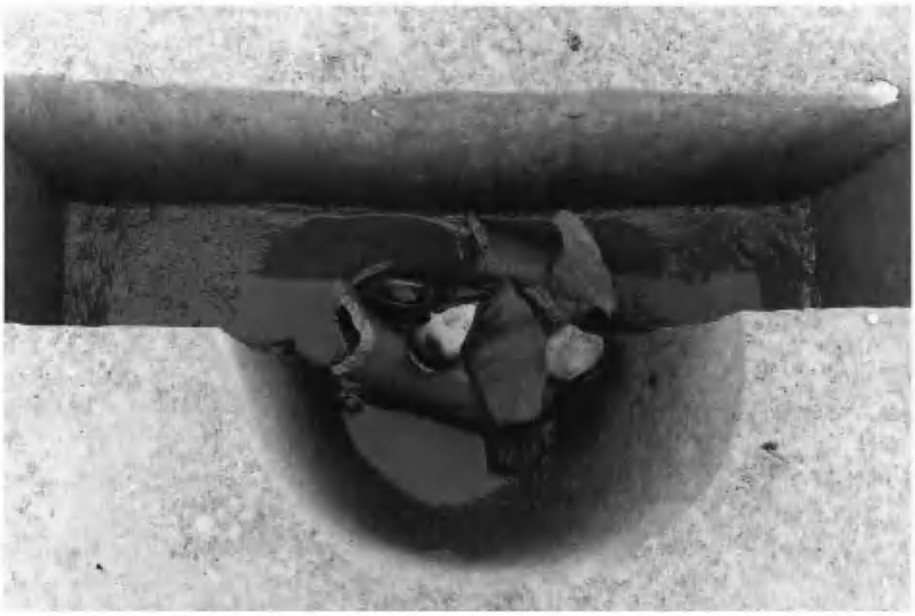
出土石器・石製品

1　1区　建物1（西から）

2　2区　柱穴列9（西から）

図版 13

1　１区　柱穴列２
　　Ｐ２上（南東から）

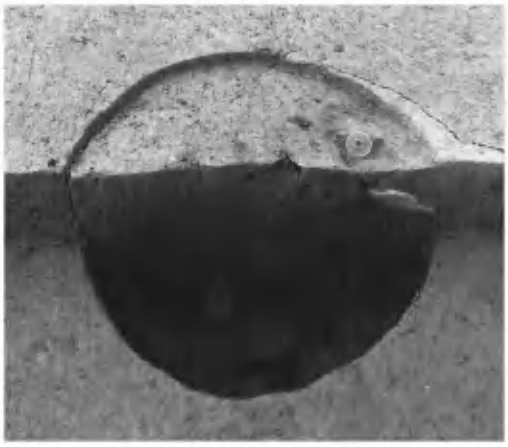


2　１区　柱穴列２
　　Ｐ２中（南東から）

3　１区　柱穴列２
　　Ｐ２下（南東から）

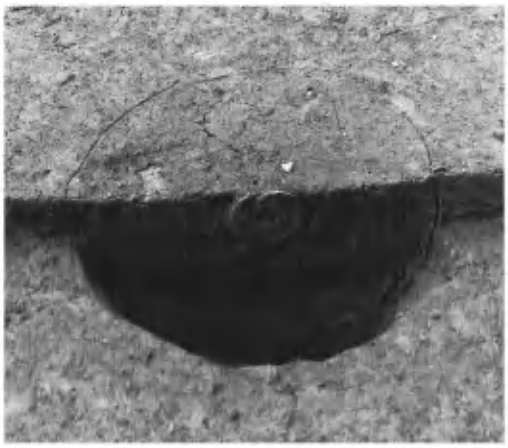
1　1区　井戸1（南東から）

2　1区　土壙5（北西から）



4　2区　柱穴 49（東から）

3　1区　土壙 12（北から）



5　2区　柱穴 50（南から）

図版 15

1　１区　溝２
（北東から）（左）

2　１区　溝１
（南西から）（右）

3　１区　溝２断面
（北東から）

4　１区　溝２
遺物出土状況
（北東から）

1　2区　溝6・7
10・11（北から）

2　2区　溝 10・11 断面（南東から）

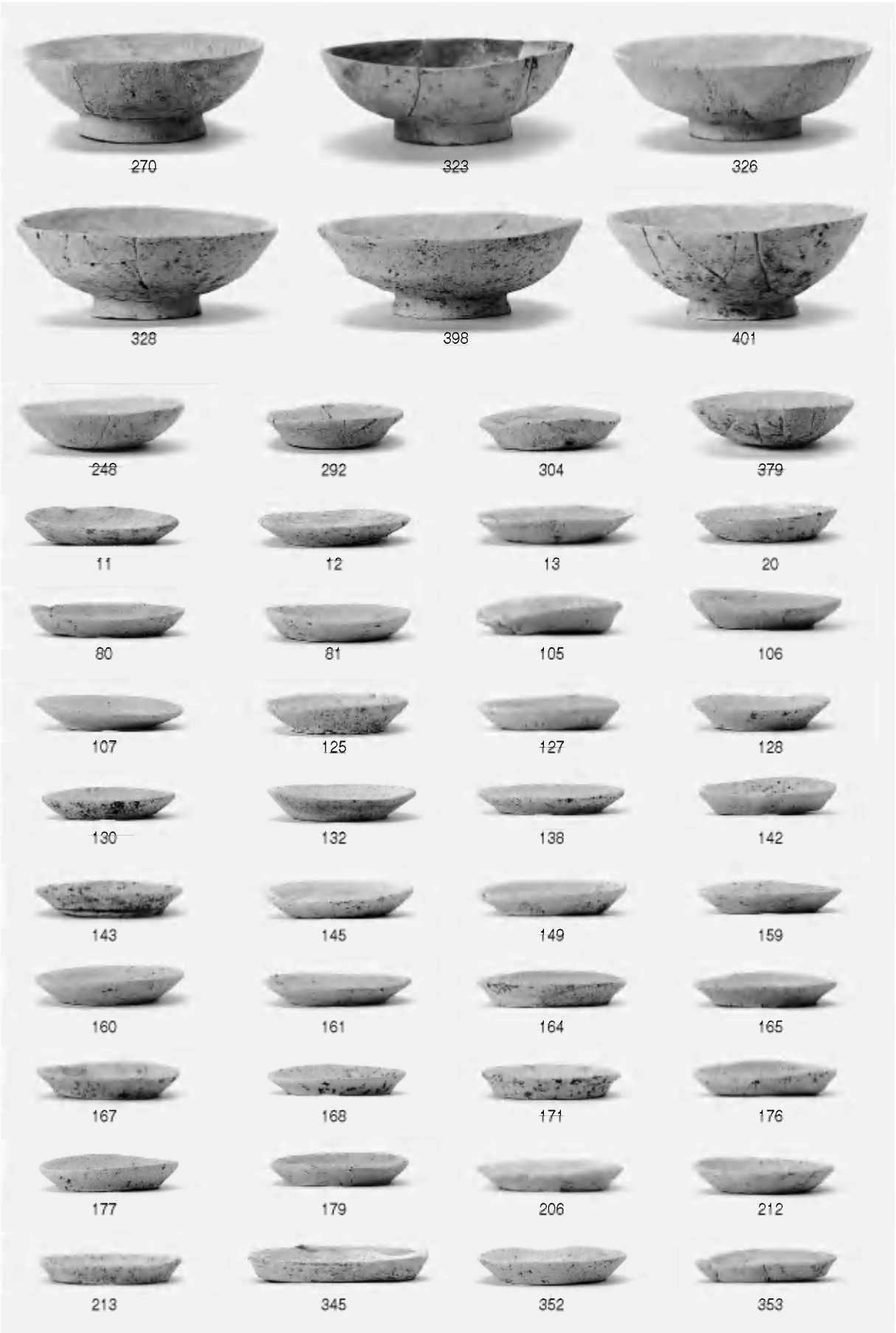
1　1区　西半全景
（西から）

2　2区　溝7・23～25（北西から）

122
194
22
2
28
43
44
64
65
92
93
95
96
97
98
117
118
119
183
185
192
195
240
269

出土遺物①

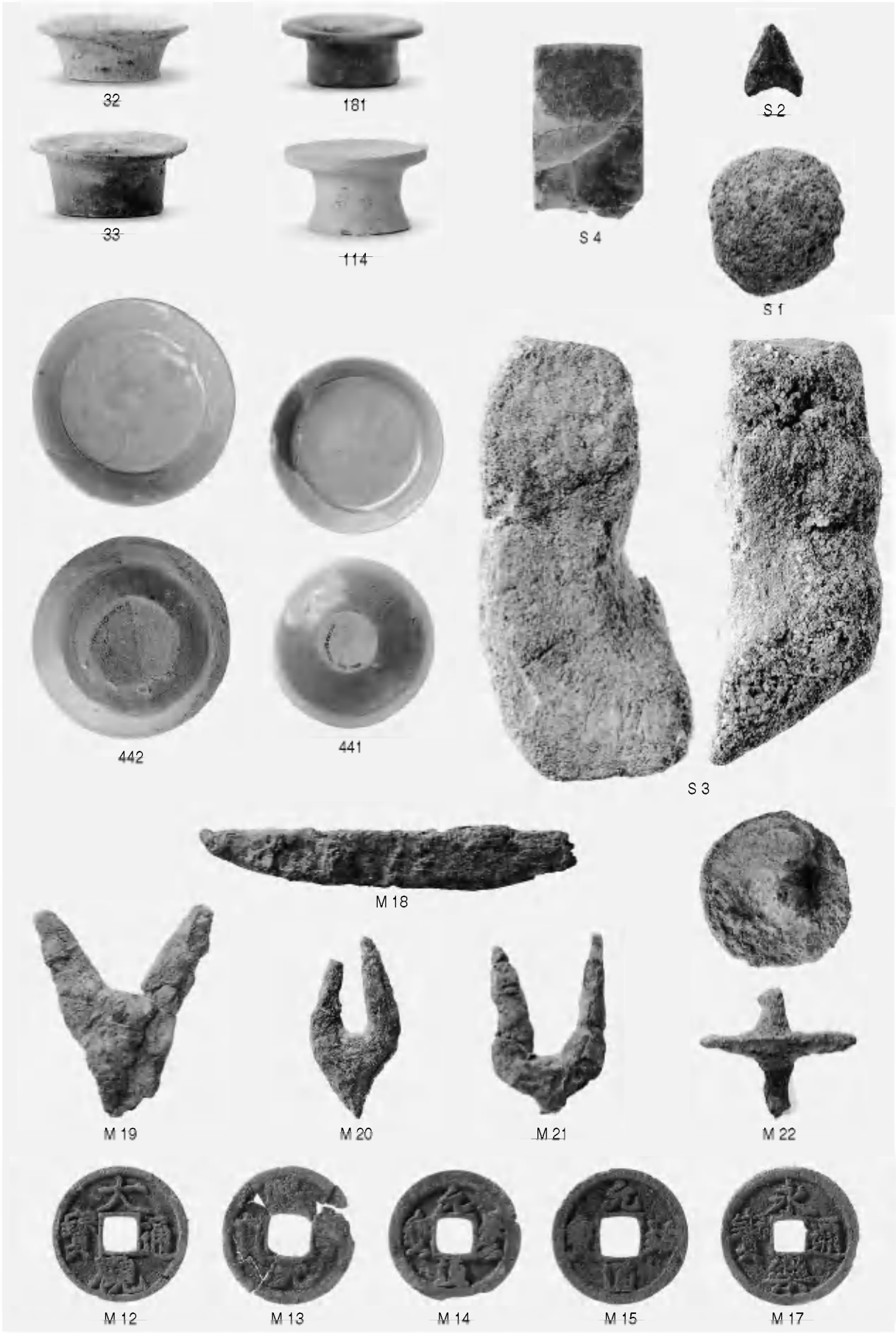
図版 19


270
323
326
328
398
401
248
292
304
379
11
12
13
20
80
81
105
106
107
125
127
128
130
132
138
142
143
145
149
159
160
161
164
165
167
168
171
176
177
179
206
212
213
345
352
353

出土遺物②

出土遺物③

図版 21

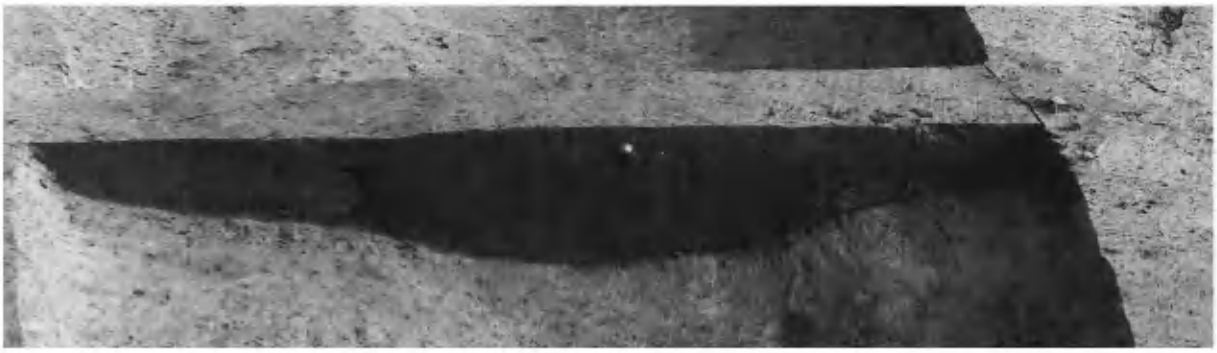

32
181
S 2
33
114
S 4
S 1
442
441
S 3
M 18
M 19
M 20
M 21
M 22
M 12
M 13
M 14
M 15
M 17

出土遺物④

図版 22

下土田遺跡

1　土壙１・溝１（西から）

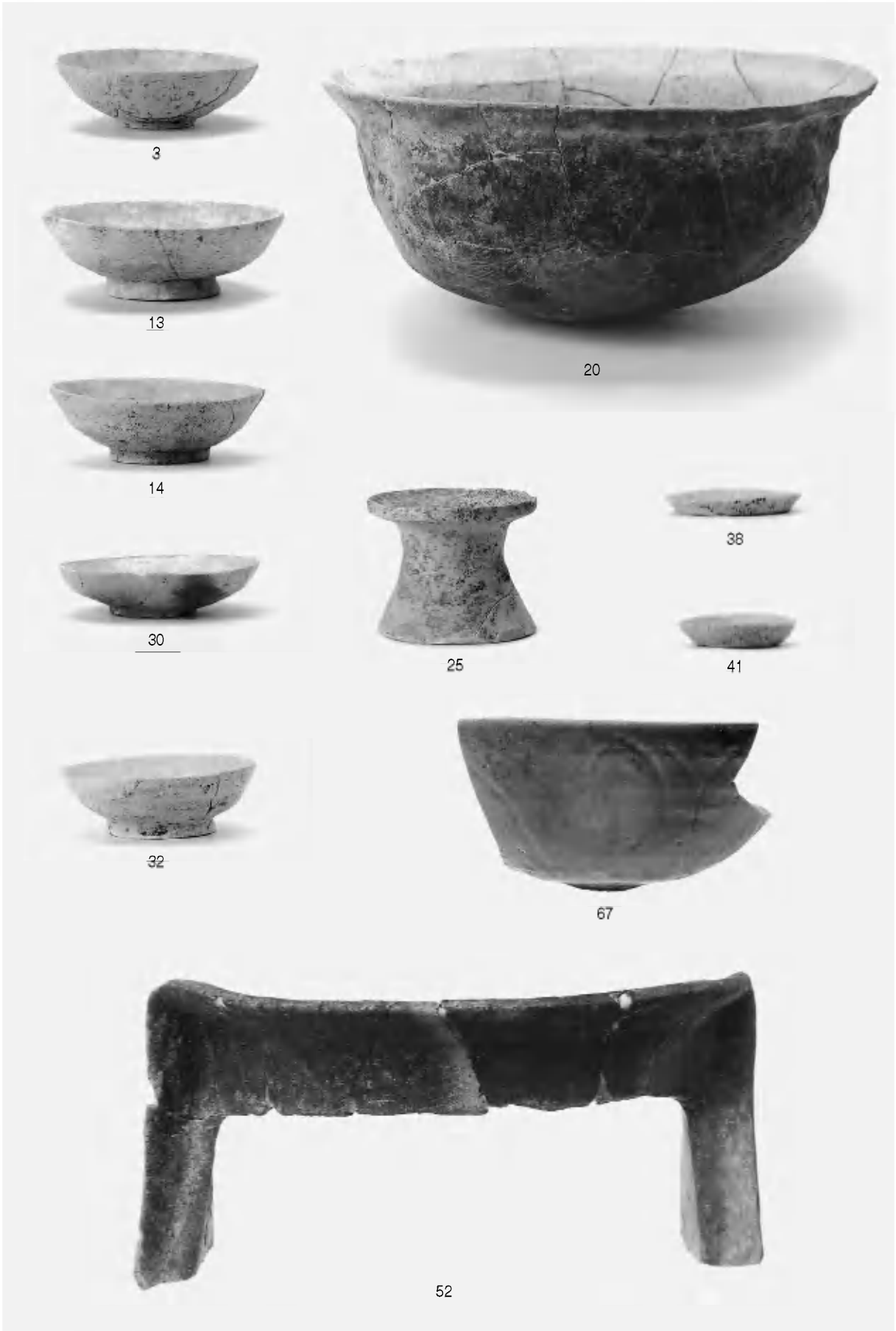


2　溝１断面（西から）

3　Ｐ１（南から）

4　下がり１遺物出土状況（西から）

図版 23



出土遺物

図版 24

京都市　神護寺所蔵「備中国足守荘絵図」

報告書抄録

ふりがな	えんじゅじあと	くらがいちいせき	しもつちだいせき
書名	延寿寺跡	倉ヶ市遺跡	下土田遺跡
副書名	一般県道総社足守線公共特定交通安全施設等整備事業に伴う発掘調査		
シリーズ名	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告		
シリーズ番号	222		
編著者名	内藤善史・柴田英樹・河合　忍・平井泰男・光永真一・大塚愛二・白石　純		
編集機関	岡山県古代吉備文化財センター		
所在地	〒701-0136　岡山県岡山市西花尻1325-３　TEL086-293-3211 http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm		
発行機関	岡山県教育委員会		
所在地	〒700-8570　岡山県岡山市内山下2-4-6　TEL086-224-2111		
発行年月日	西暦2009年３月31日		

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
	おかやまけんおかやまし 岡山県岡山市	市町村	遺跡番号					
えんじゅじあと 延寿寺跡	かみつちだ 上土田 123－4ほか	33201	33201714	34° 42′ 26″	133° 48′ 16″	2007.10.１～2008.３.31	2,670	一般県道総社足守線公共特定交通安全施設等整備事業
くらがいちいせき 倉ヶ市遺跡	かみつちだ 上土田 125－1ほか	33201	332012728	34° 42′ 26″	133° 48′ 11″	2007.10.１～2008.３.31	2,133	
しもつちだいせき 下土田遺跡	しもつちだ 下土田 487－1ほか	33201	33201711	34° 42′ 26″	133° 48′ 8″	2007.10.１～2008.３.31	2,809	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
延寿寺跡	寺院跡 集落	縄文時代～古墳時代	河道１条・溝２条・土壙２基	土器（縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器）、石器・石製品（石包丁・石棒・石鏃・石錐・削器）	足守庄関連遺跡(延寿寺跡)
		平安時代～室町時代	建物６棟・柱穴列３・土壙墓１基・土壙10基・溝21条	土器（土師器・黒色土器・須恵器）、瓦、土製品（土錘・羽口）、陶器（緑釉・備前焼・亀山焼）、磁器（青磁・白磁）・石製品（砥石）、鉄器（鉄鏃）	
倉ヶ市遺跡	集落	鎌倉時代～江戸時代	建物３棟・柱穴列９・井戸１基・土壙24基・溝24条	土器（土師器・須恵器）、瓦、土製品（土錘）、陶器（亀山焼・備前焼・常滑焼）、磁器（青磁・白磁・伊万里）、石製品（砥石）、鉄器・鉄製品（刀子・鉄鏃・紡錘車・釘）、古銭（宋銭・明銭・寛永通宝）	足守庄関連遺跡
下土田遺跡	集落	鎌倉時代～江戸時代	土壙２基・溝１条	土器（土師器・須恵器）、瓦、竈、陶磁器（備前焼・青磁・唐津・伊万里）、土製品（土錘）、鉄製品（釘）	

要約

延寿寺跡　この遺跡は、足守荘絵図に記載されている延寿寺跡に比定されるが、寺院跡を証明する遺構はみつかっていない。平安時代後半から室町時代の建物や柱穴列、土壙、溝など多くの遺構が検出され、この時期集落遺跡の営まれていたことが明らかとなった。また、遺跡西部の下層からは中世段階には埋没しているものの、縄文時代からの旧河道が確認され、縄文土器や弥生土器が数多く出土している。

倉ヶ市遺跡　13世紀から16世紀を中心として建物、柱穴列、土壙、溝などの遺構が検出され、この時期の集落が営まれていたことが明らかになった。特に、現在の道路や水路、水田の畔と同方向に繰り返し掘られた溝は、条里との関連が考えられる。

下土田遺跡　検出された遺構は僅かであるが、調査対象地東部の包含層からは中世を中心とした土器が多く出土していることから、遺跡（中世集落）の中心は南側に広がっているものと考えられる。

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 222

延寿寺跡
倉ヶ市遺跡
下土田遺跡

一般県道総社足守線公共特定交通
安全施設等整備事業に伴う発掘調査

平成21年３月19日　印刷
平成21年３月31日　発行

編集　岡山県古代吉備文化財センター
岡山県岡山市西花尻1325－３

発行　岡山県教育委員会
岡山県岡山市内山下２－４－６

印刷　サンコー印刷株式会社
岡山県総社市真壁871－２